KDDI Smart Mobile Safety Manager
Android キッティングマニュアル

最終更新日　2025 年 4 月 17 日

Document ver.3.17

（Web サイト ver.9.21.2）

変更履歴

日付	ver	変更箇所	変更内容
2018/12/13 ～ 2020/6/18	1.0～ 2.4		新規作成、以降 10 回変更
2020/9/29	3.0	全体	改善に伴う構成、記載の見直し
2021/2/21	3.1	1.2 OS サポートポリシー	サポート対象を最新に更新
		1.3 動作環境	対象 OS、本体メモリ変更
		10.2.1 設定セットを作成する	上限値件数を追加
		6.4 ゼロタッチ登録（Google アカウント利用）でキッティングする	接続についての注記を追加
		3.3 afw 識別子でキッティングする	ユーザーデータ確認画面追加 モバイルデータネットワークについて注記追加
		5.3.1 既存のユーザーに Google Workspace アカウントを登録する	
		6.4 ゼロタッチ登録（Google アカウント利用）でキッティングする	
		7.5 ゼロタッチ登録（Google Workspace アカウント利用）でキッティングする	
		8.6 KME（Google アカウント利用）でキッティングする	
		9.7 KME（Google Workspace アカウント利用）でキッティングする	
		10.1.2 QR コードを端末に読み込む	ユーザーデータ確認画面追加
		10.2.3 子機を設定する	
2021/7/25	3.2	2 キッティング方法を選択する	G Suite を Google Workspace（旧 G Suite）に変更 Google 管理コンソール画面と手順の変更
		5 Google Workspace アカウントで Android Enterprise 連携を行う	
		7 Google Workspace アカウントでゼロタッチ登録を利用して Android Enterprise 連携を行う	
		9 Google Workspace アカウントで KME を利用して Android Enterprise 連携を行う	
		11 KDDI Smart Mobile Safety Manager－Google 間の連携設定を変更する	
		6.2.4 API 設定および JSON ファイルのダウンロードを行う	API 設定画面と手順の変更
		7.3.4 API 設定および JSON ファイルのダウンロードを行う	
		3.3 afw 識別子でキッティングする	モバイルデータネットワークについて注記削除

日付	ver	変更箇所	変更内容
		5.3.1 既存のユーザーに Google Workspace アカウントを登録する	
		6.4 ゼロタッチ登録（Google アカウント利用）でキッティングする	
		7.5 ゼロタッチ登録（Google Workspace アカウント利用）でキッティングする	
		8.6 KME（Google アカウント利用）でキッティングする	
		9.7 KME（Google Workspace アカウント利用）でキッティングする	
		10.1.2 QR コードを端末に読み込む	モバイルデータネットワークについて注記追加
		3.4.2 企業コード・認証コードで認証する	初期登録について記載追加
		5.5.2 企業コード・認証コードで認証する	
		6.5.2 企業コード・認証コードで認証する	
		7.6.2 企業コード・認証コードで認証する	
		10.3.2 企業コード・認証コードで認証する	
		全体	Windows 10 Mobile を削除
2021/10/12	3.3	6.2.5 JSON ファイルをアップロードする	警告画面を追加
		7.3.5 JSON ファイルをアップロードする	
2021/12/3	3.4	5.1 トークンを発行する	手順を変更
		7.1 トークンを発行する	
		9.1 トークンを発行する	
2022/2/20	3.5	1.2 OS サポートポリシー	サポート対象を最新に更新
		1.3 動作環境	対象 OS 変更
		2.1 各キッティング方法の概要	所有機器数の注記を追加
		全体	サポート対象バージョンの注記を修正、削除 Android 12 の説明追加
		8.6.1 Android 10 未満の場合	Android 10 未満の KME キッティング手順修正
		9.7.1 Android 10 未満の場合	
2022/6/12	3.6	6.2.5 JSON ファイルをアップロードする	手順削除とそれに伴う画像修正
		7.3.5 JSON ファイルをアップロードする	
		3.3 afw 識別子でキッティングする	「付近のデバイス権限」を画像に追加、関連する注記を追加

日付	ver	変更箇所	変更内容
		4.3 afw 識別子でキッティングする	
		5.4 Google Workspace アカウントでキッティングする	
		6.4 ゼロタッチ登録（Google アカウント利用）でキッティングする	
		7.5 ゼロタッチ登録（Google Workspace アカウント利用）でキッティングする	
		8.6 KME（Google アカウント利用）でキッティングする	
		9.7 KME（Google Workspace アカウント利用）でキッティングする	
		10.1.2 QR コードを端末に読み込む	
		4 Google アカウントで Android Enterprise 連携を行い、Google Workspace アカウントを併用する	セクション追加
		2.1 各キッティング方法の概要	新規追加のキッティング方法を追加
		6.2.5 JSON ファイルをアップロードする	規約に従い、同一画面の画像を修正
		7.3.5 JSON ファイルをアップロードする	
2022/7/24	3.7	全体	Google Play の表記を Google Play ストアに統一
		1.3 動作環境	ネットワーク接続を更新
		11.1 Google アカウントを削除する	Android Enterprise に関する注記を修正
		11.2 Google アカウントを再登録する	
2022/11/20	3.8	はじめに	前改修
		1.2 OS サポートポリシー	サポート対象変更
		1.3 動作環境	対象 OS 変更
		2.1 各キッティング方法の概要	Wi-Fi 専用端末について注記追加
		6 Google アカウントでゼロタッチ登録を利用して Android Enterprise 連携を行う	
		7 Google Workspace アカウントでゼロタッチ登録を利用して Android Enterprise 連携を行う	
		3.3 afw 識別子でキッティングする	Android 13 以上かつエージェントバージョン 9.16.0 以上の権限要求の画面追加
		4.3 afw 識別子でキッティングする	
		5.4 Google Workspace アカウントでキッティングする	

日付	ver	変更箇所	変更内容
		6.4 ゼロタッチ登録（Google アカウント利用）でキッティングする	
		7.5 ゼロタッチ登録（Google Workspace アカウント利用）でキッティングする	
		8.6 KME（Google アカウント利用）でキッティングする	
		9.7 KME（Google Workspace アカウント利用）でキッティングする	
		10.1.2 QR コードを端末に読み込む	
		2.1 各キッティング方法の概要	動作保証変更
		10 その他のキッティング方法	
		10.2 NFC でキッティングする	
		10.1.2 QR コードを端末に読み込む	有線 LAN 接続の説明追加
2023/3/26	3.9	2.1 各キッティング方法の概要	プリインストールアプリについて追加
		3.3 afw 識別子でキッティングする	≪管理サイトでポータルの設定を表示にしている場合≫に入力可能文字数を追加
		3.4.2 企業コード・認証コードで認証する	
		4.3 afw 識別子でキッティングする	
		4.4.2 企業コード・認証コードで認証する	
		5.4 Google Workspace アカウントでキッティングする	
		5.5.2 企業コード・認証コードで認証する	
		6.4 ゼロタッチ登録（Google アカウント利用）でキッティングする	
		6.5.2 企業コード・認証コードで認証する	
		7.5 ゼロタッチ登録（Google Workspace アカウント利用）でキッティングする	
		7.6.2 企業コード・認証コードで認証する	
		8.6 KME（Google アカウント利用）でキッティングする	
		9.7 KME（Google Workspace アカウント利用）でキッティングする	
		10.1.2 QR コードを端末に読み込む	
		10.3.2 企業コード・認証コードで認証する	

日付	ver	変更箇所	変更内容
2023/8/6	3.10	全体	構成変更に伴う参照先の修正 手順の記載整理 「組織 ID」表示に伴う記載と画像の修正 （旧 G Suite）を削除 任意権限設定に関する注記の修正・追加
		はじめに	名称・呼称、用語集を追加 商標登録修正
		1 Android クライアントについて	1.1 ～1.3 のリード文を修正
		3.3 afw 識別子でキッティングする	初期登録の手順、画面を追加
		3.4.2 企業コード・認証コードで認証する	
		4.3 afw 識別子でキッティングする	
		4.4.2 企業コード・認証コードで認証する	
		5.4 Google Workspace アカウントでキッティングする	
		5.5.2 企業コード・認証コードで認証する	
		6.4 ゼロタッチ登録（Google アカウント利用）でキッティングする	
		6.5.2 企業コード・認証コードで認証する	
		7.5 ゼロタッチ登録（Google Workspace アカウント利用）でキッティングする	
		7.6.2 企業コード・認証コードで認証する	
		8.6 KME（Google アカウント利用）でキッティングする	
		9.7 KME（Google Workspace アカウント利用）でキッティングする	
		10.1.2 QR コードを端末に読み込む	
		10.3.2 企業コード・認証コードで認証する	
		1.2 OS サポートポリシー	Android 8.x のベストエフォート期間を削除
		3.3 afw 識別子でキッティングする	モバイルネットワークと SIM 挿入に関する補足追加、一部注記削除
		4.3 afw 識別子でキッティングする	
		5.4 Google Workspace アカウントでキッティングする	
2024/2/1	3.11	1.2 OS サポートポリシー	サポート対象変更
		1.3 動作環境	対象 OS 変更

日付	ver	変更箇所	変更内容
		10 その他のキッティング方法	注意の動作保証の対象変更
		3.1 Google アカウントを登録する	管理サイト画面メニュー名変更のため差し替え
		4.1 Google アカウントを登録する	
		5.2 Google Workspace アカウントを登録する	
		6.1 Google アカウントを登録する	
		7.2 Google Workspace アカウントを登録する	
		8.1 Google アカウントを登録する	
		9.2 Google Workspace アカウントを登録する	
		11.1 Google アカウントを削除する	
		11.2 Google アカウントを再登録する	
		11.2 Google アカウントを再登録する	
		3.3.1 Android 12 未満の場合	セクション削除
		3.4 ライセンス認証を行う	
		4.3.1 Android 12 未満の場合	
		4.4 ライセンス認証を行う	
		5.4.1 Android 12 未満の場合	
		5.5 ライセンス認証を行う	
		6.4.1 Android 10 未満の場合	
		6.5 ライセンス認証を行う	
		7.5.1 Android 10 未満の場合	
		7.6 ライセンス認証を行う	
		8.6.1 Android 10 未満の場合	
		9.7.1 Android 10 未満の場合	
		10.1.2.1 Android 10 未満の場合	
		3.3 afw 識別子でキッティングする	「Android 12 以上の場合」「Android 10 以上の場合」見出しを削除 キッティング手順の変更 ネットワーク接続についての注記を追加
		4.3 afw 識別子でキッティングする	
		5.4 Google Workspace アカウントでキッティングする	
		6.4 ゼロタッチ登録（Google アカウント利用）でキッティングする	
		7.5 ゼロタッチ登録（Google Workspace アカウント利用）でキッティングする	
		8.6 KME（Google アカウント利用）でキッティングする	

日付	ver	変更箇所	変更内容
		9.7 KME（Google Workspace アカウント利用）でキッティングする	
		10.1.2 QR コードを端末に読み込む	
		10.3 ライセンス認証を行う	注記の修正
2024/2/21	3.12	7.5 ゼロタッチ登録（Google Workspace アカウント利用）でキッティングする	手順追加
2024/4/24	3.13	3.1 Google アカウントを登録する	BTE 対応の手順を追加
		4.1 Google アカウントを登録する	
		6.1 Google アカウントを登録する	
		8.1 Google アカウントを登録する	
		11.2 Google アカウントを再登録する	
2024/7/21	3.14	3.3 afw 識別子でキッティングする	「ストレージ権限」と「すべてのファイルへのアクセス」に関する参考を追加 上記に伴う画像を修正
		4.3 afw 識別子でキッティングする	
		5.4 Google Workspace アカウントでキッティングする	
		6.4 ゼロタッチ登録（Google アカウント利用）でキッティングする	
		7.5 ゼロタッチ登録（Google Workspace アカウント利用）でキッティングする	
		10.1.2 QR コードを端末に読み込む	
		全体	2 段階認証が表示されている画像修正
			誤字脱字修正
2024/10/28	3.15	全体	NFC キッティング関連記載を削除
		4.5.1 Google Workspace アカウントを設定する	Google 管理コンソールを最新の画面に差し替え 画面の差し替えに伴い、手順の変更や追加
		5.1 トークンを発行する	
		7.1 トークンを発行する	
		9.1 トークンを発行する	
		11.3 Google Workspace アカウントを削除する	
		5.2 Google Workspace アカウントを登録する	手順【6】～【9】を追加
		7.2 Google Workspace アカウントを登録する	
		9.2 Google Workspace アカウントを登録する	

日付	ver	変更箇所	変更内容
		6.2 Google API の認証設定を行う	Google Cloud を最新の画面に差し替え 画面の差し替えに伴い、手順の変更や追加
		7.3 Google API の認証設定を行う	
2024/11/20	3.16	全体	Android 15 対応に伴う画面差し替え
			「通話転送アプリ」に関する記載を追加、画面差し替え
		1.2 OS サポートポリシー	サポート対象変更
		1.3 動作環境	対象 OS 変更
		3.3 afw 識別子でキッティングする	「すべてのファイルへのアクセス」についての記載を削除。「ストレージ権限」についての記載を修正。
		4.3 afw 識別子でキッティングする	
		5.4 Google Workspace アカウントでキッティングする	
		6.4 ゼロタッチ登録（Google アカウント利用）でキッティングする	
		7.5 ゼロタッチ登録（Google Workspace アカウント利用）でキッティングする	
		8.6 KME（Google アカウント利用）でキッティングする	
		9.7 KME（Google Workspace アカウント利用）でキッティングする	
		10.1.2 QR コードを端末に読み込む	
2025/3/24	3.17	10 その他のキッティング方法	動作保証の注記を修正
		全体	誤字脱字修正

はじめに

本マニュアルでは、KDDI Smart Mobile Safety Manager（以下、本製品と呼ぶ）の操作ほか、各機能の概要、画面の説明、設定操作について説明しています。

また、要点となる各種の内容を以下に記載しています。これらの内容をご理解のうえ、マニュアルをお読みください。

名称・呼称

本マニュアルに登場する特定の企業、人について、以下の定義で記載しています。

名称	説明
サービス企業	本製品を提供する企業。
管理者	本製品の管理サイト（機器の管理・運用を行う Web サイト）を運用する者。
端末使用者	本製品で管理している端末を使用する者。
システム管理者	企業の社内システム（サーバー・インフラなど）を管理する者。

注意・ポイントマーク

操作を行う場合に注意する点や、操作のポイントとなる点を示す場合は、以下のマークで記載しています。

マーク	説明
	データの破損や消失など、特に注意していただきたい内容を記載しています。
	操作のポイントや知っておくと便利な内容を記載しています。

記号

画面に表示されるボタンやメニュー、キーボードのキーなどを示す場合は、以下の記号で記載しています。

マーク	説明
［　］	ボタン、メニュー、タブ、リンク、チェックボックス、ラジオボタンなどの名称を示しています。
「　」	画面名、機能名、項目名、マニュアル内の参照先などを示しています。
『　』	マニュアルや資料などの名称を示しています。
〈　〉	キーボードなどのハードキー名称（スペースキーは〈スペース〉と表記）を示しています。

参照マーク

他のマニュアルや他のページへなどの参照を示す場合は、以下のマークで記載しています。

マーク	説明
	他のページや Web サイトへの参照を示しています。クリックすると該当箇所にジャンプします。
	セクション内の画面への参照を示しています。クリックすると該当の画面にジャンプします。
	他のマニュアルや資料への参照を示しています。

用語集

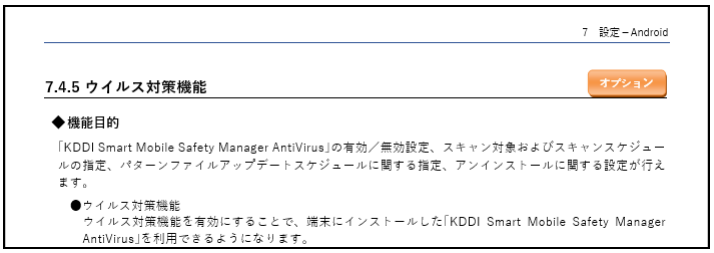
不明な用語は、以下を参照してください。

『よくあるご質問（FAQ）』

オプション機能

オプション機能は、オプション契約をした場合に使用できる機能です。

本マニュアルでは、オプション機能の説明の見出しに オプション（オプションマーク）を表示しています。


7　設定－Android

7.4.5 ウイルス対策機能　オプション

◆機能目的

「KDDI Smart Mobile Safety Manager AntiVirus」の有効／無効設定、スキャン対象およびスキャンスケジュールの指定、パターンファイルアップデートスケジュールに関する指定、アンインストールに関する設定が行えます。

●ウイルス対策機能
ウイルス対策機能を有効にすることで、端末にインストールした「KDDI Smart Mobile Safety Manager AntiVirus」を利用できるようになります。

免責事項

- 本マニュアルは、ユーザー種別が［管理者］のユーザーを対象としています。［管理者］以外のユーザー種別でログインした場合は、操作が制限されます。
- iPad OS の操作は iOS と同様です。差異がある場合は iPad OS 用の記載をしています。
- 画面上のバージョン表記は、実際の表示と異なる場合があります。
- 本マニュアルに記載されている Web サイトの URL は、予告なく変更される場合があります。
- OS のバージョンやブラウザーにより、一部の画面や操作が異なる場合があります。本マニュアルでは、Google Chrome を例に説明しています。

商標登録

- Apple、iPad、iPadOS、iPhone、Mac、macOS は、米国およびその他の国で登録された Apple Inc.の商標です。
- iOS は、Apple Inc.の OS 名称です。
  IOS は、Cisco Systems, Inc.またはその関連会社の米国およびその他の国における登録商標または商標であり、ライセンスに基づき使用されています。
- iPhone 商標は、アイホン株式会社のライセンスに基づき使用されています。
- App Store は、Apple Inc.のサービスマークです。
- Android、Google Chrome、Google Cloud、Google マップ、Google Play、Google Workspace は、Google LLC の商標です。
- Microsoft、Microsoft Edge は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Windows の正式名称は、Microsoft Windows Operating System です。Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- その他記載の会社名、製品名は、各社の登録商標および商標です。

目次

1 Android クライアントについて
2 キッティング方法を選択する
3 Google アカウントで Android Enterprise 連携を行う
4 Google アカウントで Android Enterprise 連携を行い、Google Workspace アカウントを併用する
5 Google Workspace アカウントで Android Enterprise 連携を行う
6 Google アカウントでゼロタッチ登録を利用して Android Enterprise 連携を行う
7 Google Workspace アカウントでゼロタッチ登録を利用して Android Enterprise 連携を行う
8 Google アカウントで KME を利用して Android Enterprise 連携を行う
9 Google Workspace アカウントで KME を利用して Android Enterprise 連携を行う
10 その他のキッティング方法
11 KDDI Smart Mobile Safety Manager－Google 間の連携設定を変更する

1 Android クライアントについて 15
1.1 概要 16
1.2 OS サポートポリシー 16
1.3 動作環境 16

2 キッティング方法を選択する 17
2.1 各キッティング方法の概要 18

3 Google アカウントで Android Enterprise 連携を行う 21
3.1 Google アカウントを登録する 22
3.1.1 企業ドメインのメールアドレスを登録する場合 22
3.1.2 Microsoft ID アカウントのメールアドレスを登録する場合 32
3.1.3 Gmail のメールアドレスを登録する場合 35
3.2 ユーザーを作成する 42
3.3 afw 識別子でキッティングする 44
3.4 端末にユーザーを割り当てる 53

4 Google アカウントで Android Enterprise 連携を行い、Google Workspace アカウントを併用する 56
4.1 Google アカウントを登録する 57
4.1.1 企業ドメインのメールアドレスを登録する場合 57
4.1.2 Microsoft ID アカウントのメールアドレスを登録する場合 67
4.1.3 Gmail のメールアドレスを登録する場合 70
4.2 ユーザーを作成する 77
4.3 afw 識別子でキッティングする 79
4.4 端末にユーザーを割り当てる 88
4.5 Google Workspace アカウントを併用する 91
4.5.1 Google Workspace アカウントを設定する 91
4.5.2 Google Workspace アカウントを追加する 95
4.5.3 アカウントの追加を禁止する 98

5 Google Workspace アカウントで Android Enterprise 連携を行う 99
5.1 トークンを発行する 100
5.2 Google Workspace アカウントを登録する 106
5.3 ユーザーを作成する 110
5.3.1 既存のユーザーに Google Workspace アカウントを登録する 112
5.4 Google Workspace アカウントでキッティングする 114

6 Google アカウントでゼロタッチ登録を利用して Android Enterprise 連携を行う 124
6.1 Google アカウントを登録する 125
6.1.1 企業ドメインのメールアドレスを登録する場合 125
6.1.2 Microsoft ID アカウントのメールアドレスを登録する場合 135
6.1.3 Gmail のメールアドレスを登録する場合 138
6.2 Google API の認証設定を行う 145
6.2.1 メールアドレスを Google アカウントとして登録する 145
6.2.2 ゼロタッチポータルにログインする 149
6.2.3 利用規約に同意する 149
6.2.4 API 設定および JSON ファイルのダウンロードを行う 151
6.2.5 JSON ファイルをアップロードする 165
6.3 ユーザーを作成する 170
6.4 ゼロタッチ登録（Google アカウント利用）でキッティングする 172
6.5 端末にユーザーを割り当てる 182
6.6 ゼロタッチ登録サーバーに同期する 185

7 Google Workspace アカウントでゼロタッチ登録を利用して Android Enterprise 連携を行う 186
7.1 トークンを発行する 187
7.2 Google Workspace アカウントを登録する 193
7.3 Google API の認証設定を行う 197
7.3.1 メールアドレスを Google アカウントとして登録する 197
7.3.2 ゼロタッチポータルにログインする 201
7.3.3 利用規約に同意する 202
7.3.4 API 設定および JSON ファイルのダウンロードを行う 204
7.3.5 JSON ファイルをアップロードする 218
7.4 ユーザーを作成する 223
7.4.1 既存のユーザーに Google Workspace アカウントを登録する 225
7.5 ゼロタッチ登録（Google Workspace アカウント利用）でキッティングする 227
7.6 ゼロタッチ登録サーバーに同期する 239

8 Google アカウントで KME を利用して Android Enterprise 連携を行う ...240

8.1 Google アカウントを登録する 241

8.1.1 企業ドメインのメールアドレスを登録する場合 241

8.1.2 Microsoft ID アカウントのメールアドレスを登録する場合 251

8.1.3 Gmail のメールアドレスを登録する場合 254

8.2 ユーザーを作成する 261

8.3 KME を利用するための準備を行う 263

8.3.1 Galaxy アカウントを取得する 263

8.3.2 KME の申請をする 263

8.3.3 Knox API ポータルにログインできるようにする 263

8.3.4 JSON ファイルのダウンロードおよびクライアント識別子を取得する 265

8.3.5 Knox カスタマーID を取得する 268

8.4 Knox 認証情報および Knox プロファイル情報を設定する 269

8.5 KME サーバーに同期する 272

8.6 KME（Google アカウント利用）でキッティングする 273

9 Google Workspace アカウントで KME を利用して Android Enterprise 連携を行う 284

9.1 トークンを発行する 285

9.2 Google Workspace アカウントを登録する 291

9.3 ユーザーを作成する 295

9.3.1 既存のユーザーに Google Workspace アカウントを登録する 297

9.4 KME を利用するための準備を行う 299

9.4.1 Galaxy アカウントを取得する 299

9.4.2 KME の申請をする 299

9.4.3 Knox API ポータルにログインできるようにする 299

9.4.4 JSON ファイルのダウンロードおよびクライアント識別子を取得する 301

9.4.5 Knox カスタマーID を取得する 304

9.5 Knox 認証情報および Knox プロファイル情報を設定する 305

9.6 KME サーバーに同期する 308

9.7 KME（Google Workspace アカウント利用）でキッティングする 309

10 その他のキッティング方法 322

10.1 QR コードでキッティングする 323

10.1.1 QR コードを表示する 323

10.1.2 QR コードを端末に読み込む 324

11 KDDI Smart Mobile Safety Manager－Google 間の連携設定を変更する333

11.1 Google アカウントを削除する 334

11.2 Google アカウントを再登録する 337

11.2.1 企業ドメインのメールアドレスで再登録する場合 337

11.2.2 Gmail のメールアドレスで再登録する場合 340

11.3 Google Workspace アカウントを削除する 343

1 Android クライアントについて

1.1 概要

本製品は、専門の知識を必要とせずに、機器の管理・運用を行うサポートサービスです。Android 端末にアプリ「KDDI Smart Mobile Safety Manager エージェント（以下、エージェントと呼ぶ）」をインストールし認証すると、端末の状態や位置情報を確認したり、管理サイトから端末のリモートロックやリモートワイプ（初期化）をしたりできます。

管理サイトの操作については、以下を参照してください。

『管理サイト リファレンスマニュアル』

1.2 OS サポートポリシー

本製品では、確実な製品の動作とセキュリティ機能の提供を目的として、以下の OS サポートポリシーを定めています。

- 本製品の最新対応 OS より 3 世代前の OS メジャーバージョンまでをサポート。
- 最新対応 OS 追加に伴い、サポート対象外となった OS バージョンについては、サポート期限が切れた日から 1 年間に限り、お問い合わせには可能な限り対応いたします。ただし、動作保証や不具合対応はいたしません。

定期的に下位の OS バージョンのサポートを終了します。サポート対象外となる OS や端末を利用している場合は、OS アップデートまたは機種の変更をしてください。対応機種については、以下を参照してください。

『Android 対応端末表』

サポート対象	●Android 15：最新対応 OS ●Android 14：1 世代前 ●Android 13：2 世代前 ●Android 12：3 世代前 Android 11 のサポートは終了しました。問い合わせには 2025 年 11 月 20 日まで可能な限り対応します。 Android 10 のサポートは終了しました。問い合わせには 2025 年 1 月 31 日まで可能な限り対応します。

1.3 動作環境

エージェントのリリース日から 180 日間は、180 日間にリリースされたすべてのエージェントがサポートされます。ただし、リリース日から 180 日を超えた場合は、180 日以降最初にリリースされたエージェントから 2 つ前のエージェントまでが、サポートの対象になります。

対象 OS	Android 12 以上 従来版エージェントのサポートは終了しました。 詳細については以下を参照してください。 『Android 対応端末表』
本体メモリ	200MB 以上の空き容量
SD カード	5MB 以上の空き容量（ダウンロードしたインストーラーを SD カードに保存する場合）
ネットワーク接続	3G、4G/LTE、5G または Wi-Fi でインターネットへアクセスができること。 直接またはプロキシを介して管理サイトと HTTPS 通信（443 番ポート）ができること。

2 キッティング方法を選択する

利用している端末、および Google Workspace アカウント利用の有無によりキッティング方法が異なります。以下を参照して、適切なキッティング方法を選択してください。

注意

●キッティングを行うには、端末を工場出荷状態（初期設定画面）にする必要があります。

2.1 各キッティング方法の概要

エージェントのキッティングには、以下の 8 種類の方法があります。各方法の特徴については、下の表を参照してください。

- afw 識別子
- afw 識別子（Google Workspace アカウント併用）
- Google Workspace アカウント
- ゼロタッチ登録（Google アカウント利用）
- ゼロタッチ登録（Google Workspace アカウント利用）
- Knox Mobile Enrollment（KME）（Google アカウント利用）
- Knox Mobile Enrollment（KME）（Google Workspace アカウント利用）
- QR コード

キッティング方法によっては、途中で別の方法に変更できません。キッティングを始める前に下の表を確認のうえ、適切な方法を慎重に選択してください。

キッティング方法は限らず Android Enterprise を利用の場合は、1 ユーザーが所有できる機器は 10 台までです。
1 ユーザーに 11 台以上の機器を紐づけないでください。
1 ユーザーに 11 台以上の機器を紐づけると、端末に配信した Google アカウントが無効になります。アカウントで利用している Google Play ストアの閲覧やアプリのインストールができなくなります。

キッティングが完了して端末にプリインストールアプリがインストールされていない場合は、Android Enterprise でアプリを配信するか、Google Play ストアから手動でインストールしてください。
Android Enterprise でのアプリ配信の詳細は、以下を参照してください。

『Android Enterprise アプリケーション配信 手順書』

キッティング方法	説明
afw 識別子	端末のアクティベート時に表示される Google アカウント入力欄に、afw 識別子「afw#ksmsm」を入力します。事前の設定が少ない最も標準的なキッティング方法です。 キッティングの手順については、以下を参照してください。 「Google アカウントで Android Enterprise 連携を行う」21 ページ Google Workspace を契約している場合は、この方法を選択せず、必ず以下のいずれかの方法でキッティングしてください。 ・Google Workspace アカウント ・ゼロタッチ登録（Google Workspace アカウント利用）
afw 識別子（Google Workspace アカウント併用）	afw 識別子でキッティングを行い、Google Workspace アカウントを追加します。Google アカウントと Google Workspace アカウントを併用して利用することができます。 キッティングの手順については、以下を参照してください。 「Google アカウントで Android Enterprise 連携を行い、Google Workspace アカウントを併用する」56 ページ

キッティング方法	説明
Google Workspace アカウント	端末のアクティベート時に表示される Google アカウント入力欄に、Google Workspace アカウントを入力します。 利用中の Google Workspace アカウントで Android Enterprise との連携を行う方法です。この方法には、以下のメリットがあります。 ・Google Workspace アカウントを利用することで、別途管理用の Google アカウントを作成する必要がありません。 ・端末から Google Workspace アカウントで Google のサービスを利用できます。 キッティングの手順については、以下を参照してください。 ☞「Google Workspace アカウントで Android Enterprise 連携を行う」99 ページ
ゼロタッチ登録（Google アカウント利用）	ゼロタッチ登録に対応した端末を利用して、Google アカウントで Android Enterprise との連携を行い、端末を強制的に本製品の管理下に置きます。この方法には、以下のメリットがあります。 ・キッティング前の機器情報を、あらかじめ「事前機器」として登録できます。 ・アクティベート時の端末操作を短縮できます。 キッティングの手順については、以下を参照してください。 ☞「Google アカウントでゼロタッチ登録を利用して Android Enterprise 連携を行う」124 ページ ゼロタッチ登録の詳細については、以下の Web サイトを参照してください。 ☞ https://www.android.com/intl/ja_jp/enterprise/management/zero-touch/ モバイルネットワークが利用できるゼロタッチ登録に対応した端末を、事前に用意してください。Wi-Fi 専用端末は、本製品に対応していません。
ゼロタッチ登録（Google Workspace アカウント利用）	ゼロタッチ登録に対応した端末を利用して、Google Workspace アカウントで Android Enterprise との連携を行い、端末を強制的に本製品の管理下に置きます。この方法には、以下のメリットがあります。 ・キッティング前の機器情報を、あらかじめ「事前機器」として登録できます。 ・アクティベート時の端末操作を短縮できます。 ・Google Workspace アカウントを利用することで、別途管理用の Google アカウントを作成する必要がありません。 ・端末から Google Workspace アカウントで Google のサービスを利用できます。 キッティングの手順については、以下を参照してください。 ☞「Google Workspace アカウントでゼロタッチ登録を利用して Android Enterprise 連携を行う」186 ページ ゼロタッチ登録の詳細については、以下の Web サイトを参照してください。 ☞ https://www.android.com/intl/ja_jp/enterprise/management/zero-touch/ モバイルネットワークが利用できるゼロタッチ登録に対応した端末を、事前に用意してください。Wi-Fi 専用端末は、本製品に対応していません。

キッティング方法		説明
Knox Mobile Enrollment（KME）（Google アカウント利用）		Knox Mobile Enrollment（KME）に対応した、Samsung 製端末でのみ利用できるキッティング方法です。KME 対応端末を利用して、Google アカウントで Android Enterprise との連携を行い、端末を強制的に本製品の管理下に置きます。この方法には、以下のメリットがあります。 ・キッティング前の機器情報を、あらかじめ「事前機器」として登録できます。 ・アクティベート時の端末操作を短縮できます。 キッティングの手順については、以下を参照してください。 ☞「Google アカウントで KME を利用して Android Enterprise 連携を行う」240 ページ KME 対応端末を購入する場合は、あらかじめ販売元に KME の利用方法についてご確認ください。 その他 KME の詳細については、KME 対応端末の販売元にお問い合わせください。
Knox Mobile Enrollment（KME）（Google Workspace アカウント利用）		Knox Mobile Enrollment（KME）に対応した、Samsung 製端末でのみ利用できるキッティング方法です。KME 対応端末を利用して、Google Workspace アカウントで Android Enterprise との連携を行い、端末を強制的に本製品の管理下に置きます。この方法には、以下のメリットがあります。 ・キッティング前の機器情報を、あらかじめ「事前機器」として登録できます。 ・アクティベート時の端末操作を短縮できます。 キッティングの手順については、以下を参照してください。 ☞「Google Workspace アカウントで KME を利用して Android Enterprise 連携を行う」284 ページ KME 対応端末を購入する場合は、あらかじめ販売元に KME の利用方法についてご確認ください。 その他 KME の詳細については、KME 対応端末の販売元にお問い合わせください。
その他	QR コード	初期設定画面を 6 回タップして QR コードリーダーをインストール後、指定の QR コードを読み込みます。 キッティングの手順については、以下を参照してください。 ☞「QR コードでキッティングする」323 ページ

3 Google アカウントで Android Enterprise 連携を行う

Android Enterprise を利用するには、端末をキッティングする前に Google アカウントで本製品と Google 間の連携設定を行います。

注意

- Android Enterprise の連携設定を行っていない Google アカウントが必要です。
- 連携設定を行ったアカウントの削除や再登録をしたい場合は、以下を参照してください。

「KDDI Smart Mobile Safety Manager－Google 間の連携設定を変更する」333 ページ

- 以下の項目は、初回のキッティング時のみ必要な操作です。

「Google アカウントを登録する」22 ページ

参考

- あらかじめ管理サイト Android Enterprise の「アプリケーション配信」機能を設定しておくと、キッティングの完了後、ライセンス認証と同時に特定のアプリを端末に配信できます。アプリケーション配信の詳細については、以下を参照してください。

『Android Enterprise アプリケーション配信 手順書』の「アプリをインストールする」

3.1 Google アカウントを登録する

管理サイトに Android Enterprise 連携するための Google アカウントを登録します。

登録できる Google アカウントは、以下の 3 種類です。Google アカウントに応じて、いずれかの方法で登録してください。

●企業ドメインのメールアドレスを登録する場合

Google が推奨する登録方法です。なるべくこの方法で登録してください。

●Microsoft ID アカウントのメールアドレスを登録する場合

Microsoft Entra ID でシングルサインオンが構成済みの場合は、自動的にこの登録方法になります。

●Gmail のメールアドレスを登録する場合

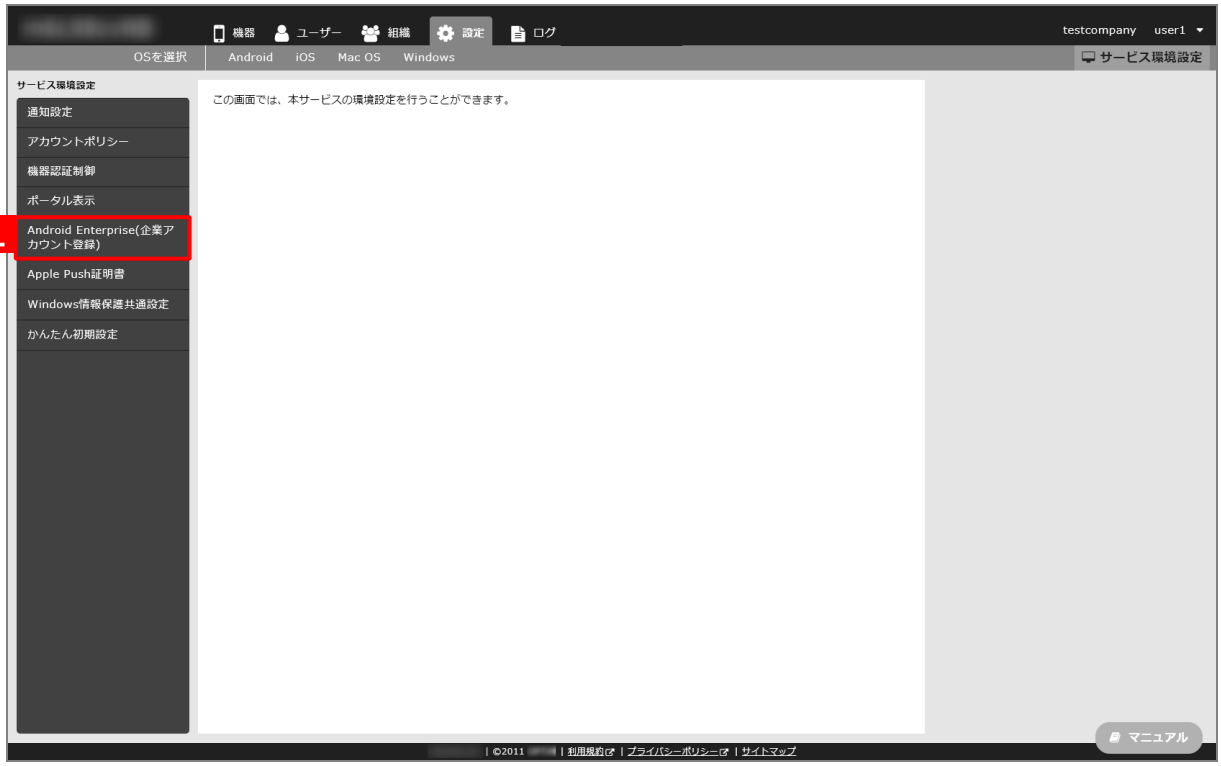
3.1.1 企業ドメインのメールアドレスを登録する場合

企業ドメインのメールアドレスを Android Enterprise 連携するための Google アカウントとして、管理サイトに登録します。

Google が推奨する登録方法です。

企業で初めて登録した企業ドメインのメールアドレスの使用者が、ドメイン管理者です。その後、同じ企業ドメインで他のメールアドレスを登録するときは、ドメイン管理者に連絡してください。ドメイン管理者が Google の画面で他のメールアドレスを登録します。

【1】［設定］→［サービス環境設定］→［Android Enterprise（企業アカウント登録）］をクリックします。



【2】［アカウント登録］をクリックします。

アカウント登録が完了すると、デフォルトで端末の「提供元不明アプリのインストール」、「開発者向けオプション」が「禁止」、「アプリ確認の強制」が「強制する」に設定されます。「セキュリティ設定（DOM）」で「提供元不明アプリのインストール」を許可する設定セットを作成し、機器に割り当てて同期を行ってください。

『管理サイト リファレンスマニュアル』の「設定－Android」－「Device Owner Mode」－「セキュリティ設定（DOM）」

（A）「状態」は「未登録」と表示されています。

（B）「アカウント種別」の初期値は「Google アカウント」が選択されています。

【3】企業ドメインのメールアドレスを入力します。

【4】［次へ］をクリックします。

⇒企業で初めて企業ドメインのメールアドレスを登録した場合は、手順【3】で入力したメールアドレスに、Google からメールが届きます。メールを確認してください。

すでに企業ドメインが登録されていた場合は、以下の画面が表示されます。
企業のドメイン管理者に連絡してください。企業のドメイン管理者が不明な場合は、Google に問い合わせてください。

ドメイン管理者のメールアドレスを他の企業で登録しようとした場合は、以下の画面が表示されます。
（A）［許可］をクリックすると、企業登録が完了します。

【5】メールの内容を確認して、［メールアドレスの確認］をクリックします。

⇒情報登録画面が表示されます。

【6】名、姓、会社名を入力して、国を選択します。

【7】［続行］をクリックします。

名、姓、会社名を入力すると、［続行］がクリックできます。

【8】［次へ］をクリックします。

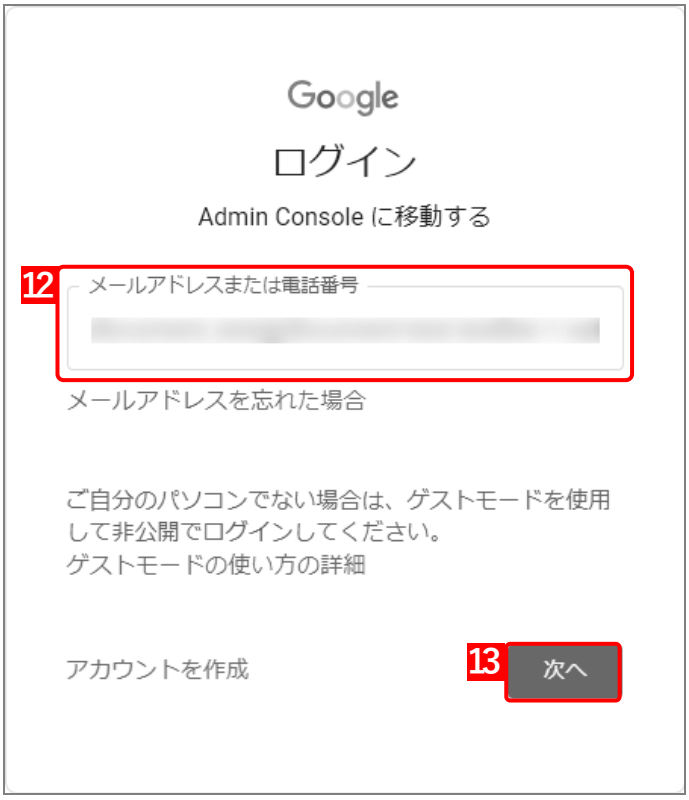
【9】8 文字以上のパスワードを入力します。

【10】［同意して続行］をクリックします。

パスワードを入力すると、［同意して続行］がクリックできます。

【11】［許可してアカウントを作成］をクリックします。

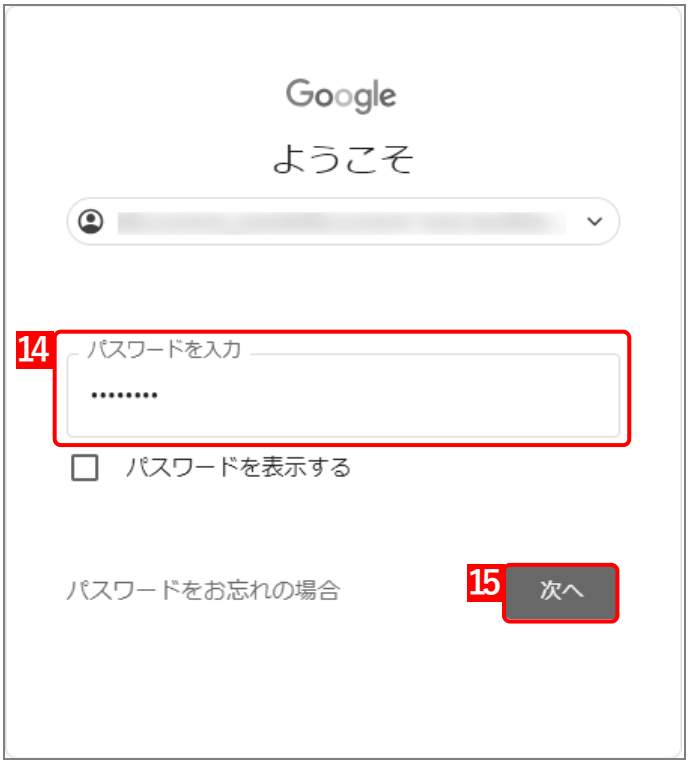
【12】手順【3】で入力した企業ドメインのアドレスを入力します。
【13】［次へ］をクリックします。



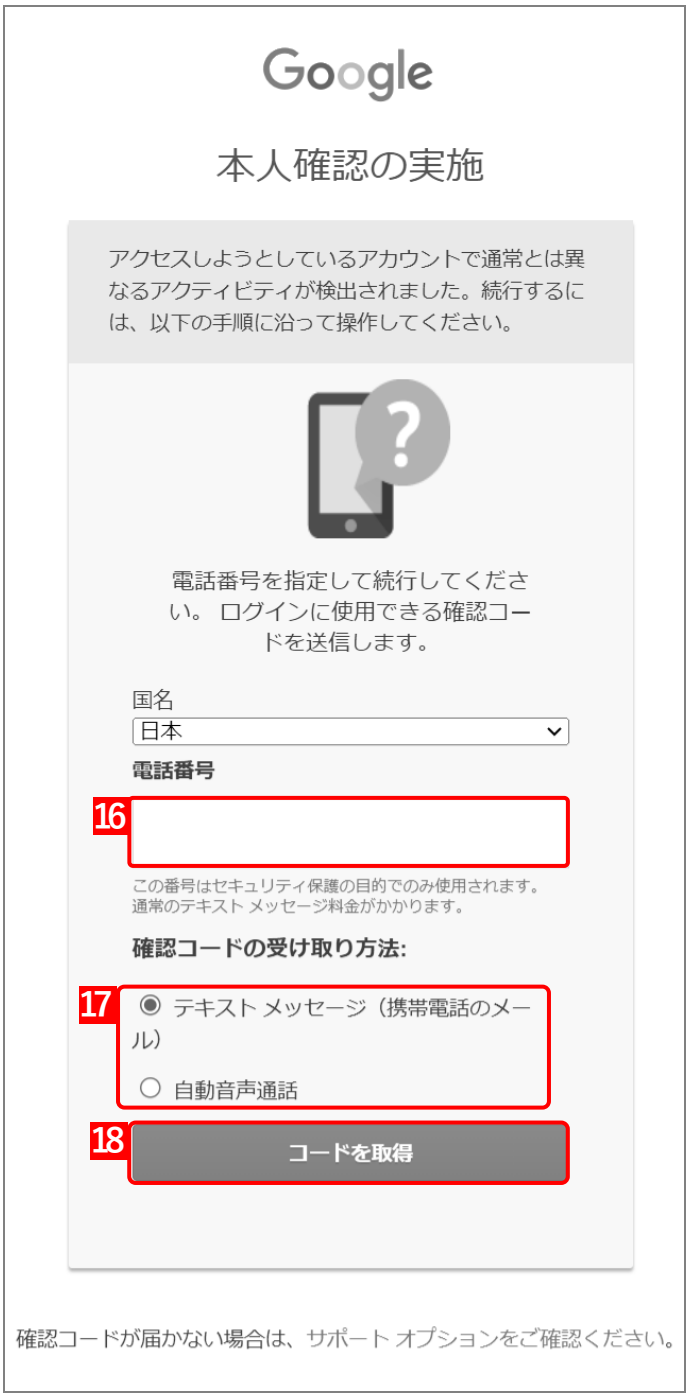
【14】手順【9】で入力したパスワードを入力します。

【15】［次へ］をクリックします。

⇒本人確認の画面が表示されます。



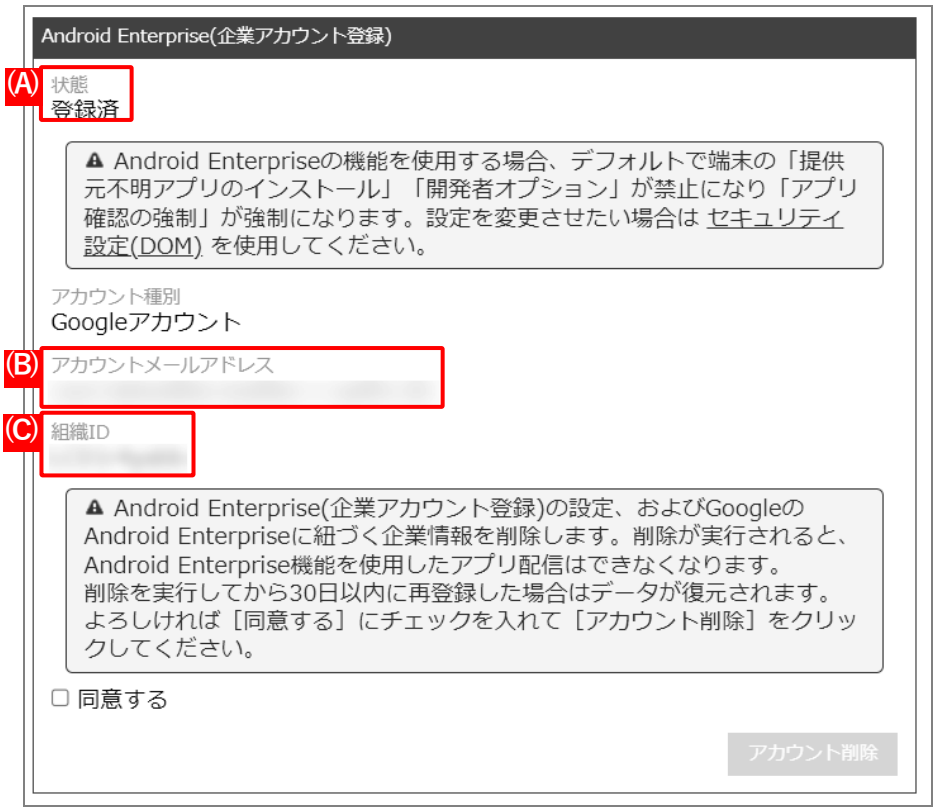
【16】確認コードを受け取る電話番号を入力します。
【17】確認コードの受け取り方法を選択します。
【18】［コードを取得］をクリックします。



【19】手順【16】で入力した電話番号で受け取った確認コードを入力します。
【20】［確認］をクリックします。

【21】［理解しました］をクリックします。
⇒アカウント登録済みの管理サイトの画面が表示されます。

（A）「状態」は「登録済」と表示されています。
（B）「アカウントメールアドレス」にアカウント登録で使用したメールアドレスが表示されています。
（C）「組織 ID」に managed Google Play ストアでの組織の一意の識別子が表示されています。



3.1.2 Microsoft ID アカウントのメールアドレスを登録する場合

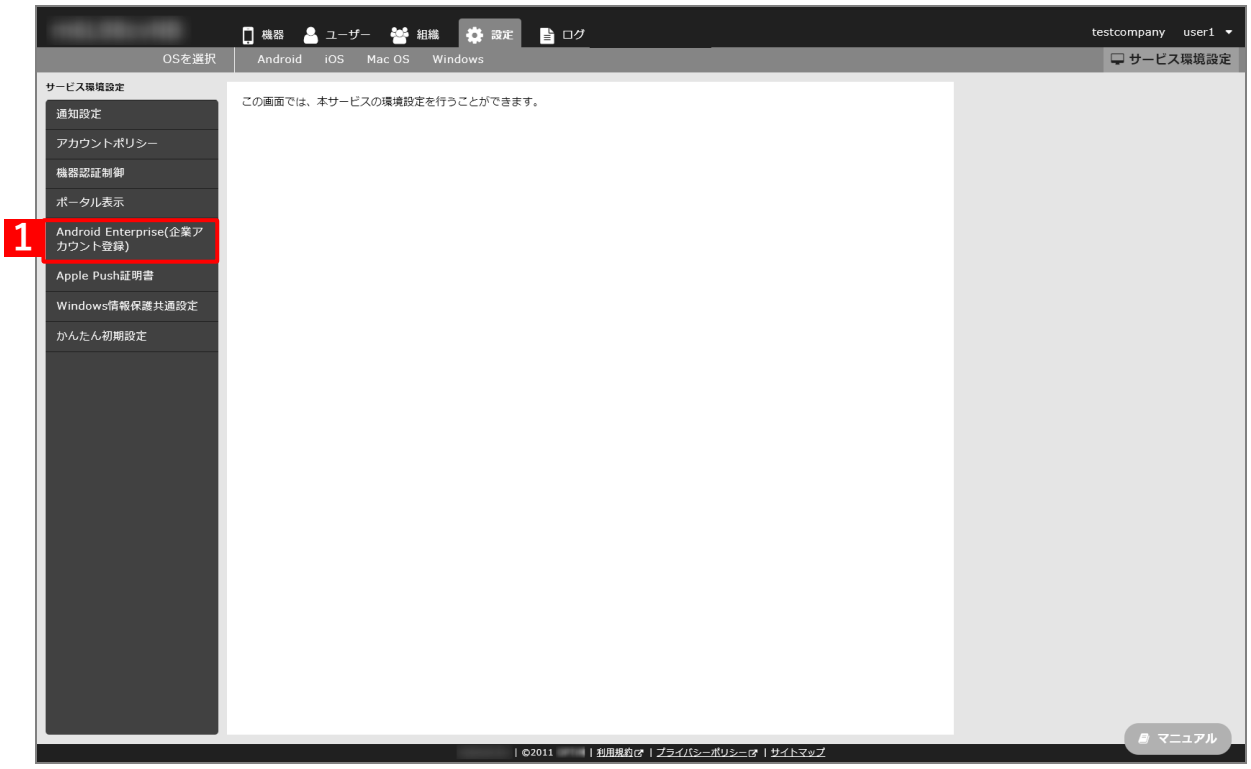
Microsoft ID アカウントのメールアドレスを Android Enterprise 連携するための Google アカウントとして、管理サイトに登録します。

Microsoft ID アカウントのメールアドレスは、Microsoft Entra ID でシングルサインオンが構成済みのものを使用してください。認証を行うため自動的に Microsoft の画面が表示されます。

Microsoft ID アカウントについての詳細は、以下を参照してください。

https://learn.microsoft.com/ja-jp/entra/identity-platform/v2-protocols-oidc

【1】［設定］→［サービス環境設定］→［Android Enterprise（企業アカウント登録）］をクリックします。



【2】［アカウント登録］をクリックします。

アカウント登録が完了すると、デフォルトで端末の「提供元不明アプリのインストール」、「開発者向けオプション」が「禁止」、「アプリ確認の強制」が「強制する」に設定されます。「セキュリティ設定（DOM）」で「提供元不明アプリのインストール」を許可する設定セットを作成し、機器に割り当てて同期を行ってください。

『管理サイト リファレンスマニュアル』の「設定－Android」－「Device Owner Mode」－「セキュリティ設定（DOM）」

（A）「状態」は「未登録」と表示されています。

（B）「アカウント種別」の初期値は「Google アカウント」が選択されています。

【3】Microsoft ID アカウントのメールアドレスを入力します。

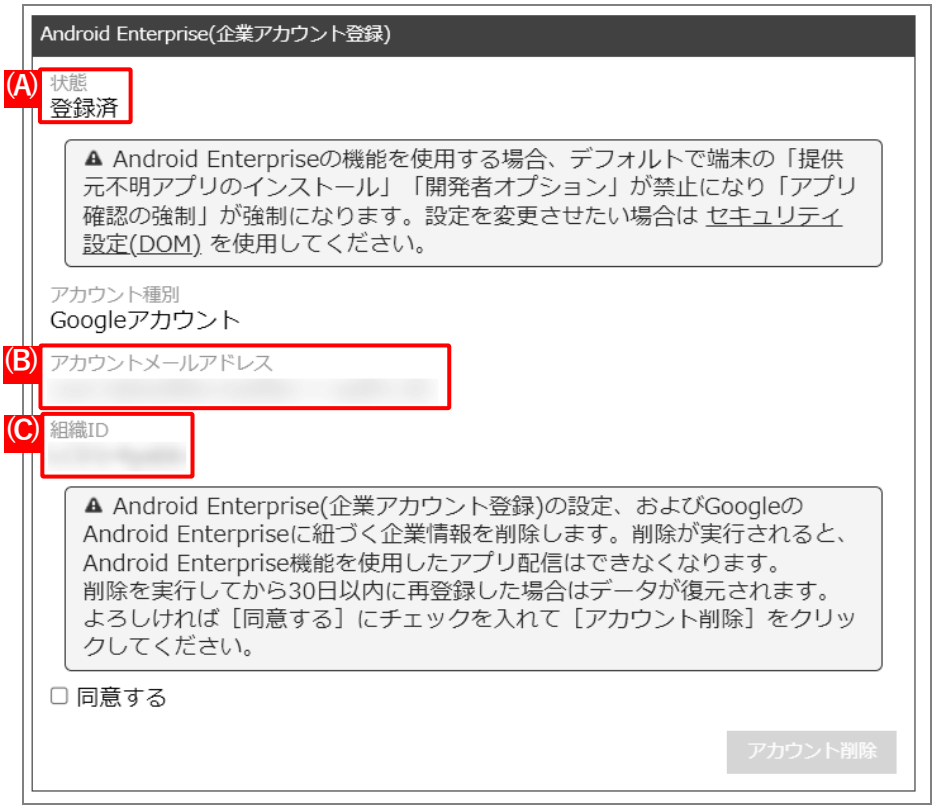
【4】［次へ］をクリックします。

【5】［Microsoft でログイン］をクリックします。

⇒Microsoft の登録画面が表示されます。画面の指示にしたがい登録を行ってください。

⇒アカウント登録済みの管理サイトの画面が表示されます。

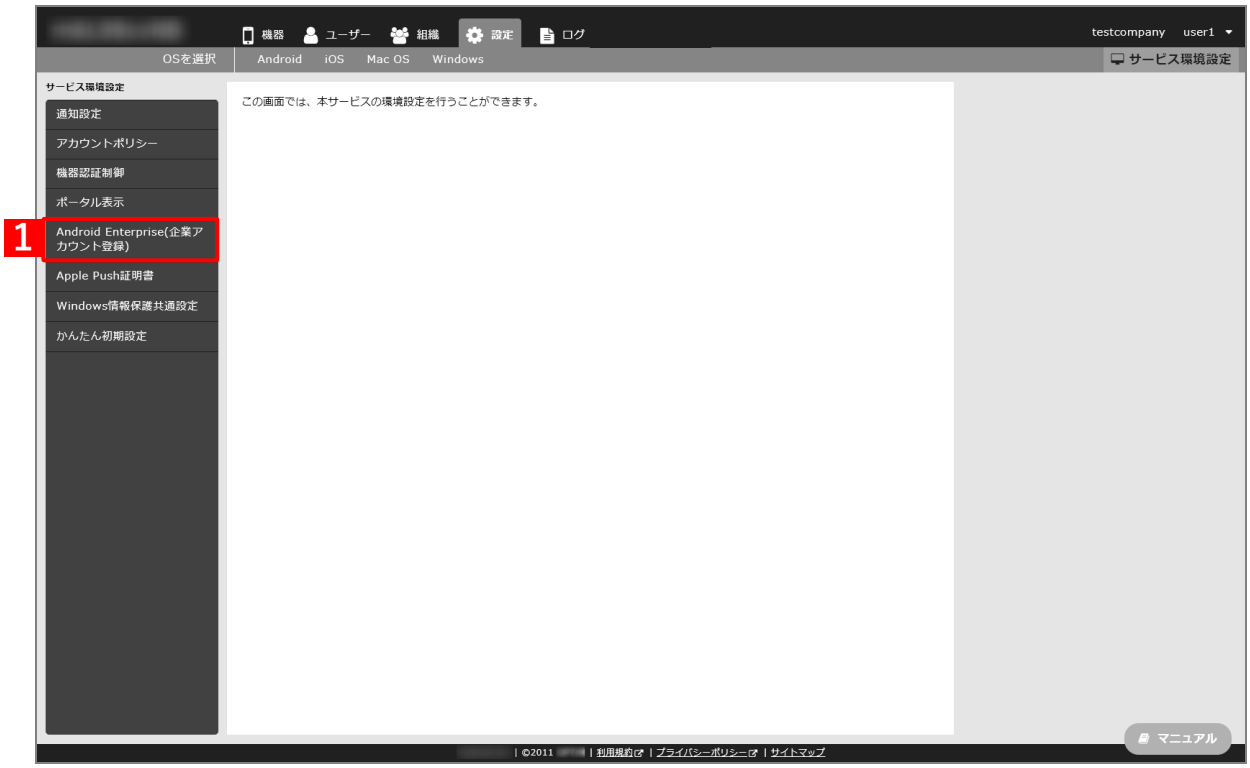
- (A)「状態」は「登録済」と表示されています。
- (B)「アカウントメールアドレス」にアカウント登録で使用したメールアドレスが表示されています。
- (C)「組織 ID」に managed Google Play ストアでの組織の一意の識別子が表示されています。



3.1.3 Gmail のメールアドレスを登録する場合

Gmail のメールアドレスを Android Enterprise 連携するための Google アカウントとして、管理サイトに登録します。

【1】［設定］→［サービス環境設定］→［Android Enterprise（企業アカウント登録）］をクリックします。



【2】［アカウント登録］をクリックします。

アカウント登録が完了すると、デフォルトで端末の「提供元不明アプリのインストール」、「開発者向けオプション」が「禁止」、「アプリ確認の強制」が「強制する」に設定されます。「セキュリティ設定（DOM）」で「提供元不明アプリのインストール」を許可する設定セットを作成し、機器に割り当てて同期を行ってください。

『管理サイト リファレンスマニュアル』の「設定－Android」－「Device Owner Mode」－「セキュリティ設定（DOM）」

（A）「状態」は「未登録」と表示されています。

（B）「アカウント種別」の初期値は「Google アカウント」が選択されています。

【3】Gmail のメールアドレスを入力します。

【4】［次へ］をクリックします。

【5】「Android のみ登録」の［登録］をクリックします。

⇒Google Play ストアが表示されます。

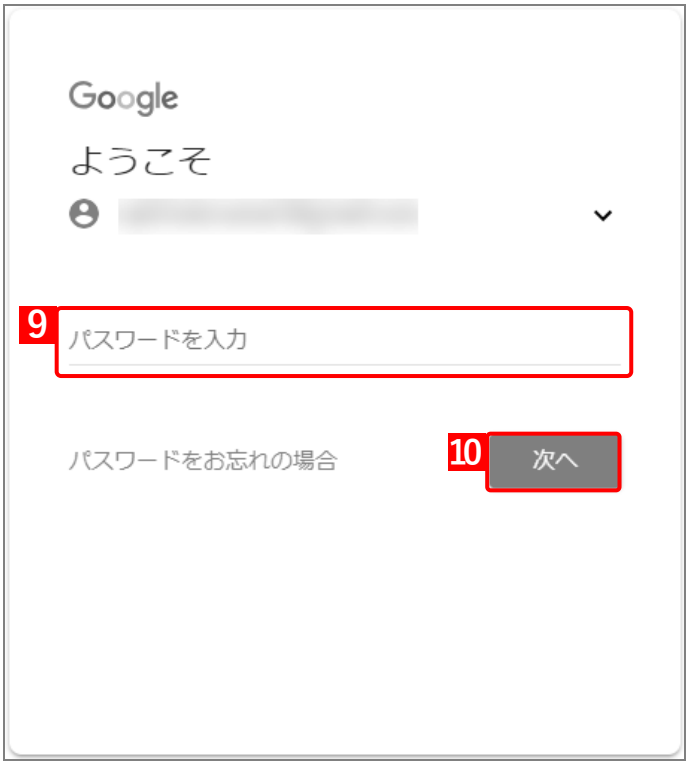
【6】［ログイン］をクリックします。

利用しているブラウザーにより、Google Play ストアが正常に動作しないことがあります。

【7】手順【3】で入力した Gmail のメールアドレスを入力します。

【8】［次へ］をクリックします。

【9】パスワードを入力します。
【10】［次へ］をクリックします。



【11】［完了］をクリックします。

【12】［スタートガイド］をクリックします。

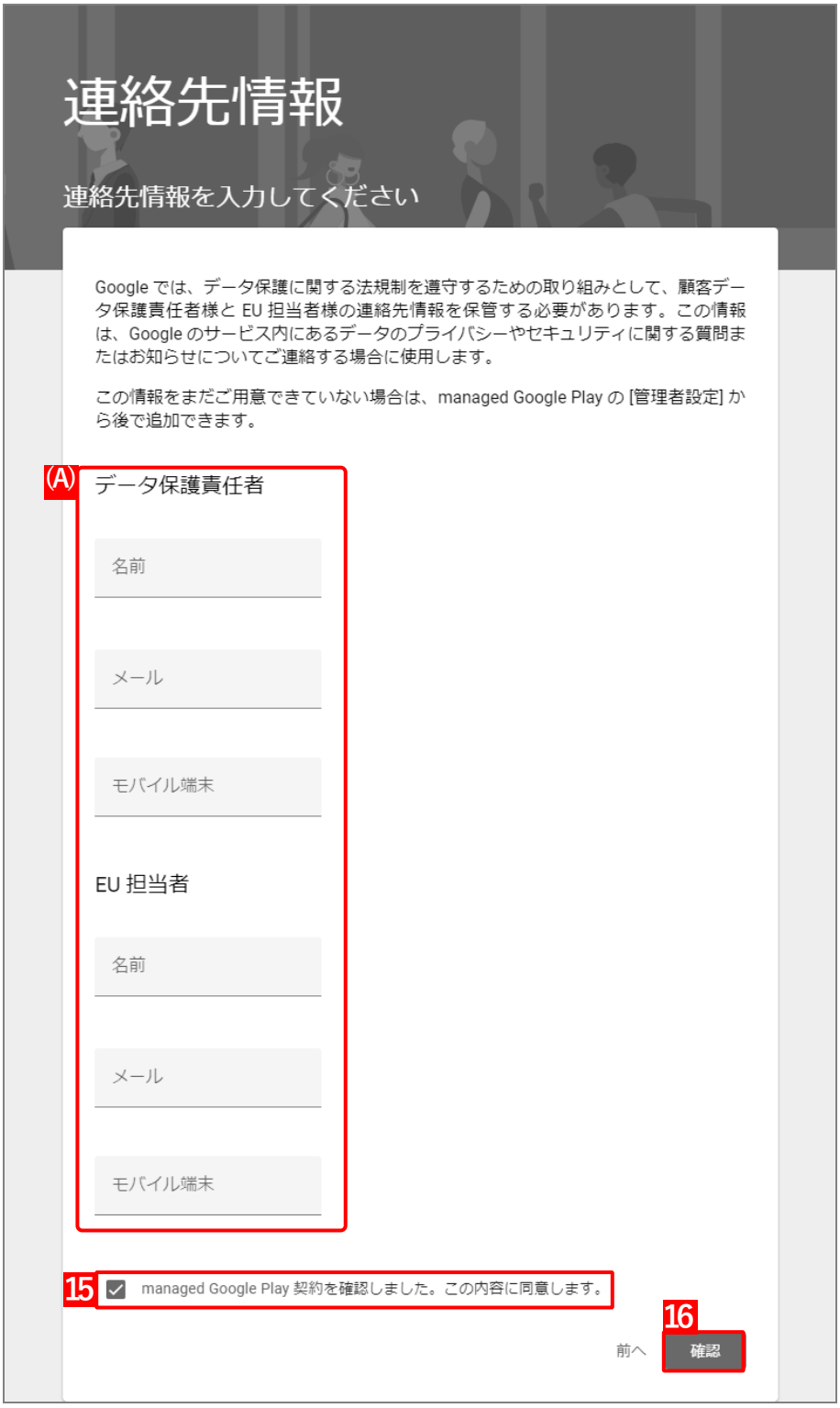
【13】「組織名」を入力します。
【14】［次へ］をクリックします。

【15】規約を確認し、同意にチェックを入れます。

【16】［確認］をクリックします。

（A）データの保護責任者および EU 担当者は、任意入力です。必要に応じて入力します。
データの保護責任者、EU 担当者についての詳細は、以下を参照してください。

https://support.google.com/googleplay/work/answer/7681629



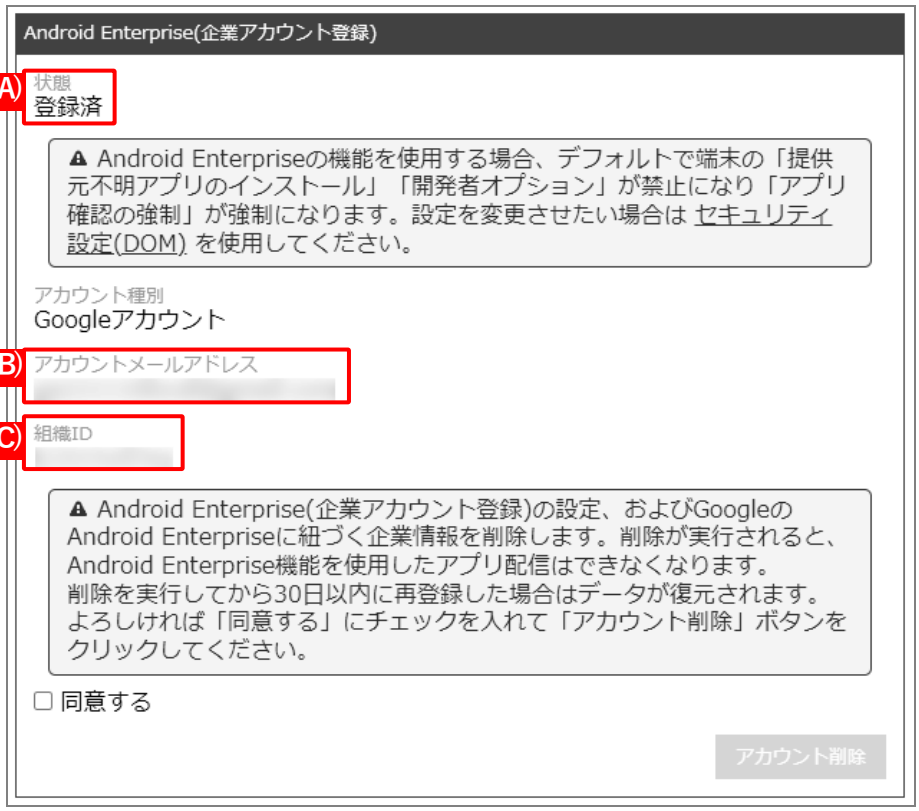
【17】［登録を完了］をクリックします。

⇒アカウント登録済みの管理サイトの画面が表示されます。

（A）「状態」は「登録済」と表示されています。

（B）「アカウントメールアドレス」に Google Play ストアで登録したメールアドレスが表示されています。

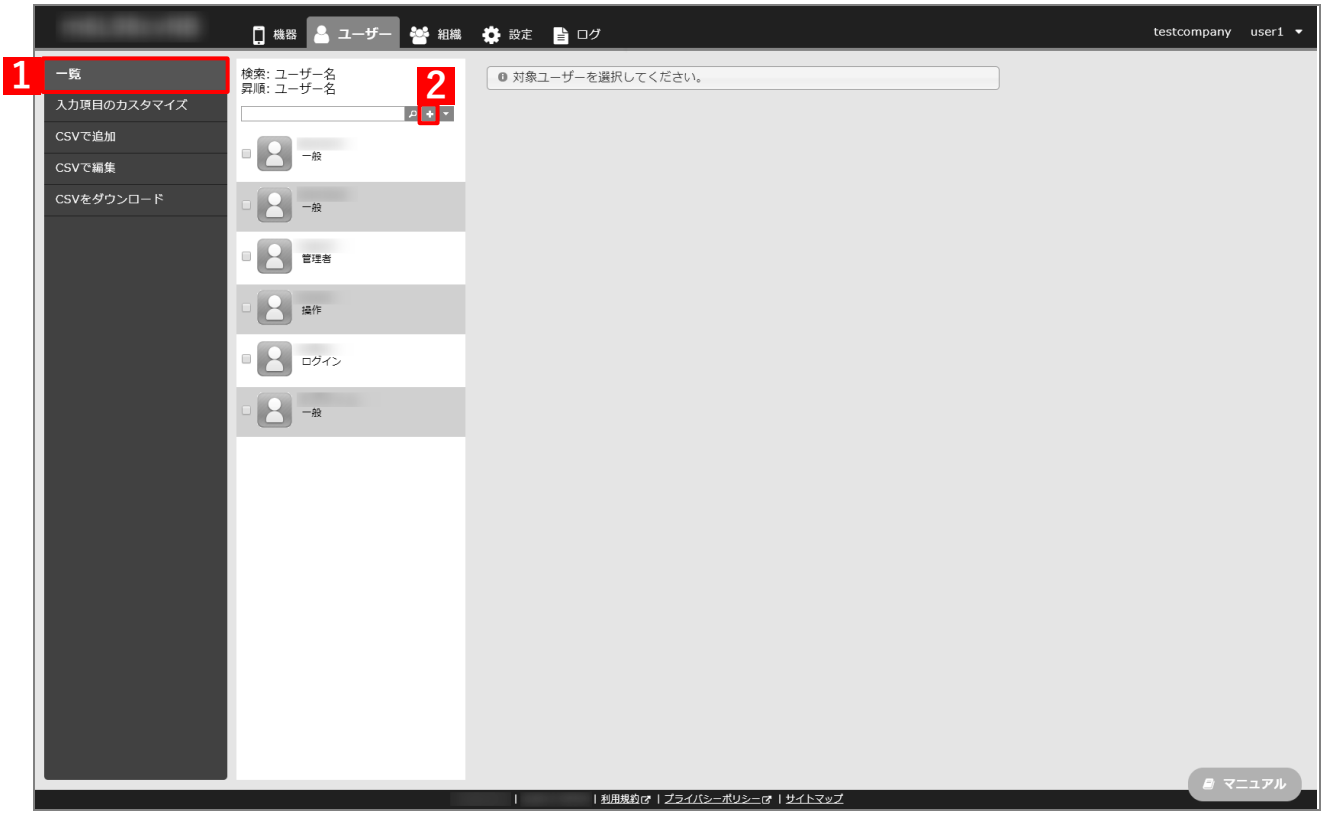
（C）「組織 ID」に managed Google Play ストアでの組織の一意の識別子が表示されています。



3.2 ユーザーを作成する

以下の手順で、ユーザーを作成します。

【1】［ユーザー］→［一覧］をクリックします。
【2】 をクリックします。



【3】「名前」に任意の名前を入力します。

その他の入力および設定項目の詳細については、以下を参照してください。

『管理サイト リファレンスマニュアル』の「ユーザー」－「一覧」－「ユーザーの作成」

【4】［保存］をクリックします。

⇒ユーザーが作成されます。

3.3 afw 識別子でキッティングする

以下の手順で、afw 識別子による端末のキッティングを行います。

管理サイトの「アプリケーション禁止」で「禁止するアプリケーション」、および「アプリケーション非表示」に「Google Play 開発者サービス（com.google.android.gms）」を設定していると、正常にキッティングが完了できない場合があります。以下を参照して、事前に設定を解除してから、キッティングを行ってください。

『管理サイト リファレンスマニュアル』の「設定－Android」－「アプリケーション」－「アプリケーション禁止」

『管理サイト リファレンスマニュアル』の「設定－Android」－「Device Owner Mode」－「アプリケーション非表示」

手順【10】の画面は、機種や OS によって表示されるタイミングが異なる場合があります。

【1】［始める］をタップします。

【2】［スキップ］をタップします。

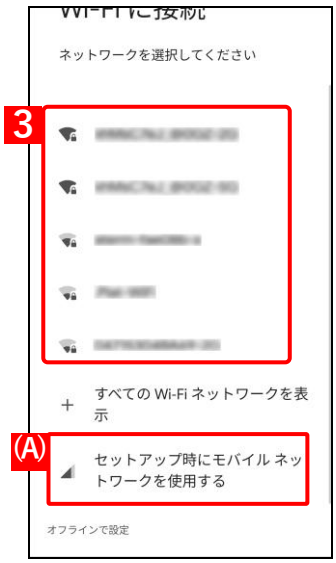
SIM が挿入されている場合は、表示されません。

【3】接続したい Wi-Fi の SSID をタップして、Wi-Fi に接続してください。

⇒ネットワーク接続が開始されます。

必ずネットワークに接続して、以降の手順を進めてください。

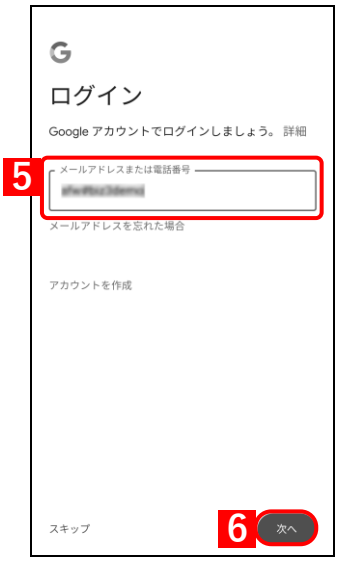
モバイルネットワークを利用する場合は、(A)［セットアップ時に［モバイルネットワークを使用する］をタップします。表示されるポップアップのメッセージを確認してください。



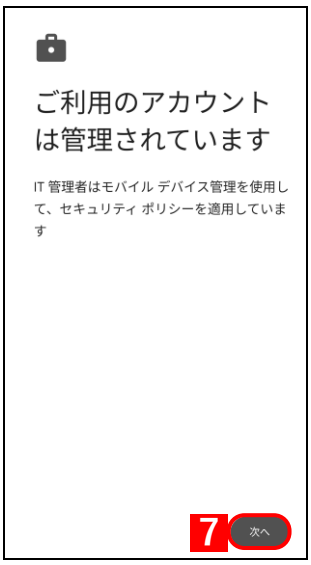
【4】［コピーしない］をタップします。

【5】「メールアドレスまたは電話番号」に「afw#ksmsm」と入力します。

【6】［次へ］をタップします。

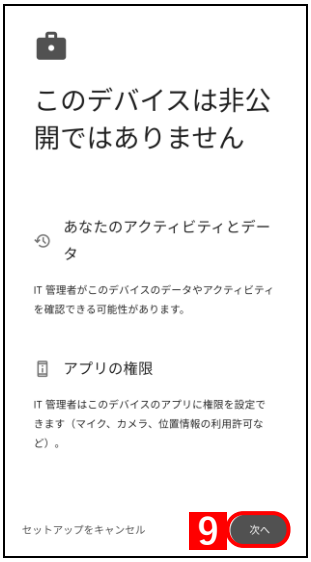


【7】［次へ］をタップします。



【8】［同意して続行］をタップします。

【9】［次へ］をタップします。

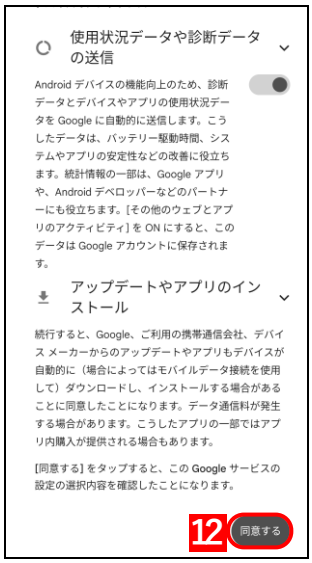


【10】［OK］をタップします。

【11】［もっと見る］をタップします。

端末によっては［もっと見る］が数回表示されます。［同意する］が表示されるまで、タップします。

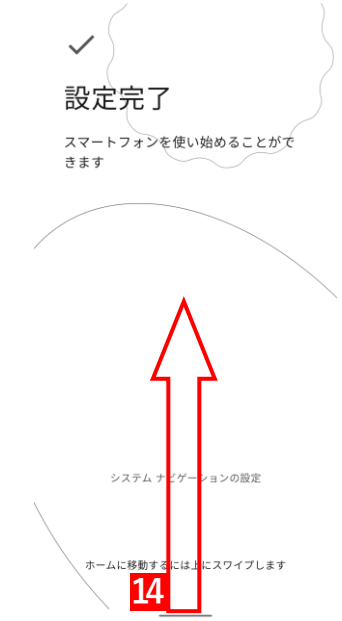
【12】［同意する］をタップします。



【13】［スキップ］をタップします。

【14】画面下部からスワイプします。

⇒ホーム画面に移動します。



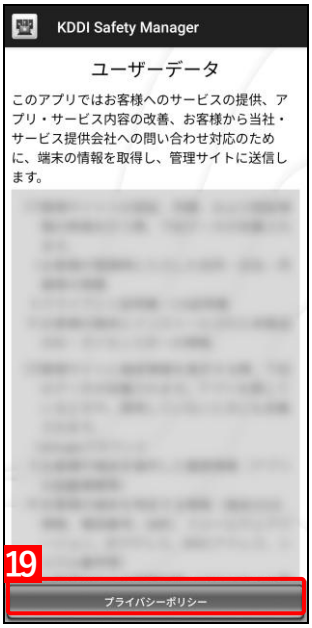
【15】［KDDI Safety Manager］をタップします。

ホーム画面にアイコンが表示されない場合は、アプリ一覧を確認してください。

【16】［ライセンス認証］をタップします。

【17】「利用規約に同意する」にチェックを入れます。
【18】［OK］をタップします。

【19】ユーザーデータについて確認して、［プライバシーポリシー］をタップします。



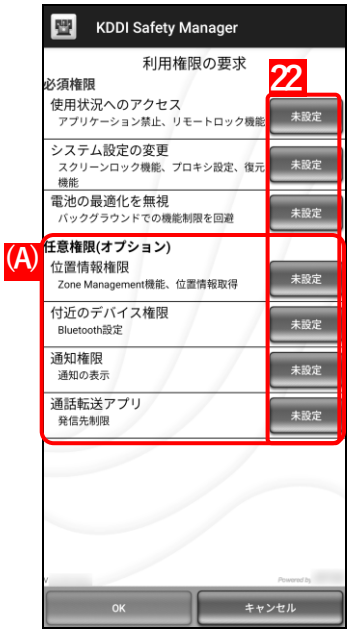
【20】「プライバシーポリシーに同意する」にチェックを入れます。
【21】［OK］をタップします。
⇒権限要求画面が表示されます。

【22】画面の案内に従って設定を行ってください。

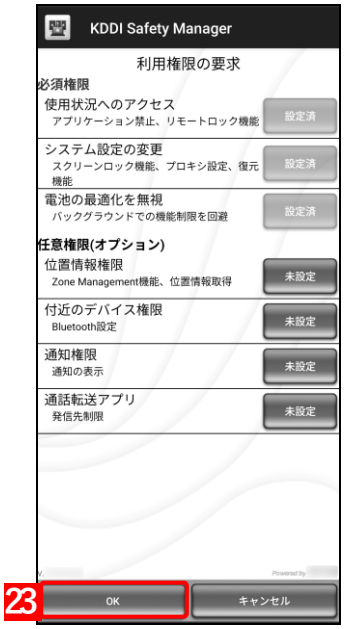
Android 12 以上でエージェントバージョン 9.14.0 以上の場合、（A）任意権限に「付近のデバイス権限」が表示されます。

Android 13 以上でエージェントバージョン 9.16.0 以上の場合、（A）任意権限に「通知権限」が表示されます。「ストレージ権限」は表示されません。

Android 10 以上でエージェントバージョン 9.22.0 以上の場合、（A）任意権限に「通話転送アプリ」が表示されます。



【23】［OK］をタップします。



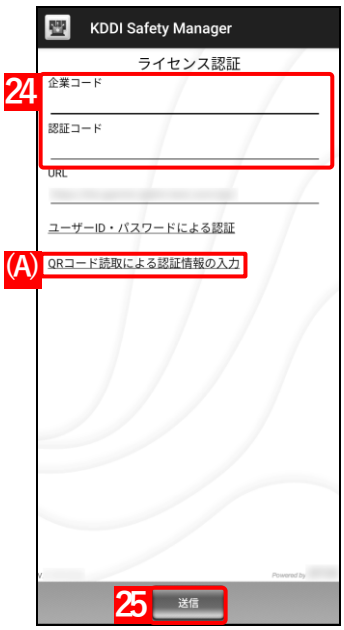
【24】「企業コード」および「認証コード」を入力します。

企業コード、認証コードは管理者にお問い合わせください。

（A）［QR コード読取による認証情報の入力］をタップして、エージェント認証用 QR コードを読み取ると、「企業コード」、「認証コード」、「URL」が自動で入力されます。QR コードは、管理者にお問い合わせください。

【25】［送信］をタップします。

⇒ライセンス認証完了の画面が表示されます。

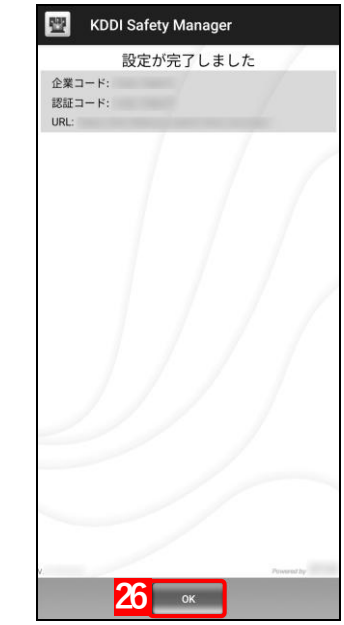


【26】［OK］をタップします。

⇒初期登録画面が表示されます。

手順【27】～【31】の初期登録画面は、管理サイトでポータル表示を「表示」に設定している場合のみ表示されます。

『管理サイト リファレンスマニュアル』の「サービス環境設定」－「ポータル表示」



【27】社員番号、姓、名を入力します。

【28】［次へ］をタップします。

⇒機器にユーザーが紐づきます。

登録したユーザーを変更することはできません。

すでにユーザーが端末に紐づけられている場合は、ユーザーが紐づけられているメッセージが表示されます。

ユーザー情報の登録が不要の場合は、（A）［閉じる］をタップするか、端末の戻るボタンで画面を閉じてください。

【29】必要事項を選択、入力します。

【30】［次へ］をタップします。

あらかじめ、管理サイトの［入力項目のカスタマイズ］で入力項目を追加してください。追加するとき、「機器から入力可」にチェックを入れてください。チェックが入っていない場合は、項目が表示されません。

『管理サイト リファレンスマニュアル』の「機器」―「入力項目のカスタマイズ」

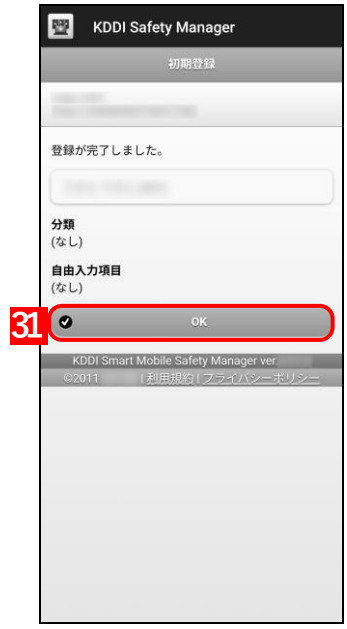
管理サイトの［入力項目のカスタマイズ］で設定した内容により、画面に表示される「分類」と「自由入力項目」の内容が異なります。

機器情報の登録が不要の場合は、(A)［閉じる］をタップするか、端末の戻るボタンで画面を閉じてください。

【31】［OK］をタップします。

⇒キッティングおよびライセンス認証が完了しました。
以下に進んでください。

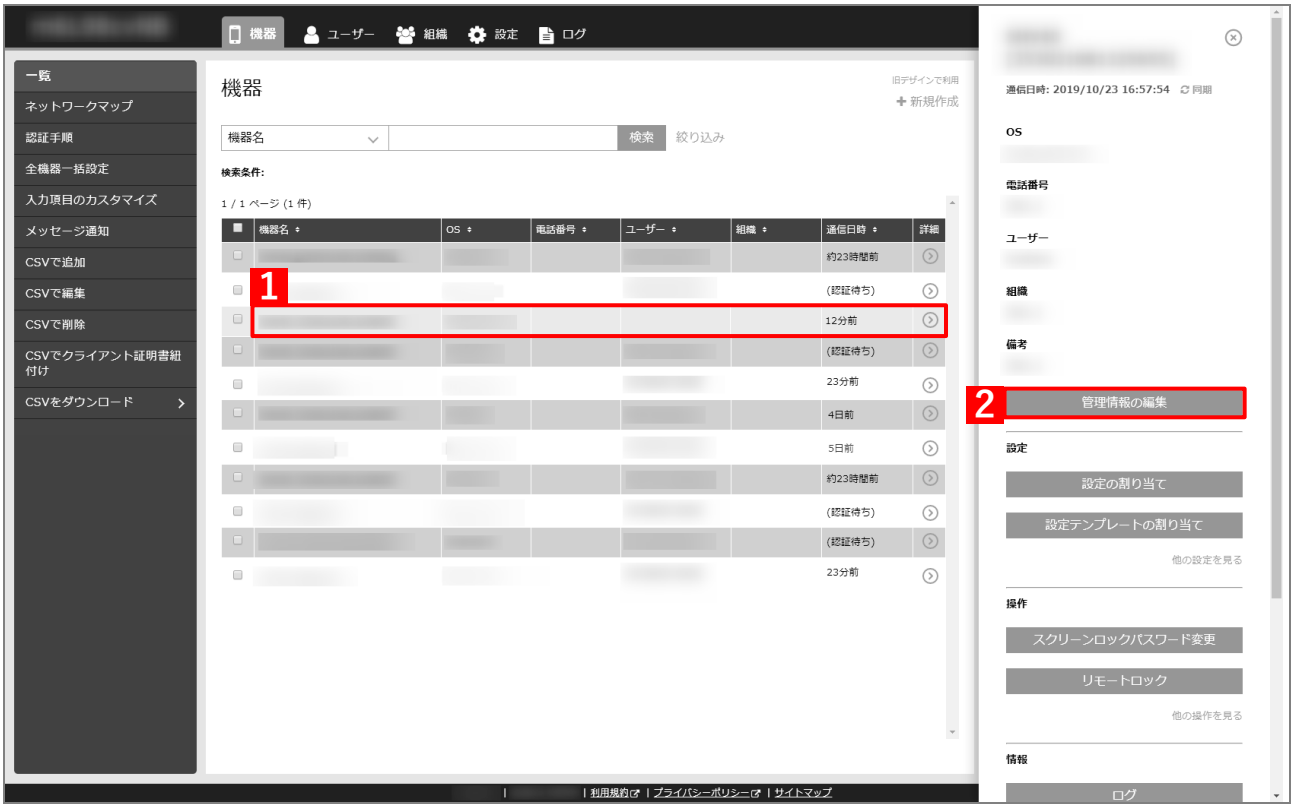
「端末にユーザーを割り当てる」53 ページ



3.4 端末にユーザーを割り当てる

以下の手順で、「ユーザーを作成する」で作成したユーザーを対象端末に割り当てます。

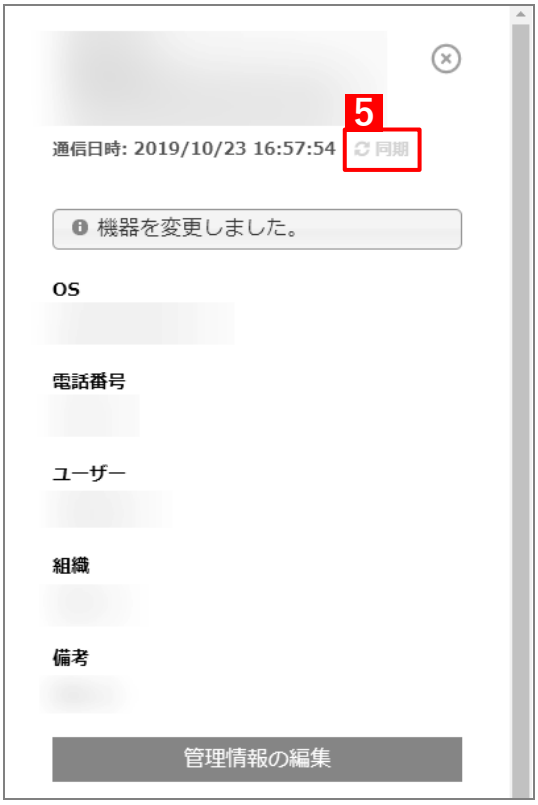
【1】［機器］→［一覧］→ 一覧から対象端末をクリックします。
【2】［管理情報の編集］をクリックします。



【3】「所属」の「ユーザー」を選択し、プルダウンメニューから「ユーザーを作成する」で選択したユーザーを指定します。

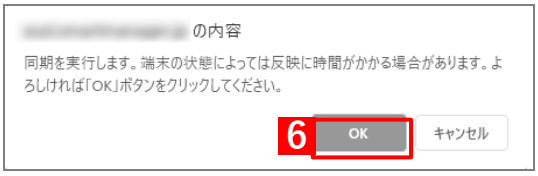
【4】［保存］をクリックします。

【5】［同期］をクリックします。



【6】［OK］をクリックします。

⇒端末にユーザーが割り当てられます。



4 Google アカウントで Android Enterprise 連携を行い、Google Workspace アカウントを併用する

Android Enterprise を利用するには、端末をキッティングする前に Google アカウントで本製品と Google 間の連携設定を行います。

Google Workspace アカウントを併用して登録する場合は、Google 管理コンソール上での設定を行ったあと、端末に Google Workspace アカウントを追加します。

注意

- Android Enterprise の連携設定を行っていない Google アカウント、Google Workspace アカウントが必要です。
- 連携設定を行ったアカウントの削除や再登録をしたい場合は、以下を参照してください。

「KDDI Smart Mobile Safety Manager－Google 間の連携設定を変更する」333 ページ

- 以下の項目は、初回のキッティング時のみ必要な操作です。

「Google アカウントを登録する」57 ページ

参考

- あらかじめ管理サイトで Android Enterprise の「アプリケーション配信」機能を設定しておくと、キッティングの完了後、ライセンス認証と同時に特定のアプリを端末に配信できます。アプリケーション配信の詳細については、以下を参照してください。

『Android Enterprise アプリケーション配信 手順書』の「アプリをインストールする」

4.1 Google アカウントを登録する

管理サイトに Android Enterprise 連携するための Google アカウントを登録します。

登録できる Google アカウントは、以下の 3 種類です。Google アカウントに応じて、いずれかの方法で登録してください。

●企業ドメインのメールアドレスを登録する場合

Google が推奨する登録方法です。なるべくこの方法で登録してください。

●Microsoft ID アカウントのメールアドレスを登録する場合

Microsoft Entra ID でシングルサインオンが構成済みの場合は、自動的にこの登録方法になります。

●Gmail のメールアドレスを登録する場合

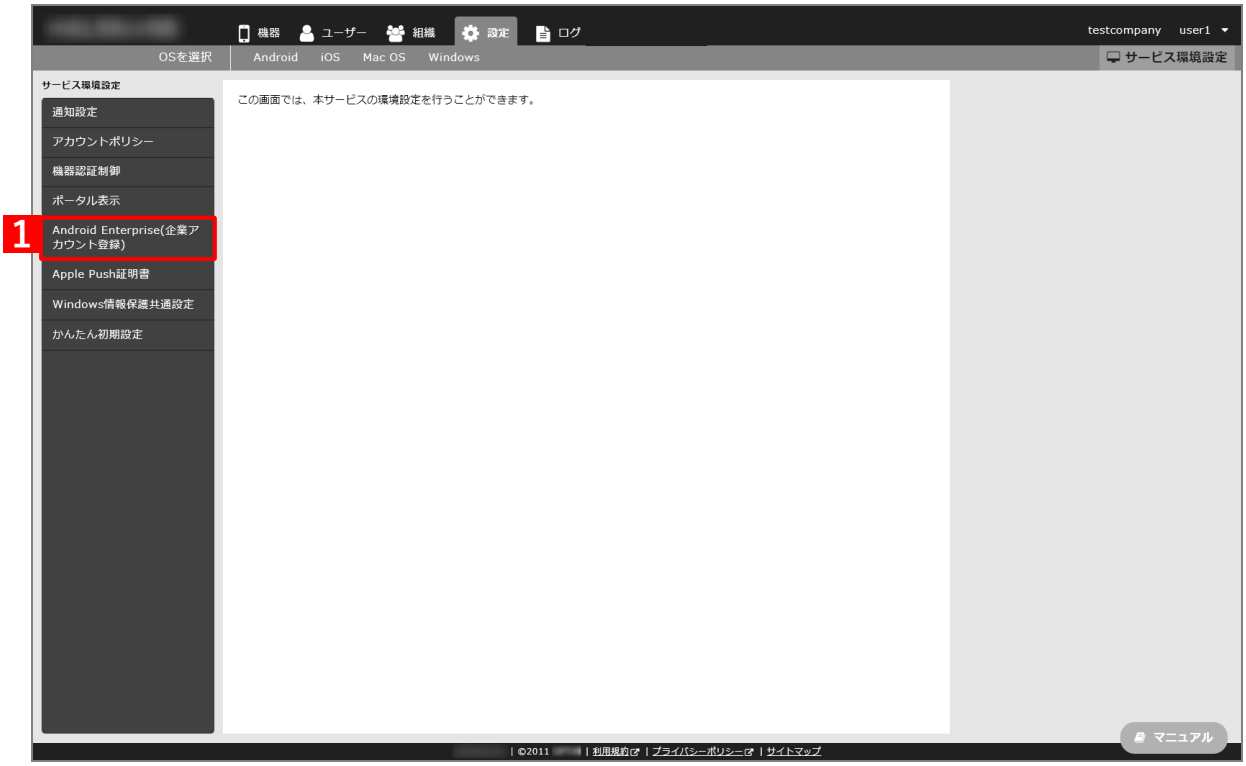
4.1.1 企業ドメインのメールアドレスを登録する場合

企業ドメインのメールアドレスを Android Enterprise 連携するための Google アカウントとして、管理サイトに登録します。

Google が推奨する登録方法です。

企業で初めて登録した企業ドメインのメールアドレスの使用者が、ドメイン管理者です。その後、同じ企業ドメインで他のメールアドレスを登録するときは、ドメイン管理者に連絡してください。ドメイン管理者が Google の画面で他のメールアドレスを登録します。

【1】［設定］→［サービス環境設定］→［Android Enterprise（企業アカウント登録）］をクリックします。



【2】［アカウント登録］をクリックします。

アカウント登録が完了すると、デフォルトで端末の「提供元不明アプリのインストール」、「開発者向けオプション」が「禁止」、「アプリ確認の強制」が「強制する」に設定されます。「セキュリティ設定（DOM）」で「提供元不明アプリのインストール」を許可する設定セットを作成し、機器に割り当てて同期を行ってください。

『管理サイト リファレンスマニュアル』の「設定－Android」－「Device Owner Mode」－「セキュリティ設定（DOM）」

（A）「状態」は「未登録」と表示されています。

（B）「アカウント種別」の初期値は「Google アカウント」が選択されています。

【3】企業ドメインのメールアドレスを入力します。

【4】［次へ］をクリックします。

⇒企業で初めて企業ドメインのメールアドレスを登録した場合は、手順【3】で入力したメールアドレスに、Google からメールが届きます。メールを確認してください。

すでに企業ドメインが登録されていた場合は、以下の画面が表示されます。
企業のドメイン管理者に連絡してください。企業のドメイン管理者が不明な場合は、Google に問い合わせてください。

ドメイン管理者のメールアドレスを他の企業で登録しようとした場合は、以下の画面が表示されます。
（A）［許可］をクリックすると、企業登録が完了します。

【5】メールの内容を確認して、［メールアドレスの確認］をクリックします。

⇒情報登録画面が表示されます。

【6】名、姓、会社名を入力して、国を選択します。

【7】［続行］をクリックします。

名、姓、会社名を入力すると、［続行］がクリックできます。

【8】［次へ］をクリックします。

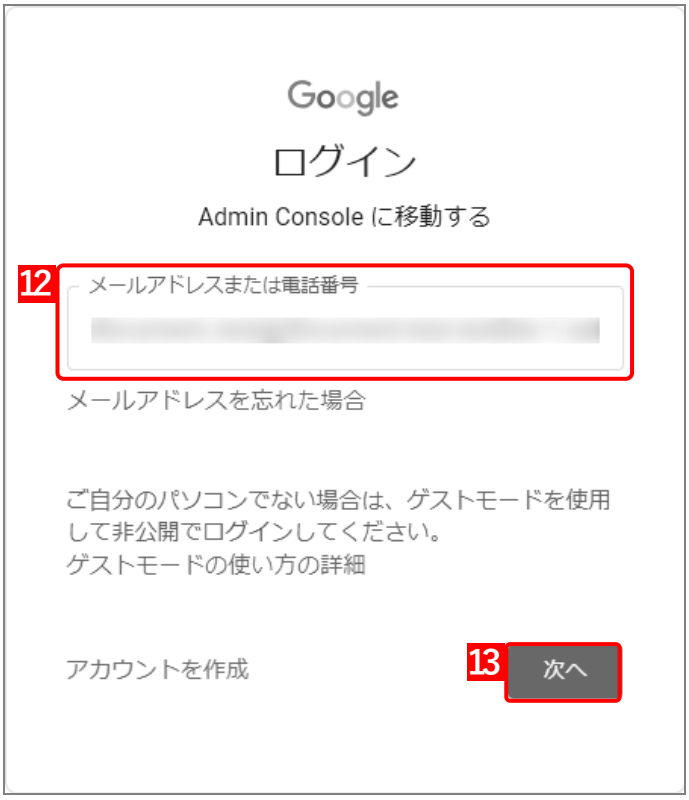
【9】8 文字以上のパスワードを入力します。

【10】［同意して続行］をクリックします。

パスワードを入力すると、［同意して続行］がクリックできます。

【11】［許可してアカウントを作成］をクリックします。

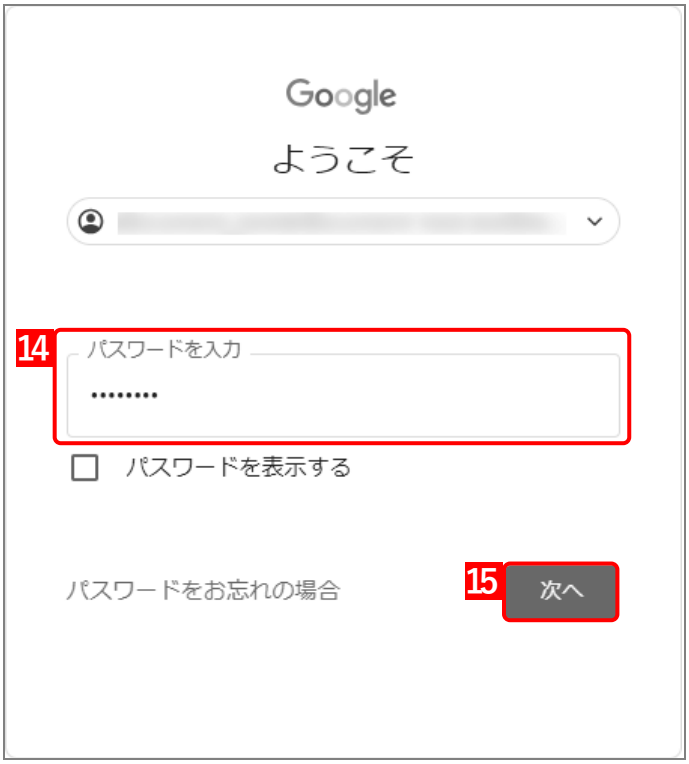
【12】手順【3】で入力した企業ドメインのアドレスを入力します。
【13】［次へ］をクリックします。



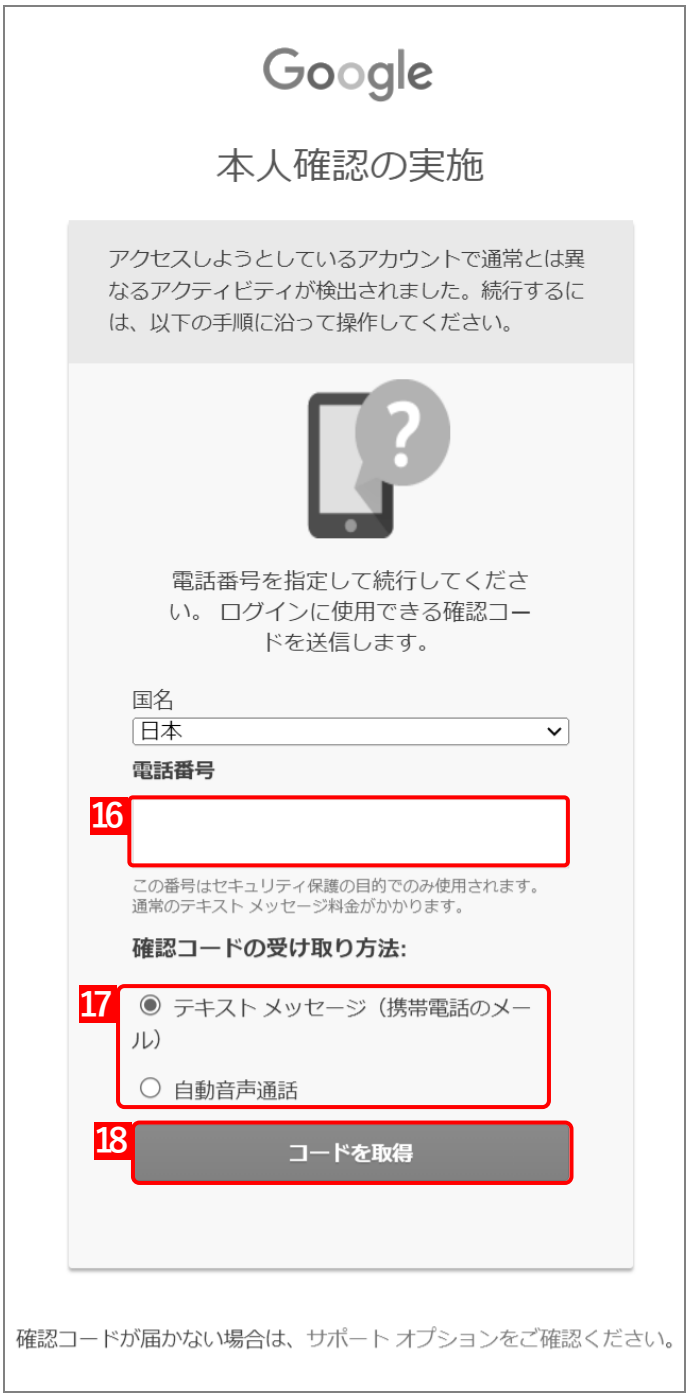
【14】手順【9】入力したパスワードを入力します。

【15】［次へ］をクリックします。

⇒本人確認の画面が表示されます。



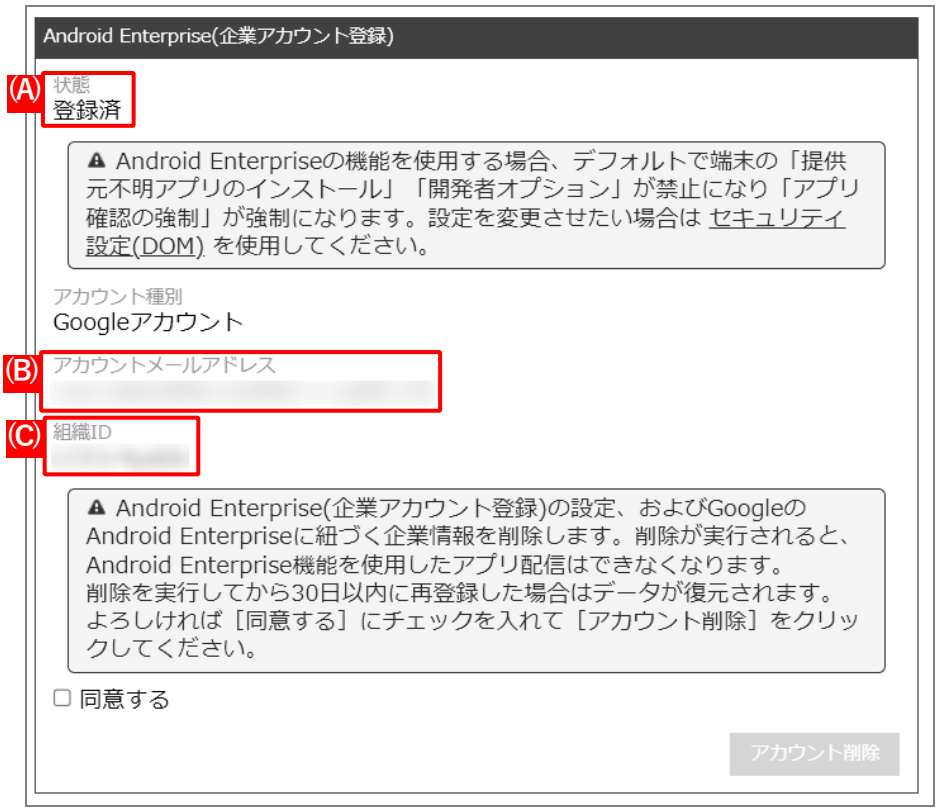
【16】確認コードを受け取る電話番号を入力します。
【17】確認コードの受け取り方法を選択します。
【18】［コードを取得］をクリックします。



【19】手順【16】で入力した電話番号で受け取った確認コードを入力します。
【20】［確認］をクリックします。

【21】［理解しました］をクリックします。
⇒アカウント登録済みの管理サイトの画面が表示されます。

（A）「状態」は「登録済」と表示されています。
（B）「アカウントメールアドレス」にアカウント登録で使用したメールアドレスが表示されています。
（C）「組織 ID」に managed Google Play ストアでの組織の一意の識別子が表示されています。



4.1.2 Microsoft ID アカウントのメールアドレスを登録する場合

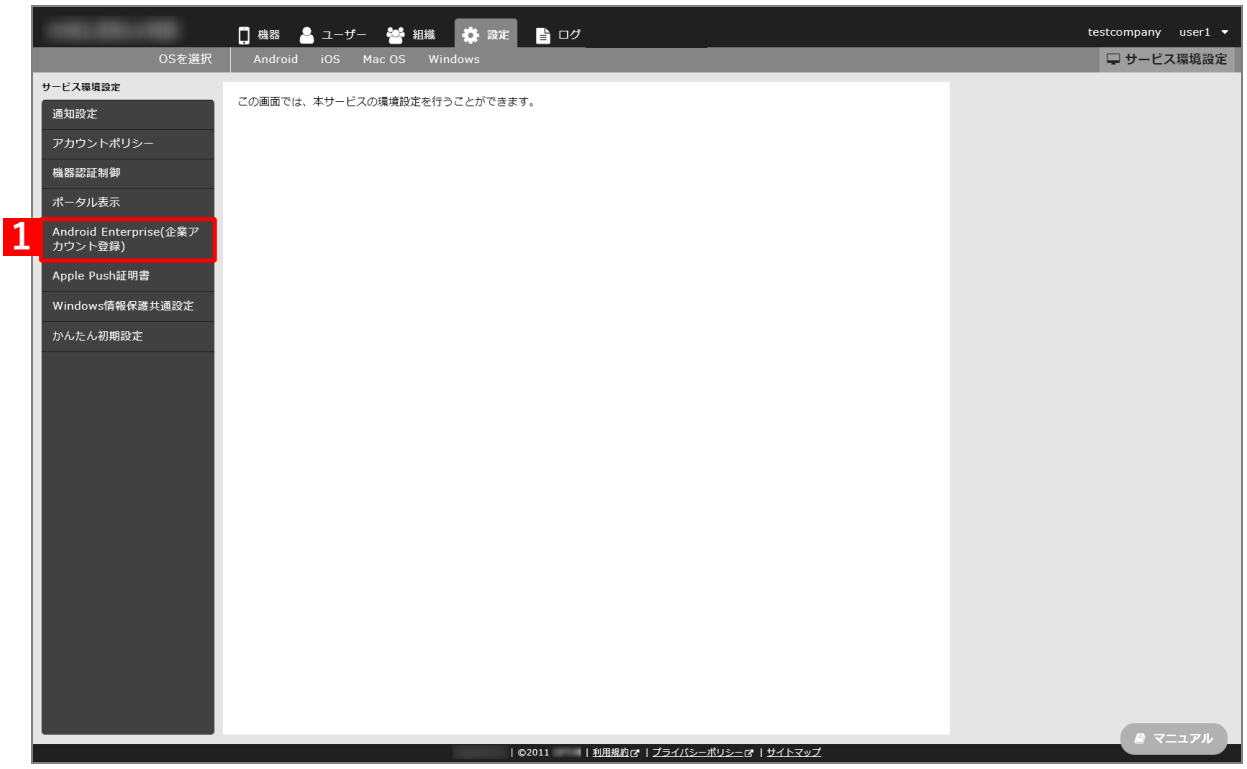
Microsoft ID アカウントのメールアドレスを Android Enterprise 連携するための Google アカウントとして、管理サイトに登録します。

Microsoft ID アカウントのメールアドレスは、Microsoft Entra ID でシングルサインオンが構成済みのものを使用してください。認証を行うため自動的に Microsoft の画面が表示されます。

Microsoft ID アカウントについての詳細は、以下を参照してください。

https://learn.microsoft.com/ja-jp/entra/identity-platform/v2-protocols-oidc

【1】［設定］→［サービス環境設定］→［Android Enterprise（企業アカウント登録）］をクリックします。



【2】［アカウント登録］をクリックします。

アカウント登録が完了すると、デフォルトで端末の「提供元不明アプリのインストール」、「開発者向けオプション」が「禁止」、「アプリ確認の強制」が「強制する」に設定されます。「セキュリティ設定（DOM）」で「提供元不明アプリのインストール」を許可する設定セットを作成し、機器に割り当てて同期を行ってください。

『管理サイト リファレンスマニュアル』の「設定－Android」－「Device Owner Mode」－「セキュリティ設定（DOM）」

（A）「状態」は「未登録」と表示されています。

（B）「アカウント種別」の初期値は「Google アカウント」が選択されています。

【3】Microsoft ID アカウントのメールアドレスを入力します。

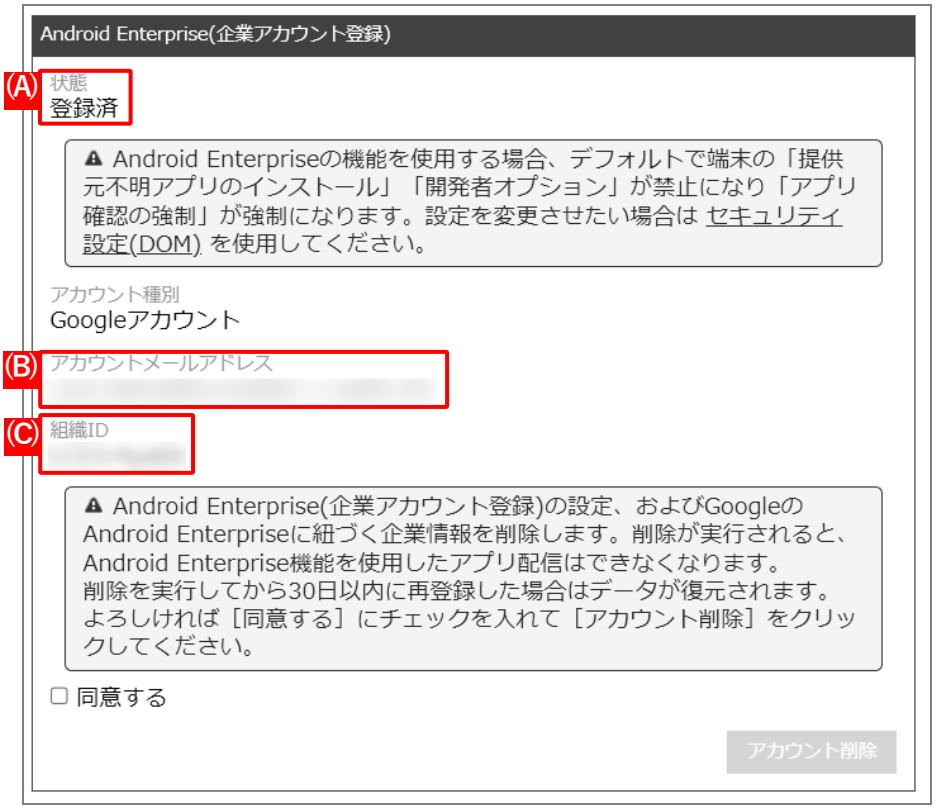
【4】［次へ］をクリックします。

【5】［Microsoft でログイン］をクリックします。

⇒Microsoft の登録画面が表示されます。画面の指示にしたがい登録を行ってください。

⇒アカウント登録済みの管理サイトの画面が表示されます。

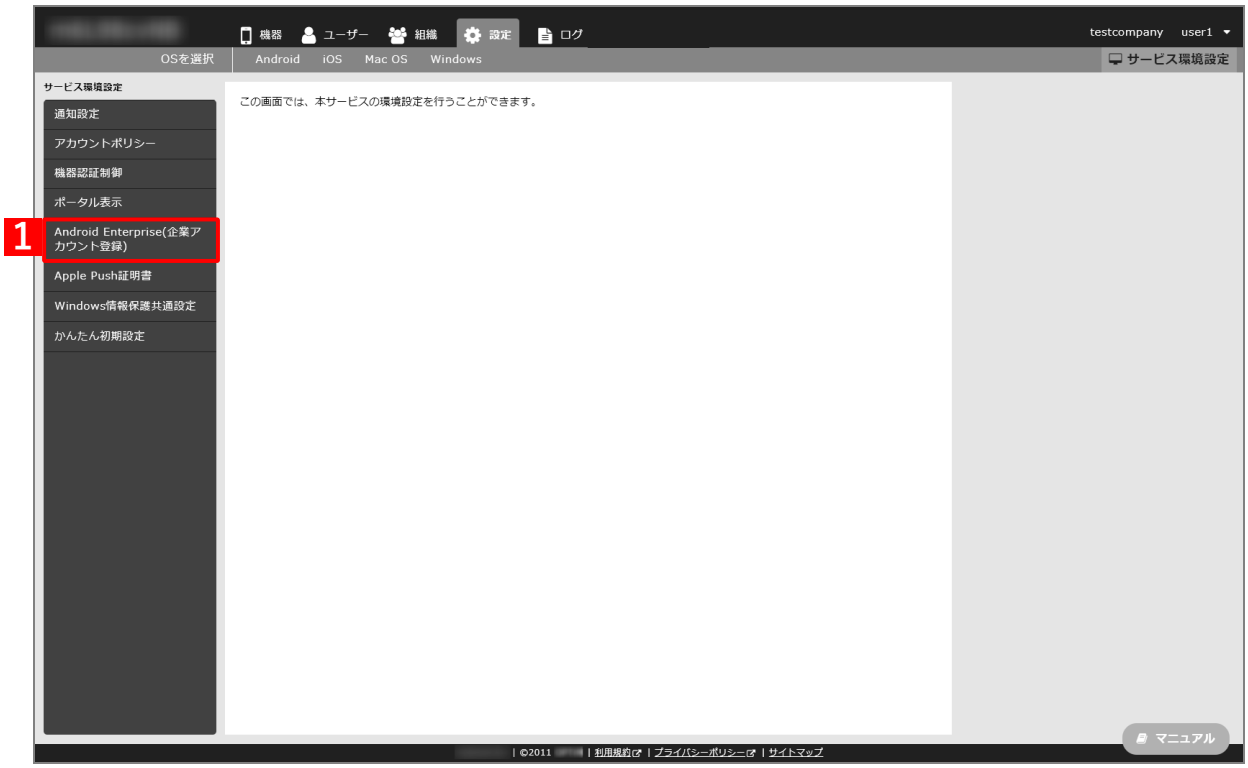
- (A)「状態」は「登録済」と表示されています。
- (B)「アカウントメールアドレス」にアカウント登録で使用したメールアドレスが表示されています。
- (C)「組織 ID」に managed Google Play ストアでの組織の一意の識別子が表示されています。



4.1.3 Gmail のメールアドレスを登録する場合

Gmail のメールアドレスを Android Enterprise 連携するための Google アカウントとして、管理サイトに登録します。

【1】［設定］→［サービス環境設定］→［Android Enterprise（企業アカウント登録）］をクリックします。



【2】［アカウント登録］をクリックします。

アカウント登録が完了すると、デフォルトで端末の「提供元不明アプリのインストール」、「開発者向けオプション」が「禁止」、「アプリ確認の強制」が「強制する」に設定されます。「セキュリティ設定（DOM）」で「提供元不明アプリのインストール」を許可する設定セットを作成し、機器に割り当てて同期を行ってください。

『管理サイト リファレンスマニュアル』の「設定－Android」－「Device Owner Mode」－「セキュリティ設定（DOM）」

（A）「状態」は「未登録」と表示されています。

（B）「アカウント種別」の初期値は「Google アカウント」が選択されています。

【3】Gmail のメールアドレスを入力します。

【4】［次へ］をクリックします。

【5】「Android のみ登録」の［登録］をクリックします。

⇒Google Play ストアが表示されます。

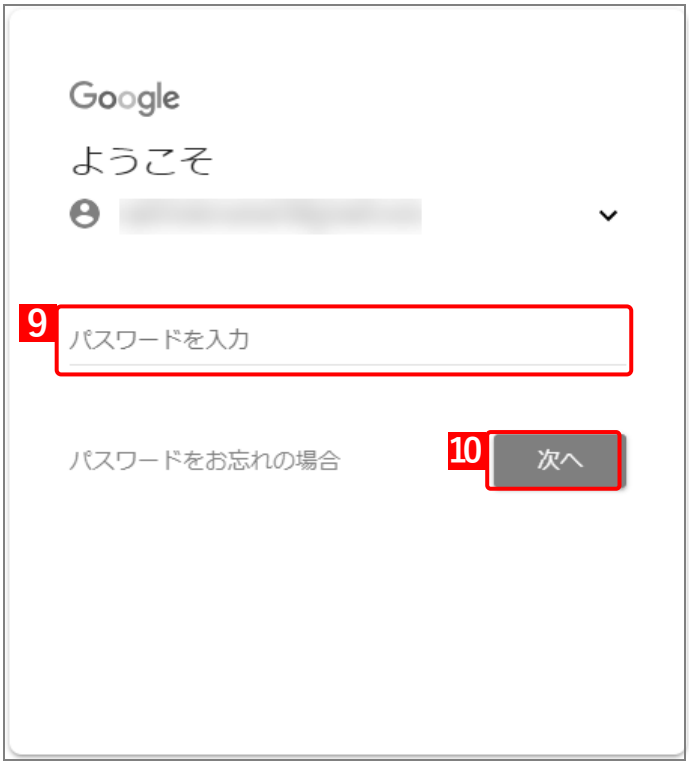
【6】［ログイン］をクリックします。

利用しているブラウザーにより、Google Play ストアが正常に動作しないことがあります。

【7】手順【3】で入力した Gmail のメールアドレスを入力します。

【8】［次へ］をクリックします。

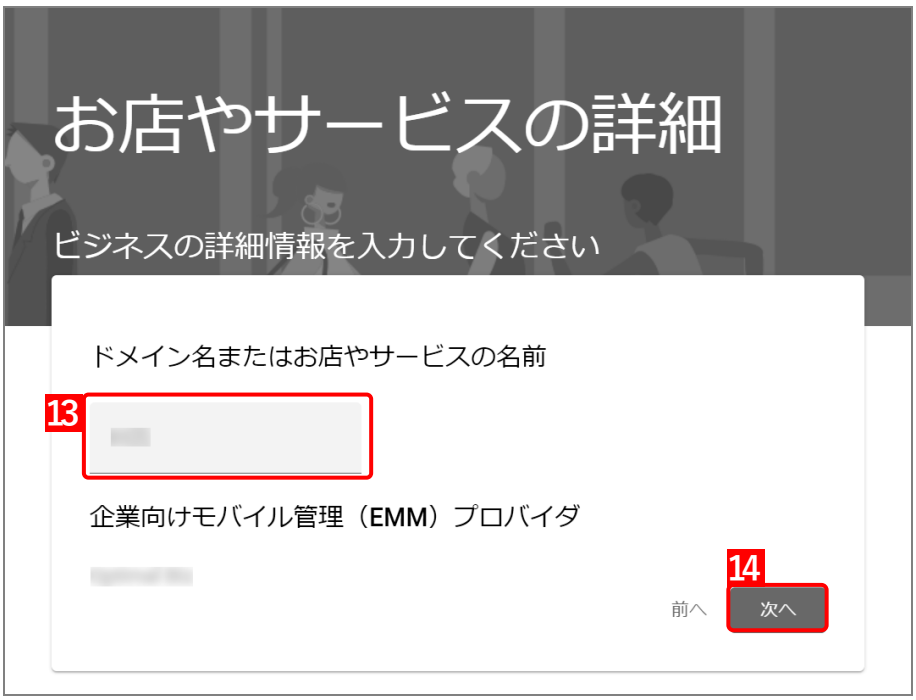
【9】パスワードを入力します。
【10】［次へ］をクリックします。



【11】［完了］をクリックします。

【12】［スタートガイド］をクリックします。

【13】「組織名」を入力します。
【14】［次へ］をクリックします。

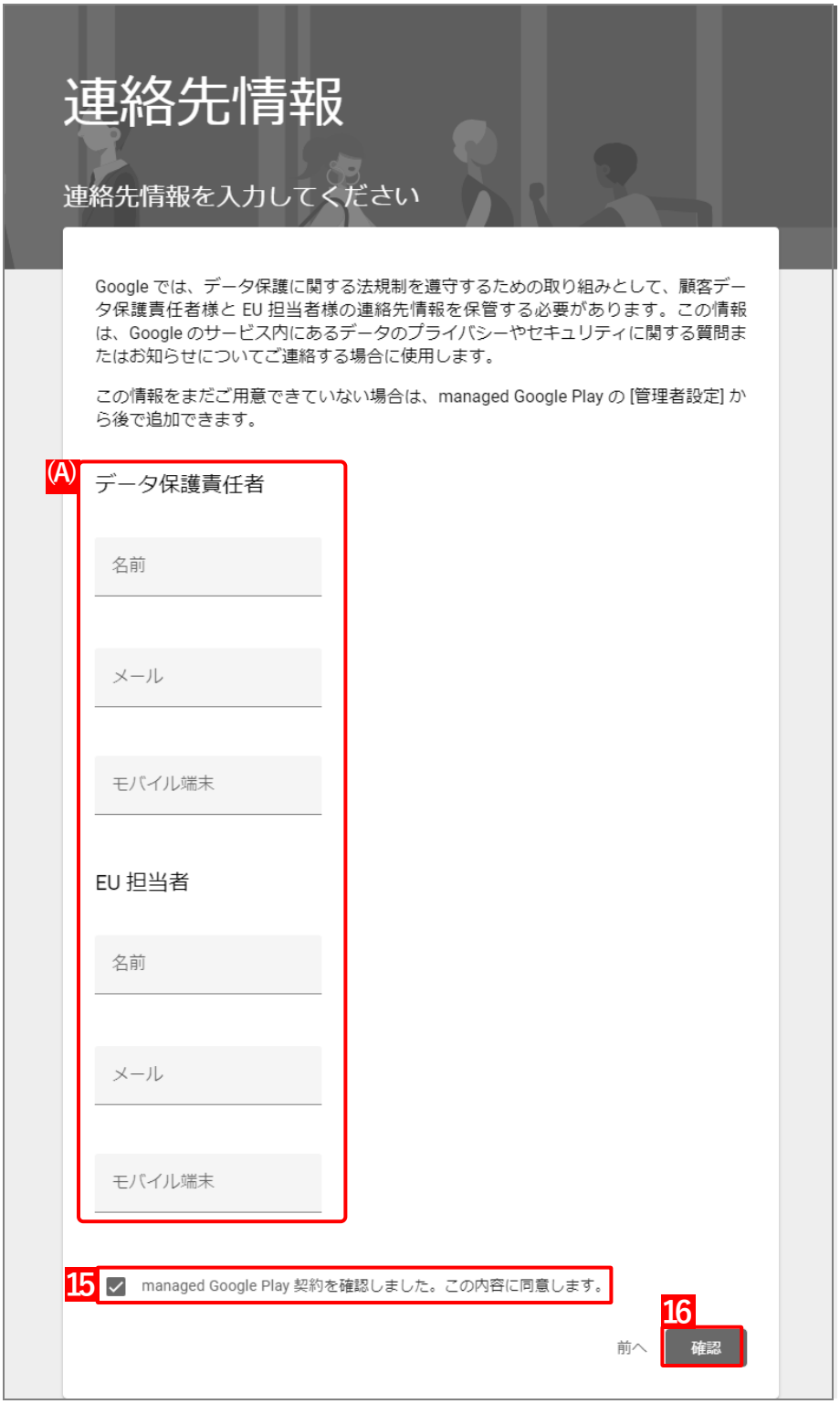


【15】規約を確認し、同意にチェックを入れます。

【16】［確認］をクリックします。

（A）データの保護責任者および EU 担当者は、任意入力です。必要に応じて入力します。
データの保護責任者、EU 担当者についての詳細は、以下を参照してください。

https://support.google.com/googleplay/work/answer/7681629



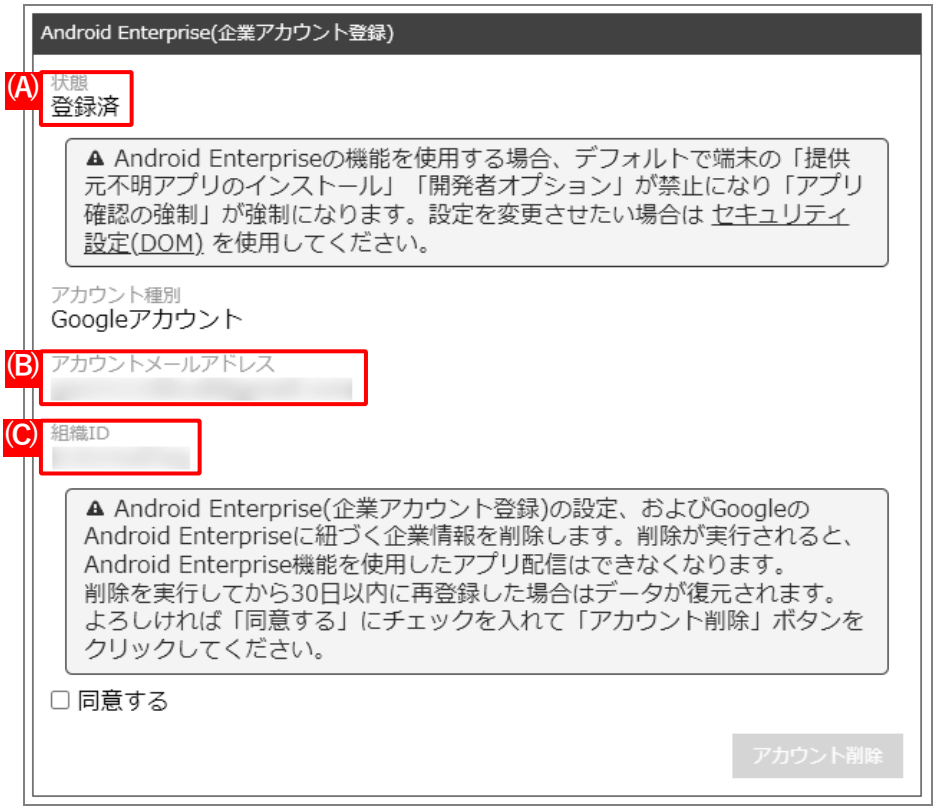
【17】［登録を完了］をクリックします。

⇒アカウント登録済みの管理サイトの画面が表示されます。

（A）「状態」は「登録済」と表示されています。

（B）「アカウントメールアドレス」に Google Play ストアで登録したメールアドレスが表示されています。

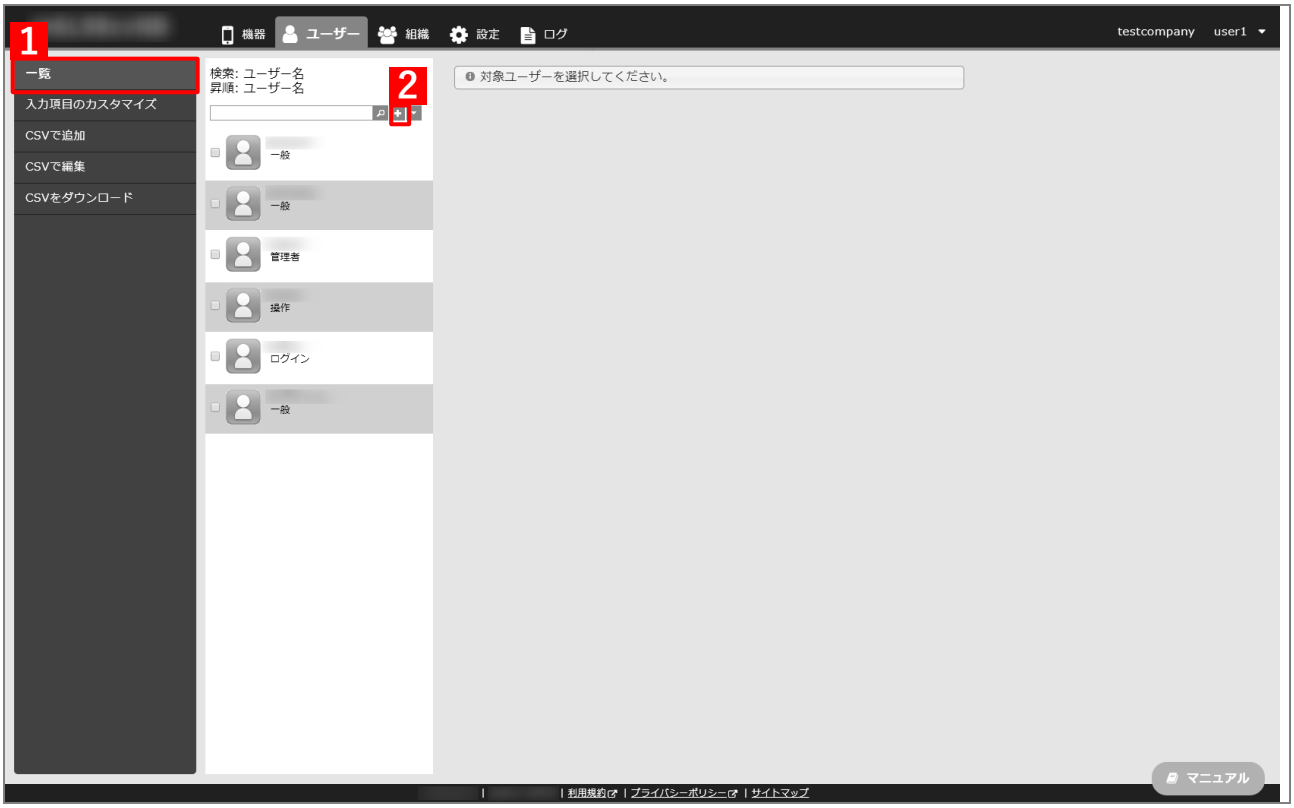
（C）「組織 ID」に managed Google Play ストアでの組織の一意の識別子が表示されています。



4.2 ユーザーを作成する

以下の手順で、ユーザーを作成します。

【1】［ユーザー］→［一覧］をクリックします。
【2】 をクリックします。



【3】「名前」に任意の名前を入力します。

その他の入力および設定項目の詳細については、以下を参照してください。

『管理サイト リファレンスマニュアル』の「ユーザー」－「一覧」－「ユーザーの作成」

【4】［保存］をクリックします。

⇒ユーザーが作成されます。

4.3 afw 識別子でキッティングする

以下の手順で、afw 識別子による端末のキッティングを行います。

管理サイトの「アプリケーション禁止」で「禁止するアプリケーション」、および「アプリケーション非表示」に「Google Play 開発者サービス（com.google.android.gms）」を設定していると、正常にキッティングが完了できない場合があります。以下を参照して、事前に設定を解除してから、キッティングを行ってください。

『管理サイト リファレンスマニュアル』の「設定－Android」－「アプリケーション」－「アプリケーション禁止」

『管理サイト リファレンスマニュアル』の「設定－Android」－「Device Owner Mode」－「アプリケーション非表示」

手順【10】の画面は、機種や OS によって表示されるタイミングが異なる場合があります。

【1】［始める］をタップします。

【2】［スキップ］をタップします。

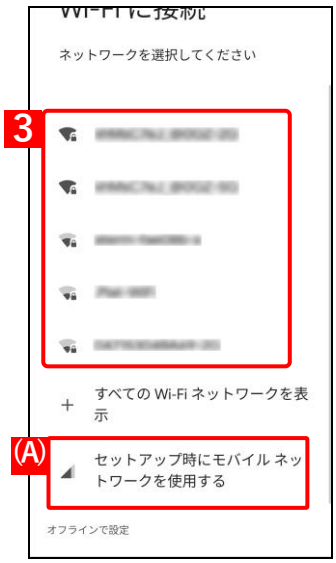
SIM が挿入されている場合は、表示されません。

【3】接続したい Wi-Fi の SSID をタップして、Wi-Fi に接続してください。

⇒ネットワーク接続が開始されます。

必ずネットワークに接続して、以降の手順を進めてください。

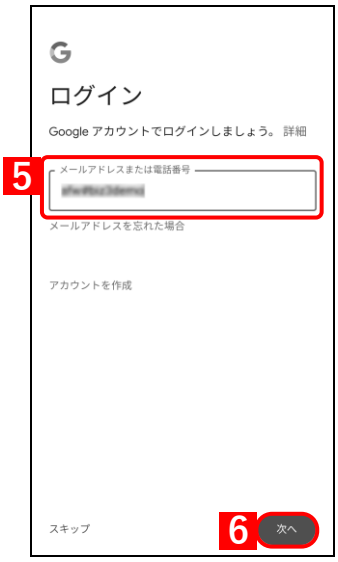
モバイルネットワークを利用する場合は、(A)［セットアップ時に［モバイルネットワークを使用する］をタップします。表示されるポップアップのメッセージを確認してください。



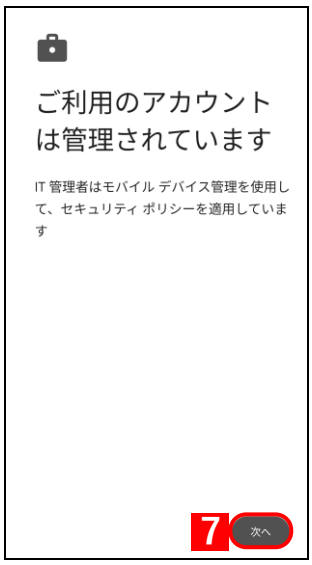
【4】［コピーしない］をタップします。

【5】「メールアドレスまたは電話番号」に「afw#ksmsm」と入力します。

【6】［次へ］をタップします。

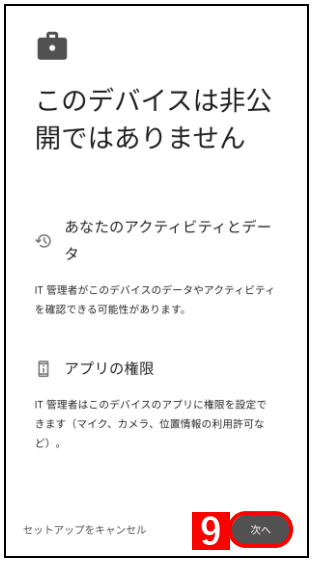


【7】［次へ］をタップします。



【8】［同意して続行］をタップします。

【9】［次へ］をタップします。

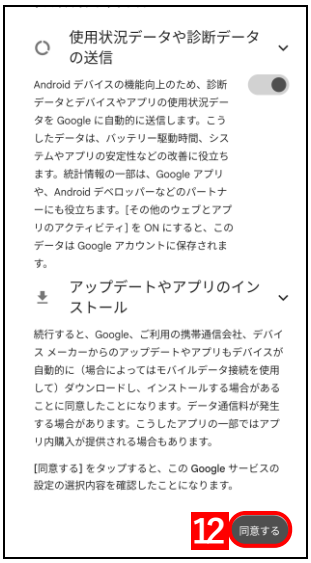


【10】［OK］をタップします。

【11】［もっと見る］をタップします。

端末によっては［もっと見る］が数回表示されます。［同意する］が表示されるまで、タップします。

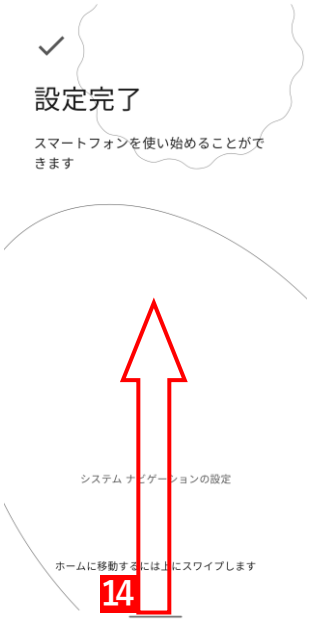
【12】［同意する］をタップします。



【13】［スキップ］をタップします。

【14】画面下部からスワイプします。

⇒ホーム画面に移動します。



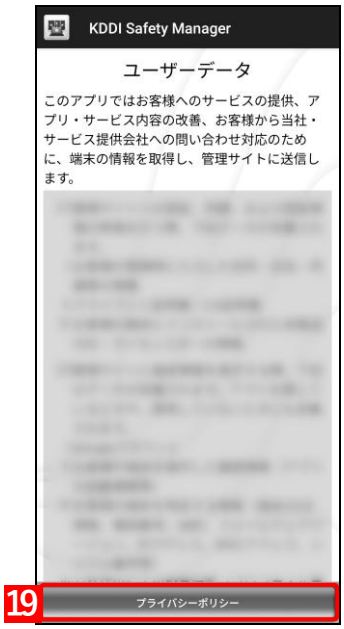
【15】［KDDI Safety Manager］をタップします。

ホーム画面にアイコンが表示されない場合は、アプリ一覧を確認してください。

【16】［ライセンス認証］をタップします。

【17】「利用規約に同意する」にチェックを入れます。
【18】［OK］をタップします。

【19】ユーザーデータについて確認して、［プライバシーポリシー］をタップします。



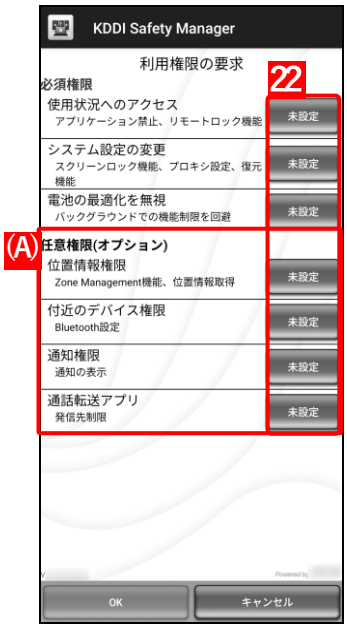
【20】「プライバシーポリシーに同意する」にチェックを入れます。
【21】［OK］をタップします。
⇒権限要求画面が表示されます。

【22】画面の案内に従って設定を行ってください。

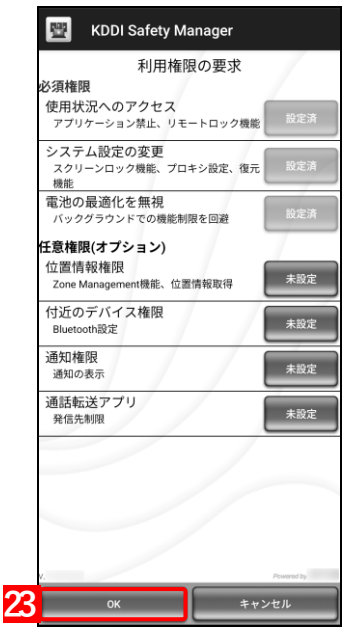
Android 12 以上でエージェントバージョン 9.14.0 以上の場合、（A）任意権限に「付近のデバイス権限」が表示されます。

Android 13 以上でエージェントバージョン 9.16.0 以上の場合、（A）任意権限に「通知権限」が表示されます。「ストレージ権限」は表示されません。

Android 10 以上でエージェントバージョン 9.22.0 以上の場合、（A）任意権限に「通話転送アプリ」が表示されます。



【23】［OK］をタップします。



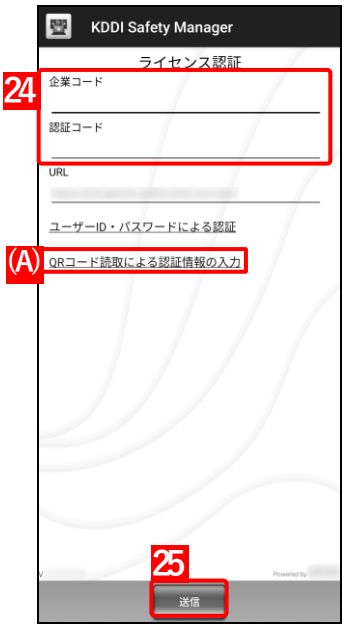
【24】「企業コード」および「認証コード」を入力します。

企業コード、認証コードは管理者にお問い合わせください。

（A）［QR コード読取による認証情報の入力］をタップして、エージェント認証用 QR コードを読み取ると、「企業コード」、「認証コード」、「URL」が自動で入力されます。QR コードは、管理者にお問い合わせください。

【25】［送信］をタップします。

⇒ライセンス認証完了の画面が表示されます。

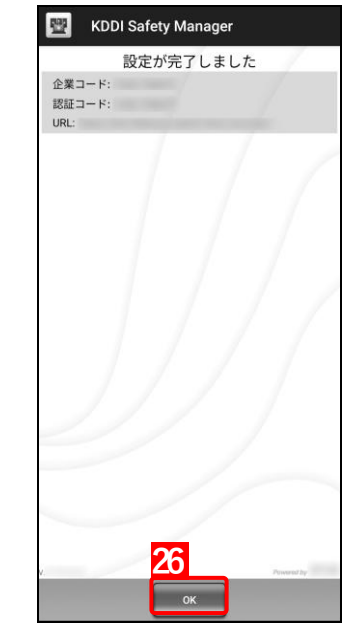


【26】［OK］をタップします。

⇒初期登録画面が表示されます。

手順【27】～【31】の初期登録画面は、管理サイトでポータル表示を「表示」に設定している場合のみ表示されます。

『管理サイト リファレンスマニュアル』の「サービス環境設定」－「ポータル表示」



【27】社員番号、姓、名を入力します。

【28】［次へ］をタップします。

⇒機器にユーザーが紐づきます。

登録したユーザーを変更することはできません。

すでにユーザーが端末に紐づけられている場合は、ユーザーが紐づけられているメッセージが表示されます。

ユーザー情報の登録が不要の場合は、(A)［閉じる］をタップするか、端末の戻るボタンで画面を閉じてください。

【29】必要事項を選択、入力します。

【30】［次へ］をタップします。

あらかじめ、管理サイトの［入力項目のカスタマイズ］で入力項目を追加してください。追加するとき、「機器から入力可」にチェックを入れてください。チェックが入っていない場合は、項目が表示されません。

『管理サイト リファレンスマニュアル』の「機器」―「入力項目のカスタマイズ」

管理サイトの［入力項目のカスタマイズ］で設定した内容により、画面に表示される「分類」と「自由入力項目」の内容が異なります。

機器情報の登録が不要の場合は、(A)［閉じる］をタップするか、端末の戻るボタンで画面を閉じてください。

【31】［OK］をタップします。

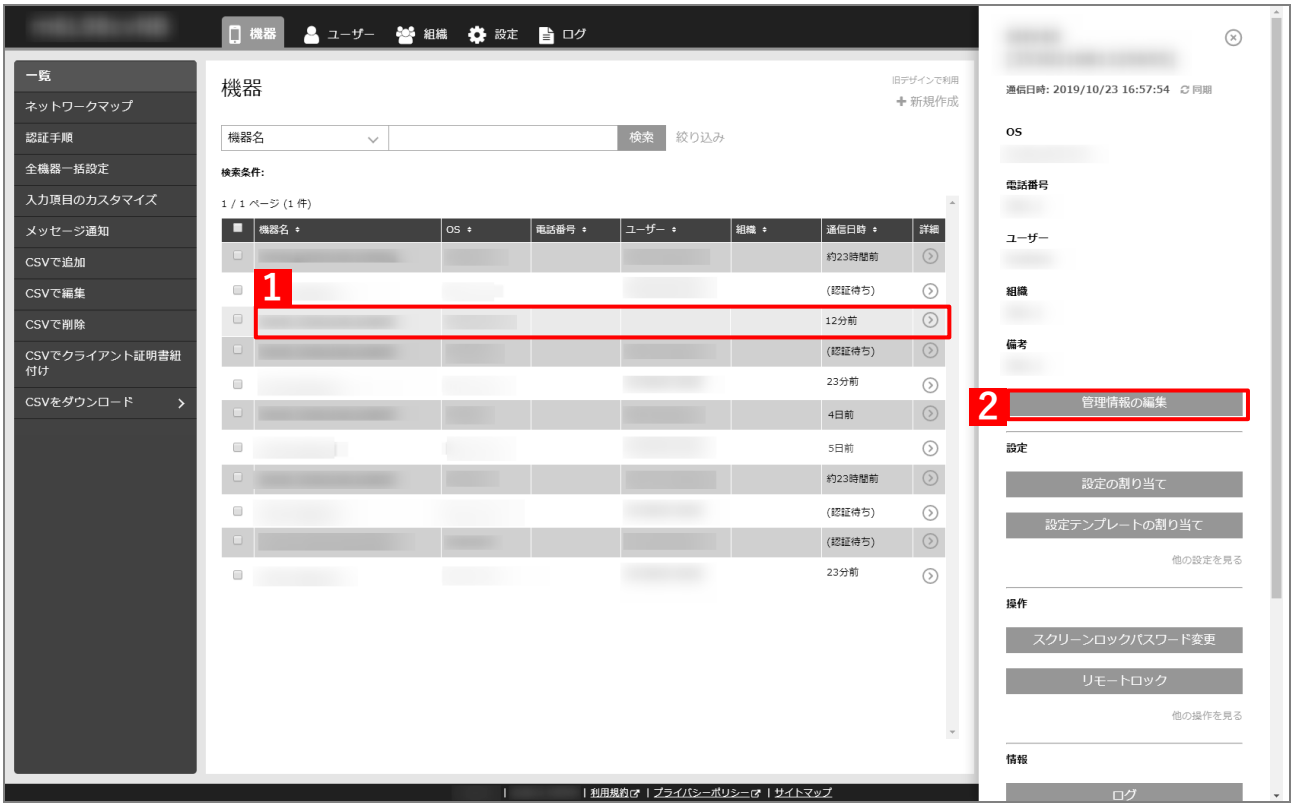
⇒キッティングおよびライセンス認証が完了しました。
以下に進んでください。

「端末にユーザーを割り当てる」88 ページ

4.4 端末にユーザーを割り当てる

以下の手順で、「ユーザーを作成する」で作成したユーザーを対象端末に割り当てます。

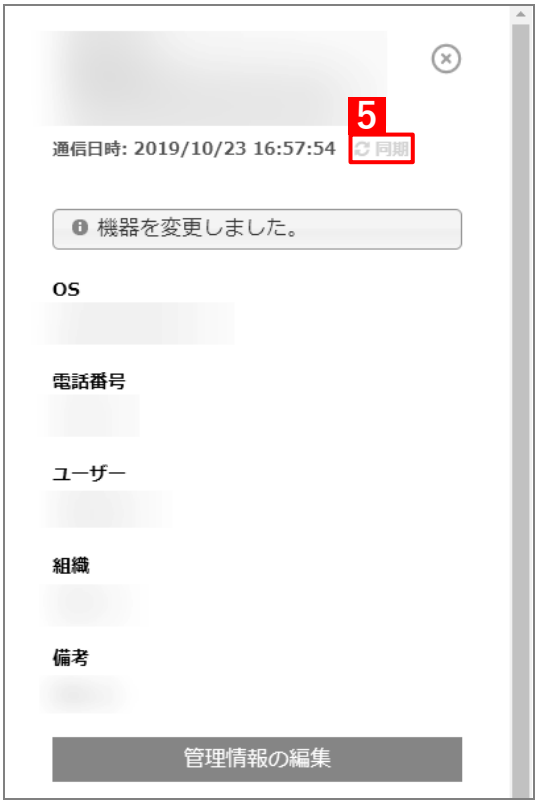
【1】［機器］→［一覧］→ 一覧から対象端末をクリックします。
【2】［管理情報の編集］をクリックします。



【3】「所属」の「ユーザー」を選択し、プルダウンメニューから「ユーザーを作成する」で選択したユーザーを指定します。

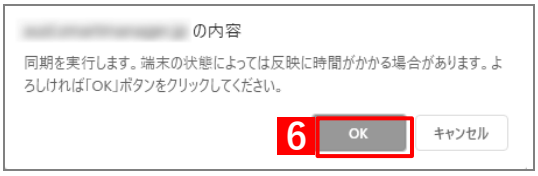
【4】［保存］をクリックします。

【5】［同期］をクリックします。



【6】［OK］をクリックします。

⇒端末にユーザーが割り当てられます。



4.5 Google Workspace アカウントを併用する

Google アカウントで Android Enterprise 連携を行い、端末にキッティング、ライセンス認証が完了したら、併用する Google Workspace アカウントを端末に追加します。

4.5.1 Google Workspace アカウントを設定する

Google 管理コンソールで、Google Workspace アカウントを以下の設定にします。

●端末管理機能の無効化

端末管理機能を有効にしていると、Google Workspace アカウントが使用できなくなったり、端末の初期化が必要になったりします。

●Google Play ストアの利用制限

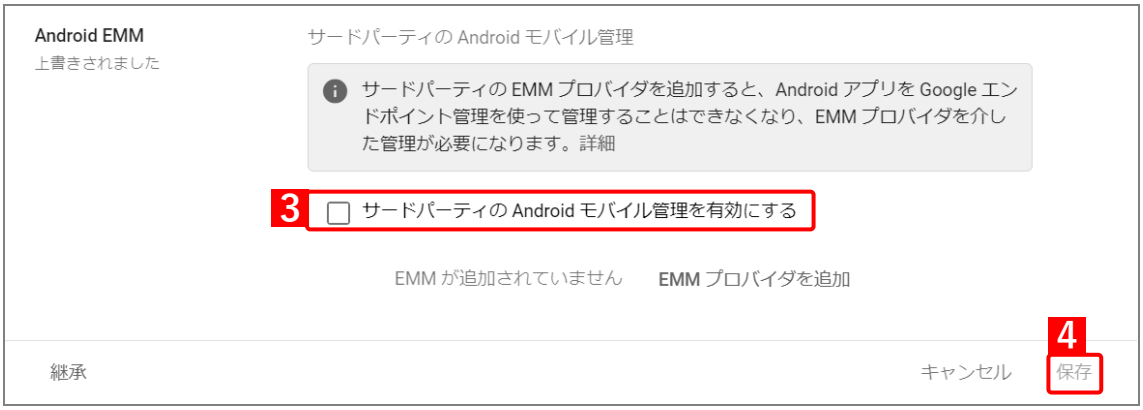
Google Play ストアの利用を制限していないと、業務に不要な Google Play ストア上のアプリをインストールできてしまいます。

【1】Google 管理コンソール（https://admin.google.com）を表示します。

【2】［デバイス］→［モバイルとエンドポイント］→［設定］→［サードパーティとの連携］をクリックします。

【3】「Android EMM」の「サードパーティの Android モバイル管理を有効にする」のチェックを外します。

【4】［保存］をクリックします。



【5】［モバイルとエンドポイント］→［設定］→［ユニバーサル］をクリックします。

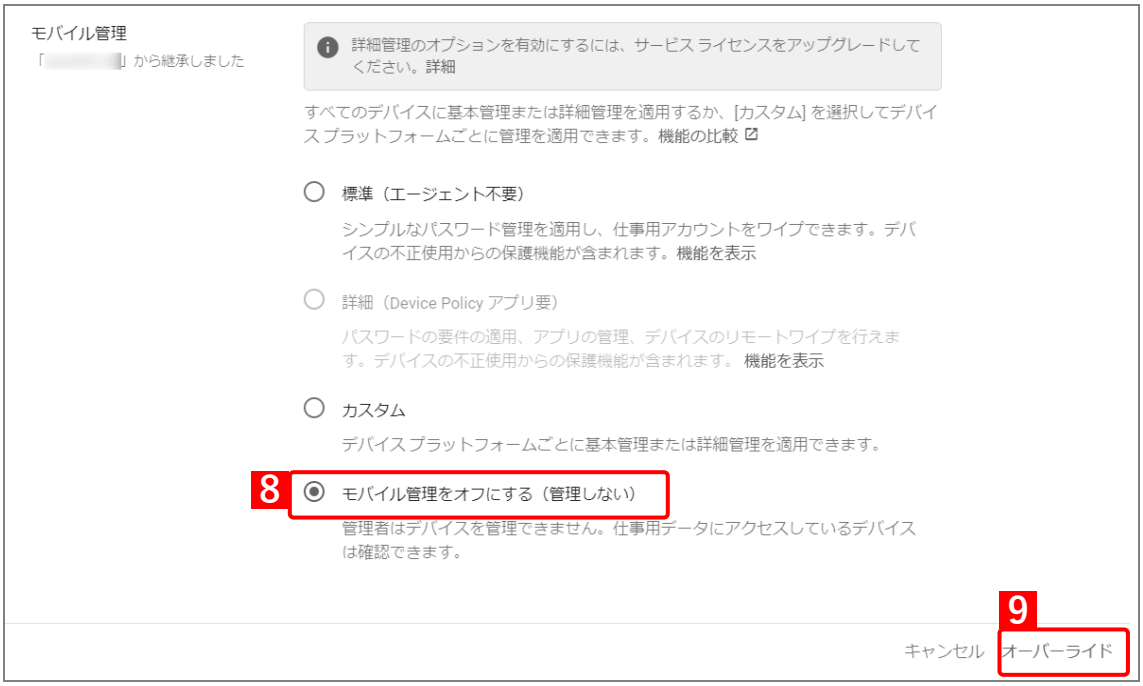
管理コンソールを表示するには、画面左上の［Google Admin］をクリックします。

【6】［全般］をクリックします。

【7】［モバイル管理］をクリックします。

【8】「モバイル管理をオフにする（管理しない）」を選択します。

【9】［オーバーライド］をクリックします。



【10】［アプリ］→［その他の Google サービス］をクリックします。

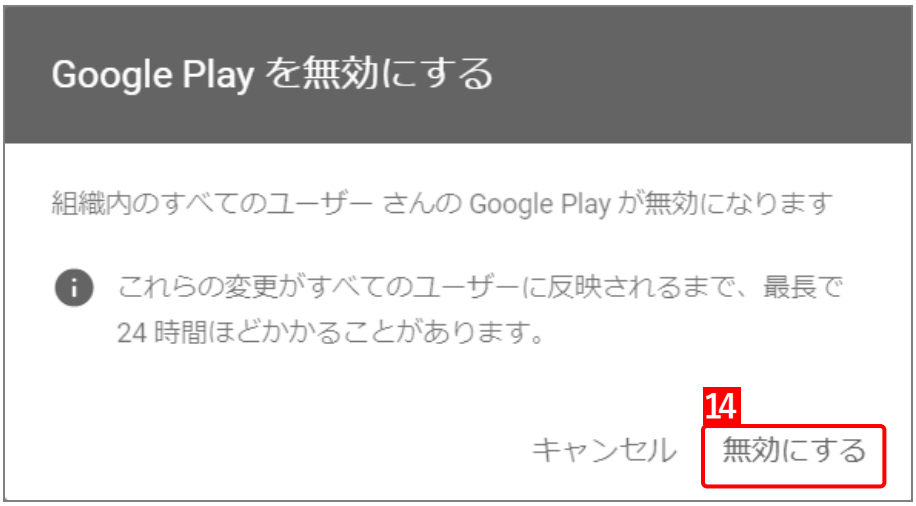
管理コンソールを表示するには、画面左上の［Google Admin］をクリックします。

【11】対象の組織を選択します。

【12】「Google Play」をクリックします。

【13】［すべてのユーザーに対してオフにする］をクリックします。

【14】［無効にする］をクリックします。

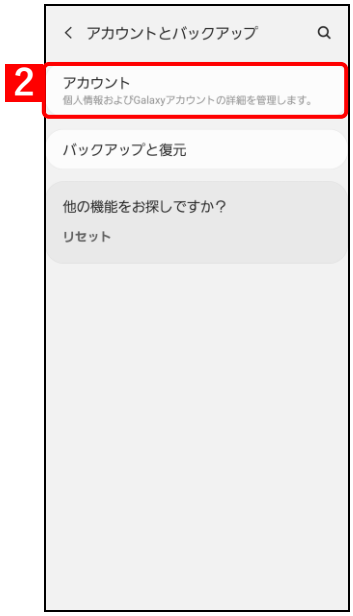


4.5.2 Google Workspace アカウントを追加する

端末の設定画面で、Google Workspace アカウントを追加します。

【1】端末の設定画面を表示して、［アカウントとバックアップ］をタップします。

【2】［アカウント］をタップします。



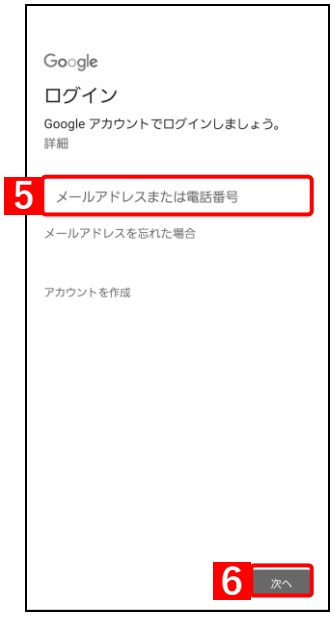
【3】［アカウント追加］をタップします。

（A）Google アカウントが表示されています。

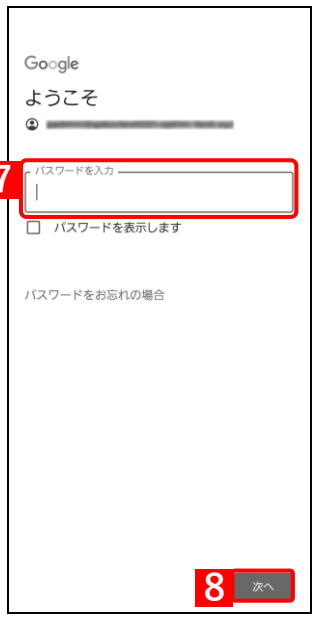
【4】［Google］をタップします。

【5】「メールアドレスまたは電話番号」に Google Workspace アカウントを入力します。

【6】［次へ］をタップします。

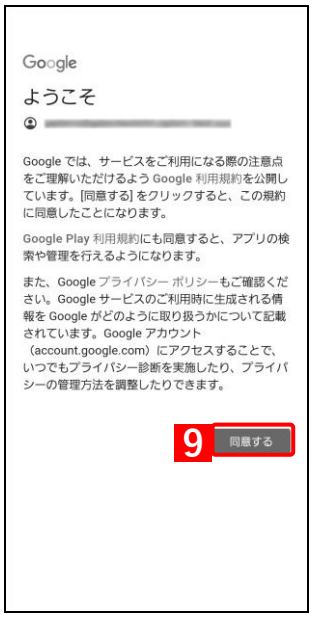


【7】「パスワード」を入力します。
【8】［次へ］をタップします。



【9】［同意する］をタップします。

⇒（A）Google Workspace アカウントが追加されました。



4.5.3 アカウントの追加を禁止する

Google Workspace アカウントを端末に追加したあと、私的利用のアカウントなどが追加できないように、管理サイトでアカウント追加を禁止する設定を行います。

【1】［設定］→［Android］→［Device Owner Mode］→［セキュリティ設定］をクリックします。

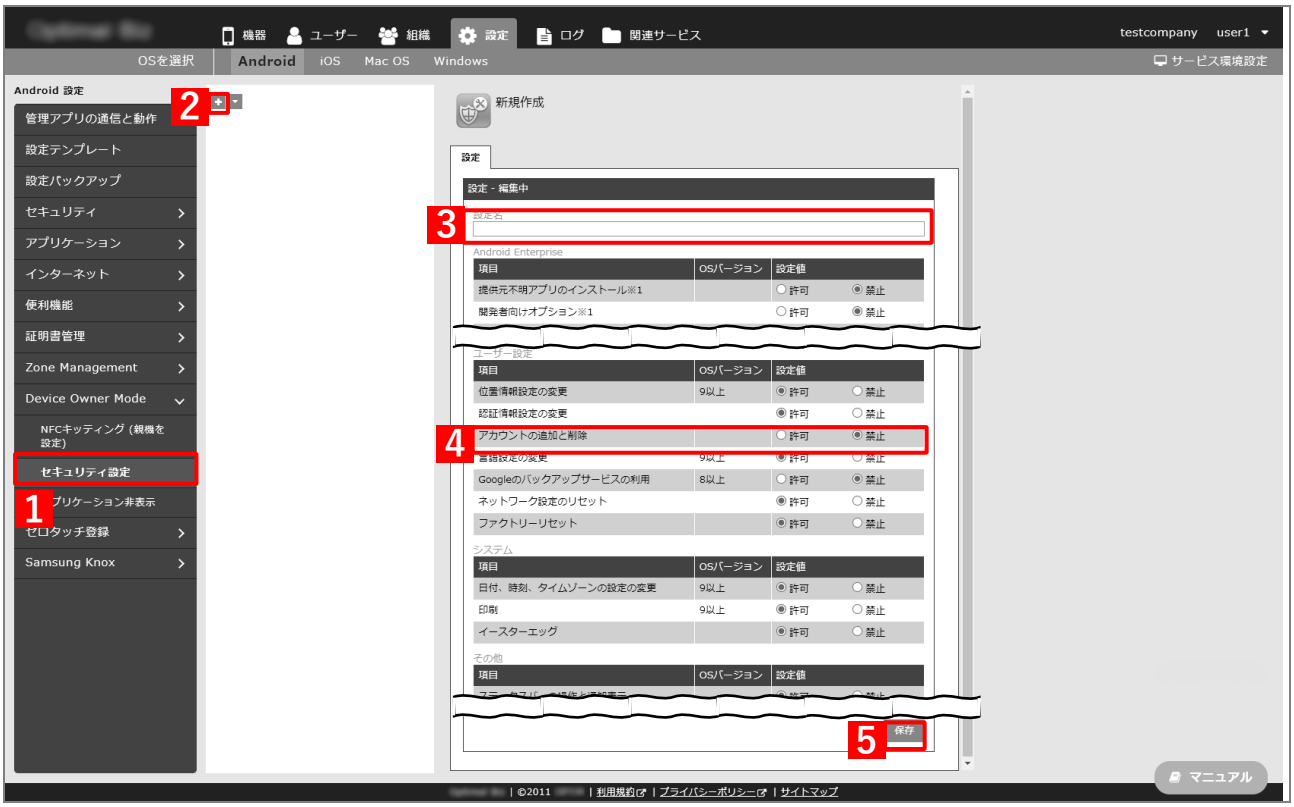
【2】 をクリックし、作成画面を表示します。

設定セットは最大 50 件まで作成できます。

【3】設定名を入力します。

【4】「アカウントの追加と削除」の［禁止］を選択します。

【5】［保存］をクリックします。



【6】作成した設定セットを親機とする端末に［機器］→［一覧］→対象の機器を選択→ →「設定」の［設定の割り当て］→［セキュリティ設定(DOM)］から適用します。
適用の詳細については、以下を参照してください。

『管理サイト リファレンスマニュアル』の「機器」－「一覧」－「機器の設定」－「(設定－Android）設定の割り当て」

5 Google Workspace アカウントで Android Enterprise 連携を行う

Android Enterprise を利用するには、端末をキッティングする前に Google Workspace アカウントで本製品と Google 間の連携設定を行います。Google Workspace アカウントを連携設定として登録する場合は、Google 管理コンソール上での設定を行い、トークンを発行してください。

注意

- Android Enterprise の連携設定を行っていない Google Workspace アカウントが必要です。
- Google との連携設定で Google Workspace アカウントを登録している場合は、強制（サイレント）インストールが実行できない場合があります。その場合は、managed Google Play ストアの利用規約の同意が必要です。以下の URL から Google Workspace の特権管理者で Google にログインして、承諾してください。

  https://play.google.com/work/termsofservice

  強制インストールの詳細については、以下のマニュアルを参照してください。

  『Android Enterprise アプリケーション配信 手順書』の「アプリをインストールする」－「アプリを強制インストールする」

- 以下の項目は、初回のキッティング時のみ必要な操作です。

「トークンを発行する」100 ページ

「Google Workspace アカウントを登録する」106 ページ

参考

- あらかじめ管理サイトで Android Enterprise の「アプリケーション配信」機能を設定しておくと、キッティングの完了後、ライセンス認証と同時に特定のアプリを端末に配信できます。アプリケーション配信の詳細については、以下を参照してください。

  『Android Enterprise アプリケーション配信 手順書』の「アプリをインストールする」

5.1 トークンを発行する

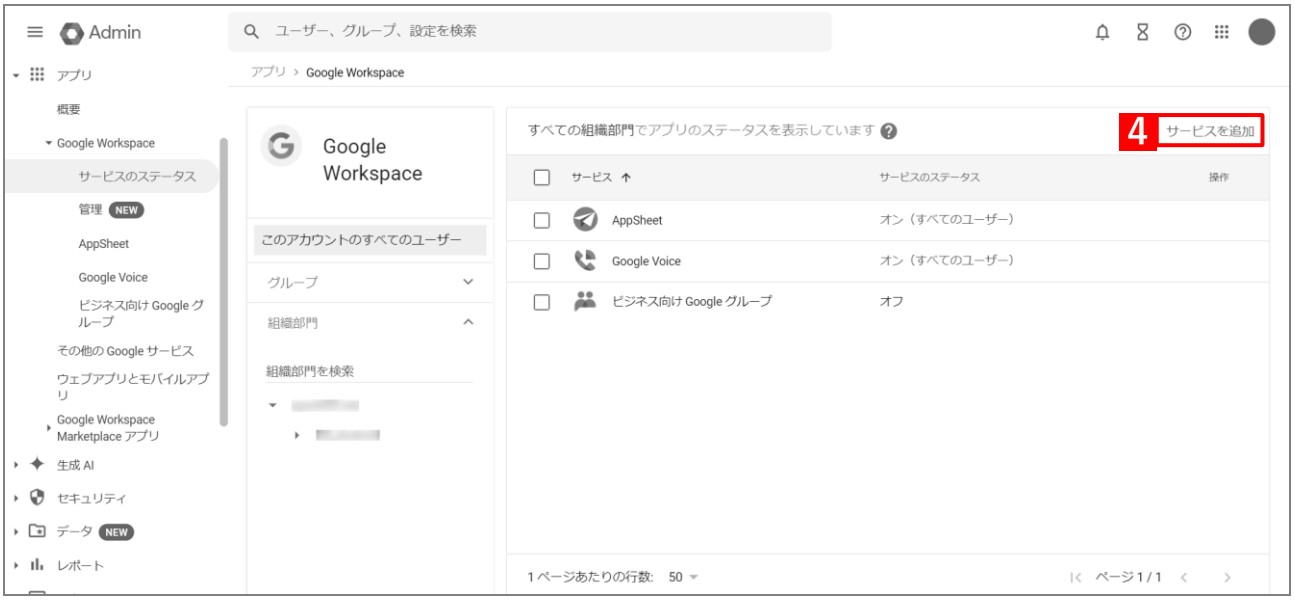
以下の手順で、Google Workspace アカウントを利用して本製品と Google 間の連携設定を行います。

【1】Google 管理コンソール（https://admin.google.com）を表示します。

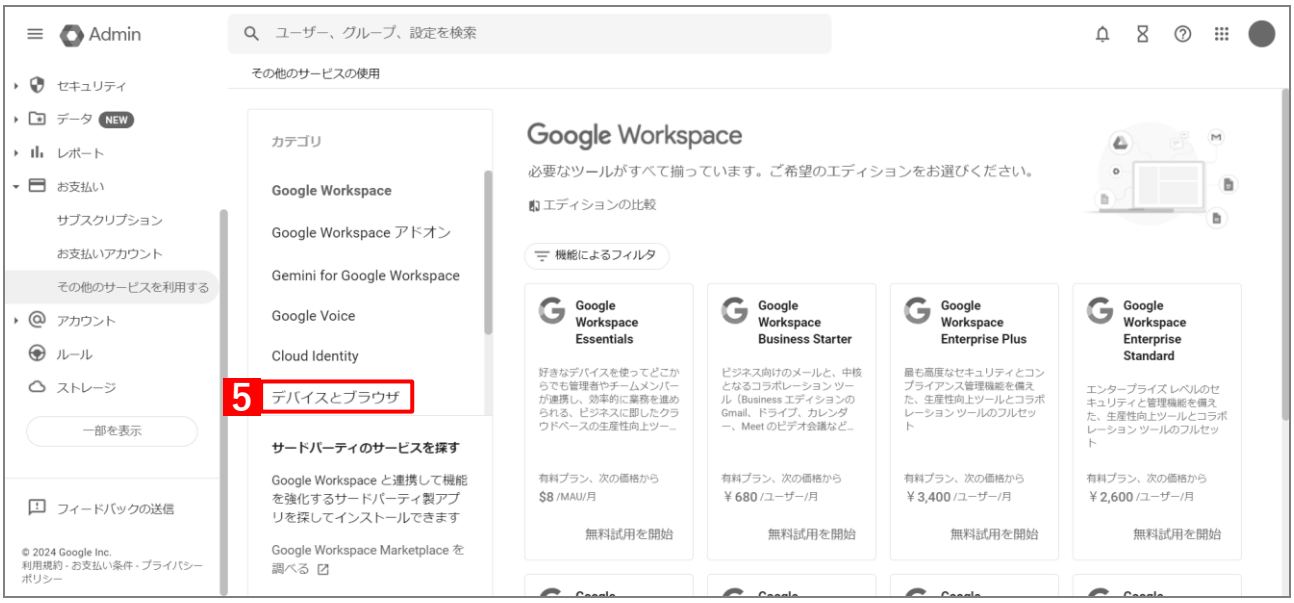
【2】［アプリ］をクリックします。

【3】［Google Workspace］をクリックします。

【4】［サービスを追加］をクリックします。



【5】［デバイスとブラウザ］をクリックします。



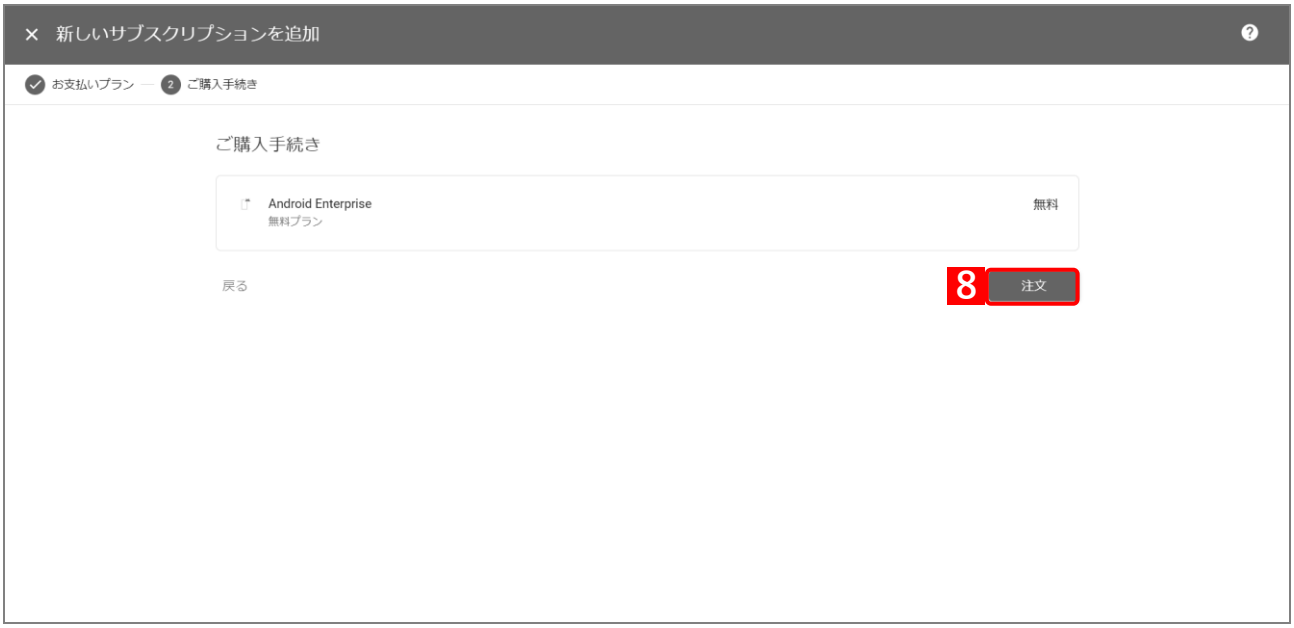
【6】「Android Enterprise」の［開始］をクリックします。

本操作により、料金が発生することはありません。

【7】［ご購入手続き］をクリックします。

【8】［注文］をクリックします。

⇒管理コンソールが表示されます。

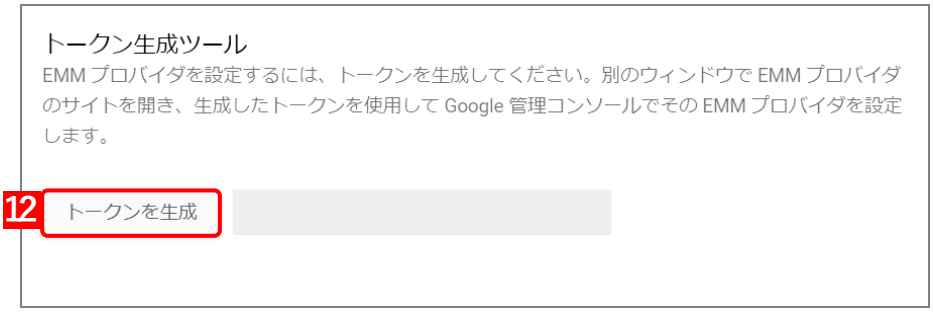


【9】［×］をクリックします。

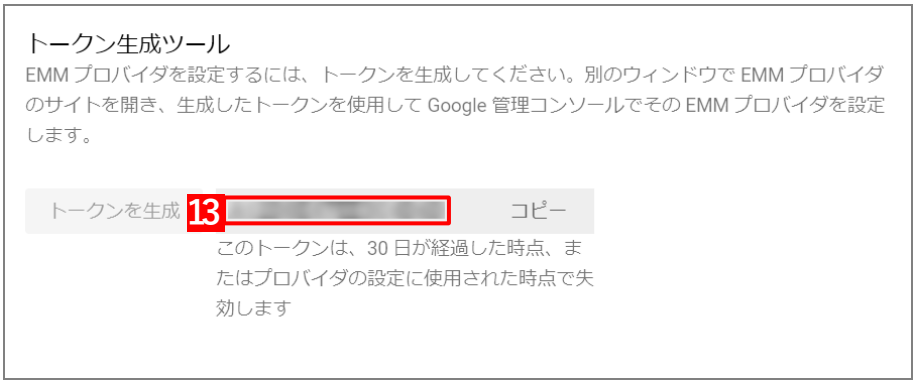
【10】［デバイス］→［モバイルとエンドポイント］→［設定］→［サードパーティとの連携］をクリックします。

【11】［Android EMM］の［EMM プロバイダを追加］をクリックします。

【12】［トークンを生成］をクリックします。



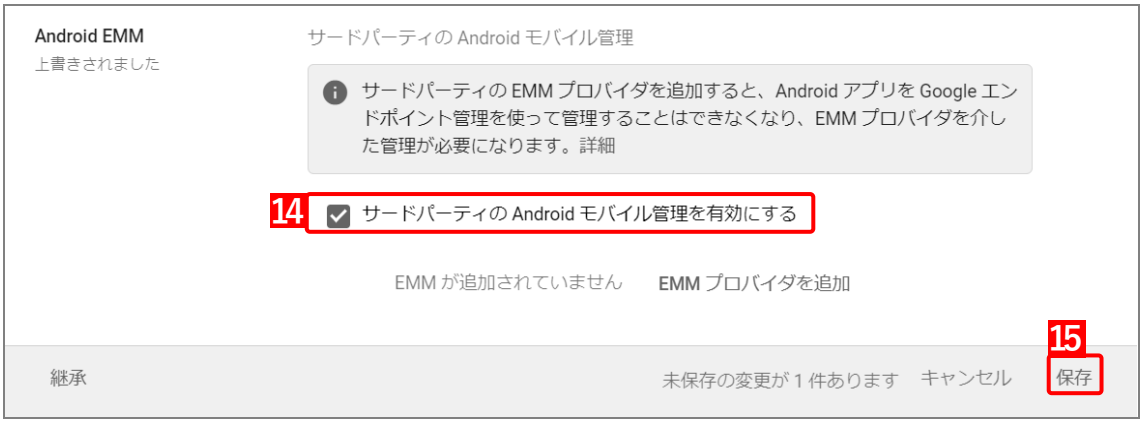
【13】トークンが表示されます。アカウント登録に必要となりますのでメモしてください。



【14】「Android EMM」の「サードパーティの Android モバイル管理を有効にする」にチェックを入れます。

【15】［保存］をクリックします。

［保存］をクリックすると、メッセージ画面が表示される場合があります。［×］でメッセージ画面を閉じてください。



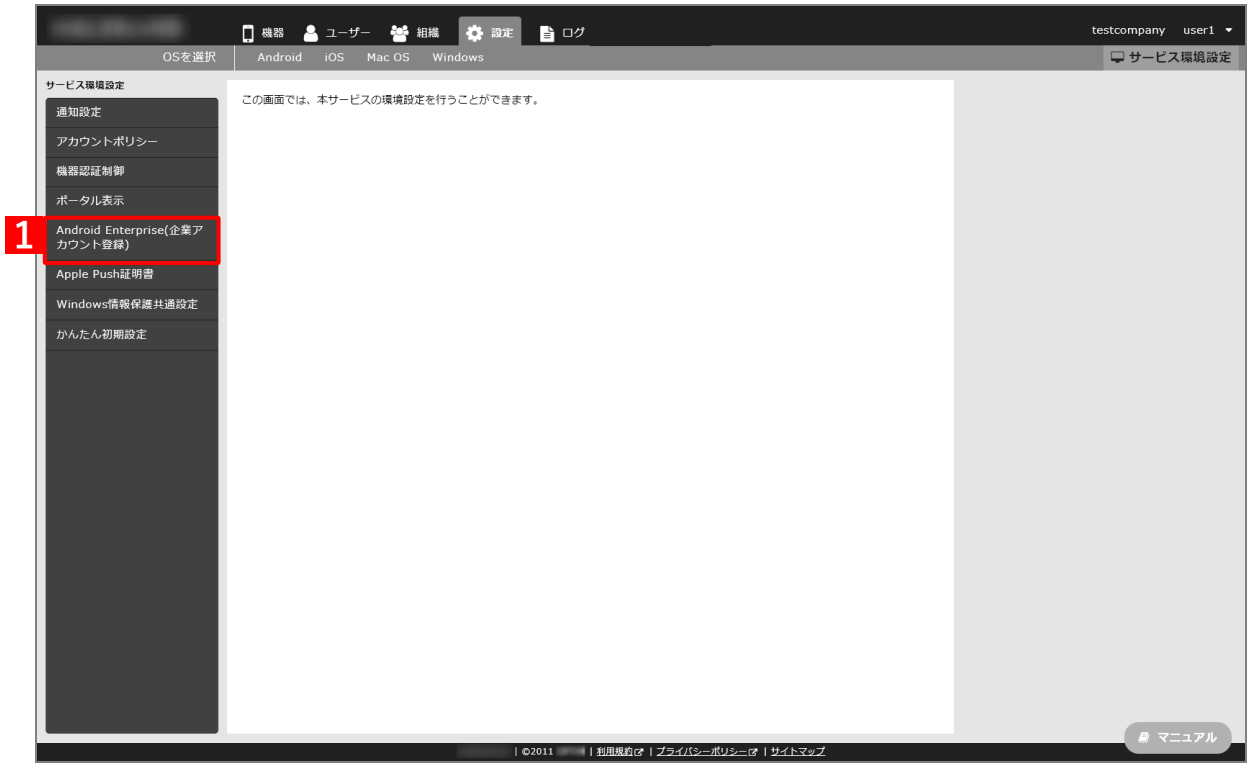
5.2 Google Workspace アカウントを登録する

以下の手順で、管理サイトに Google Workspace アカウントを登録します。

Google Workspace アカウントを登録後は、Google 側の設定変更は行わないでください。

Google Workspace 標準の「モバイル管理機能」を使っていた場合はモバイル管理機能の「端末」情報を削除してください。

【1】［設定］→［サービス環境設定］→［Android Enterprise（企業アカウント登録）］をクリックします。



【2】「Google Workspace アカウント」を選択します。

「アカウント種別」の初期値は「Google Workspace アカウント」が選択されています。

（A）「状態」は「未登録」と表示されています。

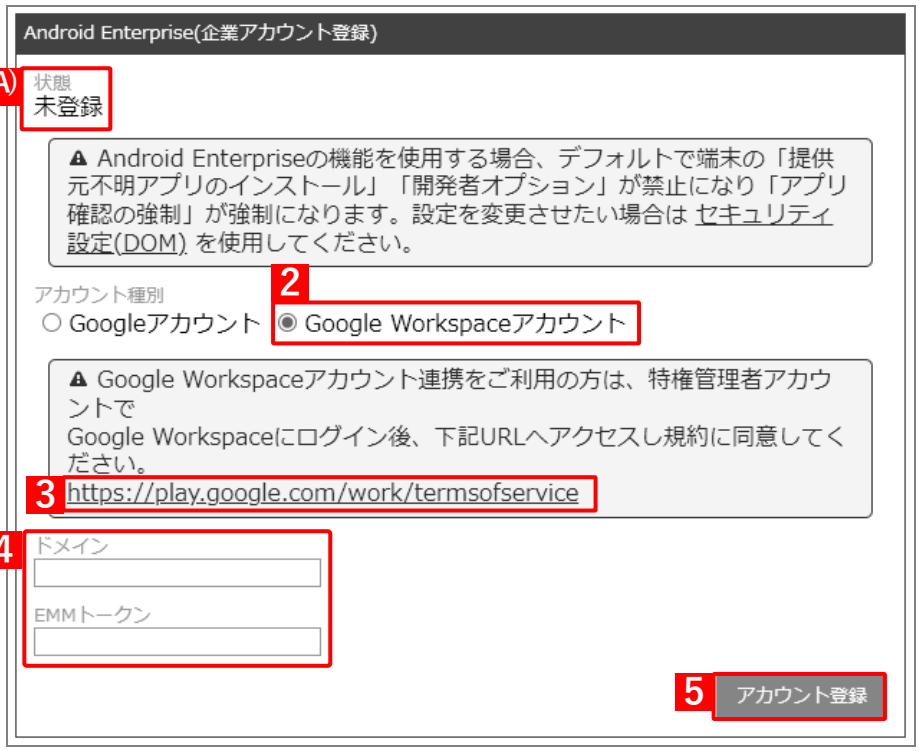
【3】https://play.google.com/work/termsofservice にアクセスして、利用規約に同意します。

【4】「ドメイン」、「EMM トークン」を入力します。

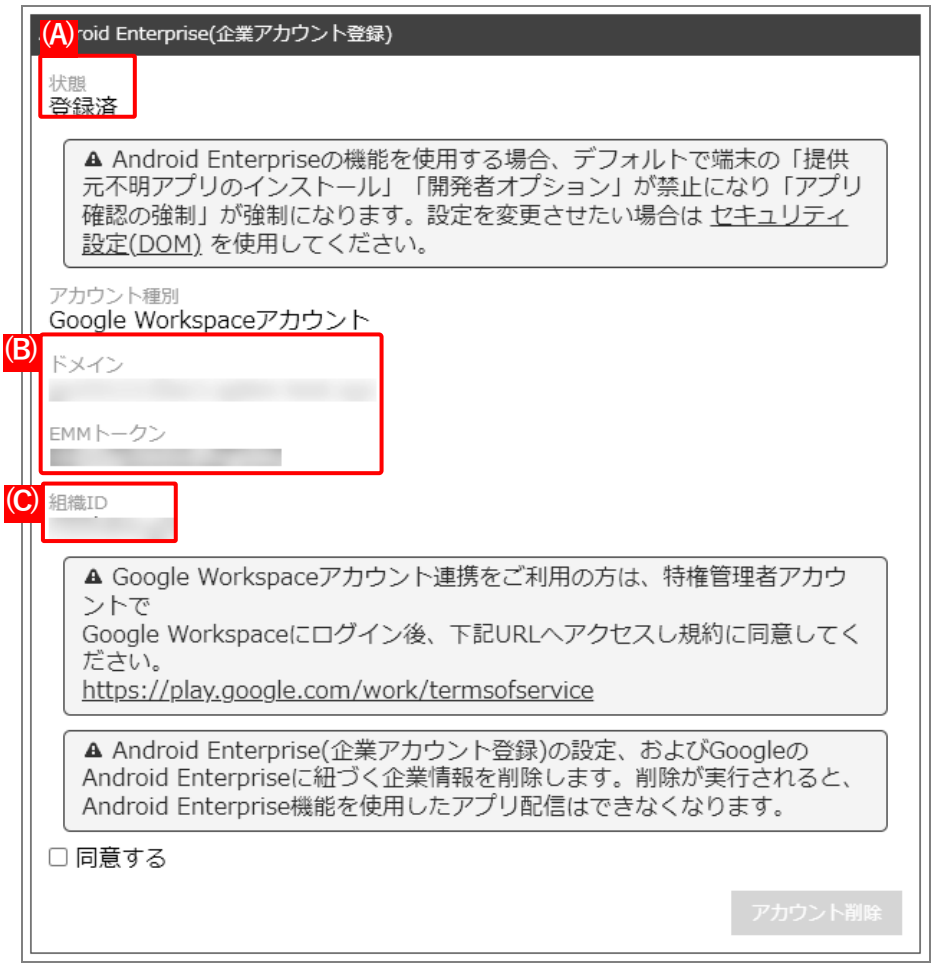
「ドメイン」には、契約している Google Workspace アカウントのドメインを入力してください。Google Workspace アカウントが「XXXXX@xxxxx.co.jp」の場合は、ドメインは「xxxxx.co.jp」になります。

【5】［アカウント登録］をクリックします。

⇒アカウント登録済みの画面が表示されます。



（A）「状態」は「登録済」と表示されています。
（B）手順【4】で入力した「ドメイン」、「EMM トークン」が表示されています。
（C）「組織 ID」に managed Google Play ストアでの組織の一意の識別子が表示されています。



【6】Google 管理コンソール（https://admin.google.com）を表示します。

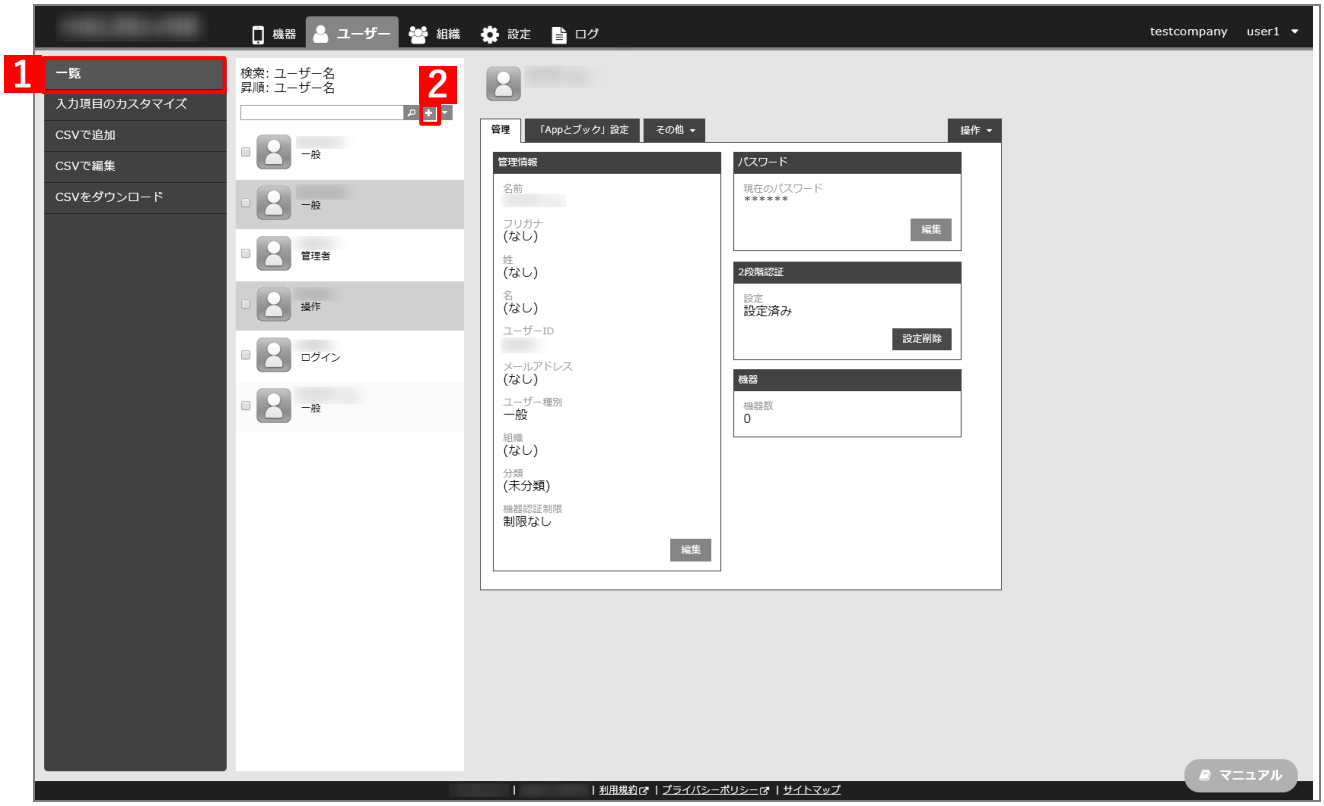
【7】［デバイス］→［モバイルとエンドポイント］→［設定］→［サードパーティとの連携］をクリックします。

【8】「Android EMM」の「EMM プロバイダ」を選択します。
【9】［保存］をクリックします。

5.3 ユーザーを作成する

以下の手順で、ユーザーを作成します。

【1】［ユーザー］→［一覧］をクリックします。
【2】 をクリックします。



【3】「名前」に任意の名前を入力します。

【4】「メールアドレス」に Google Workspace アカウントを入力します。

Google Workspace アカウントが登録されていない場合は、キッティング時のライセンス認証に失敗します。

その他の入力および設定項目の詳細については、以下を参照してください。

『管理サイト リファレンスマニュアル』の「ユーザー」－「一覧」－「ユーザーの作成」

【5】［保存］をクリックします。

⇒ユーザーが作成されます。

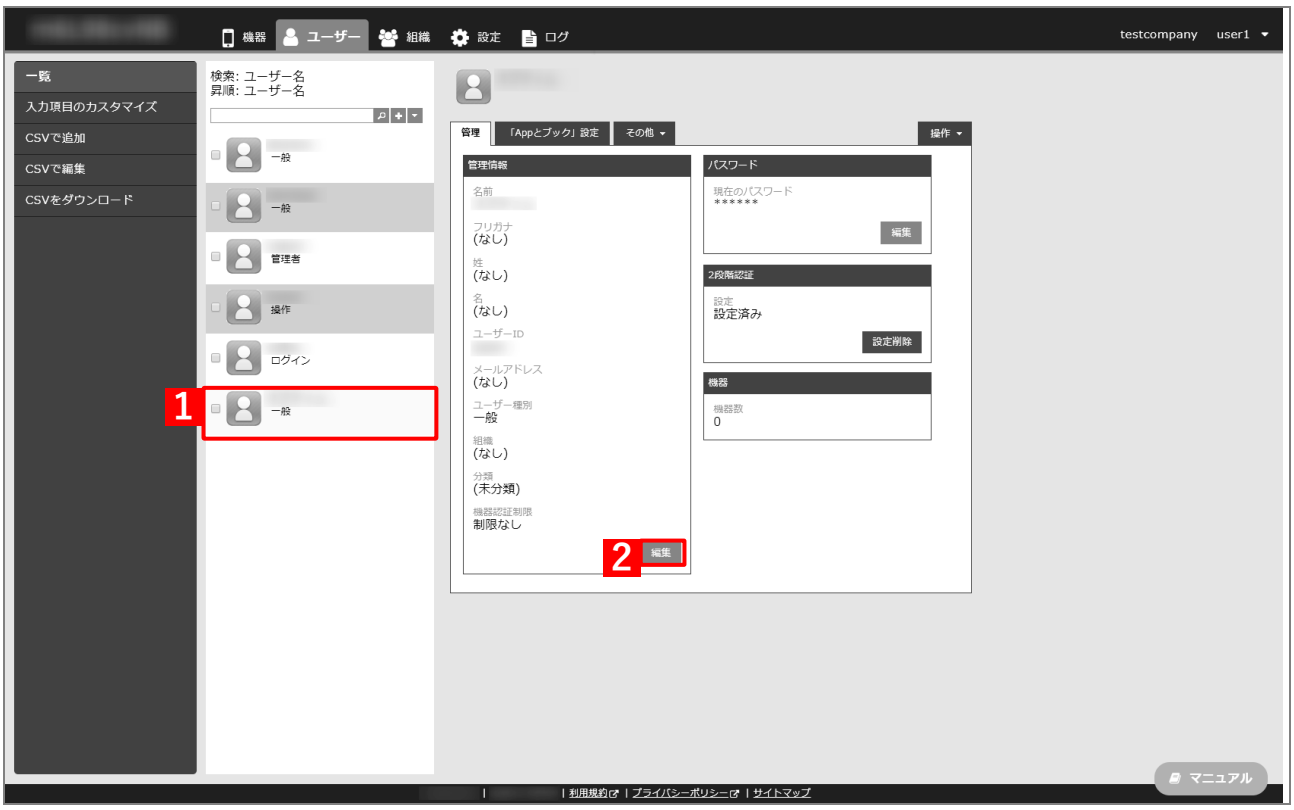
5.3.1 既存のユーザーに Google Workspace アカウントを登録する

既存のユーザーに対して Google Workspace アカウントを登録するには、以下の操作を行います。

Google Workspace アカウントが登録されていない場合は、キッティング時のライセンス認証に失敗します。

【1】［ユーザー］→［一覧］→一覧から対象ユーザーを選択します。

【2】［編集］をクリックします。



【3】「メールアドレス」に Google Workspace アカウントを入力します。

【4】［保存］をクリックします。

⇒ユーザーにメールアドレスが登録されます。

5.4 Google Workspace アカウントでキッティングする

以下の手順で、Google Workspace アカウントによる端末のキッティングを行います。

管理サイトの「アプリケーション禁止」で「禁止するアプリケーション」、および「アプリケーション非表示」に「Google Play 開発者サービス（com.google.android.gms）」を設定していると、正常にキッティングが完了できない場合があります。以下を参照して、事前に設定を解除してから、キッティングを行ってください。

『管理サイト リファレンスマニュアル』の「設定－Android」－「アプリケーション」－「アプリケーション禁止」

『管理サイト リファレンスマニュアル』の「設定－Android」－「Device Owner Mode」－「アプリケーション非表示」

手順【13】の画面は、機種や OS によって表示されるタイミングが異なる場合があります。

【1】［始める］をタップします。

【2】［スキップ］をタップします。

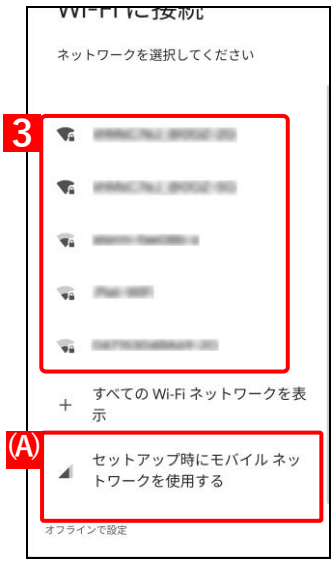
SIM が挿入されている場合は、表示されません。

【3】接続したい Wi-Fi の SSID をタップして、Wi-Fi に接続してください。

⇒ネットワーク接続が開始されます。

必ずネットワークに接続して、以降の手順を進めてください。

モバイルネットワークを利用する場合は、(A)［セットアップ時に［モバイルネットワークを使用する］をタップします。表示されるポップアップのメッセージを確認してください。



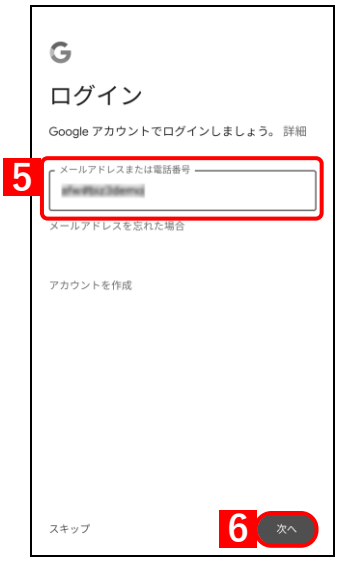
【4】［コピーしない］をタップします。

【5】「メールアドレスまたは電話番号」に Google Workspace アカウントを入力します。

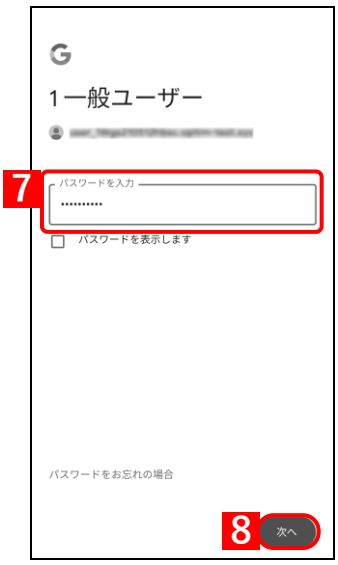
管理サイトのユーザーに Google Workspace アカウントが登録されていない場合は、ライセンス認証に失敗します。

☞「既存のユーザーに Google Workspace アカウントを登録する」112 ページ

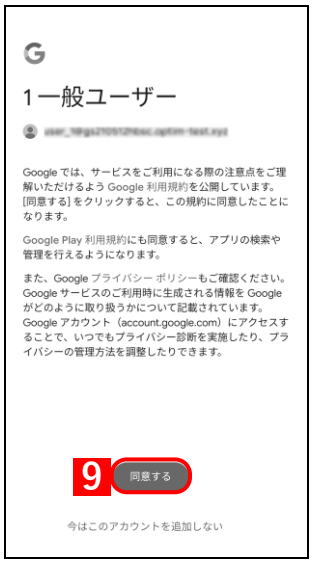
【6】［次へ］をタップします。



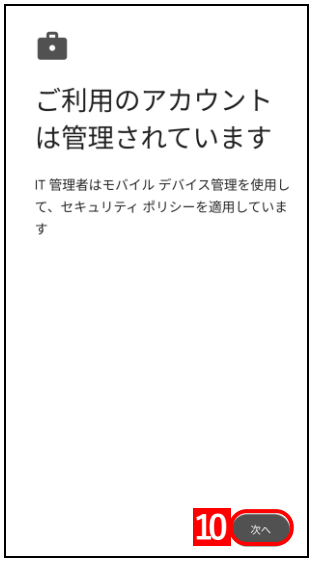
【7】「パスワード」を入力します。
【8】［次へ］をタップします。



【9】［同意する］をタップします。

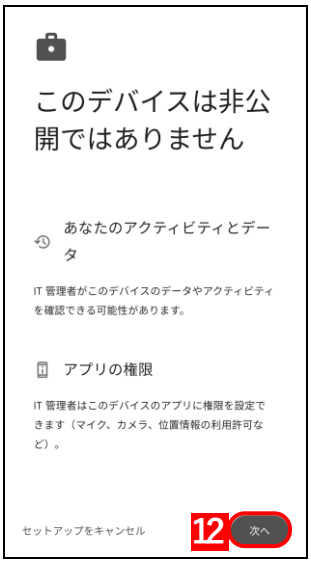


【10】［次へ］をタップします。



【11】［同意して続行］をタップします。

【12】［次へ］をタップします。

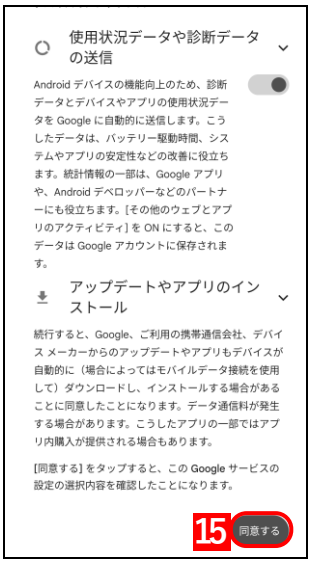


【13】［OK］をタップします。

【14】［もっと見る］をタップします。

端末によっては［もっと見る］が数回表示されます。［同意する］が表示されるまで、［もっと見る］をタップします。

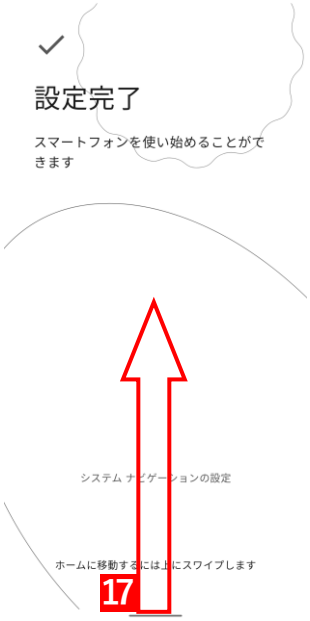
【15】［同意する］をタップします。



【16】［スキップ］をタップします。

【17】画面下部からスワイプします。

⇒ホーム画面に移動します。



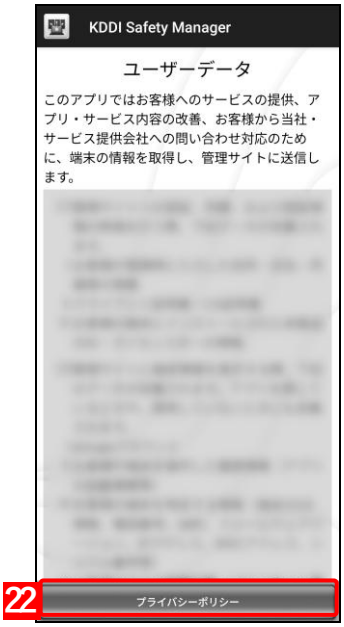
【18】［KDDI Safety Manager］をタップします。

ホーム画面にアイコンが表示されない場合は、アプリ一覧を確認してください。

【19】［ライセンス認証］をタップします。

【20】「利用規約に同意する」にチェックを入れます。
【21】［OK］をタップします。

【22】ユーザーデータについて確認して、［プライバシーポリシー］をタップします。



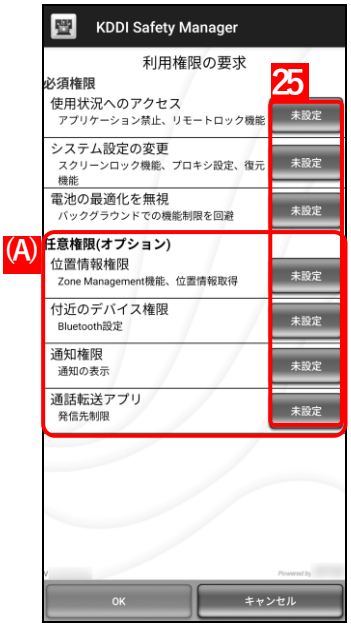
【23】「プライバシーポリシーに同意する」にチェックを入れます。
【24】［OK］をタップします。
⇒権限要求画面が表示されます。

【25】画面の案内に従って設定を行ってください。

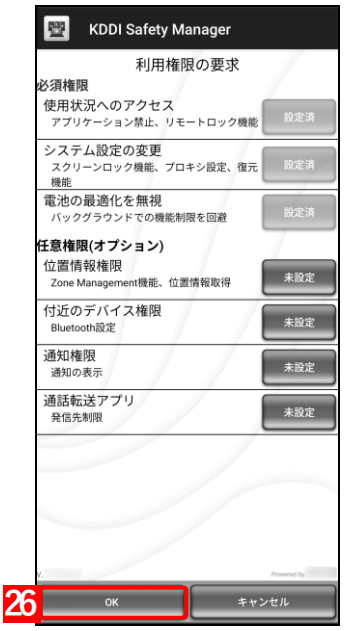
Android 12 以上でエージェントバージョン 9.14.0 以上の場合、（A）任意権限に「付近のデバイス権限」が表示されます。

Android 13 以上でエージェントバージョン 9.16.0 以上の場合、（A）任意権限に「通知権限」が表示されます。「ストレージ権限」は表示されません。

Android 10 以上でエージェントバージョン 9.22.0 以上の場合、（A）任意権限に「通話転送アプリ」が表示されます。



【26】［OK］をタップします。



【27】「企業コード」および「認証コード」を入力します。

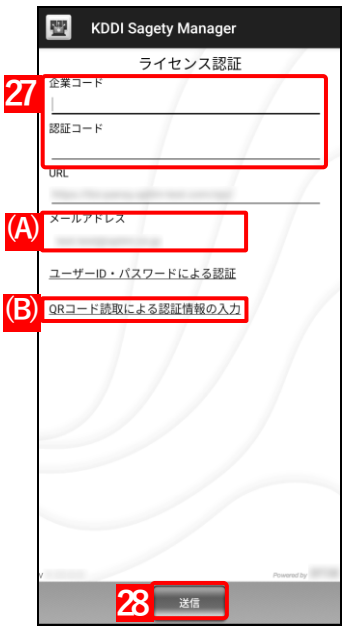
企業コード、認証コードは管理者にお問い合わせください。

Google Workspace アカウントが、(A)「メールアドレス」として表示されます。

(B)［QR コード読取による認証情報の入力］をタップして、エージェント認証用 QR コードを読み取ると、「企業コード」、「認証コード」、「URL」が自動で入力されます。QR コードは、管理者にお問い合わせください。

【28】［送信］をタップします。

⇒ライセンス認証完了の画面が表示されます。

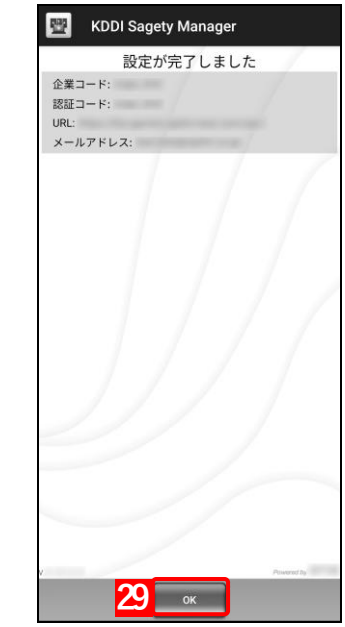


【29】［OK］をタップします。

⇒初期登録画面が表示されます。

手順【30】～【34】の初期登録画面は、管理サイトでポータル表示を「表示」に設定している場合のみ表示されます。

『管理サイト リファレンスマニュアル』の「サービス環境設定」－「ポータル表示」



【30】社員番号、姓、名を入力します。

【31】［次へ］をタップします。

⇒機器にユーザーが紐づきます。

登録したユーザーを変更することはできません。

すでにユーザーが端末に紐づけられている場合は、ユーザーが紐づけられているメッセージが表示されます。

ユーザー情報の登録が不要の場合は、(A)［閉じる］をタップするか、端末の戻るボタンで画面を閉じてください。

【32】必要事項を選択、入力します。

【33】［次へ］をタップします。

あらかじめ、管理サイトの［入力項目のカスタマイズ］で入力項目を追加してください。追加するとき、「機器から入力可」にチェックを入れてください。チェックが入っていない場合は、項目が表示されません。

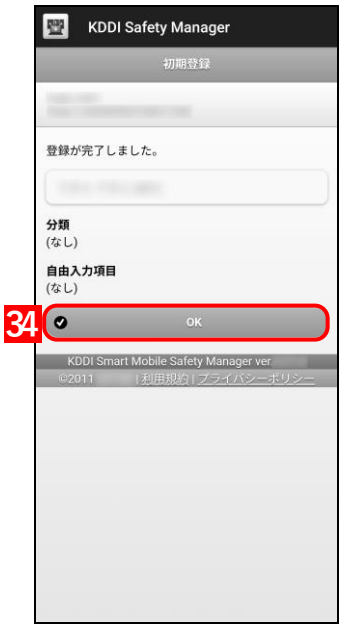
『管理サイト リファレンスマニュアル』の「機器」―「入力項目のカスタマイズ」

管理サイトの［入力項目のカスタマイズ］で設定した内容により、画面に表示される「分類」と「自由入力項目」の内容が異なります。

機器情報の登録が不要の場合は、(A)［閉じる］をタップするか、端末の戻るボタンで画面を閉じてください。

【34】［OK］をタップします。

⇒キッティングおよびライセンス認証が完了しました。



6 Google アカウントでゼロタッチ登録を利用して Android Enterprise 連携を行う

ゼロタッチ登録とは、エージェントのキッティング方法の 1 つです。この方法ではキッティング手順が省略化され、大規模な端末の導入を簡単かつ迅速に行うことができます。ゼロタッチ登録端末には、エージェントが自動的に Device Owner Mode としてインストールされるため、よりセキュアな端末管理が可能です。

ゼロタッチサーバーとの連携を行うと、自動的に本製品の機器一覧に事前機器として端末が表示されます。これらの端末にあらかじめ設定ポリシーを割り当ててからアクティベーションすると、すぐに設定が適用されます。

注意

- ゼロタッチ登録の詳細については、以下を参照してください。
- https://www.android.com/intl/ja_jp/enterprise/management/zero-touch/
- ゼロタッチ登録専用アカウントについては、端末の購入元にお問い合わせください。
- モバイルネットワークが利用できるゼロタッチ登録に対応した端末を、事前に用意してください。Wi-Fi 専用端末は、本製品に対応していません。
- 以下の項目は、初回のキッティング時のみ必要な操作です。

「Google アカウントを登録する」125 ページ

「Google API の認証設定を行う」145 ページ

参考

- あらかじめ管理サイトで Android Enterprise の「アプリケーション配信」機能を設定しておくと、キッティングの完了後、ライセンス認証と同時に特定のアプリを端末に配信できます。アプリケーション配信の詳細については、以下を参照してください。

『Android Enterprise アプリケーション配信 手順書』の「アプリをインストールする」

6.1 Google アカウントを登録する

管理サイトに Android Enterprise 連携するための Google アカウントを登録します。

登録できる Google アカウントは、以下の 3 種類です。Google アカウントに応じて、いずれかの方法で登録してください。

●企業ドメインのメールアドレスを登録する場合

Google が推奨する登録方法です。なるべくこの方法で登録してください。

●Microsoft ID アカウントのメールアドレスを登録する場合

Microsoft Entra ID でシングルサインオンが構成済みの場合は、自動的にこの登録方法になります。

●Gmail のメールアドレスを登録する場合

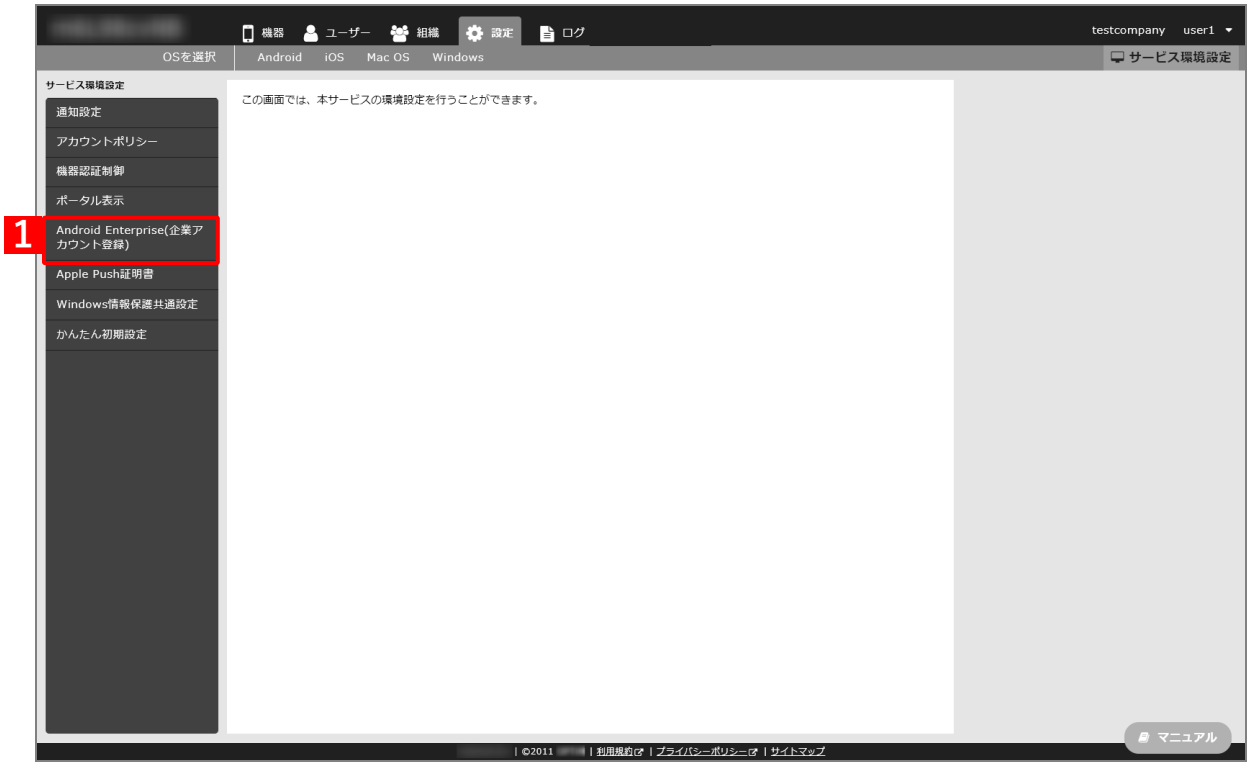
6.1.1 企業ドメインのメールアドレスを登録する場合

企業ドメインのメールアドレスを Android Enterprise 連携するための Google アカウントとして、管理サイトに登録します。

Google が推奨する登録方法です。

企業で初めて登録した企業ドメインのメールアドレスの使用者が、ドメイン管理者です。その後、同じ企業ドメインで他のメールアドレスを登録するときは、ドメイン管理者に連絡してください。ドメイン管理者が Google の画面で他のメールアドレスを登録します。

【1】［設定］→［サービス環境設定］→［Android Enterprise（企業アカウント登録）］をクリックします。



【2】［アカウント登録］をクリックします。

アカウント登録が完了すると、デフォルトで端末の「提供元不明アプリのインストール」、「開発者向けオプション」が「禁止」、「アプリ確認の強制」が「強制する」に設定されます。「セキュリティ設定（DOM）」で「提供元不明アプリのインストール」を許可する設定セットを作成し、機器に割り当てて同期を行ってください。

『管理サイト リファレンスマニュアル』の「設定－Android」－「Device Owner Mode」－「セキュリティ設定（DOM）」

（A）「状態」は「未登録」と表示されています。

（B）「アカウント種別」の初期値は「Google アカウント」が選択されています。

【3】企業ドメインのメールアドレスを入力します。

【4】［次へ］をクリックします。

⇒企業で初めて企業ドメインのメールアドレスを登録した場合は、手順【3】で入力したメールアドレスに、Google からメールが届きます。メールを確認してください。

すでに企業ドメインが登録されていた場合は、以下の画面が表示されます。
企業のドメイン管理者に連絡してください。企業のドメイン管理者が不明な場合は、Google に問い合わせてください。

ドメイン管理者のメールアドレスを他の企業で登録しようとした場合は、以下の画面が表示されます。
（A）［許可］をクリックすると、企業登録が完了します。

【5】メールの内容を確認して、［メールアドレスの確認］をクリックします。

⇒情報登録画面が表示されます。

【6】名、姓、会社名を入力して、国を選択します。

【7】［続行］をクリックします。

名、姓、会社名を入力すると、［続行］がクリックできます。

【8】［次へ］をクリックします。

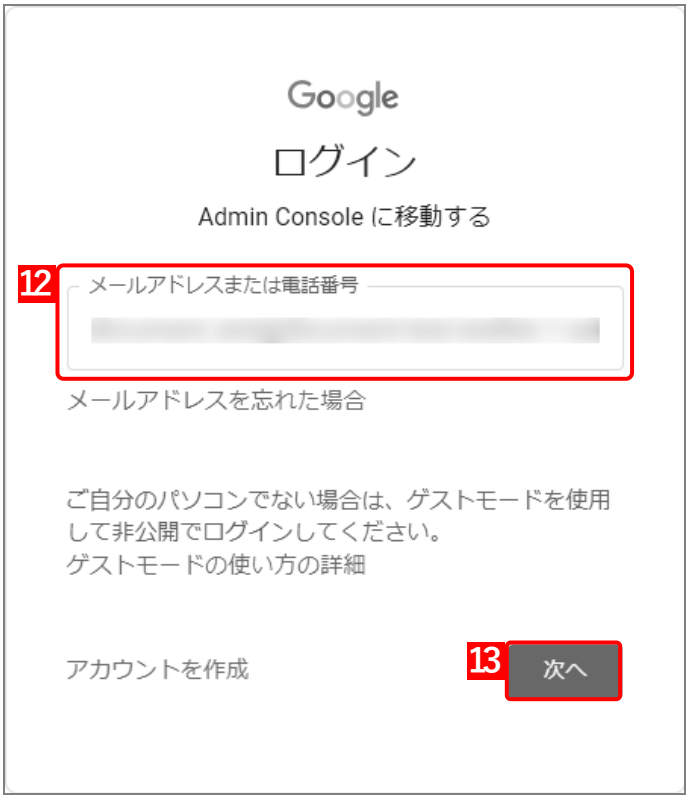
【9】8 文字以上のパスワードを入力します。

【10】［同意して続行］をクリックします。

パスワードを入力すると、［同意して続行］がクリックできます。

【11】［許可してアカウントを作成］をクリックします。

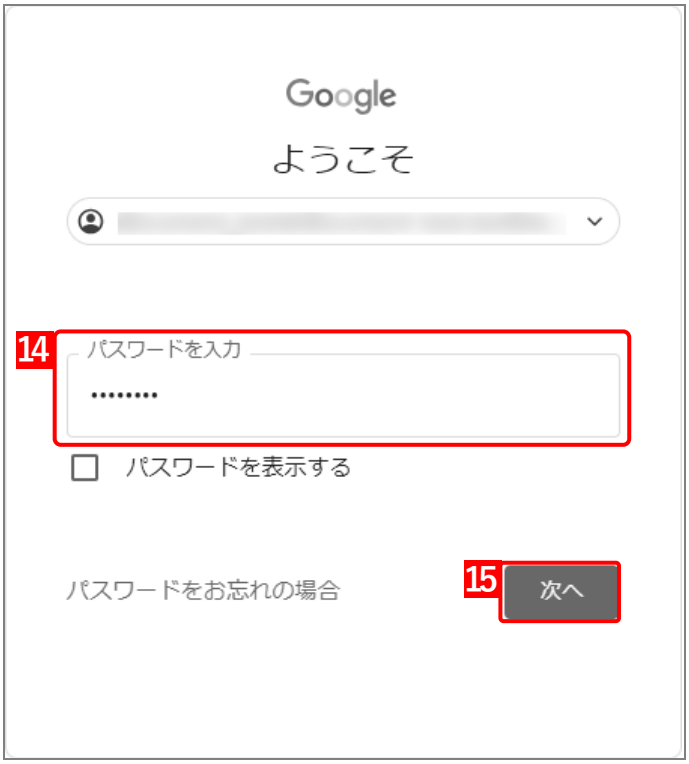
【12】手順【3】で入力した企業ドメインのアドレスを入力します。
【13】［次へ］をクリックします。



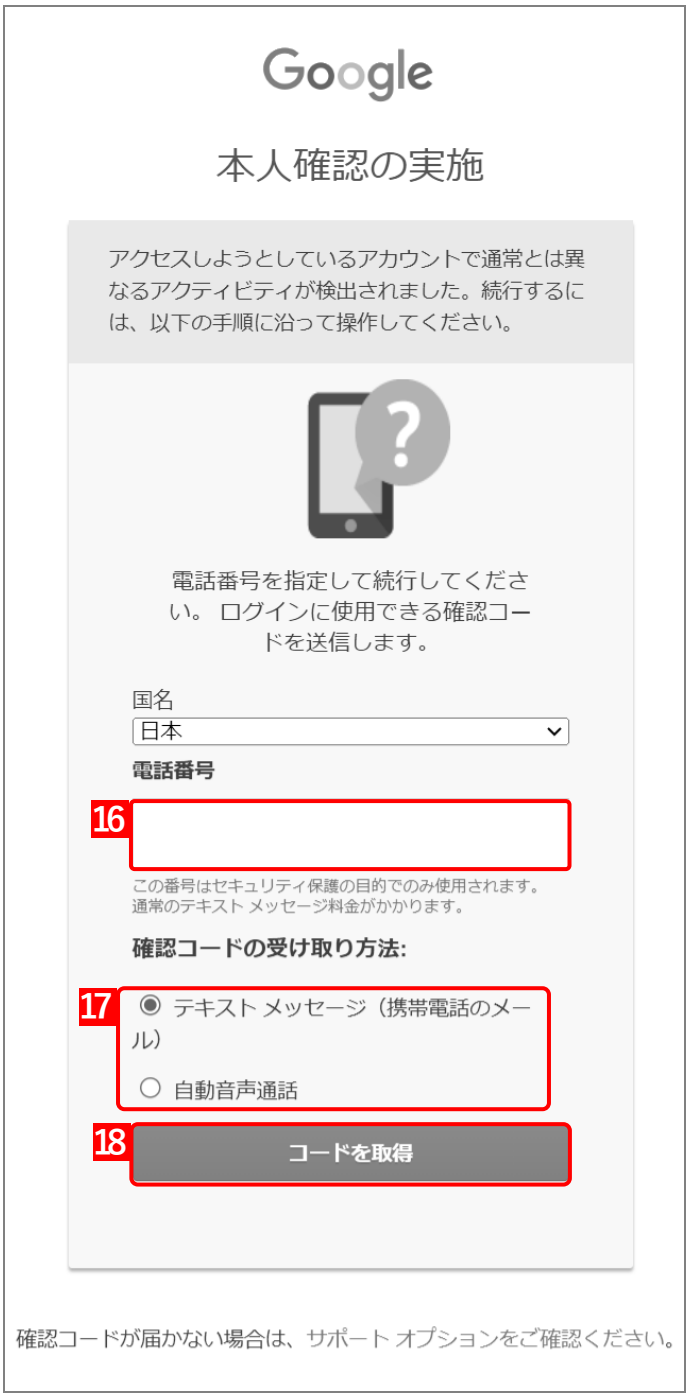
【14】手順【9】で入力したパスワードを入力します。

【15】［次へ］をクリックします。

⇒本人確認の画面が表示されます。



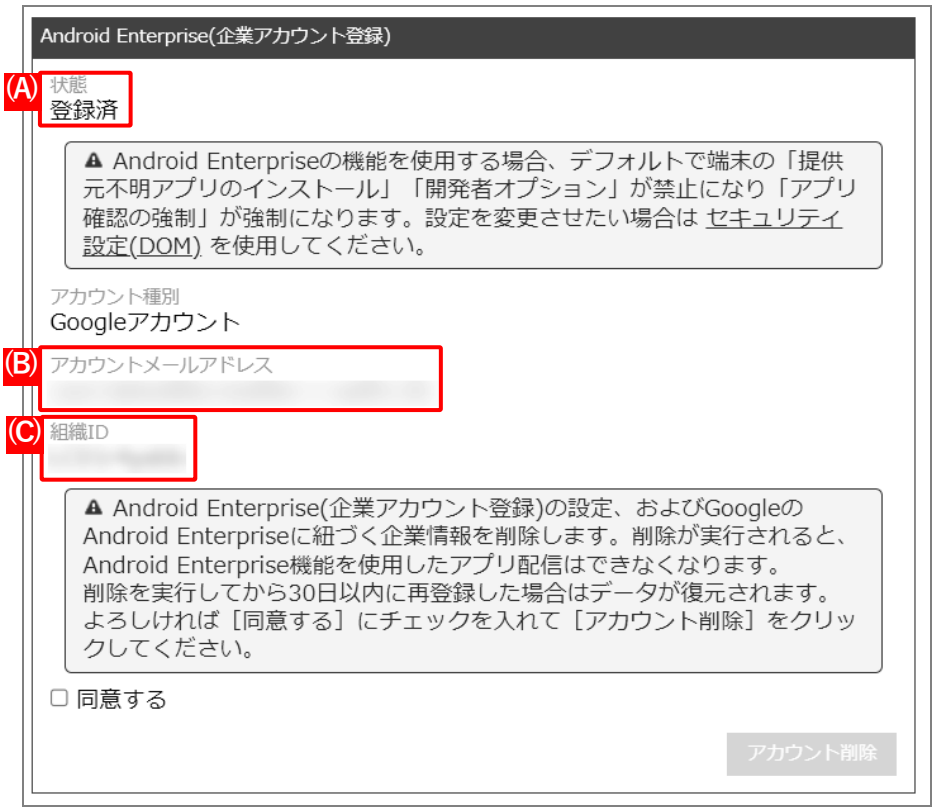
【16】確認コードを受け取る電話番号を入力します。
【17】確認コードの受け取り方法を選択します。
【18】［コードを取得］をクリックします。



【19】手順【16】で入力した電話番号で受け取った確認コードを入力します。
【20】［確認］をクリックします。

【21】［理解しました］をクリックします。
⇒アカウント登録済みの管理サイトの画面が表示されます。

- (A)「状態」は「登録済」と表示されています。
- (B)「アカウントメールアドレス」にアカウント登録で使用したメールアドレスが表示されています。
- (C)「組織 ID」に managed Google Play ストアでの組織の一意の識別子が表示されています。



6.1.2 Microsoft ID アカウントのメールアドレスを登録する場合

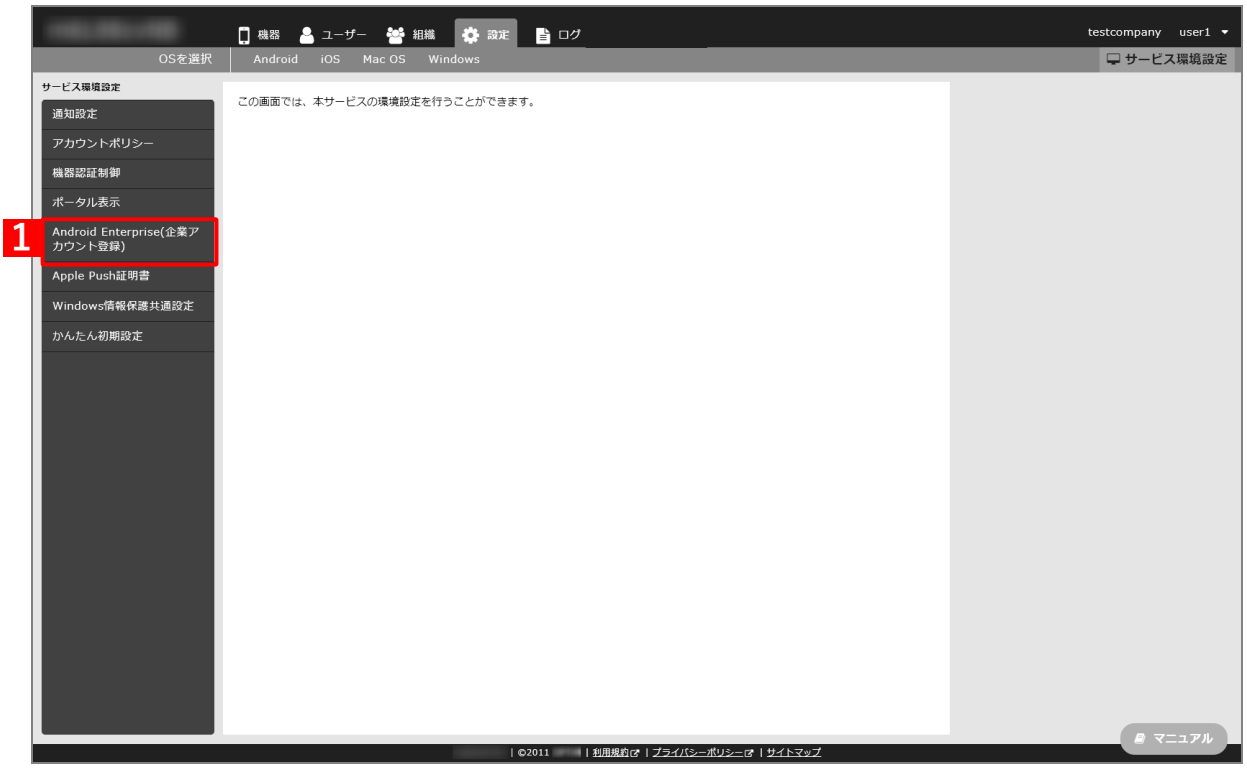
Microsoft ID アカウントのメールアドレスを Android Enterprise 連携するための Google アカウントとして、管理サイトに登録します。

Microsoft ID アカウントのメールアドレスは、Microsoft Entra ID でシングルサインオンが構成済みのものを使用してください。認証を行うため自動的に Microsoft の画面が表示されます。

Microsoft ID アカウントについての詳細は、以下を参照してください。

https://learn.microsoft.com/ja-jp/entra/identity-platform/v2-protocols-oidc

【1】［設定］→［サービス環境設定］→［Android Enterprise（企業アカウント登録）］をクリックします。



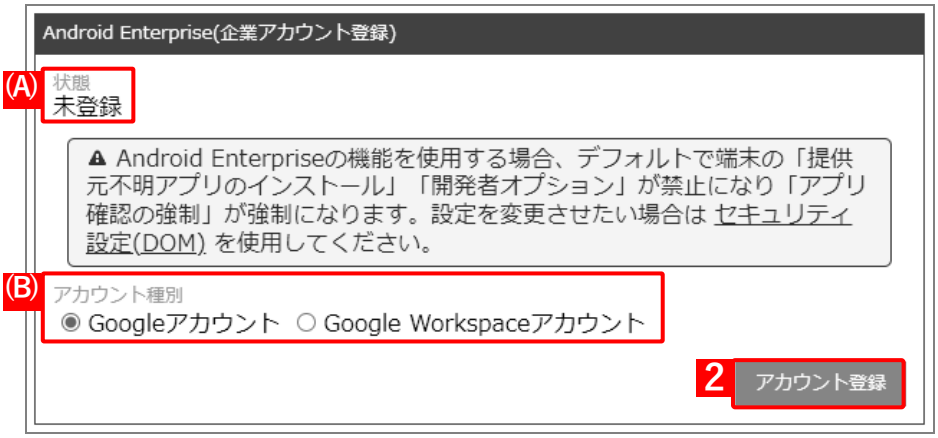
【2】［アカウント登録］をクリックします。

アカウント登録が完了すると、デフォルトで端末の「提供元不明アプリのインストール」、「開発者向けオプション」が「禁止」、「アプリ確認の強制」が「強制する」に設定されます。「セキュリティ設定（DOM）」で「提供元不明アプリのインストール」を許可する設定セットを作成し、機器に割り当てて同期を行ってください。

『管理サイト リファレンスマニュアル』の「設定－Android」－「Device Owner Mode」－「セキュリティ設定（DOM）」

（A）「状態」は「未登録」と表示されています。

（B）「アカウント種別」の初期値は「Google アカウント」が選択されています。



【3】Microsoft ID アカウントのメールアドレスを入力します。

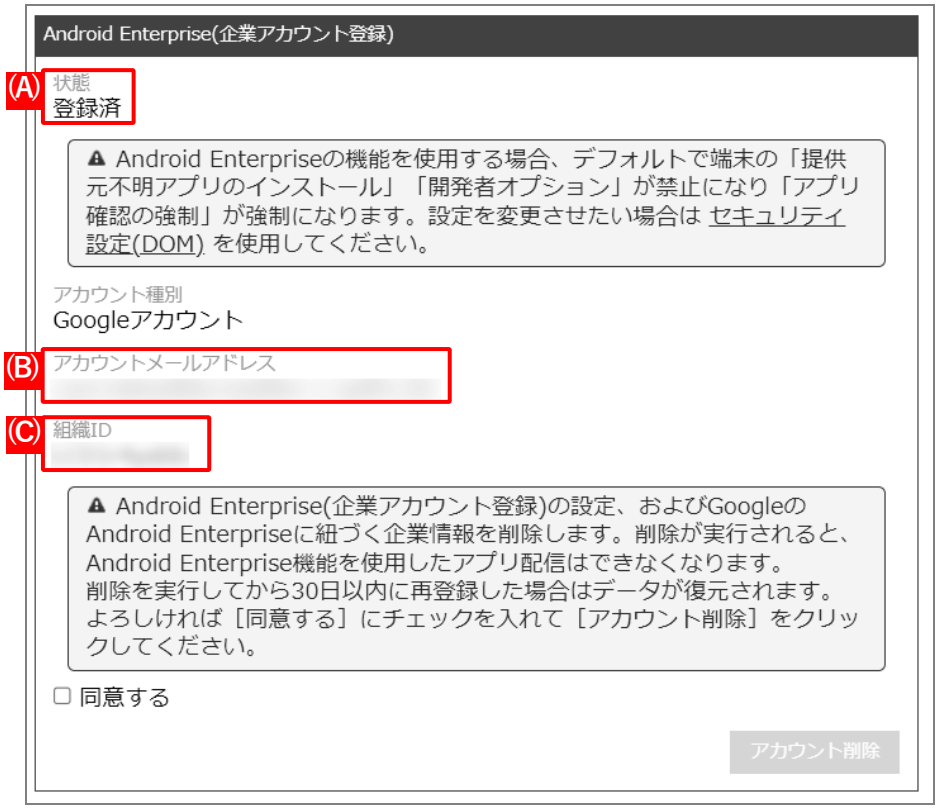
【4】［次へ］をクリックします。

【5】［Microsoft でログイン］をクリックします。

⇒Microsoft の登録画面が表示されます。画面の指示にしたがい登録を行ってください。

⇒アカウント登録済みの管理サイトの画面が表示されます。

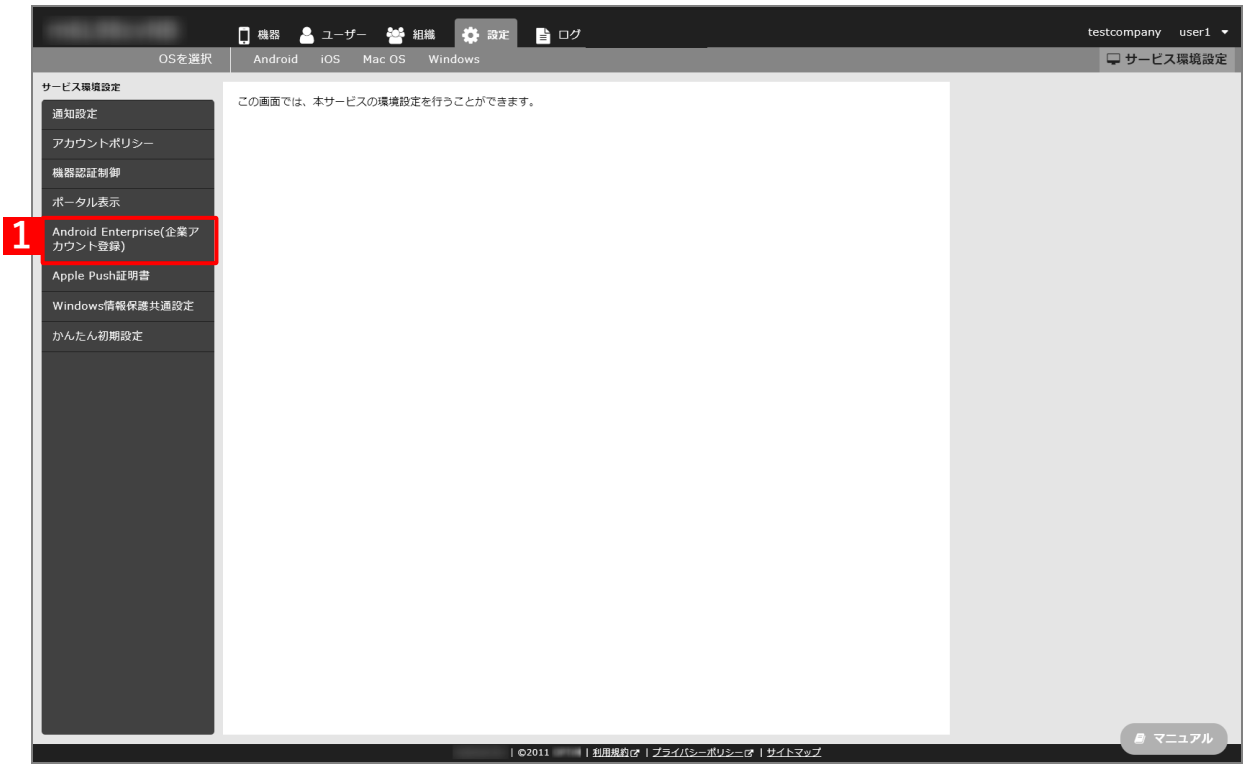
- (A)「状態」は「登録済」と表示されています。
- (B)「アカウントメールアドレス」にアカウント登録で使用したメールアドレスが表示されています。
- (C)「組織 ID」に managed Google Play ストアでの組織の一意の識別子が表示されています。



6.1.3 Gmail のメールアドレスを登録する場合

Gmail のメールアドレスを Android Enterprise 連携するための Google アカウントとして、管理サイトに登録します。

【1】［設定］→［サービス環境設定］→［Android Enterprise（企業アカウント登録）］をクリックします。



【2】［アカウント登録］をクリックします。

アカウント登録が完了すると、デフォルトで端末の「提供元不明アプリのインストール」、「開発者向けオプション」が「禁止」、「アプリ確認の強制」が「強制する」に設定されます。「セキュリティ設定（DOM）」で「提供元不明アプリのインストール」を許可する設定セットを作成し、機器に割り当てて同期を行ってください。

『管理サイト リファレンスマニュアル』の「設定－Android」－「Device Owner Mode」－「セキュリティ設定（DOM）」

（A）「状態」は「未登録」と表示されています。

（B）「アカウント種別」の初期値は「Google アカウント」が選択されています。

【3】Gmail のメールアドレスを入力します。

【4】［次へ］をクリックします。

【5】「Android のみ登録」の［登録］をクリックします。

⇒Google Play ストアが表示されます。

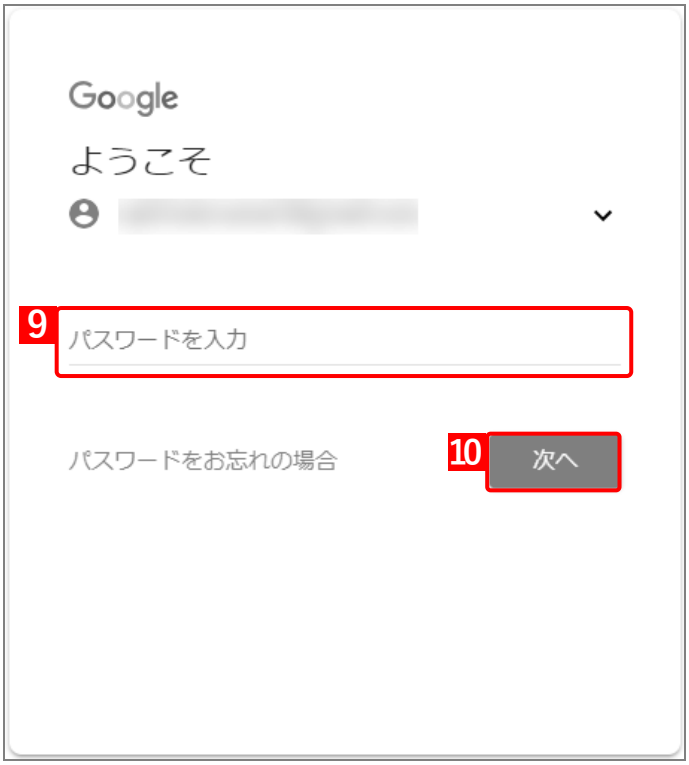
【6】［ログイン］をクリックします。

利用しているブラウザーにより、Google Play ストアが正常に動作しないことがあります。

【7】手順【3】で入力した Gmail のメールアドレスを入力します。

【8】［次へ］をクリックします。

【9】パスワードを入力します。
【10】［次へ］をクリックします。



【11】［完了］をクリックします。

【12】［スタートガイド］をクリックします。

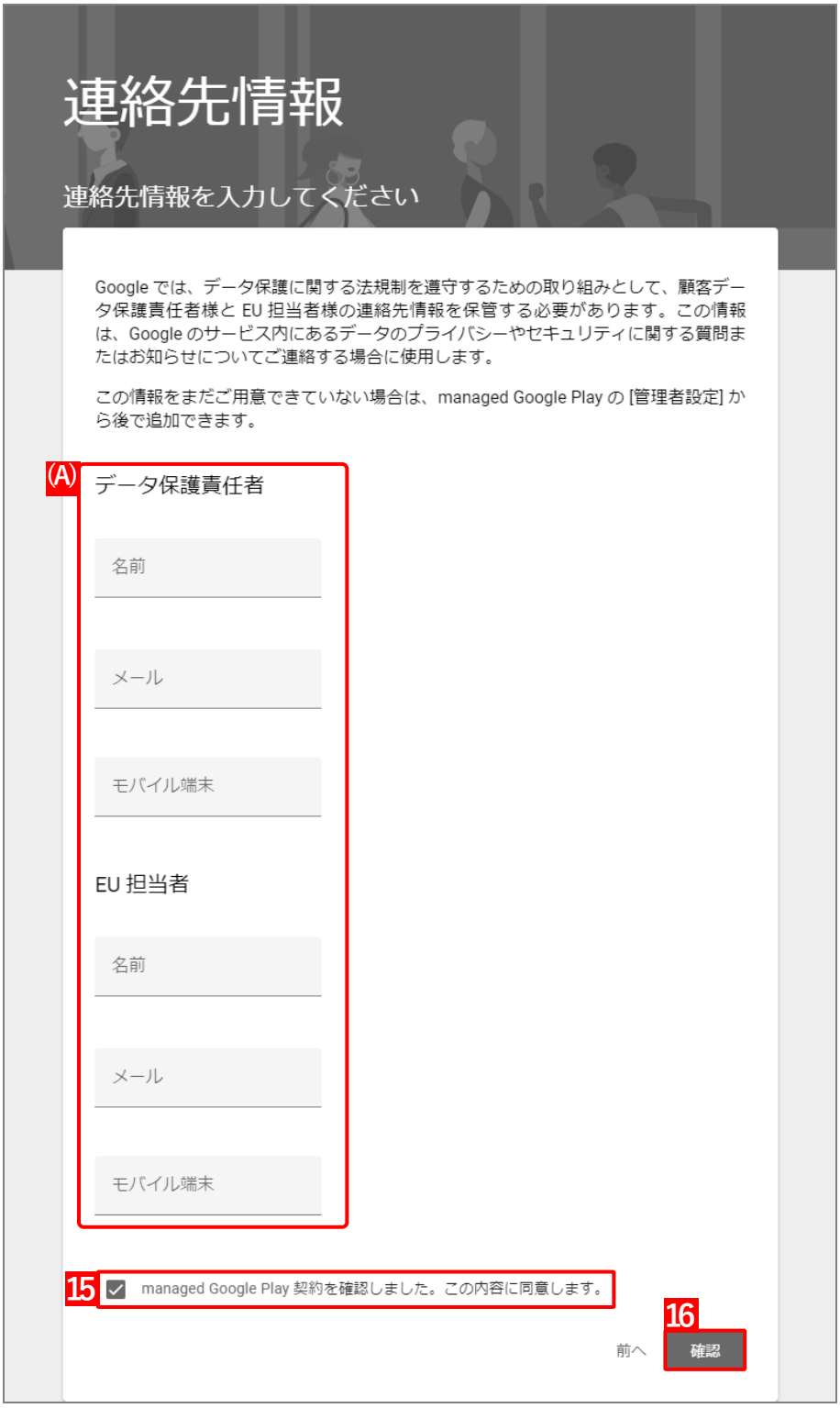
【13】「組織名」を入力します。
【14】［次へ］をクリックします。

【15】規約を確認し、同意にチェックを入れます。

【16】［確認］をクリックします。

（A）データの保護責任者および EU 担当者は、任意入力です。必要に応じて入力します。
データの保護責任者、EU 担当者についての詳細は、以下を参照してください。

https://support.google.com/googleplay/work/answer/7681629



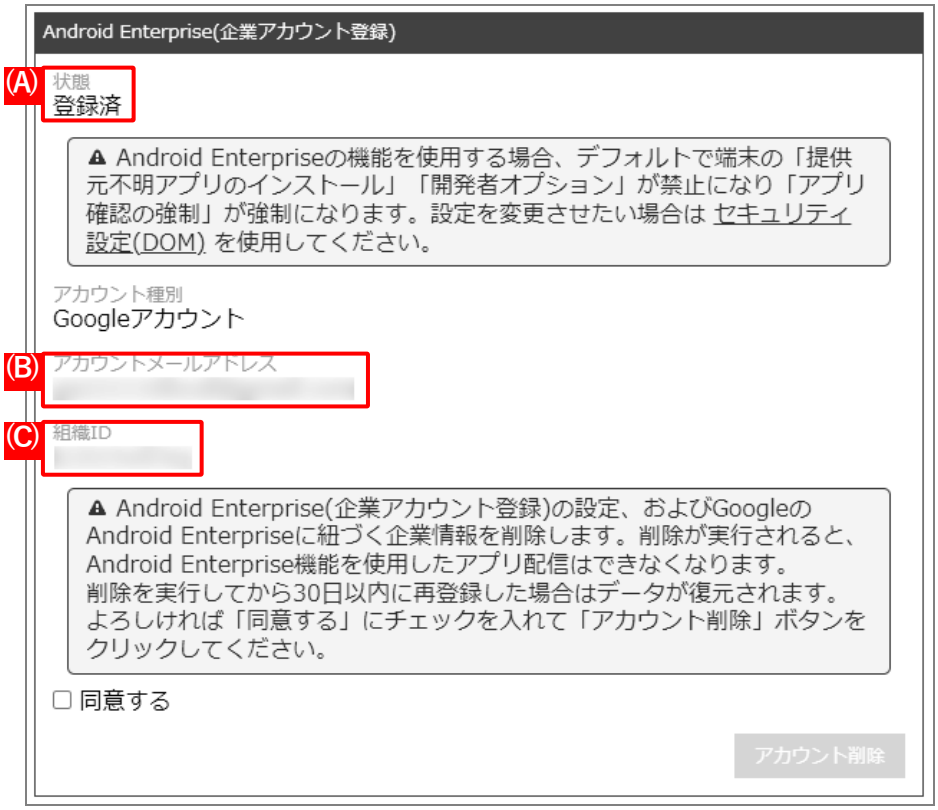
【17】［登録を完了］をクリックします。

⇒アカウント登録済みの管理サイトの画面が表示されます。

（A）「状態」は「登録済」と表示されています。

（B）「アカウントメールアドレス」に Google Play ストアで登録したメールアドレスが表示されています。

（C）「組織 ID」に managed Google Play ストアでの組織の一意の識別子が表示されています。



6.2 Google API の認証設定を行う

管理サイトから Google アカウントを会社用メールアドレスに関連付け、JSON ファイルの作成と認証を行います。

6.2.1 メールアドレスを Google アカウントとして登録する

会社または組織用のメールアドレスを Google アカウントとして利用できます。

管理対象端末全台分を行う必要はありません。管理用のメールアドレスを 1 つ用意してください。管理者個人のメールアドレスではなく、管理担当部署のメーリングリストなどを推奨します。

利用する Google アカウントがすでにブラウザーに登録されている場合は、本操作は不要です。

【1】［設定］→［Android］→［ゼロタッチ登録］→［利用登録］をクリックします。

【2】［Google アカウント登録］をクリックします。

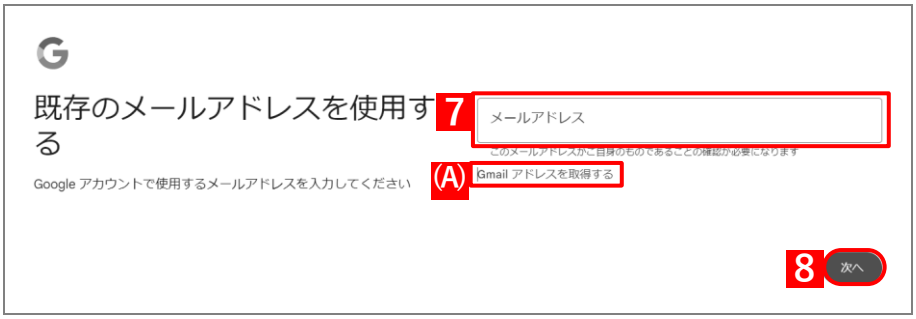
⇒Google アカウント作成画面が表示されます。

【3】「姓」「名」を入力します。

【4】［次へ］をクリックします。

【5】「生年月日」「性別」を入力します。
【6】［次へ］をクリックします。

【7】企業ドメインの「メールアドレス」を入力します。
（A）［Gmail アドレスを取得する］は、クリックしないでください。
【8】［次へ］をクリックします。



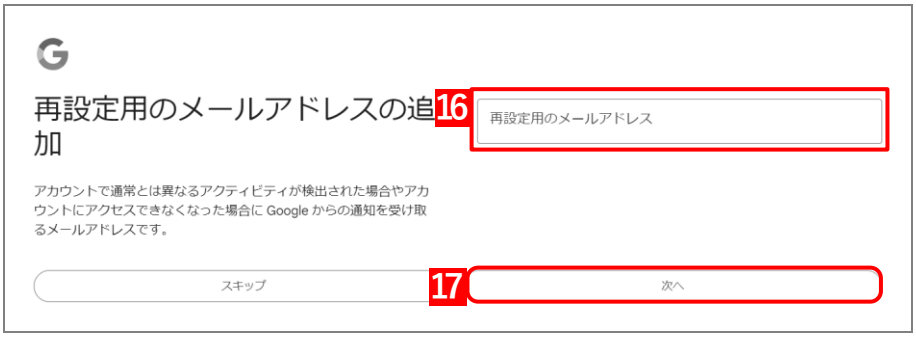
【9】「パスワード」「確認」を入力します。
【10】［次へ］をクリックします。

【11】「電話番号」を入力します。
【12】［次へ］をクリックします。

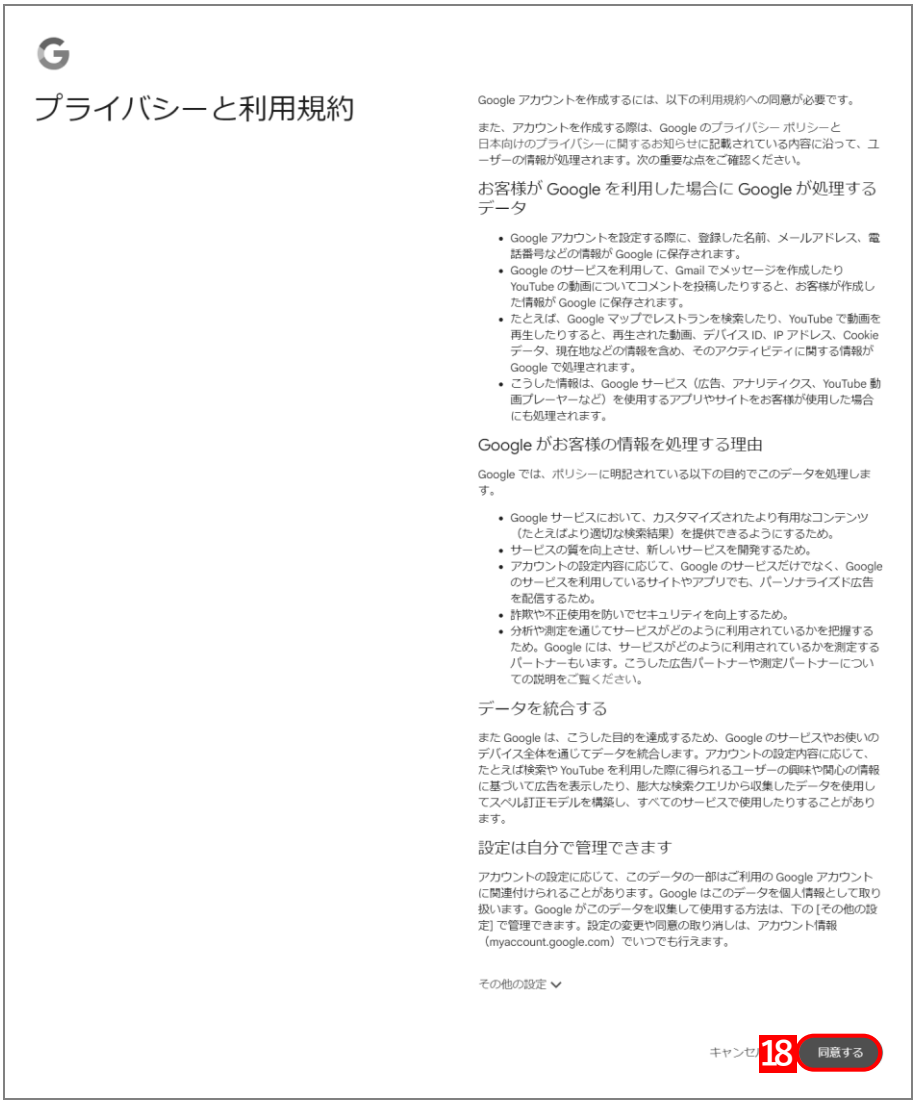
【13】［次へ］をクリックします。

【14】「コードを入力」に、手順【7】で入力したメールアドレス宛に送られた確認コードを入力します。
【15】［次へ］をクリックします。

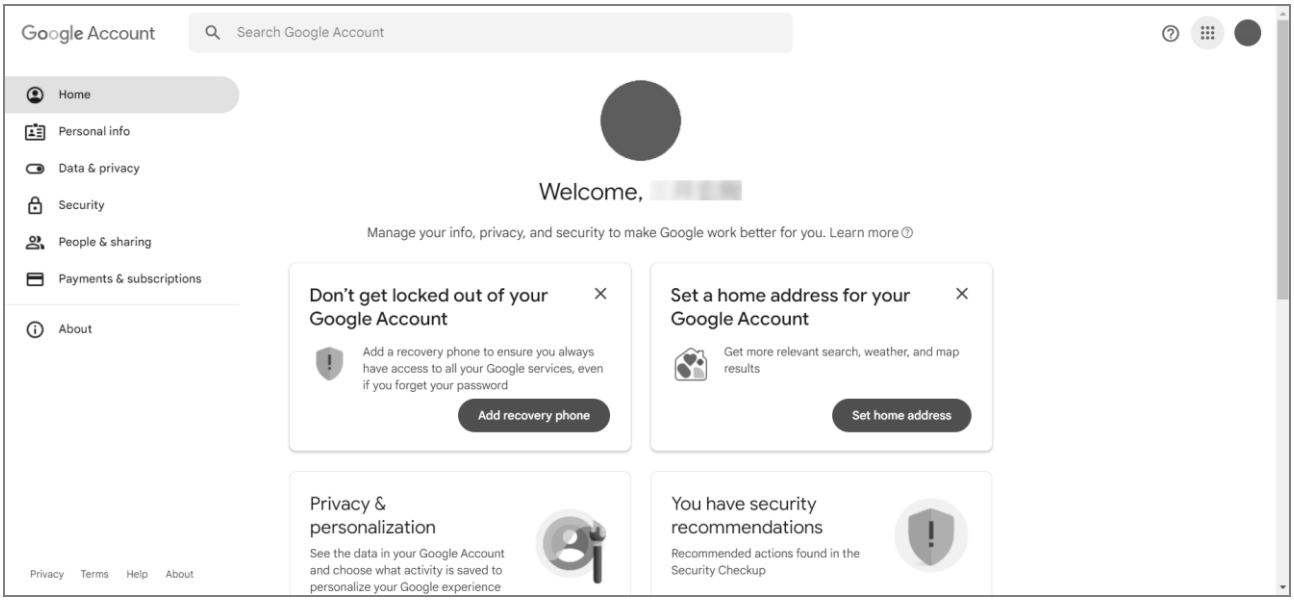
【16】「再設定用のメールアドレス」を入力します。
【17】［次へ］をクリックします。



【18】利用規約を確認して、［同意する］をクリックします。



⇒以下の画面が表示されます。登録が完了しました。



6.2.2 ゼロタッチポータルにログインする

登録した Google アカウントを端末の購入元に連絡し、ゼロタッチポータルにログインできるように依頼します。

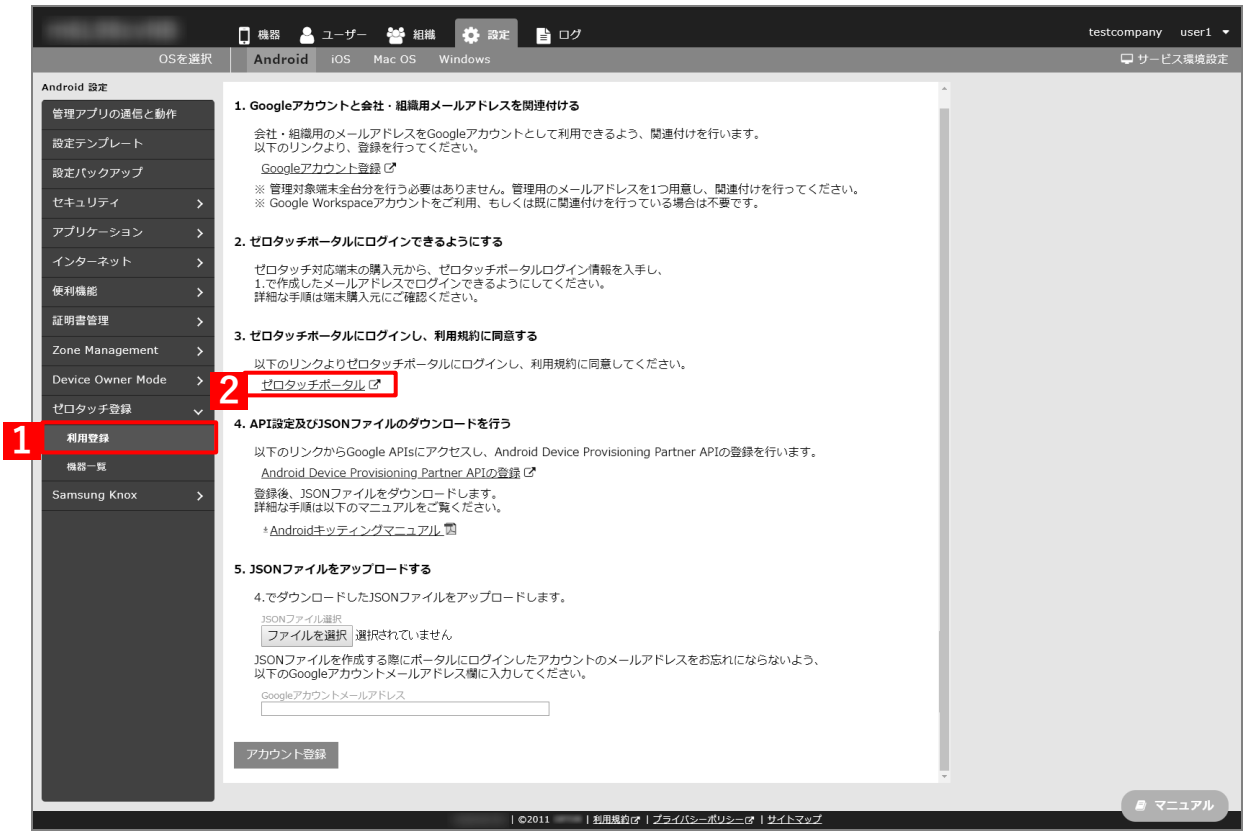
詳細については、端末の購入元にお問い合わせください。

6.2.3 利用規約に同意する

ゼロタッチポータルにログインして、利用規約に同意してください。

【1】［設定］→［Android］→［ゼロタッチ登録］→［利用登録］をクリックします。

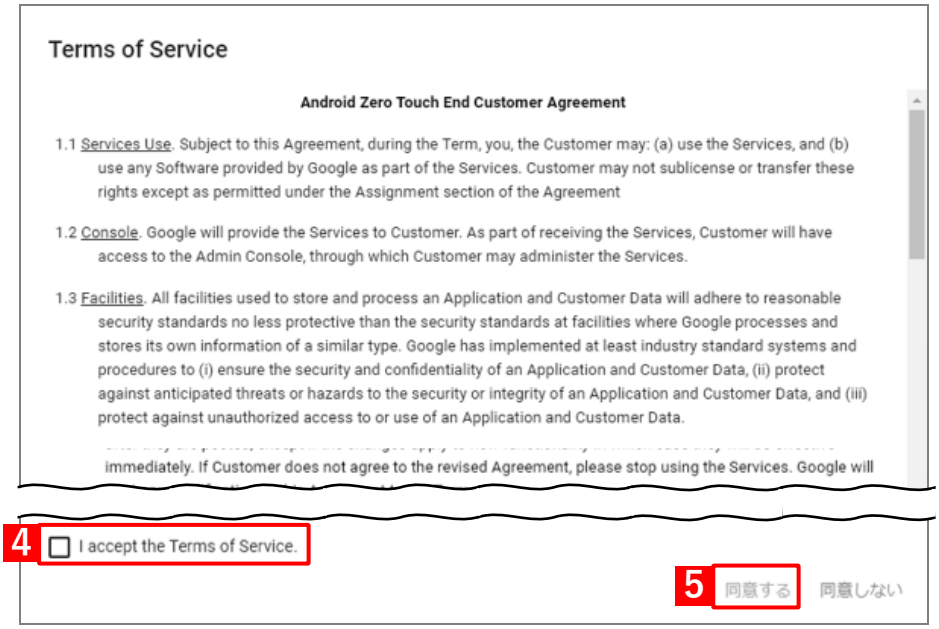
【2】［ゼロタッチポータル］をクリックします。



【3】登録した Google アカウントを選択します。

【4】「I accept the Terms of Service.」にチェックを入れます。

【5】［同意する］をクリックします。



6.2.4 API 設定および JSON ファイルのダウンロードを行う

Google Cloud Platform で Android Device Provisioning Partner API の登録を行い、JSON ファイルをダウンロードします。

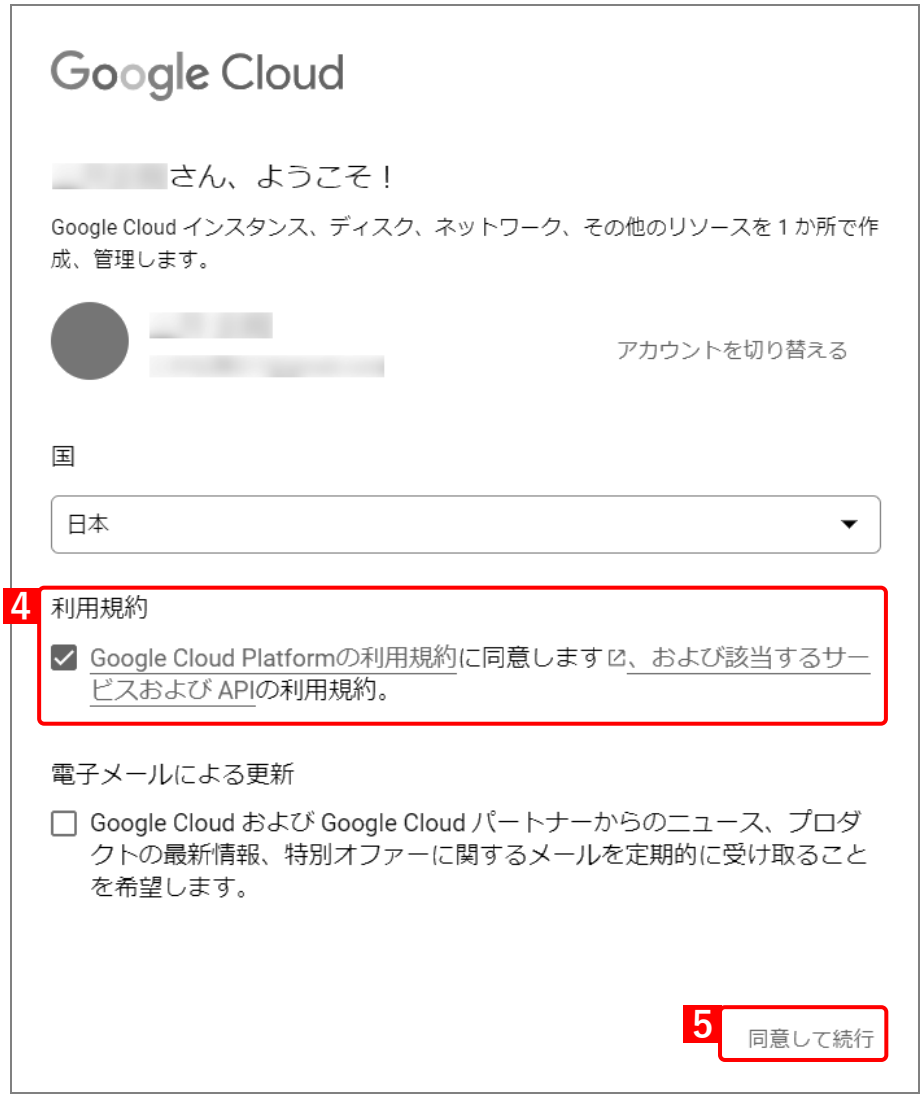
【1】［設定］→［Android］→［ゼロタッチ登録］→［利用登録］をクリックします。
【2】［Android Device Provisioning Partner API の登録］をクリックします。

【3】関連付けした「メールアドレス」を選択します。

【4】「利用規約」にチェックを入れます。

【5】［同意して続行］をクリックします。

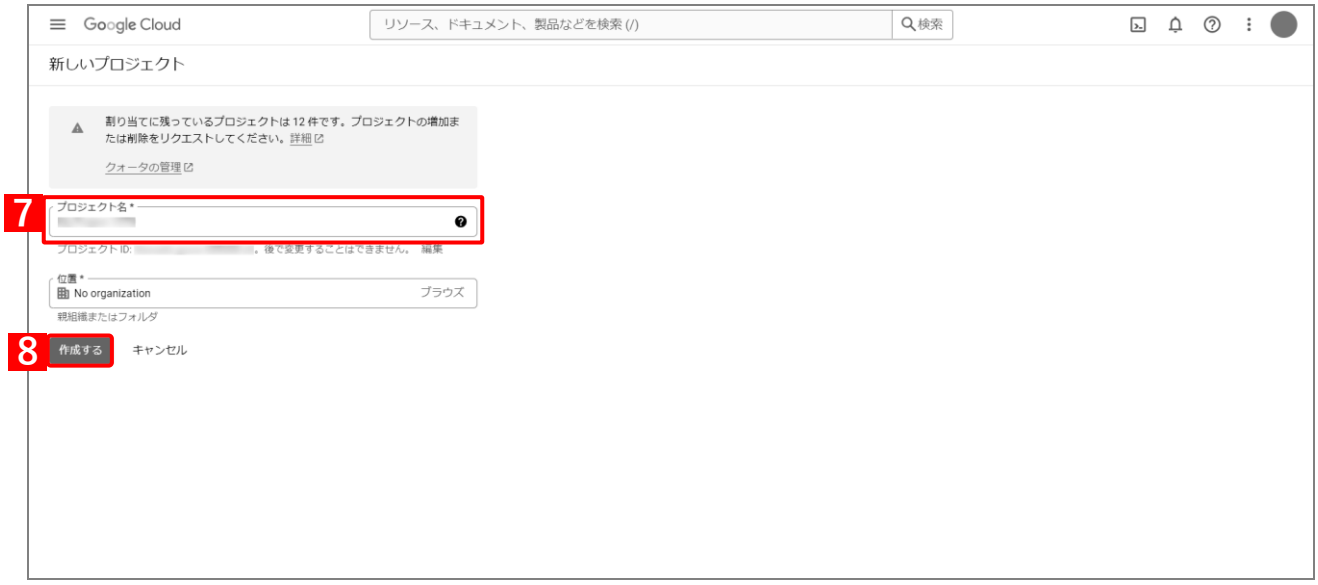
本画面は、初回ログイン時のみ表示されます。



【6】［プロジェクトを作成］をクリックします。

【7】任意の「プロジェクト名」を入力します。

【8】［作成する］をクリックします。



【9】［次］をクリックします。

【10】［有効にする］をクリックします。

⇒Android Device Provisioning Partner API が有効になります。

【11】［Google Cloud］をクリックします。

【12】［API とサービス］→［有効な API とサービス］をクリックします。

【13】［認証情報］をクリックします。

【14】［同意画面を構成］をクリックします。

【15】［作成］をクリックします。

（A）「User Type」を選択する必要はありません。「User Type」の詳細については、Google にお問い合わせください。

【16】「アプリ名」に「SMSM」と入力します。

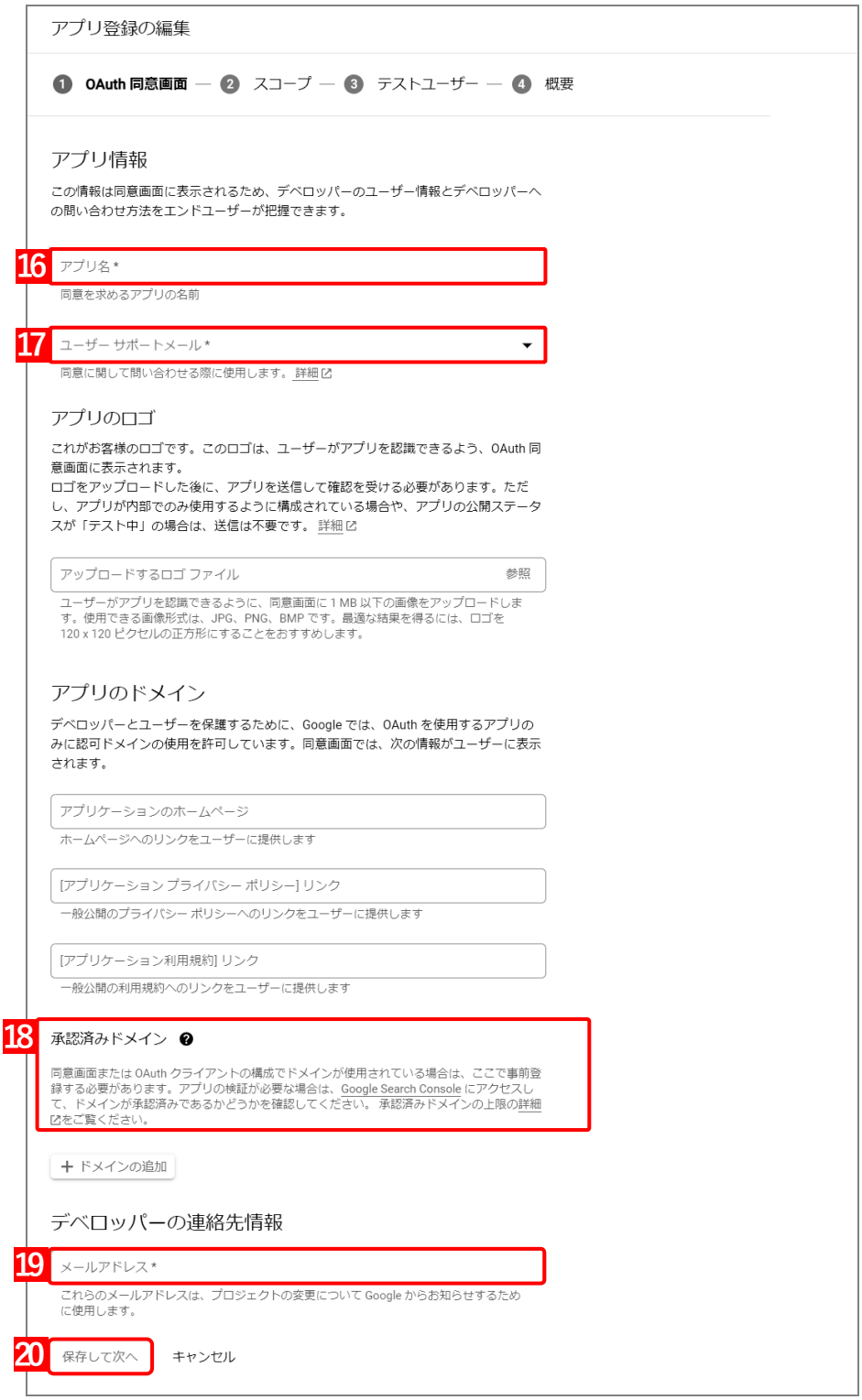
【17】「ユーザー サポートメール」をクリックして、メールアドレスを選択します。

【18】「承認済みドメイン」に「smartmanager.jp」と入力して、キーボードの〈Enter〉キーを押します。

〈Enter〉キーを押したあと、自動的にドメイン名が変更される場合があります。

【19】「デベロッパーの連絡先情報」にメールアドレスを入力します。

【20】［保存して次へ］をクリックします。



【21】［保存して次へ］をクリックします。

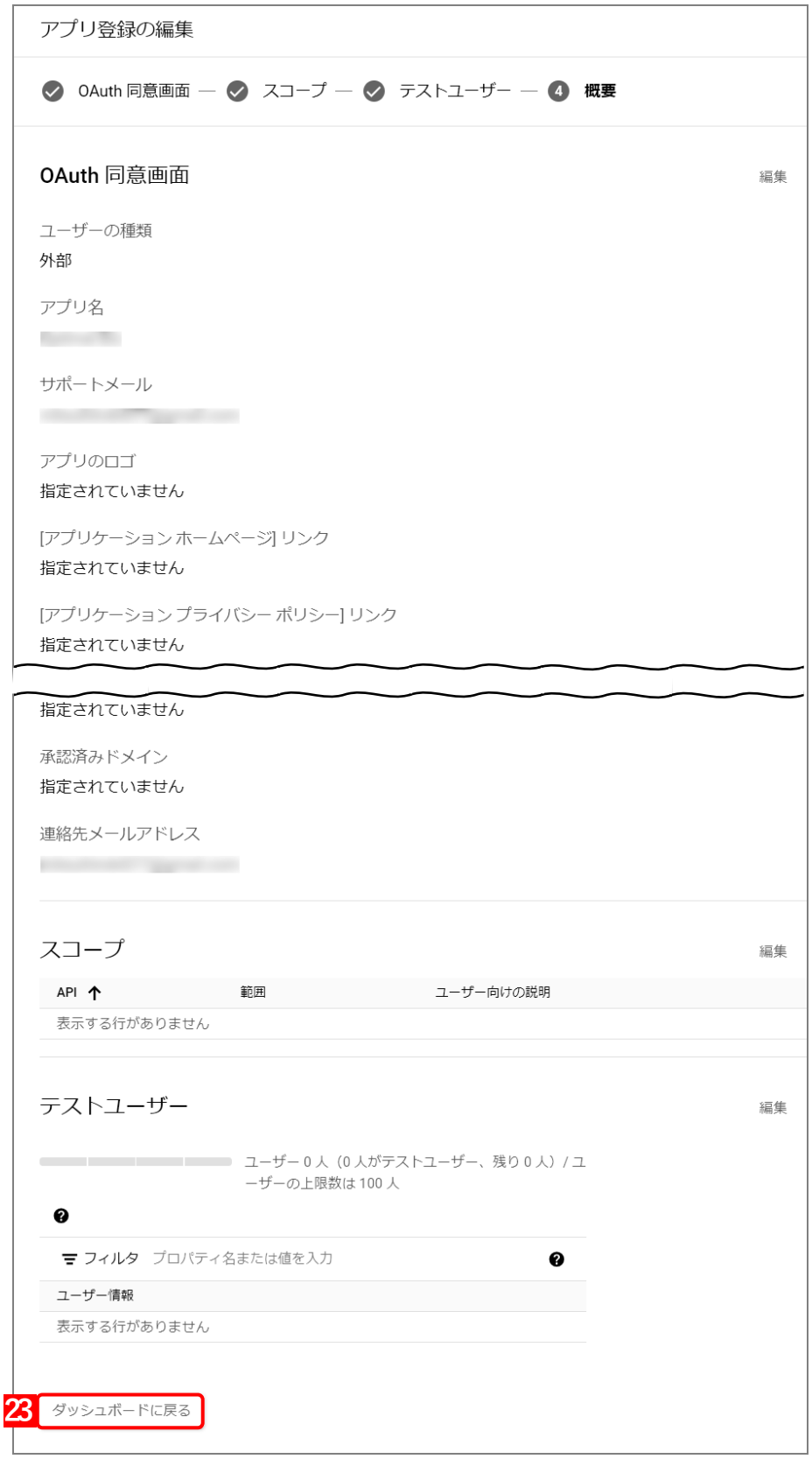
スコープの追加は、不要です。

【22】［保存して次へ］をクリックします。

テストユーザーの追加は、不要です。

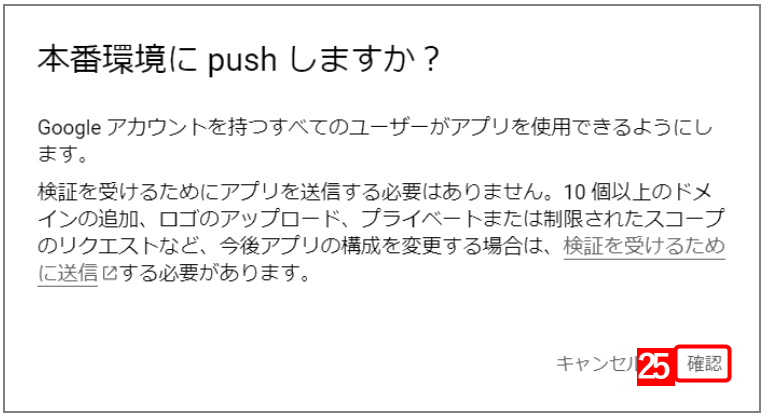
【23】設定内容を確認して、［ダッシュボードに戻る］をクリックします。

⇒OAuth 同意画面が表示されます。



【24】［アプリ公開］をクリックします。

【25】メッセージを確認して、［確認］をクリックします。



【26】公開ステータスが「本番環境」になっていることを確認します。

【27】［認証情報］をクリックします。

【28】［認証情報を作成］をクリックします。

【29】「OAuth クライアント ID」を選択します。

【30】「アプリケーションの種類」のプルダウンメニューから［ウェブアプリケーション］を選択します。

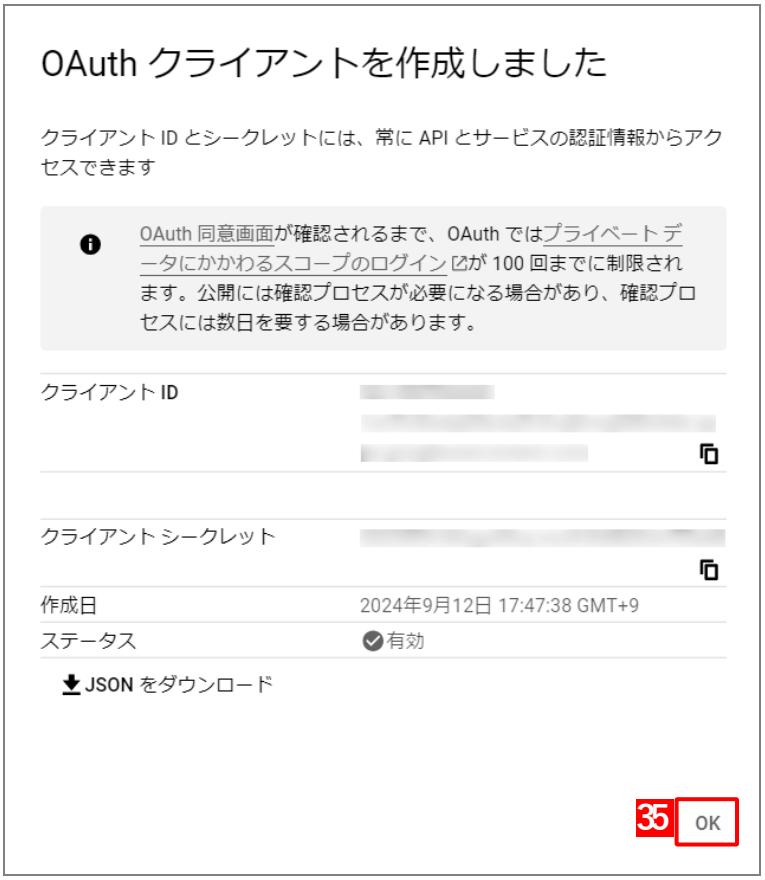
【31】任意で「名前」を入力します。
【32】「承認済みリダイレクト URI」の［URI を追加］をクリックします。

【33】「URI」に「https://ausl.smartmanager.jp/company1/android_emm_zero_touch_auth/callback」と入力します。（※「company1」に当たる部分には、企業コードを入力してください。）

警告メッセージが表示された場合は、手順【18】で「承認済みドメイン」を正しく入力しているか確認してください。

【34】［作成］をクリックします。

【35】［OK］をクリックします。

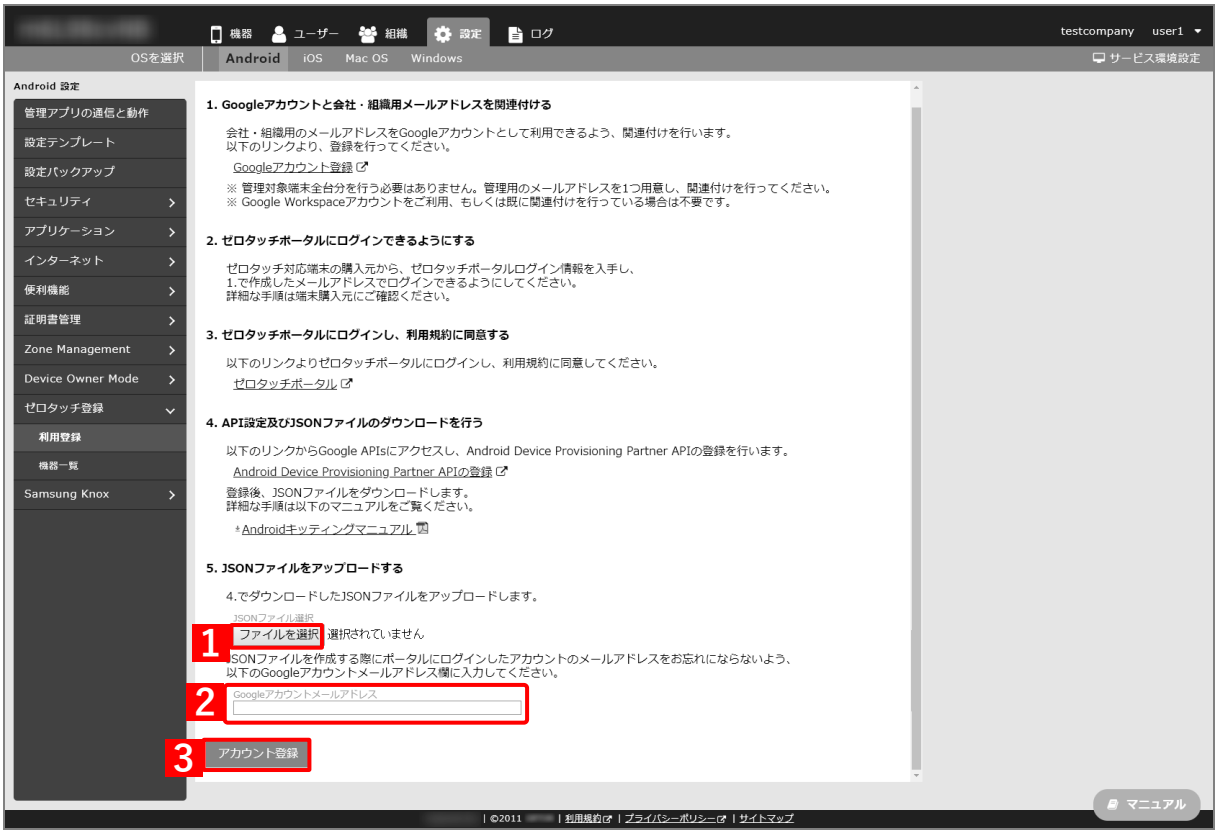


【36】ダウンロードアイコンをクリックして、JSON ファイルをダウンロードします。

6.2.5 JSON ファイルをアップロードする

Google APIs でダウンロードした JSON ファイルを管理サイトにアップロードし、機器情報を登録します。

【1】［ファイル選択］をクリックし、ダウンロードした JSON ファイルを選択します。
【2】「Google アカウントメールアドレス」を入力します。
【3】［アカウント登録］をクリックします。
⇒Google のログイン画面が表示されます。



【4】「メールアドレスまたは電話番号」に登録した Google アカウントを入力します。
【5】［次へ］をクリックします。

【6】「パスワード」を入力します。

【7】［次へ］をクリックします。

⇒警告画面が表示されます。

【8】［詳細］をクリックします。

【9】［ドメイン（安全でないページ）に移動］をクリックします。

Google アカウントが「XXXXX@xxxxx.co.jp」の場合は、ドメインに「xxxxx.co.jp」と表示されます。

【10】［続行］をクリックします。

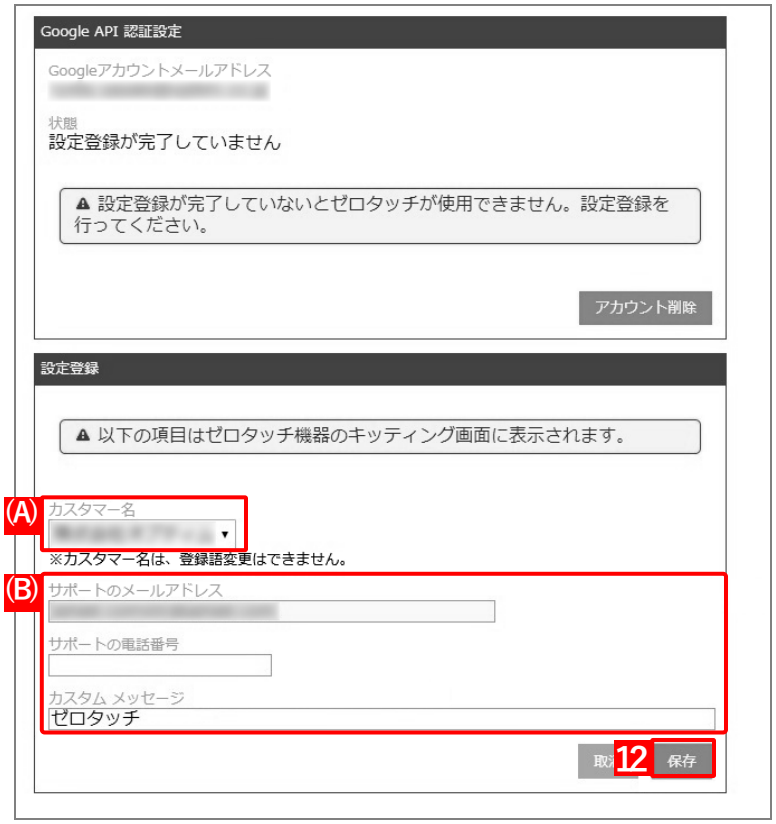
【11】設定登録を行います。［新規作成］をクリックします。

設定登録を行わないと、ゼロタッチ端末の同期処理ができません。(B)「状態」に「設定登録が完了していません」と表示されます。

(A)「Google アカウントメールアドレス」には、手順【4】で選択した Google アカウントが表示されます。

【12】［保存］をクリックします。

(A)「カスタマー名」は変更できません。(B)「サポートのメールアドレス」「サポートの電話番号」「カスタムメッセージ」は設定登録時にゼロタッチポータルで設定した内容が表示されます。変更する場合は、変更内容を入力してください。



⇒設定登録を行うと、利用登録画面が以下のように表示されます。

（A）「状態」に「使用可」と表示されます。

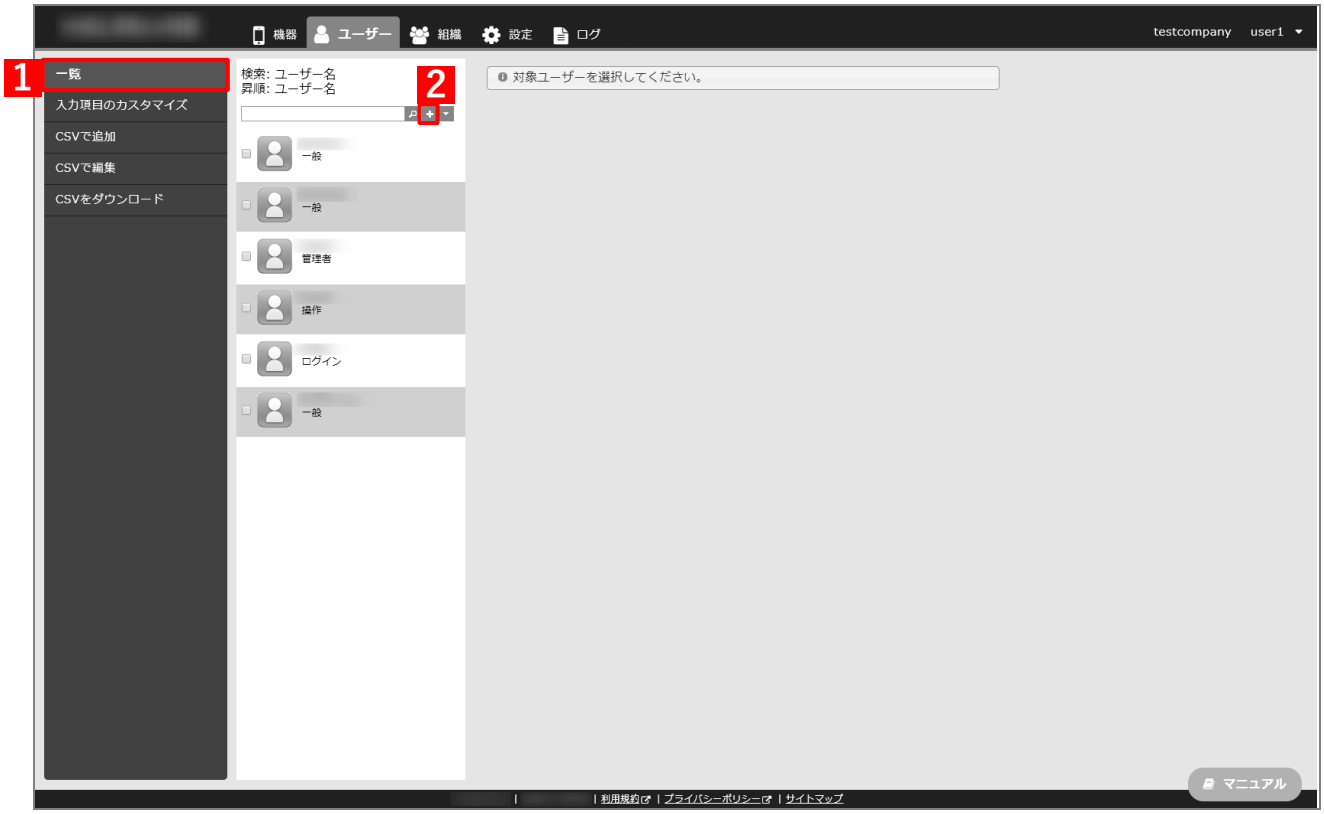
アカウント削除する場合は、（B）［アカウント削除］をクリックします。

設定登録時にゼロタッチポータルで設定した内容が表示されます。変更する場合は、（C）［編集］をクリックします。ただし、（D）「カスタマー名」は変更できません。

6.3 ユーザーを作成する

以下の手順で、ユーザーを作成します。

【1】［ユーザー］→［一覧］をクリックします。
【2】 をクリックします。



【3】「名前」に任意の名前を入力します。

その他の入力および設定項目の詳細については、以下を参照してください。

『管理サイト リファレンスマニュアル』の「ユーザー」－「一覧」－「ユーザーの作成」

【4】［保存］をクリックします。

⇒ユーザーが作成されます。

6.4 ゼロタッチ登録（Google アカウント利用）でキッティングする

以下の手順で、ゼロタッチ登録による端末のキッティングを行います。

管理サイトの「アプリケーション禁止」で「禁止するアプリケーション」、および「アプリケーション非表示」に「Google Play 開発者サービス（com.google.android.gms）」を設定していると、正常にキッティングが完了できない場合があります。以下を参照して、事前に設定を解除してから、キッティングを行ってください。

『管理サイト リファレンスマニュアル』の「設定－Android」－「アプリケーション」－「アプリケーション禁止」

『管理サイト リファレンスマニュアル』の「設定－Android」－「Device Owner Mode」－「アプリケーション非表示」

手順【9】の画面は、機種や OS によって表示されるタイミングが異なる場合があります。

【1】［始める］をタップします。

SIM を挿入している場合、モバイルネットワーク接続が開始されます。

【2】［スキップ］をタップします。

モバイルネットワークを利用する場合は、SIM を挿入してください。

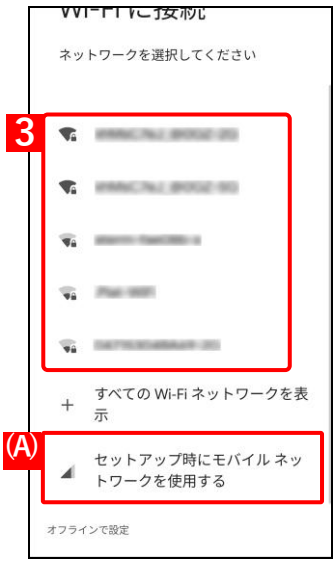
【3】接続したい Wi-Fi の SSID をタップして、Wi-Fi に接続してください。

⇒ネットワーク接続が開始されます。

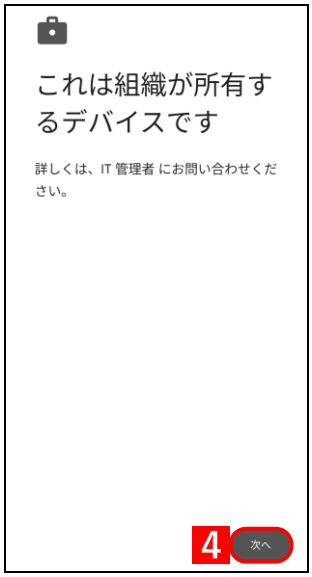
必ずネットワークに接続して、以降の手順を進めてください。ネットワークに接続していない場合は、ゼロタッチ登録サーバーと同期したとき端末が初期化されます。

「ゼロタッチ登録サーバーに同期する」185 ページ

モバイルネットワークを利用する場合は、(A)［セットアップ時にモバイルネットワークを使用する］をタップします。表示されるポップアップのメッセージを確認してください。

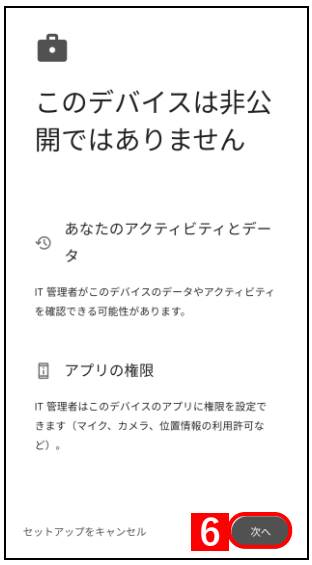


【4】［次へ］をタップします。



【5】［同意して続行］をタップします。

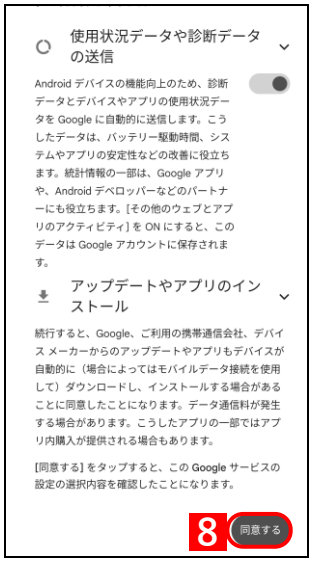
【6】［次へ］をタップします。



【7】［もっと見る］をタップします。

端末によっては［もっと見る］が数回表示されます。［同意する］が表示されるまで、［もっと見る］をタップします。

【8】［同意する］をタップします。

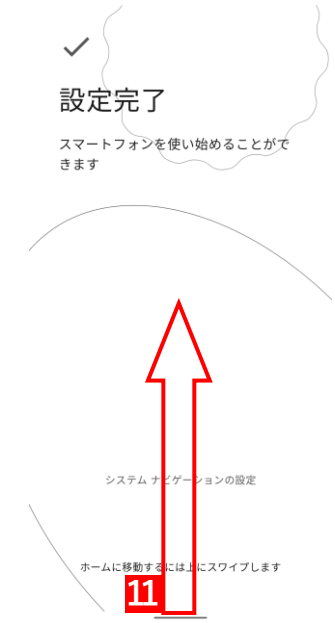


【9】［OK］をタップします。

【10】［スキップ］をタップします。

【11】画面下部からスワイプします。

⇒ホーム画面に移動します。



【12】［KDDI Safety Manager］をタップします。

ホーム画面にアイコンが表示されない場合は、アプリ一覧を確認してください。

【13】［ライセンス認証］をタップします。

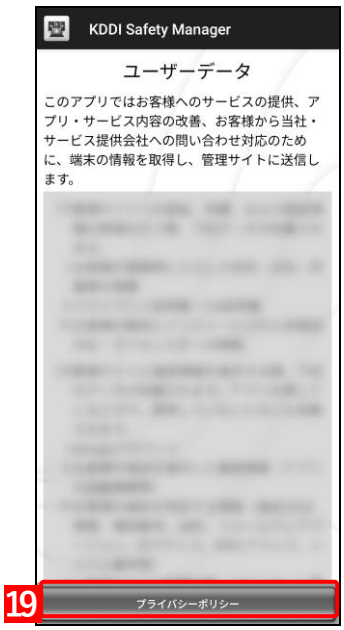
【14】［OK］をタップします。

【15】利用規約の［確認・同意］をタップします。

【16】「利用規約に同意する」にチェックを入れます。
【17】［OK］をタップします。

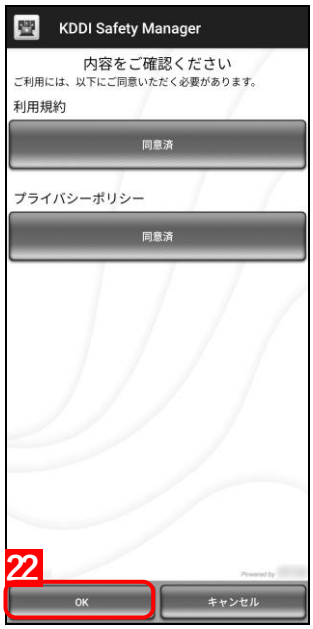
【18】プライバシーポリシーの［確認・同意］をタップします。

【19】ユーザーデータについて確認して、［プライバシーポリシー］をタップします。



【20】「プライバシーポリシーに同意する」にチェックを入れます。
【21】［OK］をタップします。

【22】［OK］をタップします。
⇒権限要求画面が表示されます。

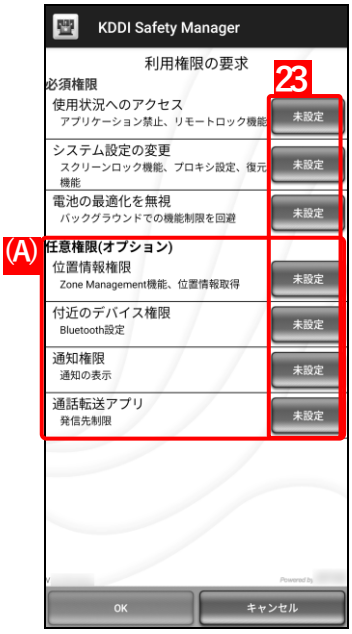


【23】画面の案内に従って設定を行ってください。

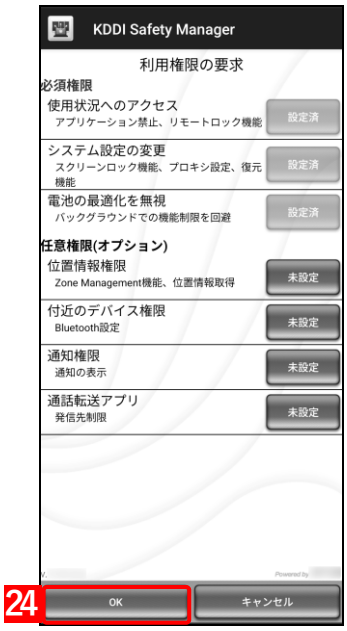
Android 12 以上でエージェントバージョン 9.14.0 以上の場合、（A）任意権限に「付近のデバイス権限」が表示されます。

Android 13 以上でエージェントバージョン 9.16.0 以上の場合、（A）任意権限に「通知権限」が表示されます。「ストレージ権限」は表示されません。

Android 10 以上でエージェントバージョン 9.22.0 以上の場合、（A）任意権限に「通話転送アプリ」が表示されます。



【24】［OK］をタップします。



【25】「認証コード」を入力します。

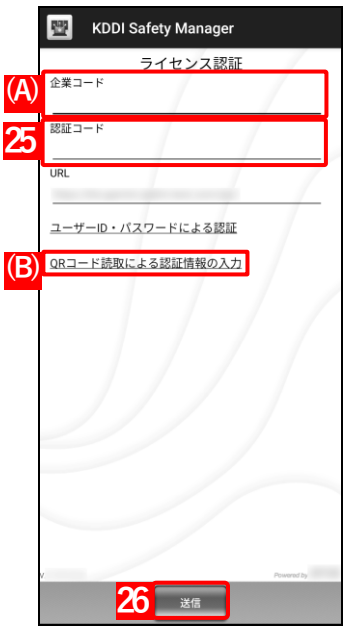
認証コードは管理者にお問い合わせください。

（A）「企業コード」は、自動で入力されています。

（B）［QR コード読取による認証情報の入力］をタップして、エージェント認証用 QR コードを読み取ると、「企業コード」、「認証コード」、「URL」が自動で入力されます。QR コードは、管理者にお問い合わせください。

【26】［送信］をタップします。

⇒ライセンス認証完了の画面が表示されます。

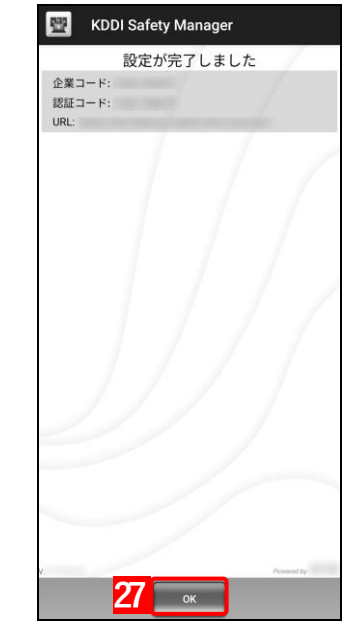


【27】［OK］をタップします。

⇒初期登録画面が表示されます。

手順【28】～【32】の初期登録画面は、管理サイトでポータル表示を「表示」に設定している場合のみ表示されます。

『管理サイト リファレンスマニュアル』の「サービス環境設定」－「ポータル表示」



【28】社員番号、姓、名を入力します。

【29】［次へ］をタップします。

⇒機器にユーザーが紐づきます。

登録したユーザーを変更することはできません。

すでにユーザーが端末に紐づけられている場合は、ユーザーが紐づけられているメッセージが表示されます。

ユーザー情報の登録が不要の場合は、（A）［閉じる］をタップするか、端末の戻るボタンで画面を閉じてください。

【30】必要事項を選択、入力します。

【31】［次へ］をタップします。

あらかじめ、管理サイトの［入力項目のカスタマイズ］で入力項目を追加してください。追加するとき、「機器から入力可」にチェックを入れてください。チェックが入っていない場合は、項目が表示されません。

『管理サイト リファレンスマニュアル』の「機器」―「入力項目のカスタマイズ」

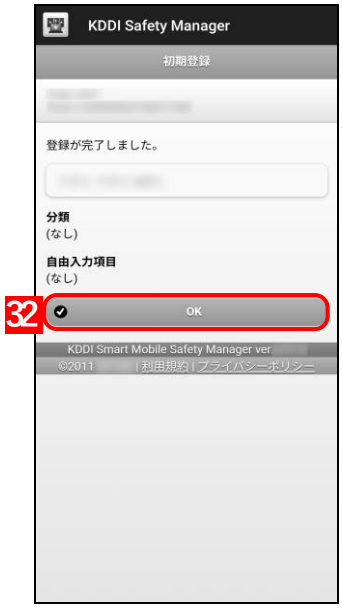
管理サイトの［入力項目のカスタマイズ］で設定した内容により、画面に表示される「分類」と「自由入力項目」の内容が異なります。

機器情報の登録が不要の場合は、(A)［閉じる］をタップするか、端末の戻るボタンで画面を閉じてください。

【32】［OK］をタップします。

⇒キッティングおよびライセンス認証が完了しました。 以下に進んでください。

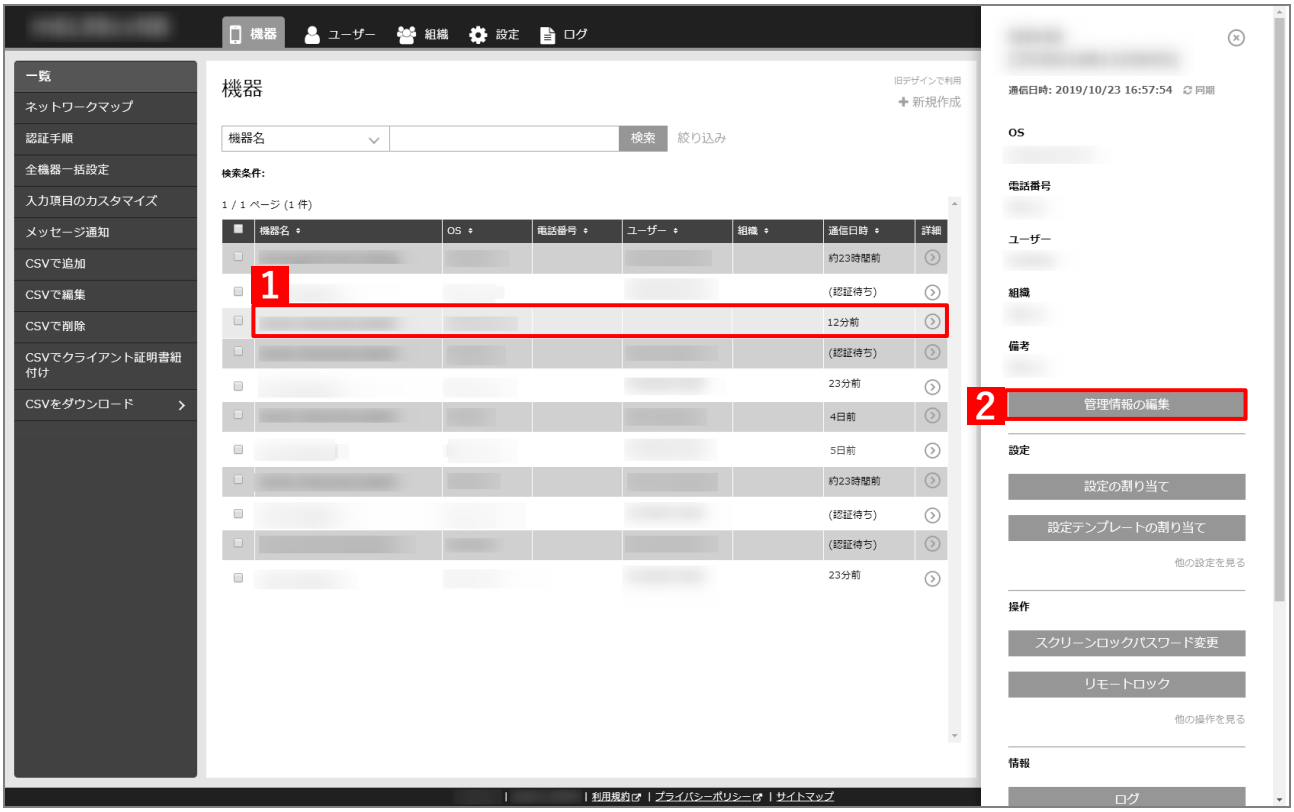
「端末にユーザーを割り当てる」182 ページ



6.5 端末にユーザーを割り当てる

以下の手順で、「ユーザーを作成する」で作成したユーザーを対象端末に割り当てます。

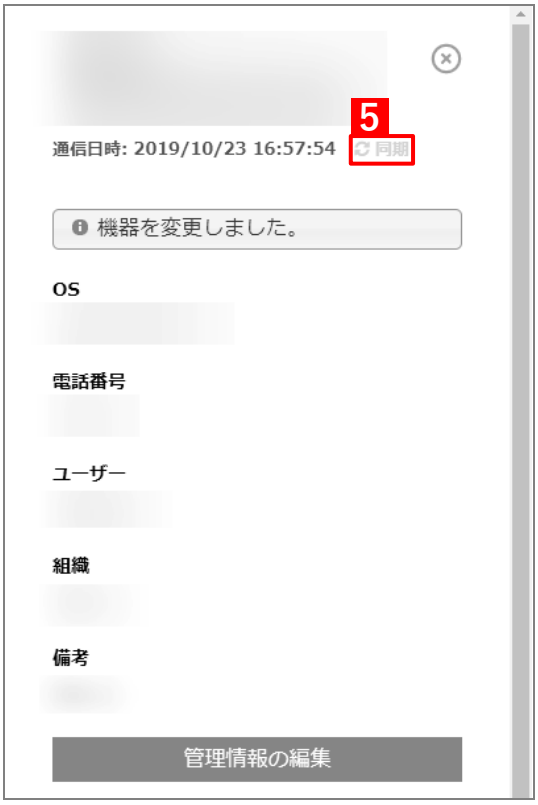
【1】［機器］→［一覧］→ 一覧から対象端末をクリックします。
【2】［管理情報の編集］をクリックします。



【3】「所属」の「ユーザー」を選択し、プルダウンメニューから「ユーザーを作成する」で選択したユーザーを指定します。

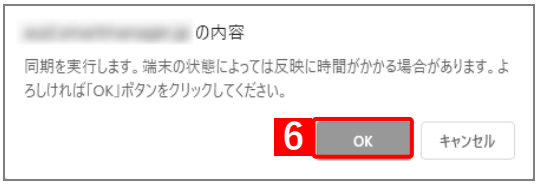
【4】［保存］をクリックします。

【5】［同期］をクリックします。



【6】［OK］をクリックします。

⇒端末にユーザーが割り当てられます。



6.6 ゼロタッチ登録サーバーに同期する

以下の手順でゼロタッチ登録サーバーとの同期を行い、管理サイトに端末の情報を表示させます。

ネットワークに接続しないでキッティングを行った端末は、ゼロタッチ登録サーバーと同期すると初期化されます。必ずネットワークに接続してキッティングを行った端末で、ゼロタッチ登録サーバーと同期してください。

事前に各機能の設定を登録しておくと、キッティングと同時に端末に機能が割り当てられます。機能の設定方法は、以下を参照してください。

『管理サイト リファレンスマニュアル』の「設定－Android」

【1】［設定］→［Android］→［ゼロタッチ登録］→［機器一覧］をクリックします。

【2】［ゼロタッチ登録サーバ同期］をクリックします。

ゼロタッチ機器一覧で表示されたゼロタッチ端末は、機器画面の機器一覧で、認証待ち機器として表示されます。

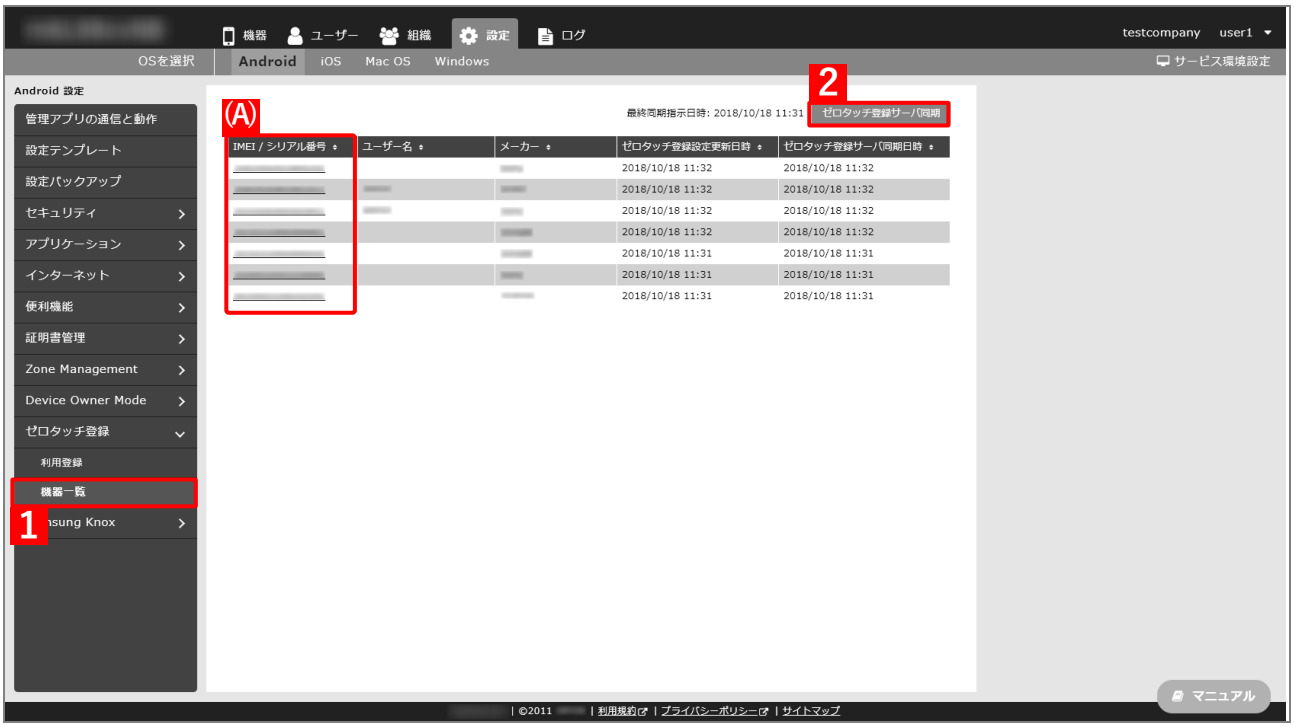
『管理サイト リファレンスマニュアル』の「機器」－「一覧」－「機器一覧」

ゼロタッチ機器一覧では、機器の削除はできないので、機器画面の機器一覧から削除してください。機器画面の機器一覧で削除したら、ゼロタッチ機器一覧からも削除されます。

『管理サイト リファレンスマニュアル』の「機器」－「一覧」－「機器の個別削除」

機器画面からゼロタッチ端末の新規作成は行わないでください。

（A）［IMEI/シリアル番号］をクリックすると、機器画面の機器一覧が表示されます。



7 Google Workspace アカウントでゼロタッチ登録を利用して Android Enterprise 連携を行う

ゼロタッチ登録とは、エージェントのキッティング方法の 1 つです。この方法ではキッティング手順が省略化され、大規模な端末の導入を簡単かつ迅速に行うことができます。ゼロタッチ登録端末には、エージェントが自動的に Device Owner Mode としてインストールされるため、よりセキュアな端末管理が可能です。

ゼロタッチサーバーとの連携を行うと、自動的に本製品の機器一覧に事前機器として端末が表示されます。これらの端末にあらかじめ設定ポリシーを割り当ててからアクティベーションすると、すぐに設定が適用されます。

注意

- ゼロタッチ登録の詳細については、以下を参照してください。

  https://www.android.com/intl/ja_jp/enterprise/management/zero-touch/

- ゼロタッチ登録専用アカウントについては、端末の購入元にお問い合わせください。
- モバイルネットワークが利用できるゼロタッチ登録に対応した端末を、事前に用意してください。Wi-Fi 専用端末は、本製品に対応していません。
- 以下の項目は、初回のキッティング時のみ必要な操作です。

  「トークンを発行する」187 ページ

  「Google Workspace アカウントを登録する」193 ページ

参考

- あらかじめ管理サイトで Android Enterprise の「アプリケーション配信」機能を設定しておくと、キッティングの完了後、ライセンス認証と同時に特定のアプリを端末に配信できます。アプリケーション配信の詳細については、以下を参照してください。

  『Android Enterprise アプリケーション配信 手順書』の「アプリをインストールする」

7.1 トークンを発行する

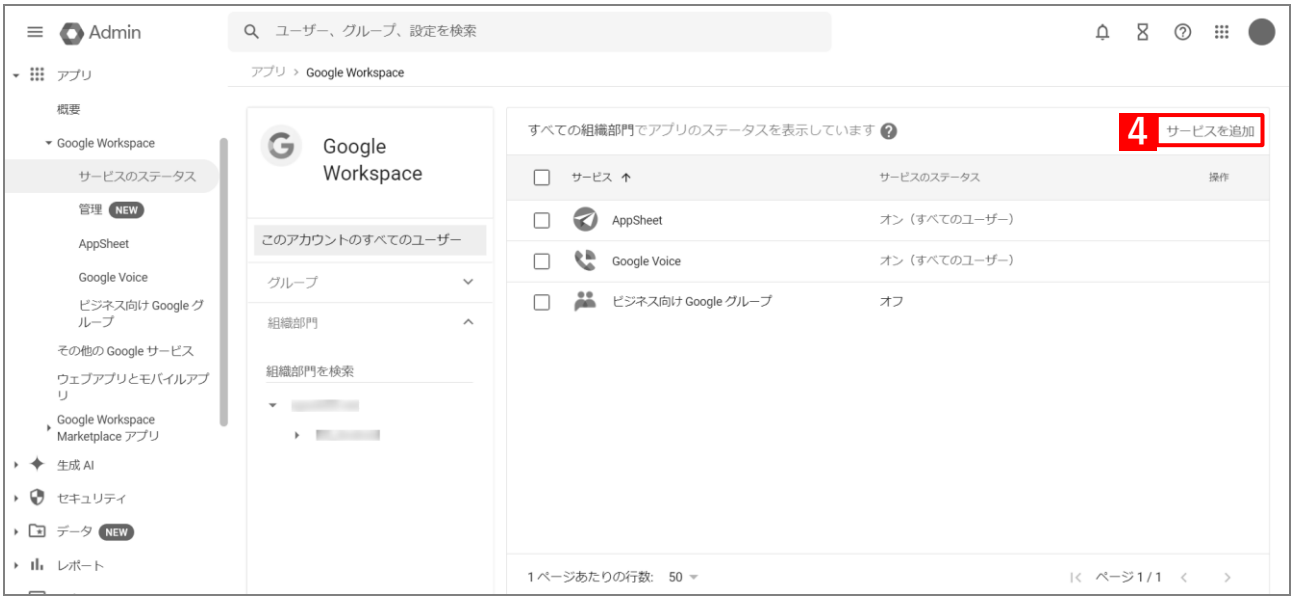
以下の手順で、Google Workspace アカウントを利用して本製品と Google 間の連携設定を行います。

【1】Google 管理コンソール（https://admin.google.com）を表示します。

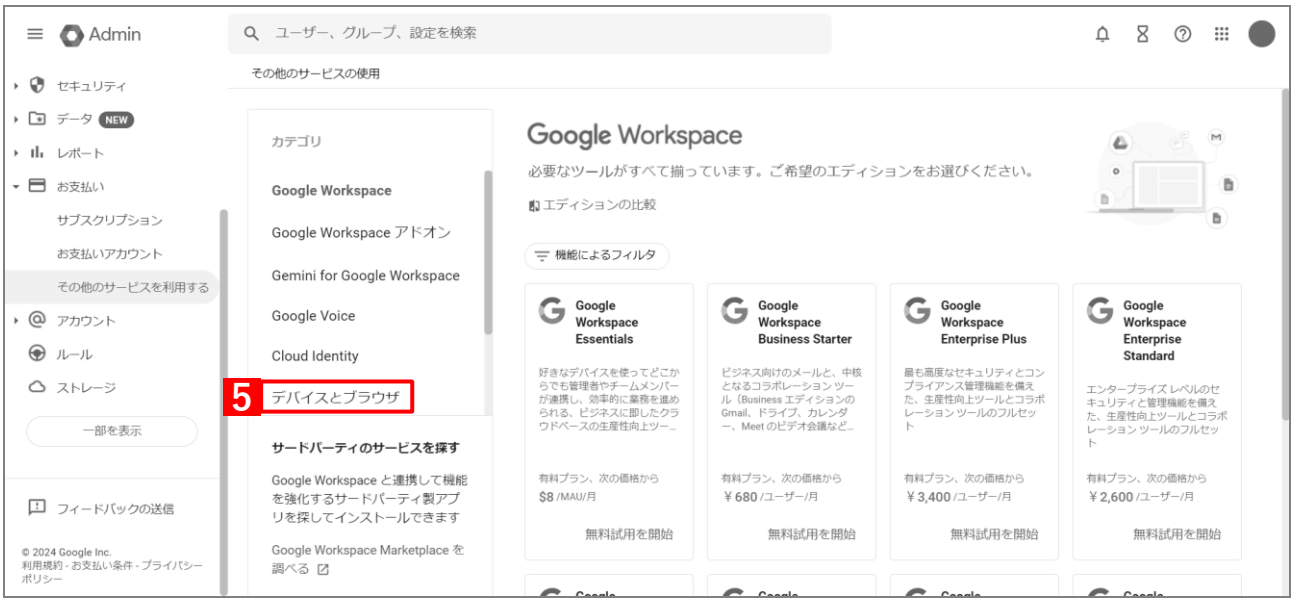
【2】［アプリ］をクリックします。

【3】［Google Workspace］をクリックします。

【4】［サービスを追加］をクリックします。



【5】［デバイスとブラウザ］をクリックします。



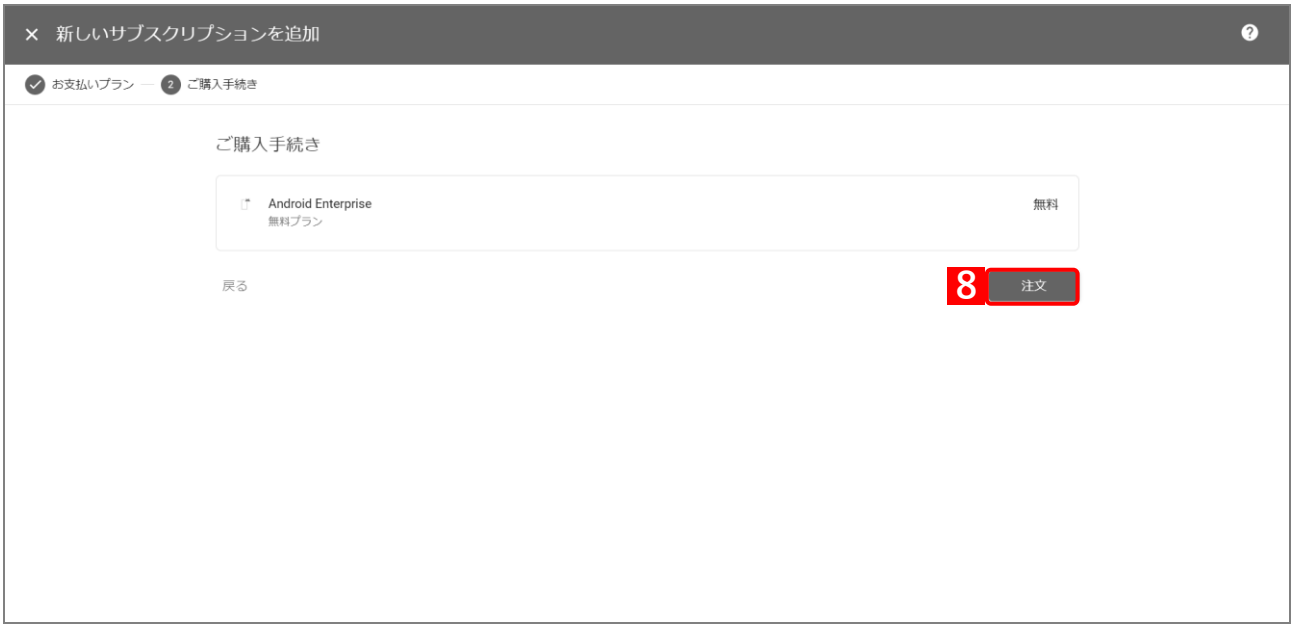
【6】「Android Enterprise」の［開始］をクリックします。

本操作により、料金が発生することはありません。

【7】［ご購入手続き］をクリックします。

【8】［注文］をクリックします。

⇒管理コンソールが表示されます。

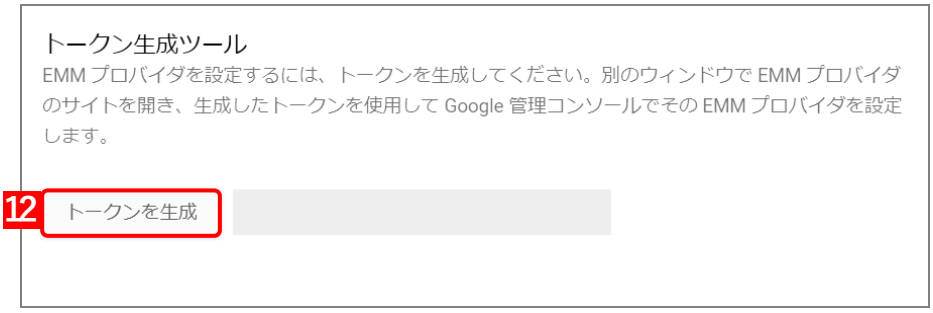


【9】［×］をクリックします。

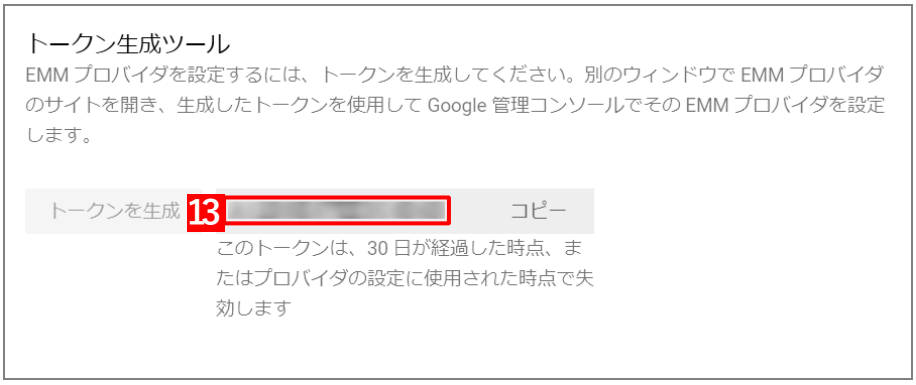
【10】［デバイス］→［モバイルとエンドポイント］→［設定］→［サードパーティとの連携］をクリックします。

【11】［Android EMM］の［EMM プロバイダを追加］をクリックします。

【12】［トークンを生成］をクリックします。



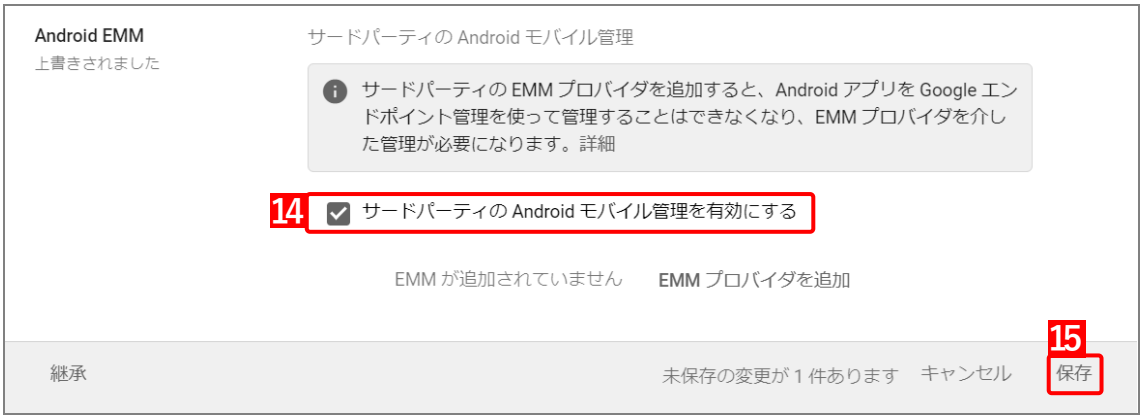
【13】トークンが表示されます。アカウント登録に必要となりますのでメモしてください。



【14】「Android EMM」の「サードパーティの Android モバイル管理を有効にする」にチェックを入れます。

【15】［保存］をクリックします。

［保存］をクリックすると、メッセージ画面が表示される場合があります。［×］でメッセージ画面を閉じてください。



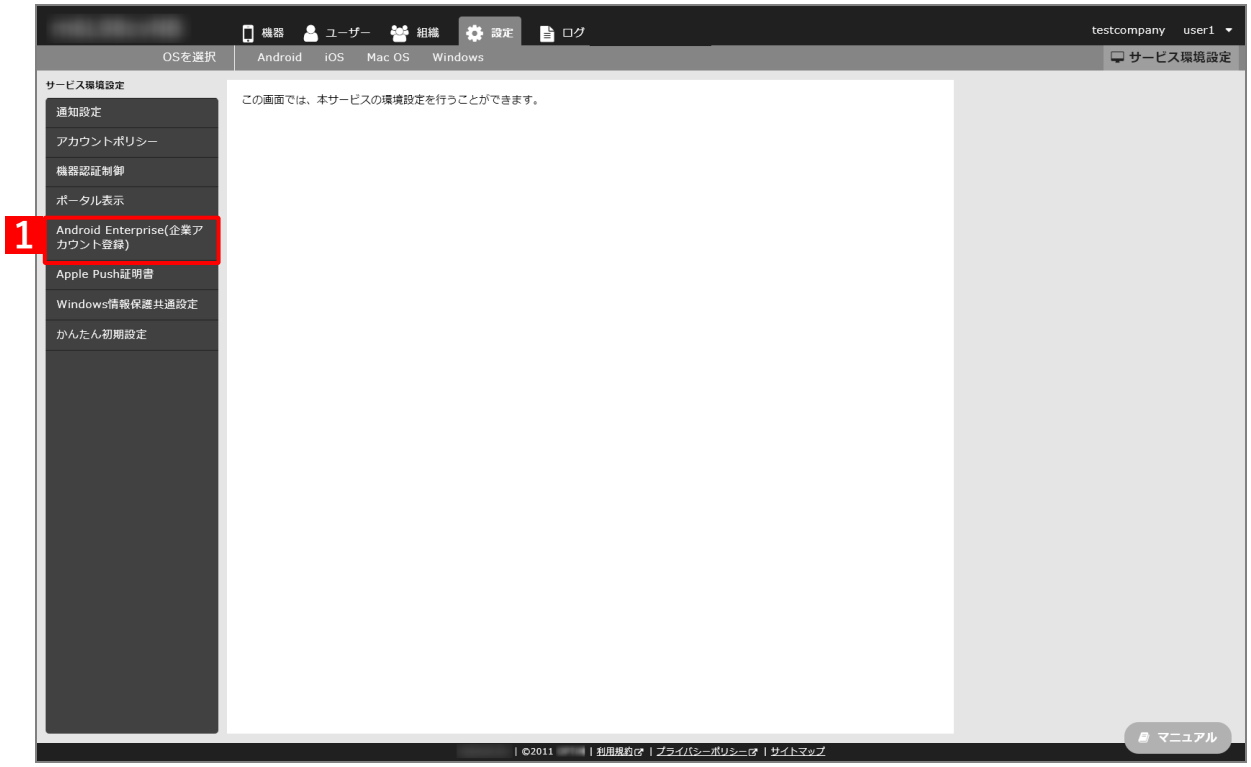
7.2 Google Workspace アカウントを登録する

以下の手順で、管理サイトに Google Workspace アカウントを登録します。

Google Workspace アカウントを登録後は、Google 側の設定変更は行わないでください。

Google Workspace 標準の「モバイル管理機能」を使っていた場合はモバイル管理機能の「端末」情報を削除してください。

【1】［設定］→［サービス環境設定］→［Android Enterprise（企業アカウント登録）］をクリックします。



【2】「Google Workspace アカウント」を選択します。

「アカウント種別」の初期値は「Google Workspace アカウント」が選択されています。

（A）「状態」は「未登録」と表示されています。

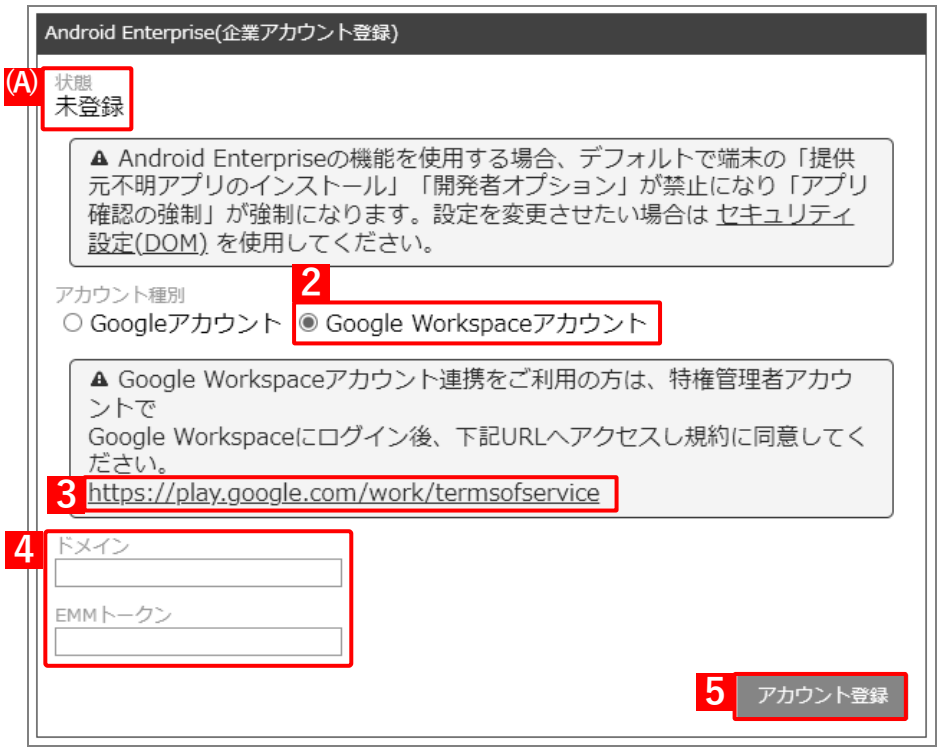
【3】https://play.google.com/work/termsofservice にアクセスして、利用規約に同意します。

【4】「ドメイン」、「EMM トークン」を入力します。

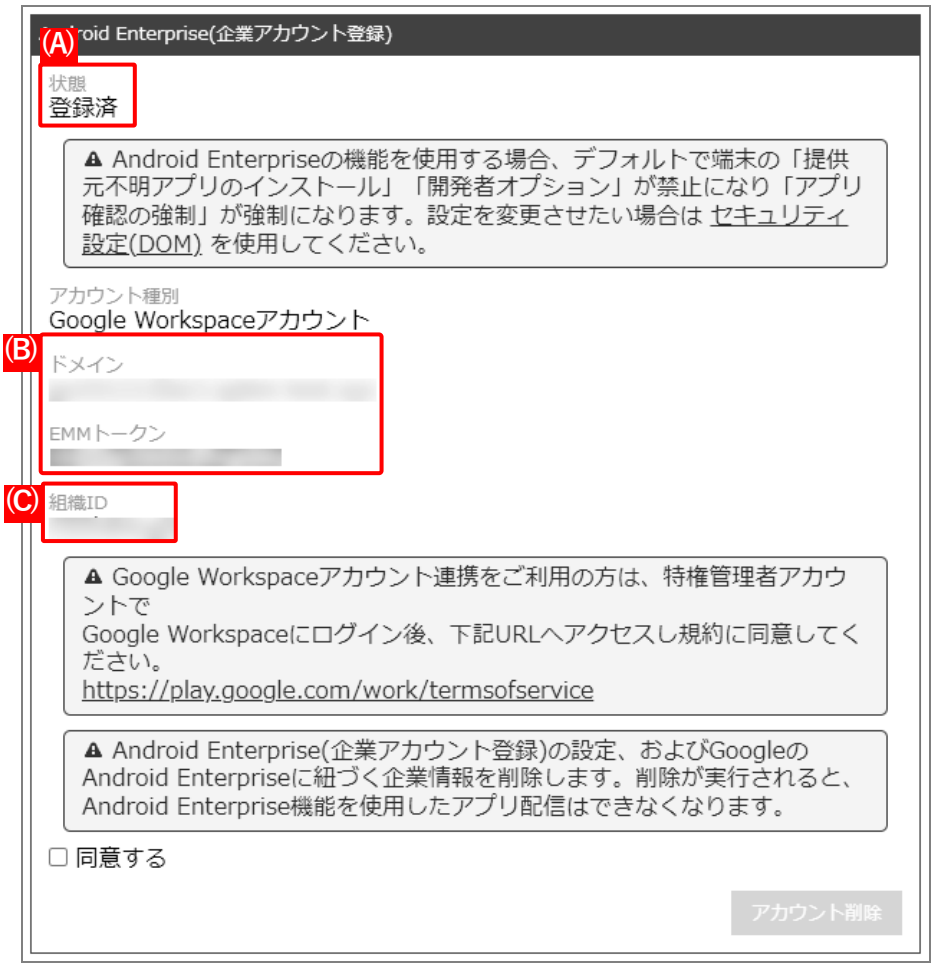
「ドメイン」には、契約している Google Workspace アカウントのドメインを入力してください。Google Workspace アカウントが「XXXXX@xxxxx.co.jp」の場合は、ドメインは「xxxxx.co.jp」になります。

【5】［アカウント登録］をクリックします。

⇒アカウント登録済みの画面が表示されます。



（A）「状態」は「登録済」と表示されています。
（B）手順【4】で入力した「ドメイン」、「EMM トークン」が表示されています。
（C）「組織 ID」に managed Google Play ストアでの組織の一意の識別子が表示されています。



【6】Google 管理コンソール（https://admin.google.com）を表示します。

【7】［デバイス］→［モバイルとエンドポイント］→［設定］→［サードパーティとの連携］をクリックします。

【8】「Android EMM」の「EMM プロバイダ」を選択します。
【9】［保存］をクリックします。

7.3 Google API の認証設定を行う

管理サイトから Google アカウントを会社用メールアドレスに関連付け、JSON ファイルの作成と認証を行います。

ゼロタッチ端末を Google Workspace アカウントで利用する場合は、本製品と Google Workspace アカウントの連携設定が必要です。Google API の認証設定後に Google Workspace アカウントの連携設定はできません。そのため、必ずあらかじめ以下の操作を行ってください。

「トークンを発行する」187 ページ

「Google Workspace アカウントを登録する」193 ページ

7.3.1 メールアドレスを Google アカウントとして登録する

会社または組織用のメールアドレスを Google アカウントとして利用できます。

管理対象端末全台分を行う必要はありません。管理用のメールアドレスを 1 つ用意してください。管理者個人のメールアドレスではなく、管理担当部署のメーリングリストなどを推奨します。

利用する Google アカウントがすでにブラウザーに登録されている場合は、本操作は不要です。

【1】［設定］→［Android］→［ゼロタッチ登録］→［利用登録］をクリックします。

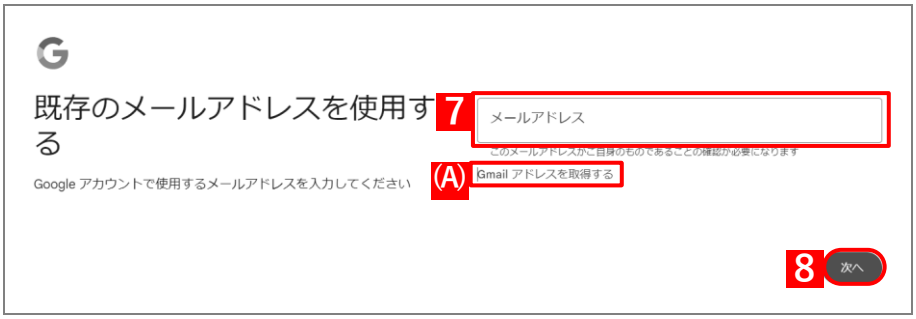
【2】［Google アカウント登録］をクリックします。

⇒Google アカウント作成画面が表示されます。

【3】「姓」「名」を入力します。
【4】［次へ］をクリックします。

【5】「生年月日」「性別」を入力します。
【6】［次へ］をクリックします。

【7】企業ドメインの「メールアドレス」を入力します。
（A）［Gmail アドレスを取得する］は、クリックしないでください。
【8】［次へ］をクリックします。



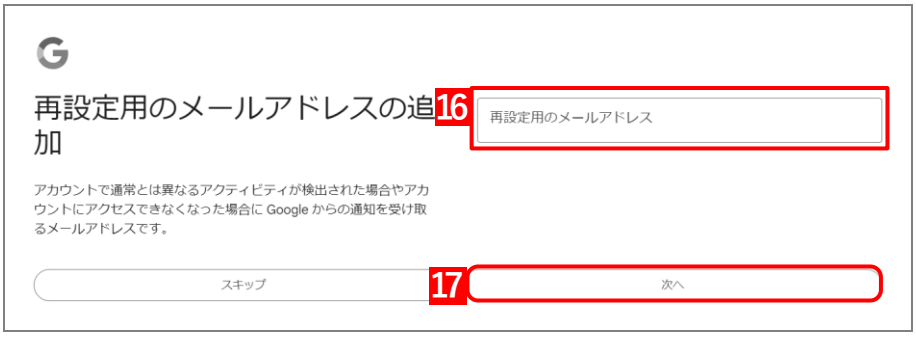
【9】「パスワード」「確認」を入力します。
【10】［次へ］をクリックします。

【11】「電話番号」を入力します。
【12】［次へ］をクリックします。

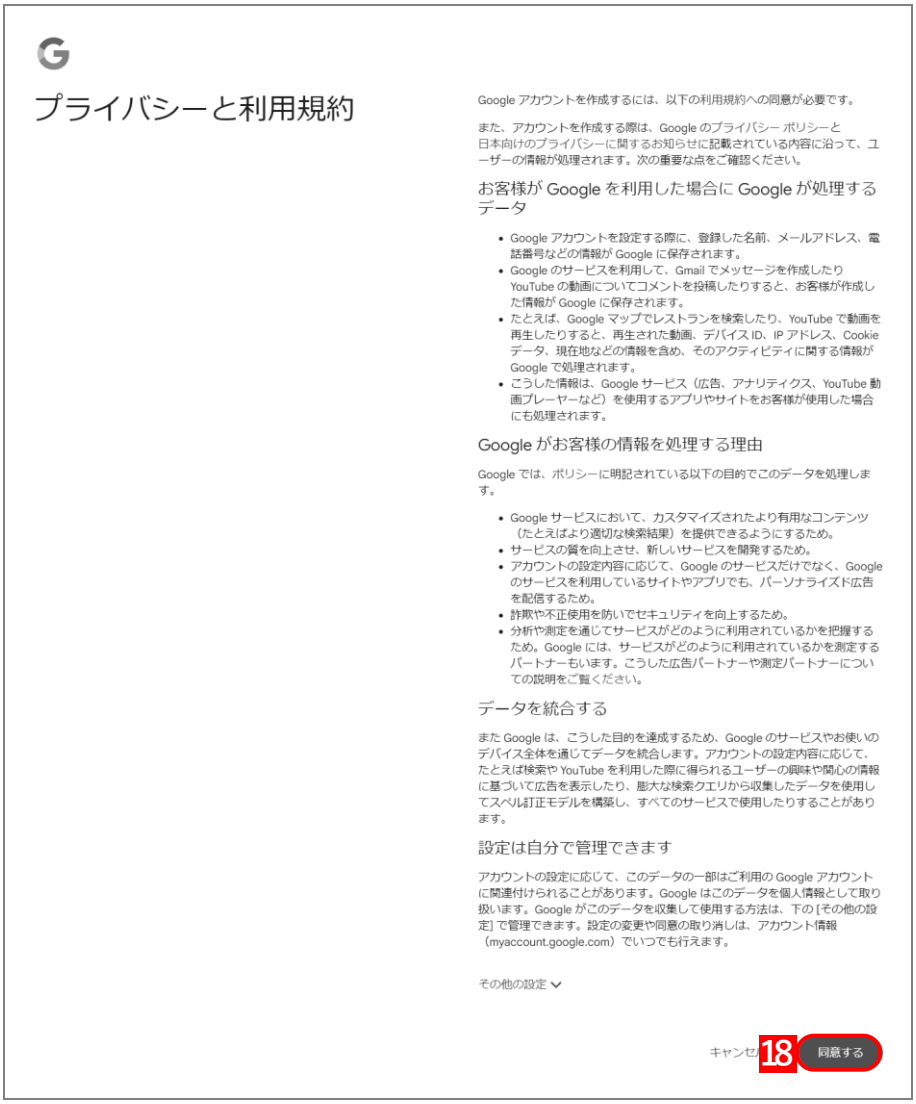
【13】［次へ］をクリックします。

【14】「コードを入力」に、手順【7】で入力したメールアドレス宛に送られた確認コードを入力します。
【15】［次へ］をクリックします。

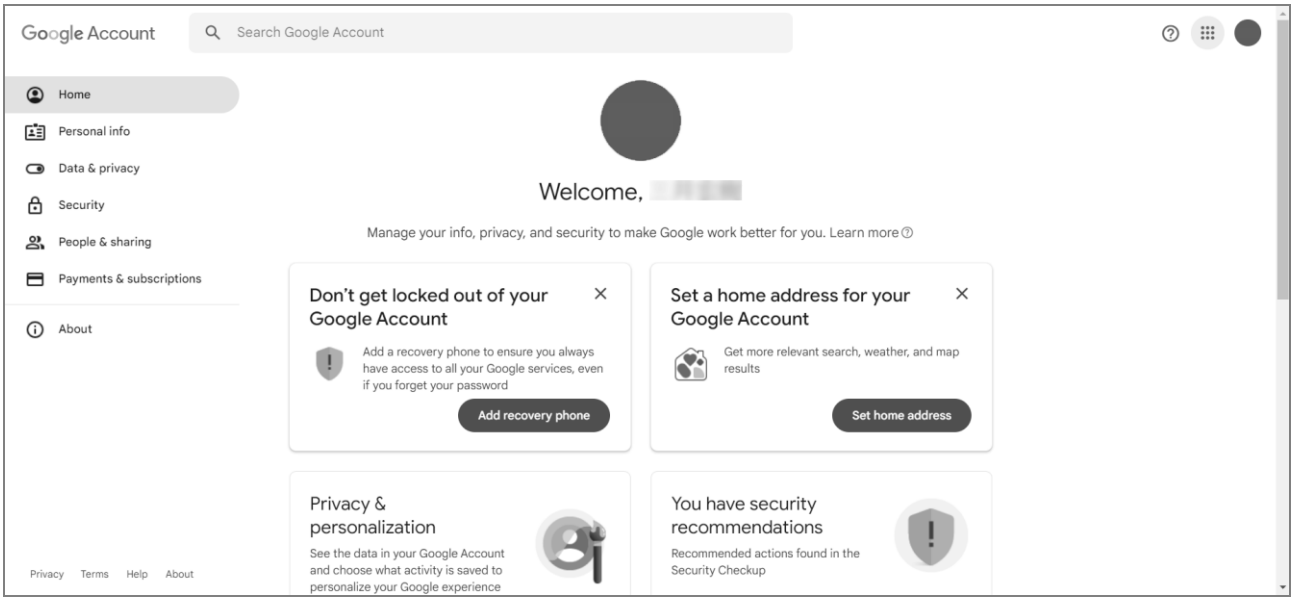
【16】「再設定用のメールアドレス」を入力します。
【17】［次へ］をクリックします。



【18】利用規約を確認して、［同意する］をクリックします。



⇒以下の画面が表示されます。登録が完了しました。



7.3.2 ゼロタッチポータルにログインする

登録した Google アカウントを端末の購入元に連絡し、ゼロタッチポータルにログインできるように依頼します。

詳細については、端末の購入元にお問い合わせください。

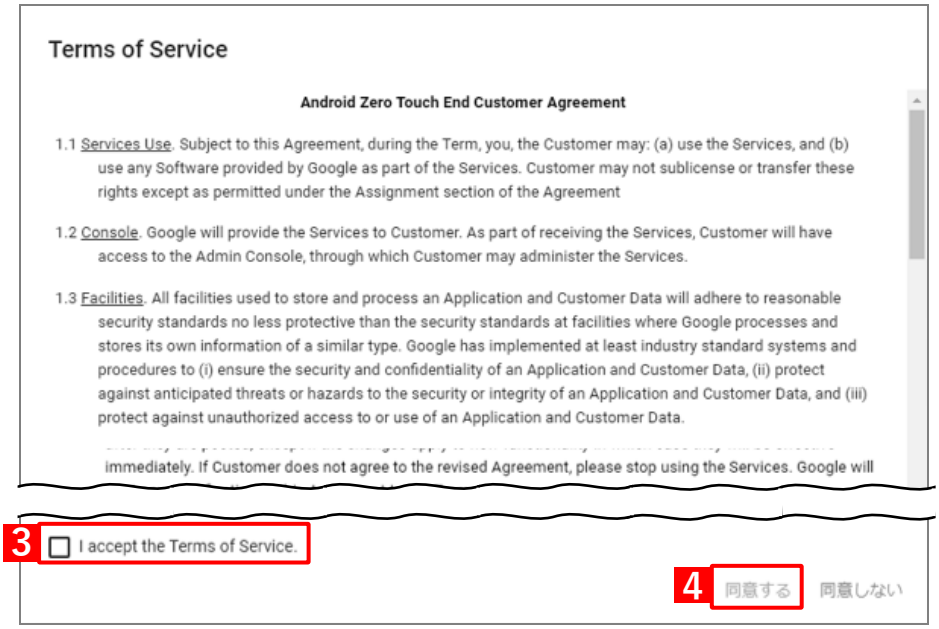
7.3.3 利用規約に同意する

ゼロタッチポータルにログインして、利用規約に同意してください。

【1】［ゼロタッチポータル］をクリックします。

【2】登録した Google アカウントを選択します。

【3】「I accept the Terms of Service.」にチェックを入れます。
【4】［同意する］をクリックします。



7.3.4 API 設定および JSON ファイルのダウンロードを行う

Google Cloud Platform で Android Device Provisioning Partner API の登録を行い、JSON ファイルをダウンロードします。

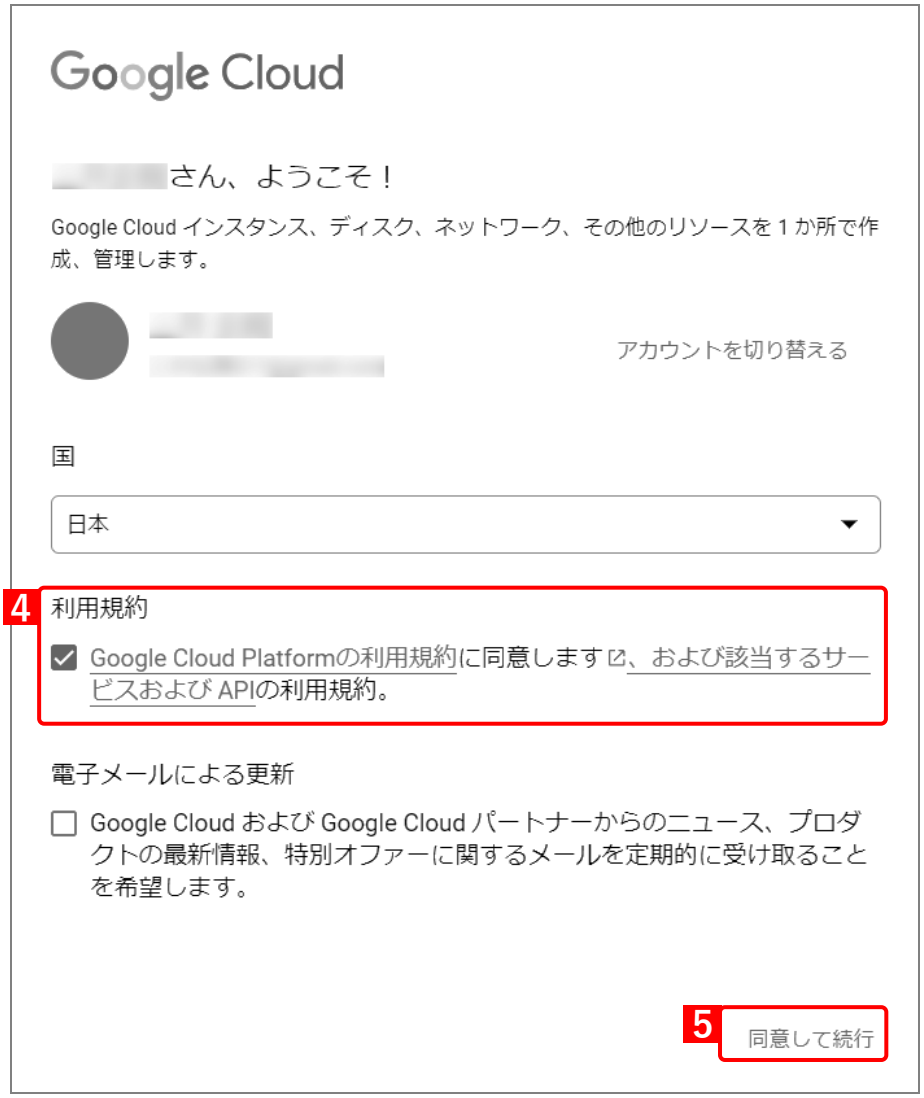
【1】［設定］→［Android］→［ゼロタッチ登録］→［利用登録］をクリックします。
【2】［Android Device Provisioning Partner API の登録］をクリックします。

【3】関連付けした「メールアドレス」を選択します。

【4】「利用規約」にチェックを入れます。

【5】［同意して続行］をクリックします。

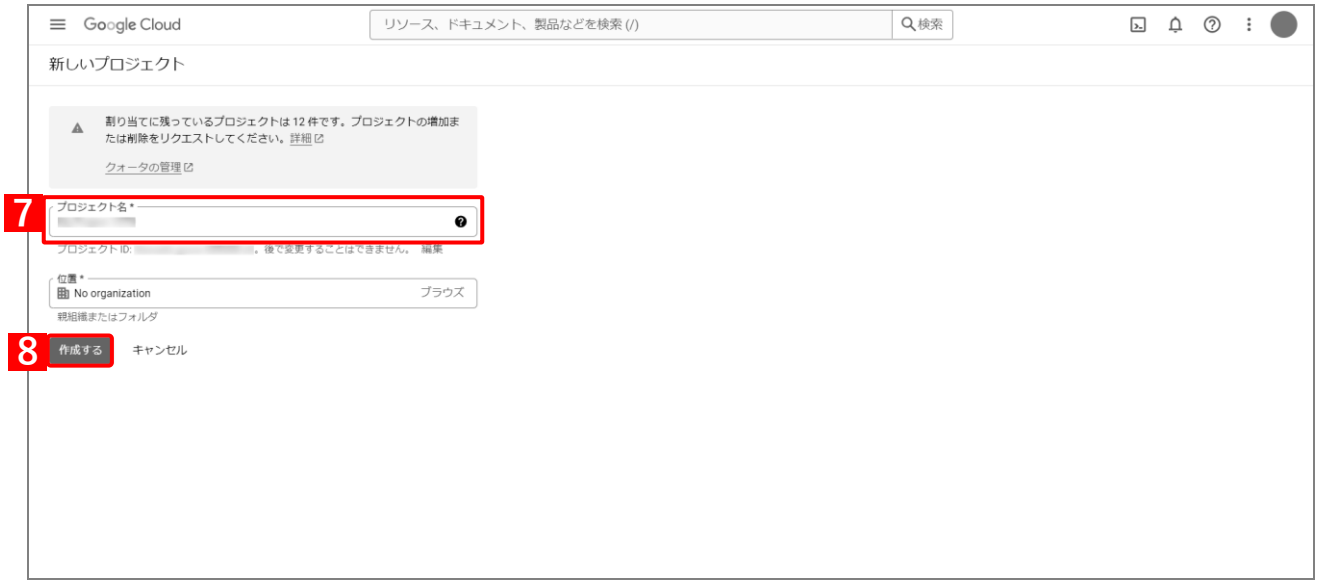
本画面は、初回ログイン時のみ表示されます。



【6】［プロジェクトを作成］をクリックします。

【7】任意の「プロジェクト名」を入力します。

【8】［作成する］をクリックします。



【9】［次］をクリックします。

【10】［有効にする］をクリックします。

⇒Android Device Provisioning Partner API が有効になります。

【11】［Google Cloud］をクリックします。

【12】［API とサービス］→［有効な API とサービス］をクリックします。

【13】［認証情報］をクリックします。

【14】［同意画面を構成］をクリックします。

【15】［作成］をクリックします。

（A）「User Type」を選択する必要はありません。「User Type」の詳細については、Google にお問い合わせください。

【16】「アプリ名」に「SMSM」と入力します。

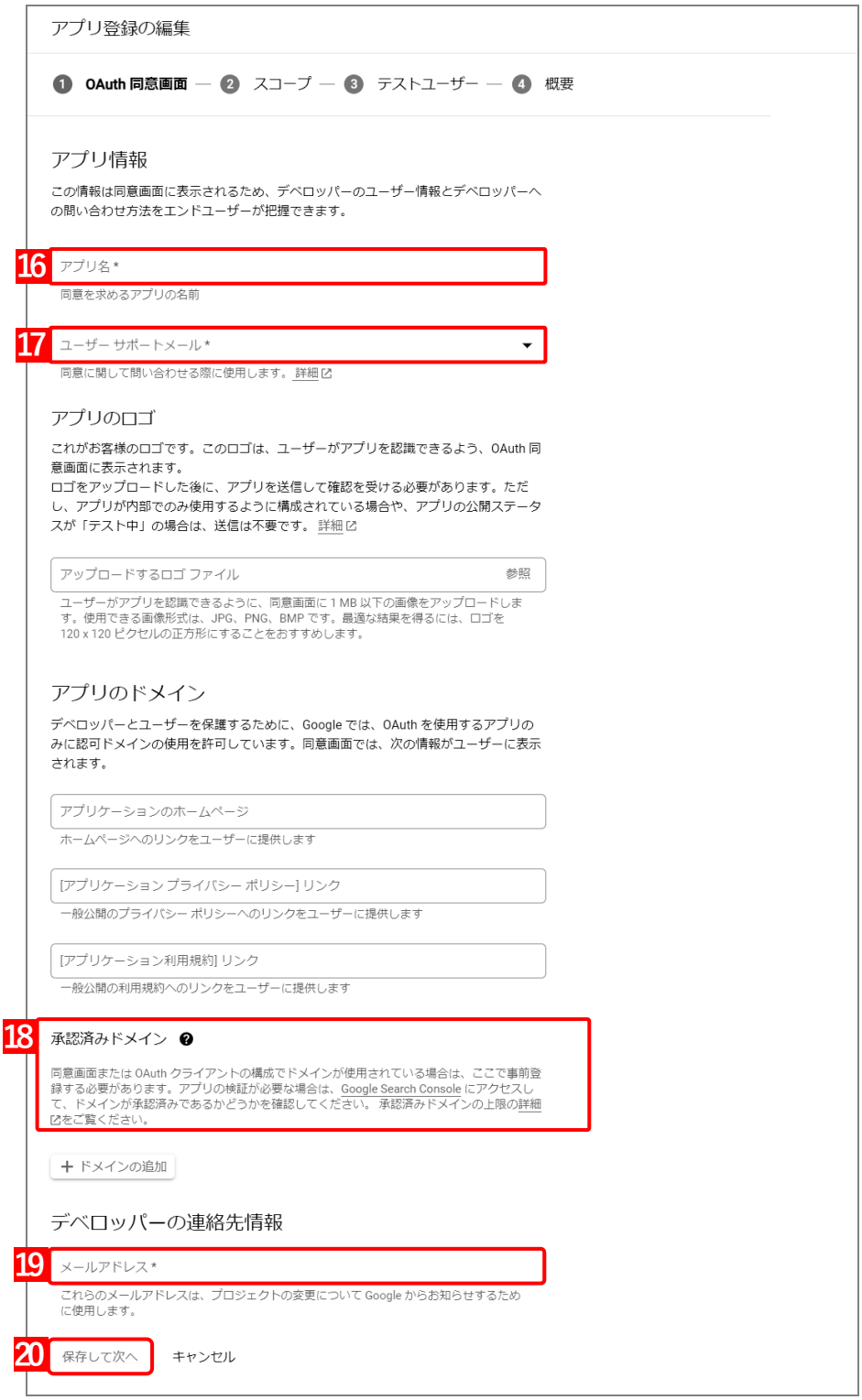
【17】「ユーザー サポートメール」をクリックして、メールアドレスを選択します。

【18】「承認済みドメイン」に「smartmanager.jp」と入力して、キーボードの〈Enter〉キーを押します。

〈Enter〉キーを押したあと、自動的にドメイン名が変更される場合があります。

【19】「デベロッパーの連絡先情報」にメールアドレスを入力します。

【20】［保存して次へ］をクリックします。



【21】［保存して次へ］をクリックします。

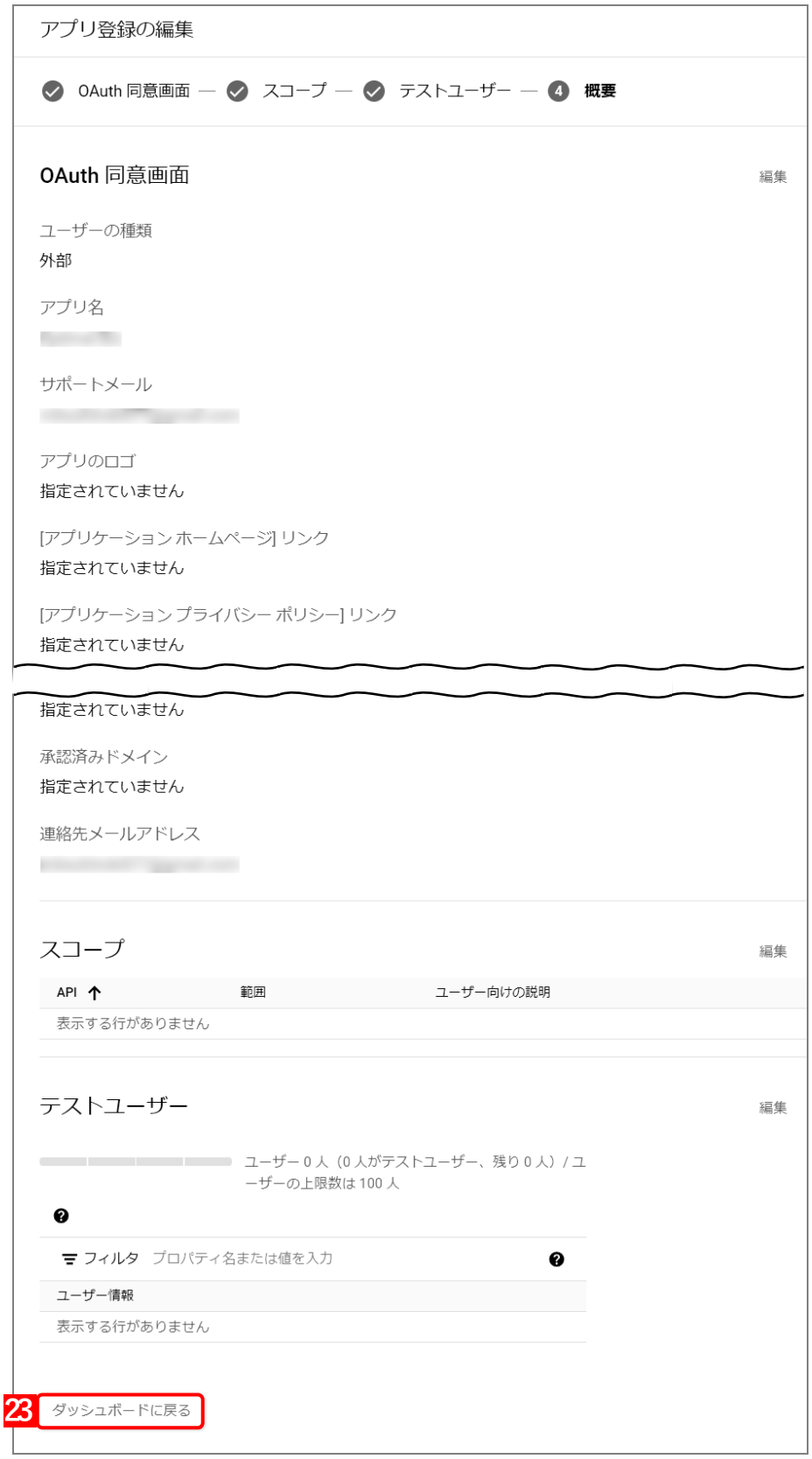
スコープの追加は、不要です。

【22】［保存して次へ］をクリックします。

テストユーザーの追加は、不要です。

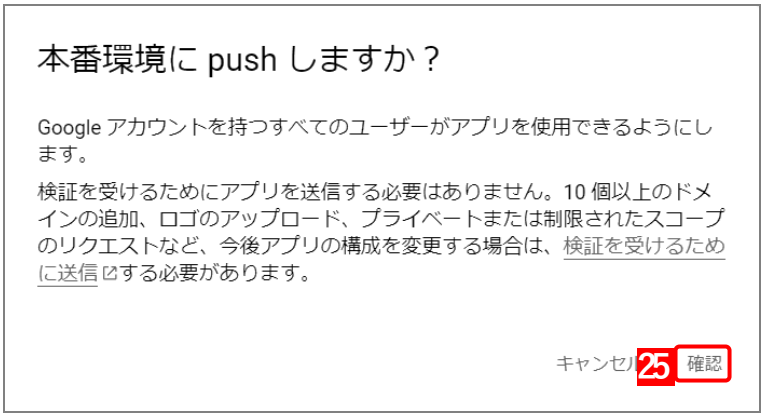
【23】設定内容を確認して、［ダッシュボードに戻る］をクリックします。

⇒OAuth 同意画面が表示されます。



【24】［アプリ公開］をクリックします。

【25】メッセージを確認して、［確認］をクリックします。



【26】公開ステータスが「本番環境」になっていることを確認します。

【27】［認証情報］をクリックします。

【28】［認証情報を作成］をクリックします。

【29】「OAuth クライアント ID」を選択します。

【30】「アプリケーションの種類」のプルダウンメニューから［ウェブアプリケーション］を選択します。

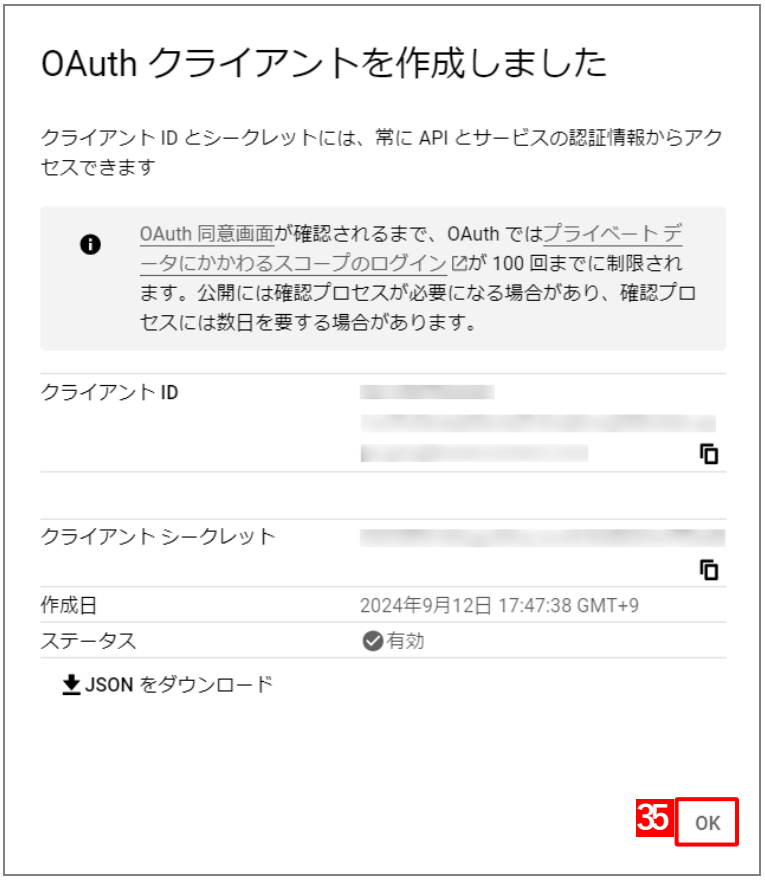
【31】任意で「名前」を入力します。
【32】「承認済みリダイレクト URI」の［URI を追加］をクリックします。

【33】「URI」に「https://ausl.smartmanager.jp/company1/android_emm_zero_touch_auth/callback」と入力します。（※「company1」に当たる部分には、企業コードを入力してください。）

警告メッセージが表示された場合は、手順【18】で「承認済みドメイン」を正しく入力しているか確認してください。

【34】［作成］をクリックします。

【35】［OK］をクリックします。

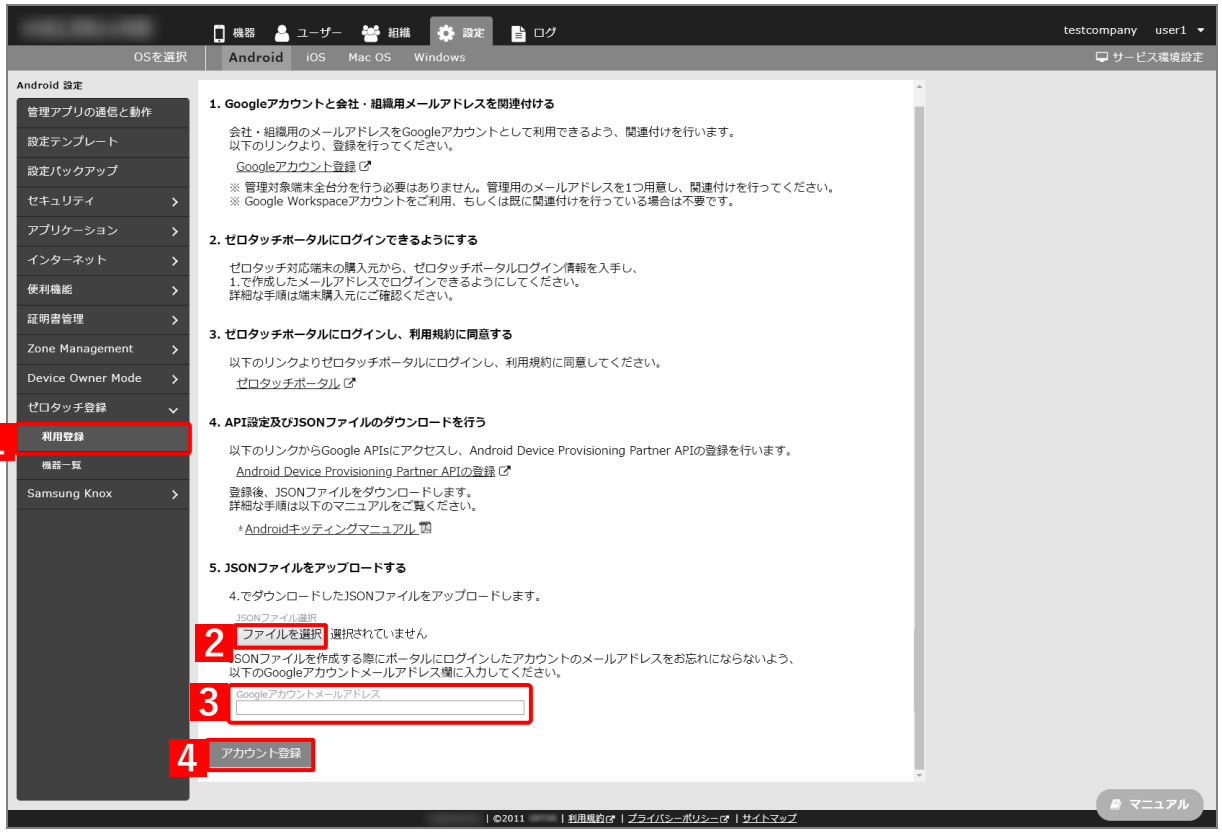


【36】ダウンロードアイコンをクリックして、JSON ファイルをダウンロードします。

7.3.5 JSON ファイルをアップロードする

Google APIs でダウンロードした JSON ファイルを管理サイトにアップロードし、機器情報を登録します。

【1】［設定］→［Android］→［ゼロタッチ登録］→［利用登録］をクリックします。
【2】［ファイル選択］をクリックし、ダウンロードした JSON ファイルを選択します。
【3】「Google アカウントメールアドレス」を入力します。
【4】［アカウント登録］をクリックします。
⇒Google のログイン画面が表示されます。

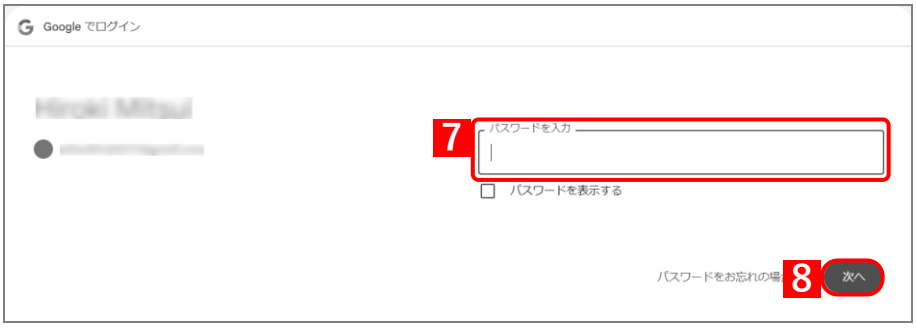


【5】「メールアドレスまたは電話番号」に登録した Google アカウントを入力します。
【6】［次へ］をクリックします。

【7】「パスワード」を入力します。

【8】［次へ］をクリックします。

⇒警告画面が表示されます。

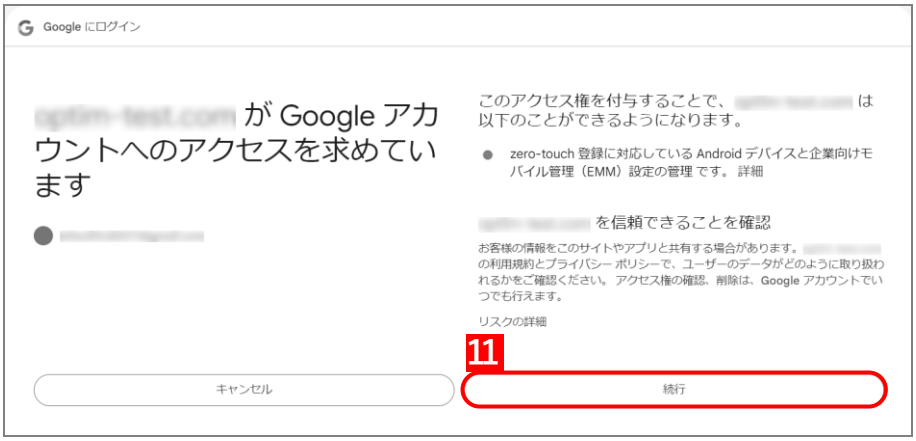


【9】［詳細］をクリックします。

【10】［ドメイン（安全でないページ）に移動］をクリックします。

Google アカウントが「XXXXX@xxxxx.co.jp」の場合は、ドメインに「xxxxx.co.jp」と表示されます。

【11】［続行］をクリックします。



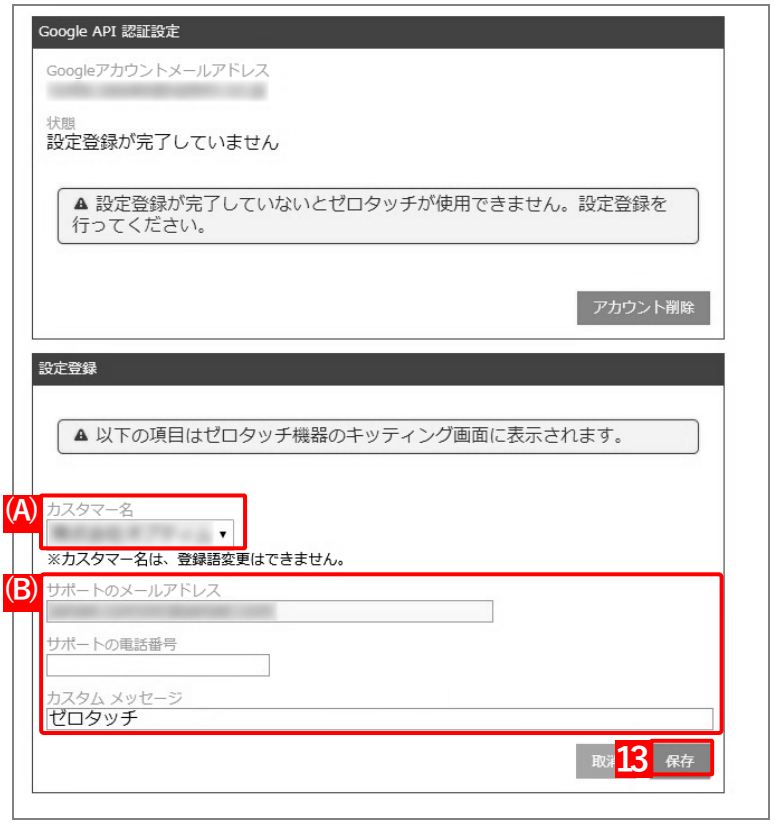
【12】設定登録を行います。［新規作成］をクリックします。

設定登録を行わないと、ゼロタッチ端末の同期処理ができません。(B)「状態」に「設定登録が完了していません」と表示されます。

(A)「Google アカウントメールアドレス」には、手順【5】で選択した Google アカウントが表示されます。

【13】［保存］をクリックします。

(A)「カスタマー名」は変更できません。(B)「サポートのメールアドレス」「サポートの電話番号」「カスタムメッセージ」は設定登録時にゼロタッチポータルで設定した内容が表示されます。変更する場合は、変更内容を入力してください。



⇒設定登録を行うと、利用登録画面が以下のように表示されます。

（A）「状態」に「使用可」と表示されます。

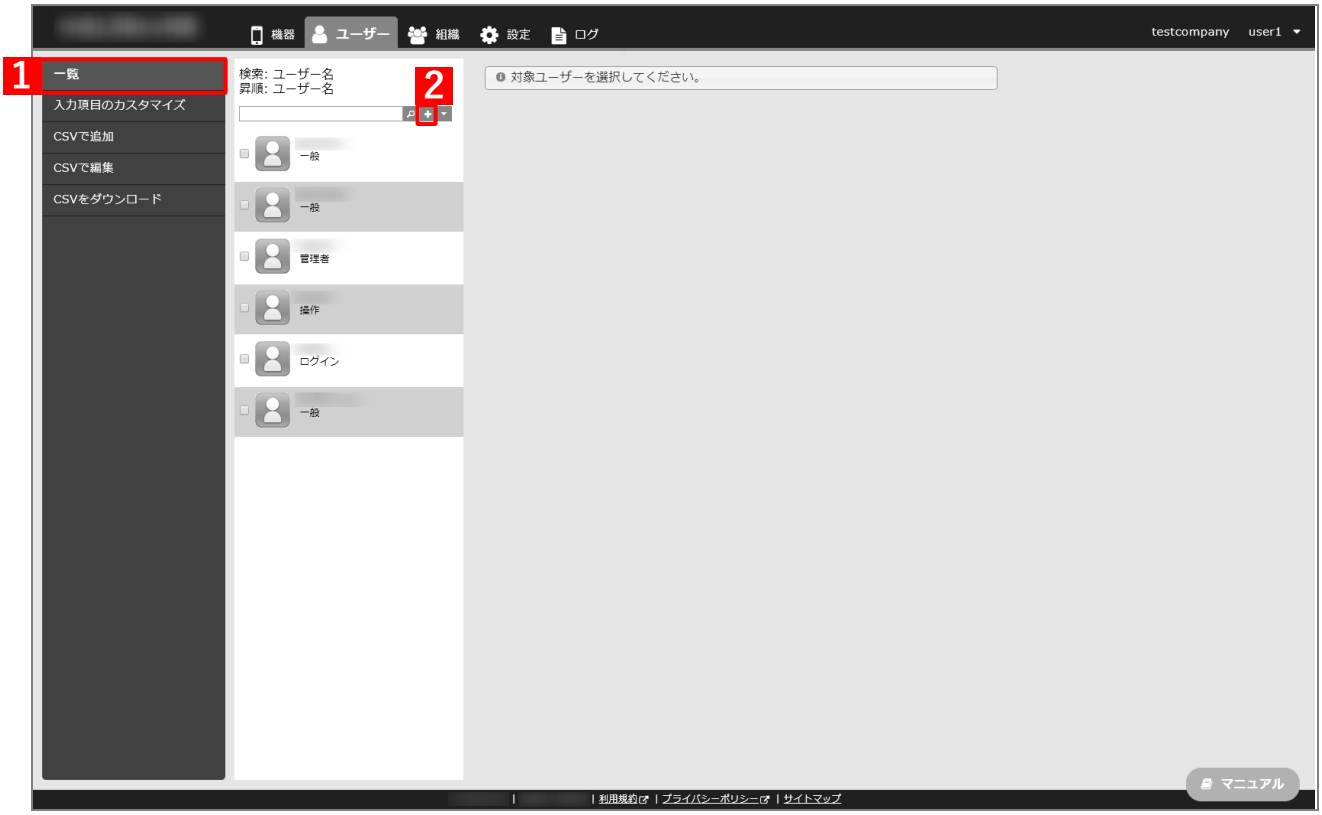
アカウント削除する場合は、（B）［アカウント削除］をクリックします。

設定登録時にゼロタッチポータルで設定した内容が表示されます。変更する場合は、（C）［編集］をクリックします。ただし、（D）「カスタマー名」は変更できません。

7.4 ユーザーを作成する

以下の手順で、ユーザーを作成します。

【1】［ユーザー］→［一覧］をクリックします。
【2】 をクリックします。



【3】「名前」に任意の名前を入力します。

その他の入力および設定項目の詳細については、以下を参照してください。

『管理サイト リファレンスマニュアル』の「ユーザー」－「一覧」－「ユーザーの作成」

【4】［保存］をクリックします。

⇒ユーザーが作成されます。

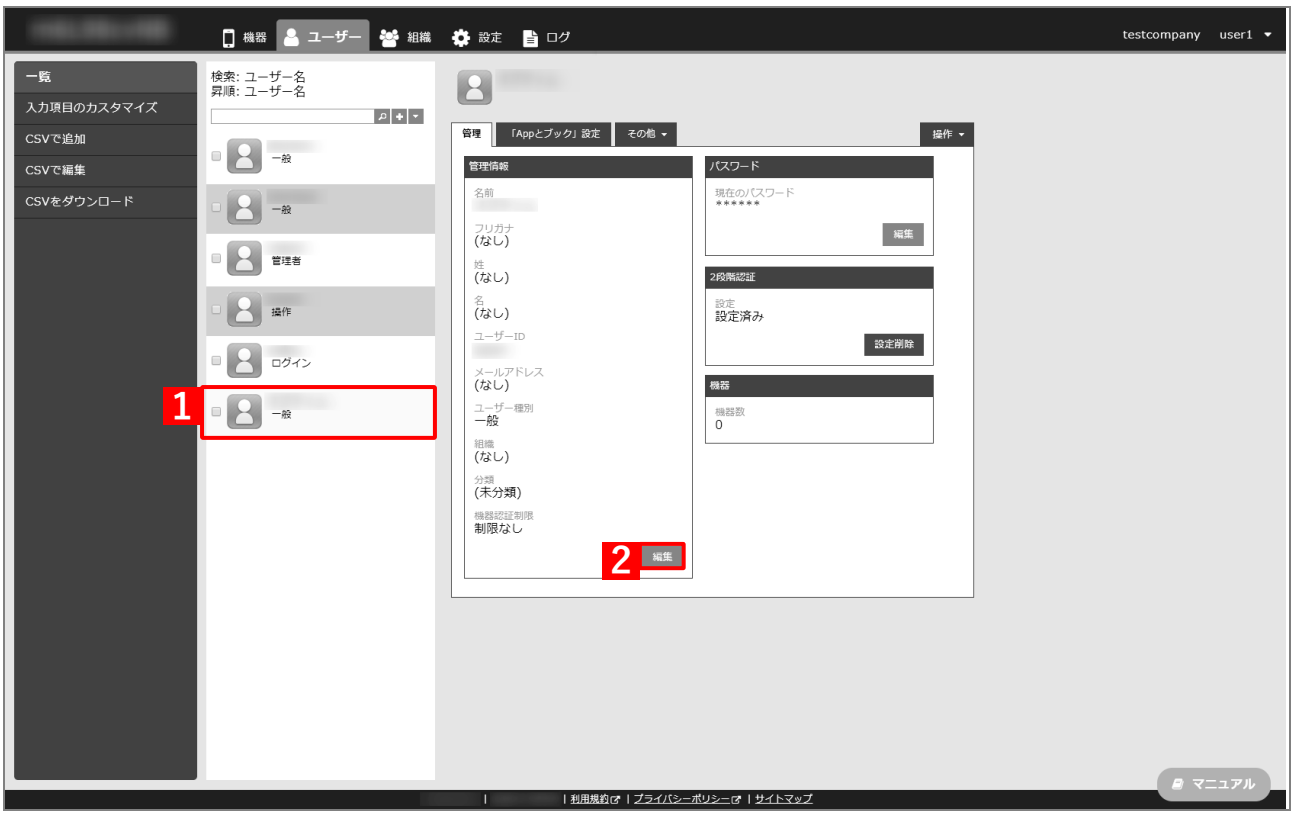
7.4.1 既存のユーザーに Google Workspace アカウントを登録する

既存のユーザーに対して Google Workspace アカウントを登録するには、以下の操作を行います。

Google Workspace アカウントが登録されていない場合は、キッティング時のライセンス認証に失敗します。

【1】［ユーザー］→［一覧］→一覧から対象ユーザーを選択します。

【2】［編集］をクリックします。



【3】「メールアドレス」に Google Workspace アカウントを入力します。

【4】［保存］をクリックします。

⇒ユーザーにメールアドレスが登録されます。

7.5 ゼロタッチ登録（Google Workspace アカウント利用）でキッティングする

以下の手順で、ゼロタッチ登録による端末のキッティングを行います。

管理サイトの「アプリケーション禁止」で「禁止するアプリケーション」、および「アプリケーション非表示」に「Google Play 開発者サービス（com.google.android.gms）」を設定していると、正常にキッティングが完了できない場合があります。以下を参照して、事前に設定を解除してから、キッティングを行ってください。

『管理サイト リファレンスマニュアル』の「設定－Android」－「アプリケーション」－「アプリケーション禁止」

『管理サイト リファレンスマニュアル』の「設定－Android」－「Device Owner Mode」－「アプリケーション非表示」

手順【9】の画面は、機種や OS によって表示されるタイミングが異なる場合があります。

【1】［始める］をタップします。

SIM を挿入している場合、モバイルネットワーク接続が開始されます。

【2】［スキップ］をタップします。

モバイルネットワークを利用する場合は、SIM を挿入してください。

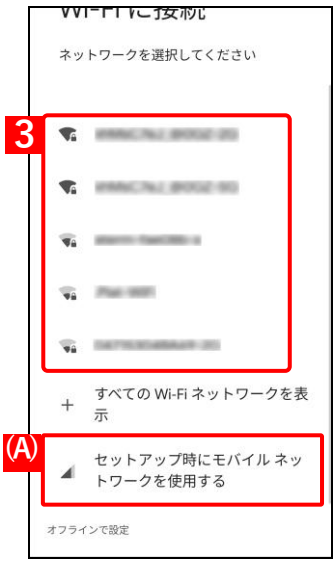
【3】接続したい Wi-Fi の SSID をタップして、Wi-Fi に接続してください。

⇒ネットワーク接続が開始されます。

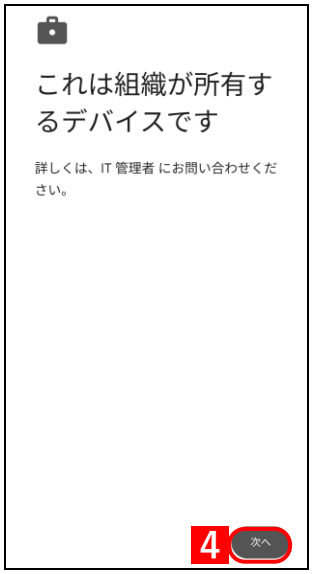
必ずネットワークに接続して、以降の手順を進めてください。ネットワークに接続していない場合は、ゼロタッチ登録サーバーと同期したとき端末が初期化されます。

「ゼロタッチ登録サーバーに同期する」239 ページ

モバイルネットワークを利用する場合は、(A)［セットアップ時にモバイルネットワークを使用する］をタップします。表示されるポップアップのメッセージを確認してください。

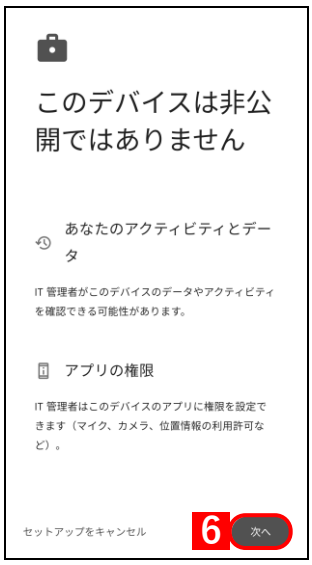


【4】［次へ］をタップします。



【5】［同意して続行］をタップします。

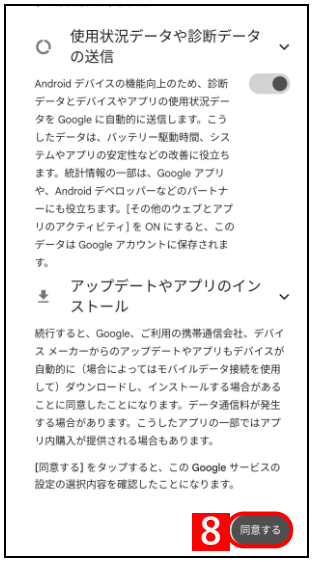
【6】［次へ］をタップします。



【7】［もっと見る］をタップします。

端末によっては［もっと見る］が数回表示されます。［同意する］が表示されるまで、［もっと見る］をタップします。

【8】［同意する］をタップします。

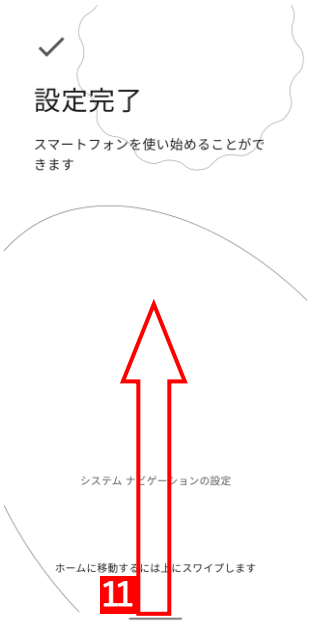


【9】［OK］をタップします。

【10】［スキップ］をタップします。

【11】画面下部からスワイプします。

⇒ホーム画面に移動します。

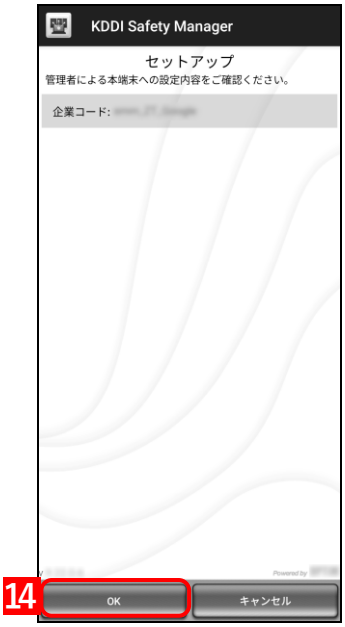


【12】［KDDI Safety Manager］をタップします。

ホーム画面にアイコンが表示されない場合は、アプリ一覧を確認してください。

【13】［ライセンス認証］をタップします。

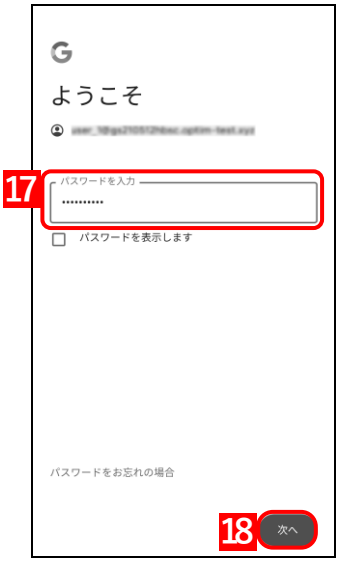
【14】［OK］をタップします。



【15】［OK］をタップします。

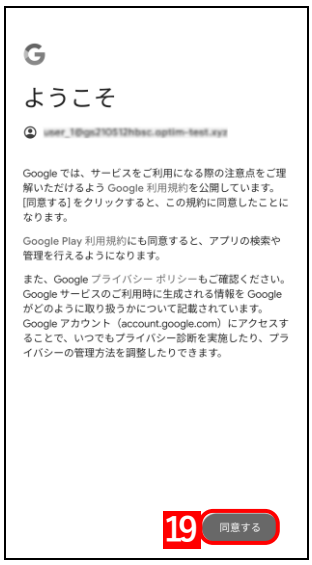
【16】［次へ］をタップします。

【17】パスワードを入力します。
【18】［次へ］をタップします。

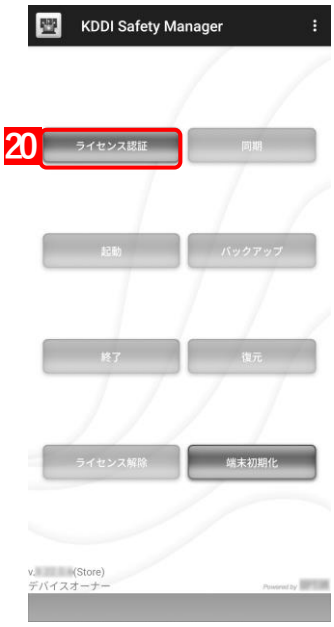


【19】［同意する］をタップします。

Android 12 の場合は、すでにセットアップされている旨のメッセージが表示されるので、確認してください。

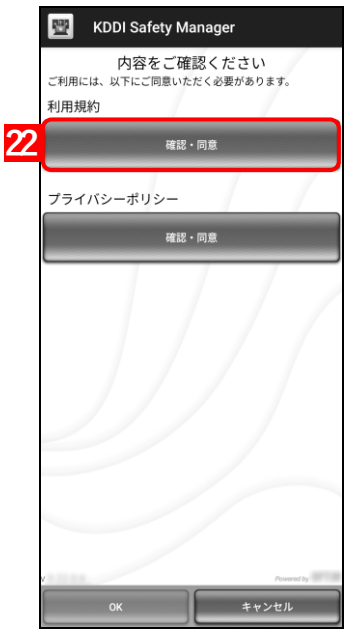


【20】［ライセンス認証］をタップします。



【21】［OK］をタップします。

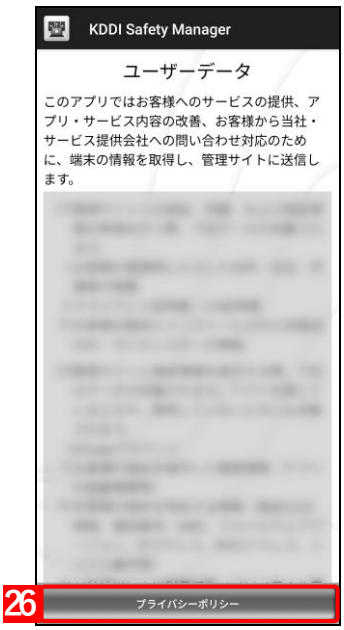
【22】利用規約の［確認・同意］をタップします。



【23】「利用規約に同意する」にチェックを入れます。
【24】［OK］をタップします。

【25】プライバシーポリシーの［確認・同意］をタップします。

【26】ユーザーデータについて確認して、［プライバシーポリシー］をタップします。



【27】「プライバシーポリシーに同意する」にチェックを入れます。
【28】［OK］をタップします。

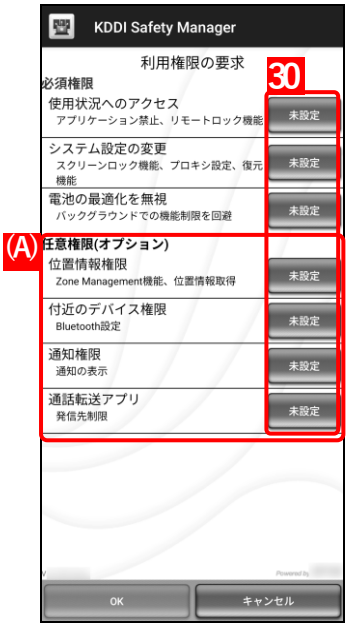
【29】［OK］をタップします。
⇒権限要求画面が表示されます。

【30】画面の案内に従って設定を行ってください。

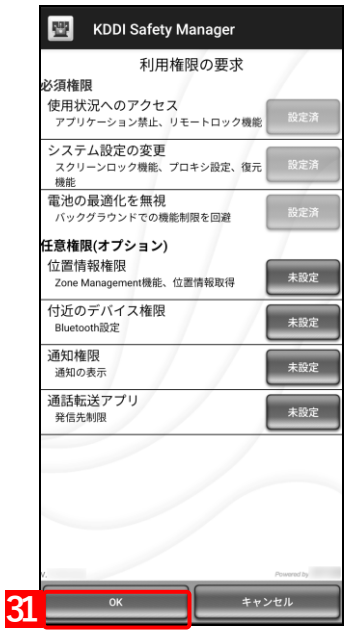
Android 12 以上でエージェントバージョン 9.14.0 以上の場合、（A）任意権限に「付近のデバイス権限」が表示されます。

Android 13 以上でエージェントバージョン 9.16.0 以上の場合、（A）任意権限に「通知権限」が表示されます。「ストレージ権限」は表示されません。

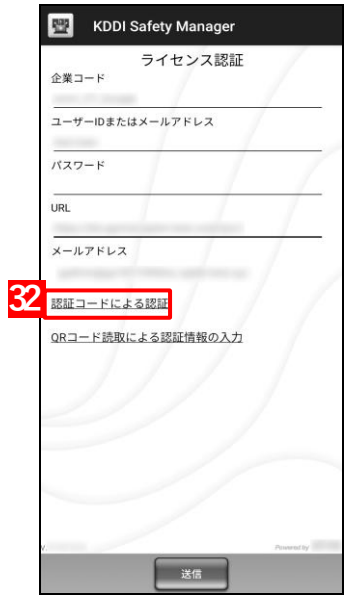
Android 10 以上でエージェントバージョン 9.22.0 以上の場合、（A）任意権限に「通話転送アプリ」が表示されます。



【31】［OK］をタップします。



【32】［認証コードによる認証］をタップします。



【33】「認証コード」を入力します。

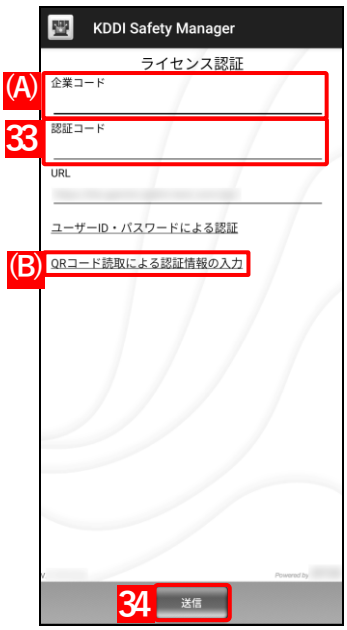
認証コードは管理者にお問い合わせください。

（A）「企業コード」は、自動で入力されています。

（B）［QR コード読取による認証情報の入力］をタップして、エージェント認証用 QR コードを読み取ると、「企業コード」、「認証コード」、「URL」が自動で入力されます。QR コードは、管理者にお問い合わせください。

【34】［送信］をタップします。

⇒ライセンス認証完了の画面が表示されます。

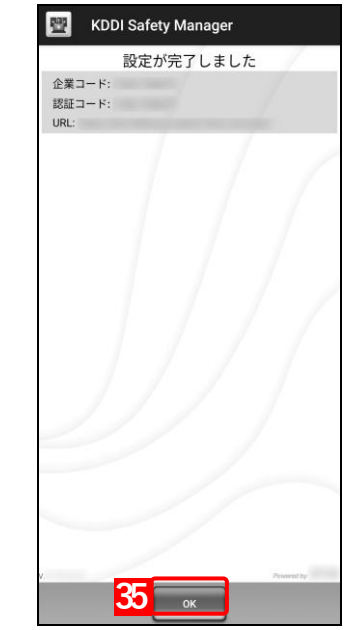


【35】［OK］をタップします。

⇒初期登録画面が表示されます。

手順【36】～【40】の初期登録画面は、管理サイトでポータル表示を「表示」に設定している場合のみ表示されます。

『管理サイト リファレンスマニュアル』の「サービス環境設定」－「ポータル表示」



【36】社員番号、姓、名を入力します。

【37】［次へ］をタップします。

⇒機器にユーザーが紐づきます。

登録したユーザーを変更することはできません。

すでにユーザーが端末に紐づけられている場合は、ユーザーが紐づけられているメッセージが表示されます。

ユーザー情報の登録が不要の場合は、（A）［閉じる］をタップするか、端末の戻るボタンで画面を閉じてください。

【38】必要事項を選択、入力します。

【39】［次へ］をタップします。

あらかじめ、管理サイトの［入力項目のカスタマイズ］で入力項目を追加してください。追加するとき、「機器から入力可」にチェックを入れてください。チェックが入っていない場合は、項目が表示されません。

『管理サイト リファレンスマニュアル』の「機器」―「入力項目のカスタマイズ」

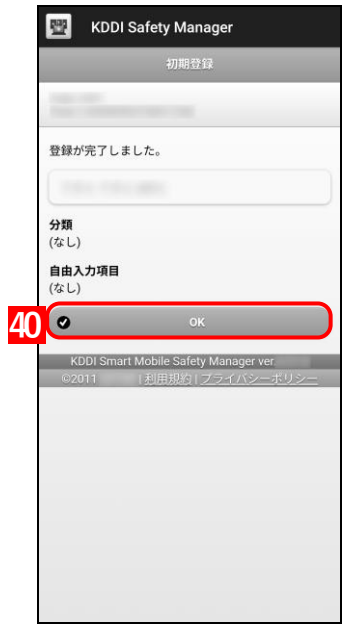
管理サイトの［入力項目のカスタマイズ］で設定した内容により、画面に表示される「分類」と「自由入力項目」の内容が異なります。

機器情報の登録が不要の場合は、(A)［閉じる］をタップするか、端末の戻るボタンで画面を閉じてください。

【40】［OK］をタップします。

⇒キッティングおよびライセンス認証が完了しました。
以下に進んでください。

「ゼロタッチ登録サーバーに同期する」239 ページ



7.6 ゼロタッチ登録サーバーに同期する

以下の手順でゼロタッチ登録サーバーとの同期を行い、管理サイトに端末の情報を表示させます。

ネットワークに接続しないでキッティングを行った端末は、ゼロタッチ登録サーバーと同期すると初期化されます。必ずネットワークに接続してキッティングを行った端末で、ゼロタッチ登録サーバーと同期してください。

事前に各機能の設定を登録しておくと、キッティングと同時に端末に機能が割り当てられます。機能の設定方法は、以下を参照してください。

『管理サイト リファレンスマニュアル』の「設定－Android」

【1】［設定］→［Android］→［ゼロタッチ登録］→［機器一覧］をクリックします。

【2】［ゼロタッチ登録サーバ同期］をクリックします。

ゼロタッチ機器一覧で表示されたゼロタッチ端末は、機器画面の機器一覧で、認証待ち機器として表示されます。

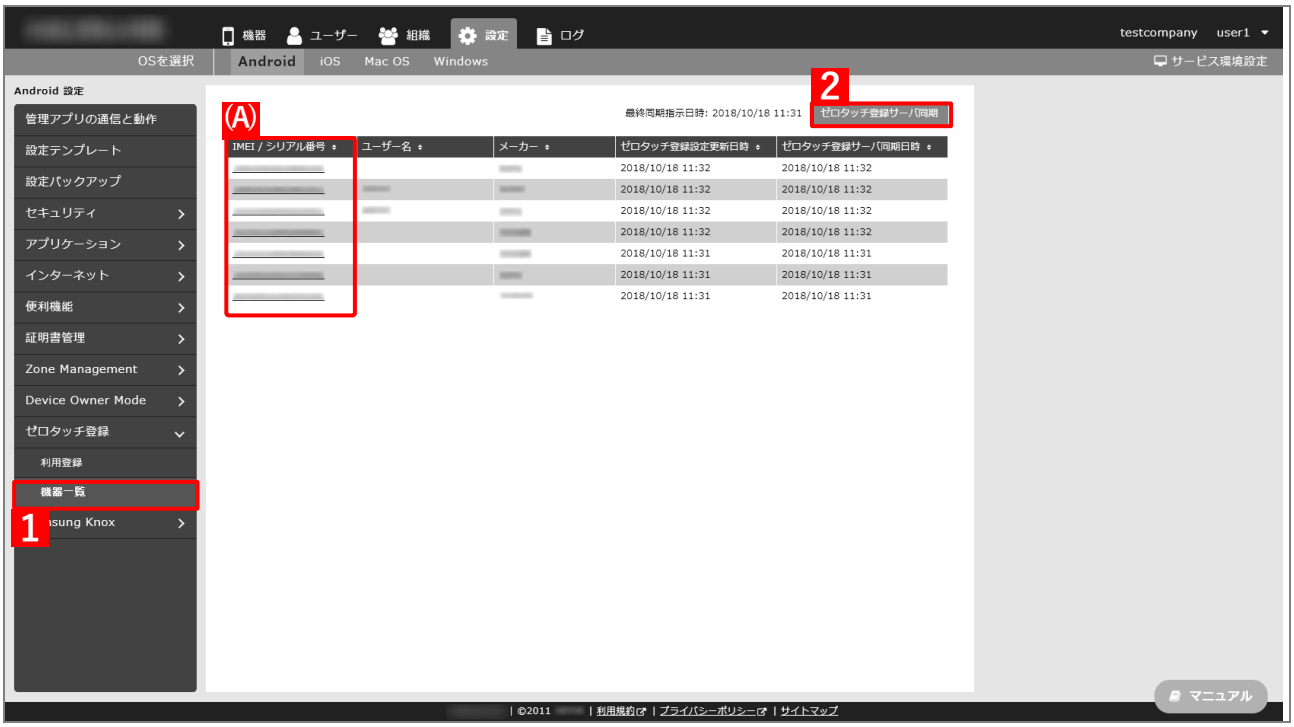
『管理サイト リファレンスマニュアル』の「機器」－「一覧」－「機器一覧」

ゼロタッチ機器一覧では、機器の削除はできないので、機器画面の機器一覧から削除してください。機器画面の機器一覧で削除したら、ゼロタッチ機器一覧からも削除されます。

『管理サイト リファレンスマニュアル』の「機器」－「一覧」－「機器の個別削除」

機器画面からゼロタッチ端末の新規作成は行わないでください。

（A）［IMEI/シリアル番号］をクリックすると、機器画面の機器一覧が表示されます。



8 Google アカウントで KME を利用して Android Enterprise 連携を行う

Knox Mobile Enrollment（KME）とは、Samsung の提供するエージェントのキッティング方法の 1 つです。この方法ではキッティング手順が省略化され、大規模な端末の導入を簡単かつ迅速に行うことができます。KME に対応した端末には、エージェントが自動的に Device Owner Mode としてインストールされるため、よりセキュアな端末管理が可能です。

KME キッティングの方法については、以下を参照してください。

☞「KME（Google アカウント利用）でキッティングする」273 ページ

KME サーバーとの連携を行うと、端末が本製品の機器一覧に事前機器として表示されます。

注意

- 本キッティング方法を利用するには、あらかじめ Samsung 製の KME 対応端末を購入する必要があります。
- KME 対応端末を購入する場合は、あらかじめ販売元に KME の利用方法についてご確認ください。
- その他 KME の詳細については、KME 対応端末の販売元にお問い合わせください。
- 以下の項目は、初回のキッティング時のみ必要な操作です。

☞「Google アカウントを登録する」241 ページ
☞「KME を利用するための準備を行う」263 ページ
☞「Knox 認証情報および Knox プロファイル情報を設定する」269 ページ

参考

- 本製品と連携しない場合は、管理サイトに Knox 認証情報および Knox プロファイル情報を設定する必要はありません。以下を参照して、端末購入前の事前準備をすべて行ってから、KME 対応端末のキッティングをしてください。

『Knox Mobile Enrollment（KME）の運用フロー』

- あらかじめ管理サイトで Android Enterprise の「アプリケーション配信」機能を設定しておくと、キッティングの完了後、ライセンス認証と同時に特定のアプリを端末に配信できます。アプリケーション配信の詳細については、以下を参照してください。

『Android Enterprise アプリケーション配信 手順書』の「アプリをインストールする」

8.1 Google アカウントを登録する

管理サイトに Android Enterprise 連携するための Google アカウントを登録します。

登録できる Google アカウントは、以下の 3 種類です。Google アカウントに応じて、いずれかの方法で登録してください。

●企業ドメインのメールアドレスを登録する場合

Google が推奨する登録方法です。なるべくこの方法で登録してください。

●Microsoft ID アカウントのメールアドレスを登録する場合

Microsoft Entra ID でシングルサインオンが構成済みの場合は、自動的にこの登録方法になります。

●Gmail のメールアドレスを登録する場合

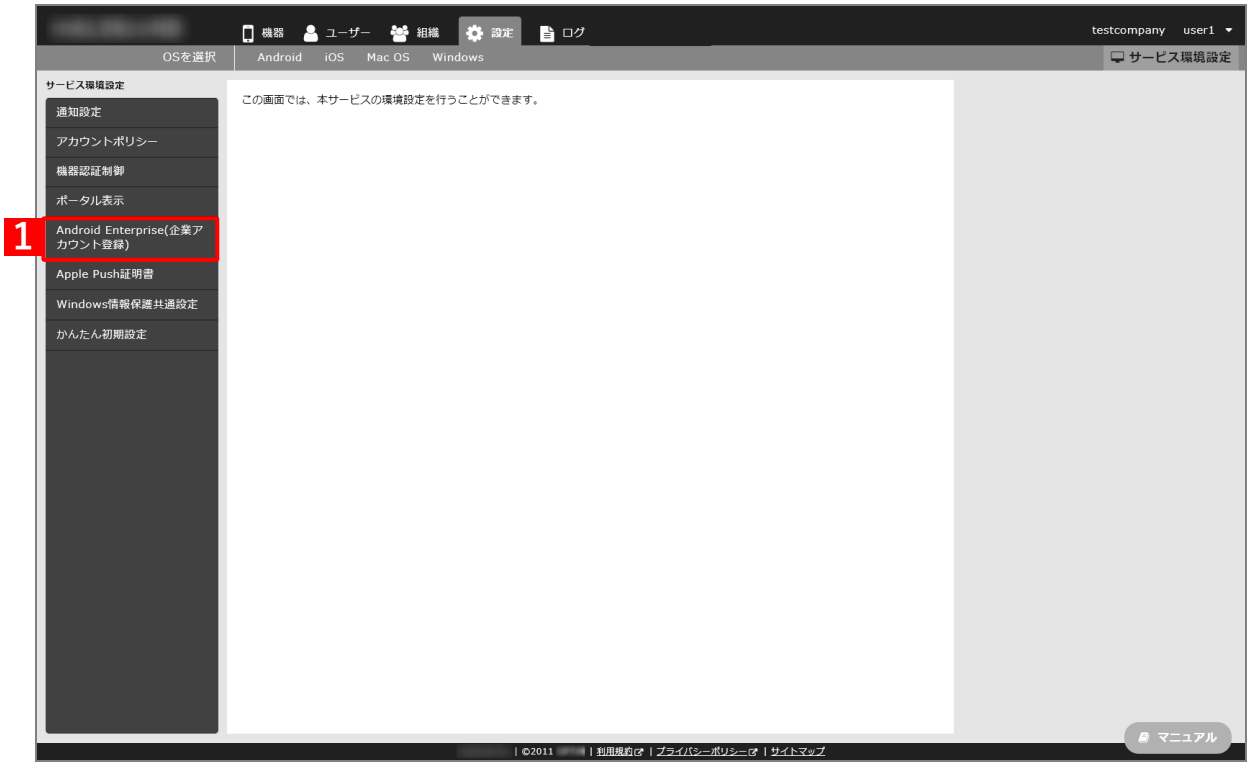
8.1.1 企業ドメインのメールアドレスを登録する場合

企業ドメインのメールアドレスを Android Enterprise 連携するための Google アカウントとして、管理サイトに登録します。

Google が推奨する登録方法です。

企業で初めて登録した企業ドメインのメールアドレスの使用者が、ドメイン管理者です。その後、同じ企業ドメインで他のメールアドレスを登録するときは、ドメイン管理者に連絡してください。ドメイン管理者が Google の画面で他のメールアドレスを登録します。

【1】［設定］→［サービス環境設定］→［Android Enterprise（企業アカウント登録）］をクリックします。



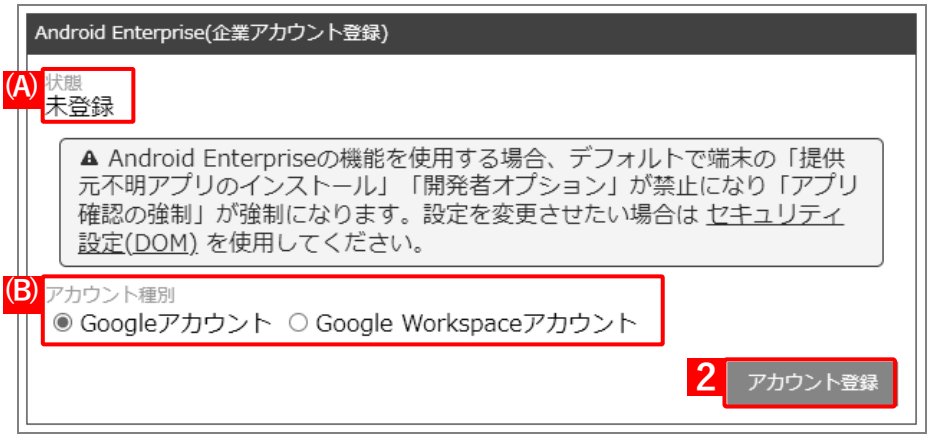
【2】［アカウント登録］をクリックします。

アカウント登録が完了すると、デフォルトで端末の「提供元不明アプリのインストール」、「開発者向けオプション」が「禁止」、「アプリ確認の強制」が「強制する」に設定されます。「セキュリティ設定（DOM）」で「提供元不明アプリのインストール」を許可する設定セットを作成し、機器に割り当てて同期を行ってください。

『管理サイト リファレンスマニュアル』の「設定－Android」－「Device Owner Mode」－「セキュリティ設定（DOM）」

（A）「状態」は「未登録」と表示されています。

（B）「アカウント種別」の初期値は「Google アカウント」が選択されています。



【3】企業ドメインのメールアドレスを入力します。

【4】［次へ］をクリックします。

⇒企業で初めて企業ドメインのメールアドレスを登録した場合は、手順【3】で入力したメールアドレスに、Google からメールが届きます。メールを確認してください。

すでに企業ドメインが登録されていた場合は、以下の画面が表示されます。
企業のドメイン管理者に連絡してください。企業のドメイン管理者が不明な場合は、Google に問い合わせてください。

ドメイン管理者のメールアドレスを他の企業で登録しようとした場合は、以下の画面が表示されます。
（A）［許可］をクリックすると、企業登録が完了します。

【5】メールの内容を確認して、［メールアドレスの確認］をクリックします。

⇒情報登録画面が表示されます。

【6】名、姓、会社名を入力して、国を選択します。

【7】［続行］をクリックします。

名、姓、会社名を入力すると、［続行］がクリックできます。

【8】［次へ］をクリックします。

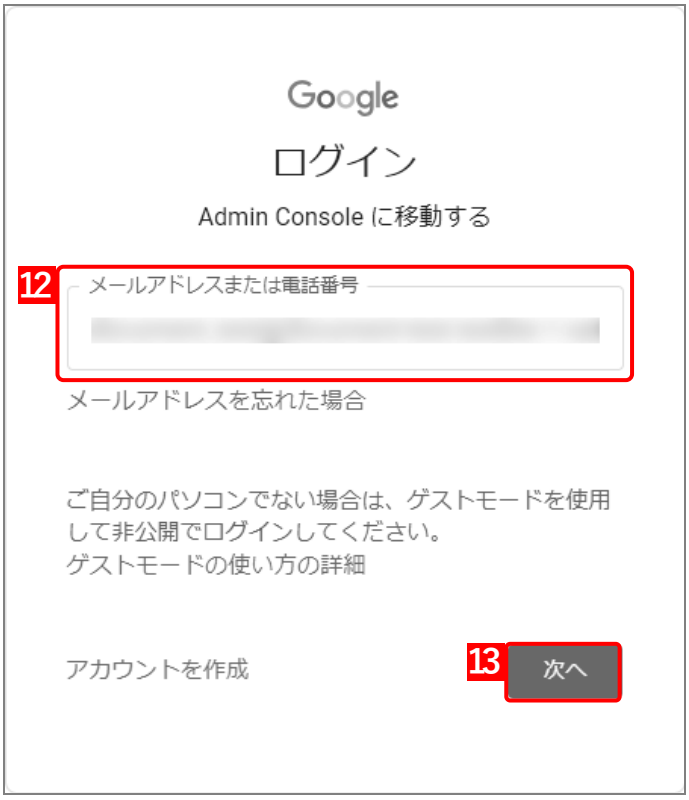
【9】8 文字以上のパスワードを入力します。

【10】［同意して続行］をクリックします。

パスワードを入力すると、［同意して続行］がクリックできます。

【11】［許可してアカウントを作成］をクリックします。

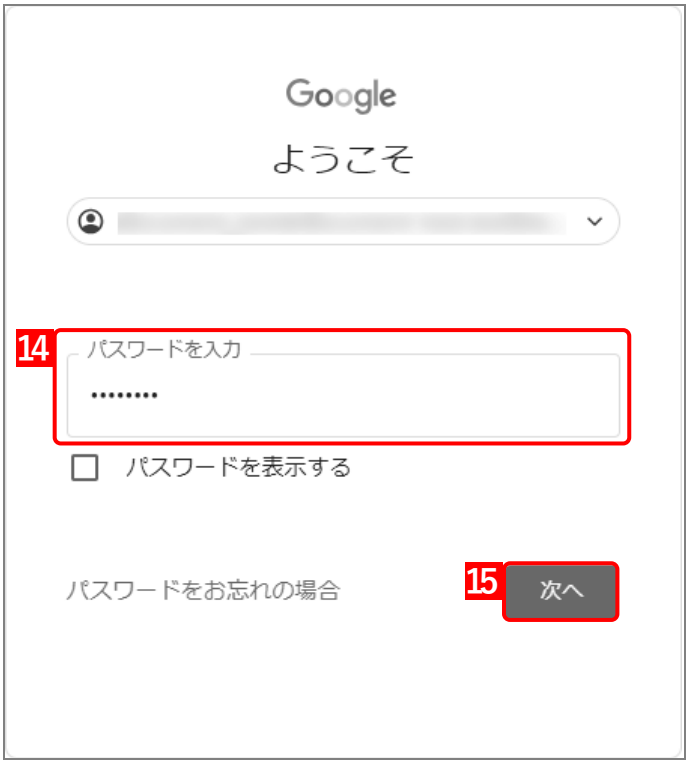
【12】手順【3】で入力した企業ドメインのアドレスを入力します。
【13】［次へ］をクリックします。



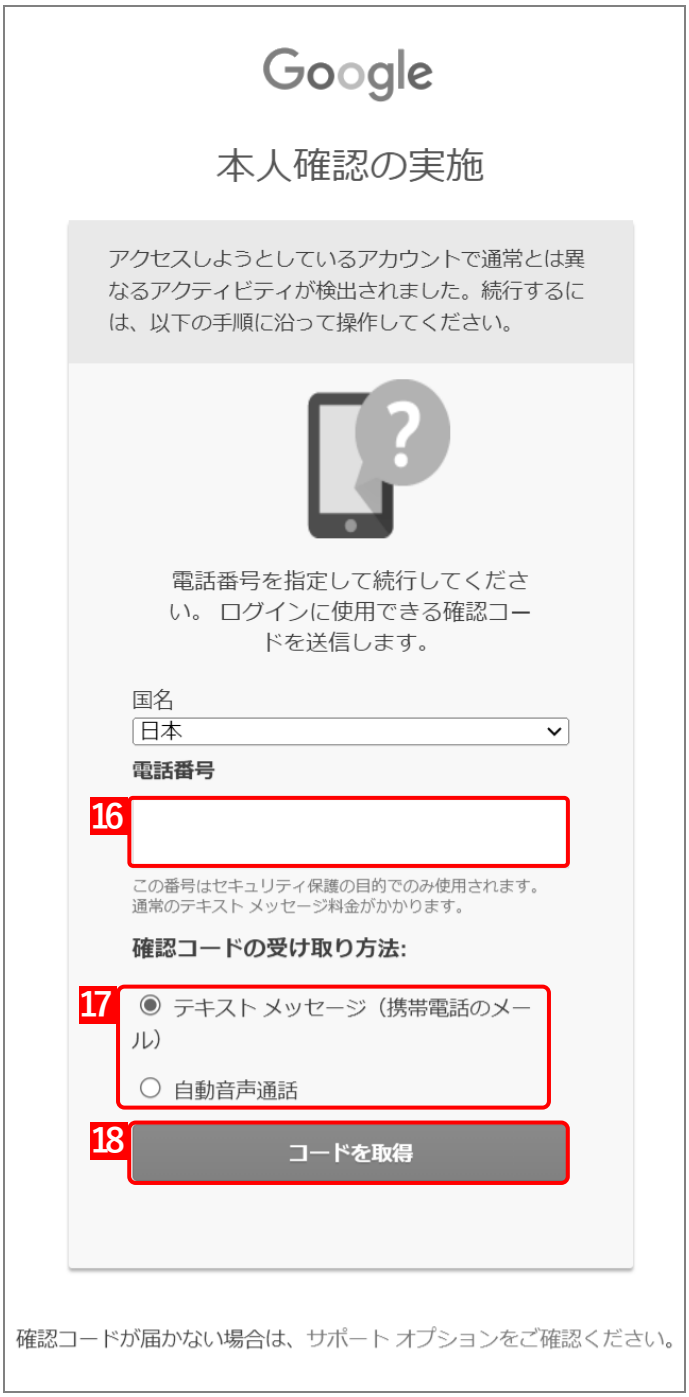
【14】手順【9】で入力したパスワードを入力します。

【15】［次へ］をクリックします。

⇒本人確認の画面が表示されます。



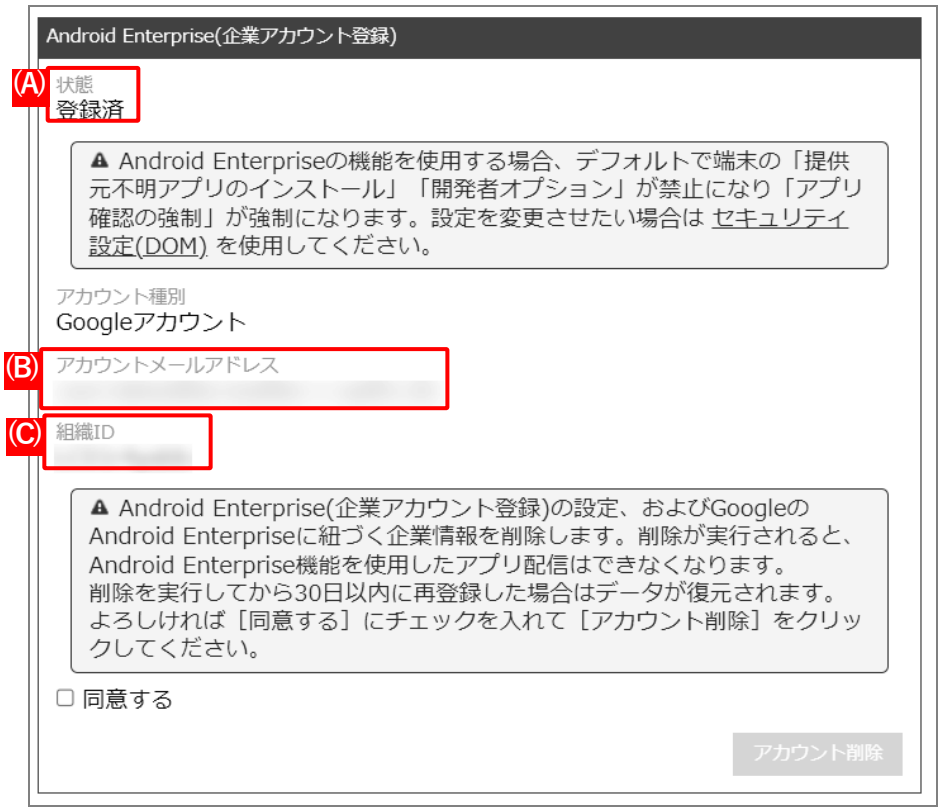
【16】確認コードを受け取る電話番号を入力します。
【17】確認コードの受け取り方法を選択します。
【18】［コードを取得］をクリックします。



【19】手順【16】で入力した電話番号で受け取った確認コードを入力します。
【20】［確認］をクリックします。

【21】［理解しました］をクリックします。
⇒アカウント登録済みの管理サイトの画面が表示されます。

（A）「状態」は「登録済」と表示されています。
（B）「アカウントメールアドレス」にアカウント登録で使用したメールアドレスが表示されています。
（C）「組織 ID」に managed Google Play ストアでの組織の一意の識別子が表示されています。



8.1.2 Microsoft ID アカウントのメールアドレスを登録する場合

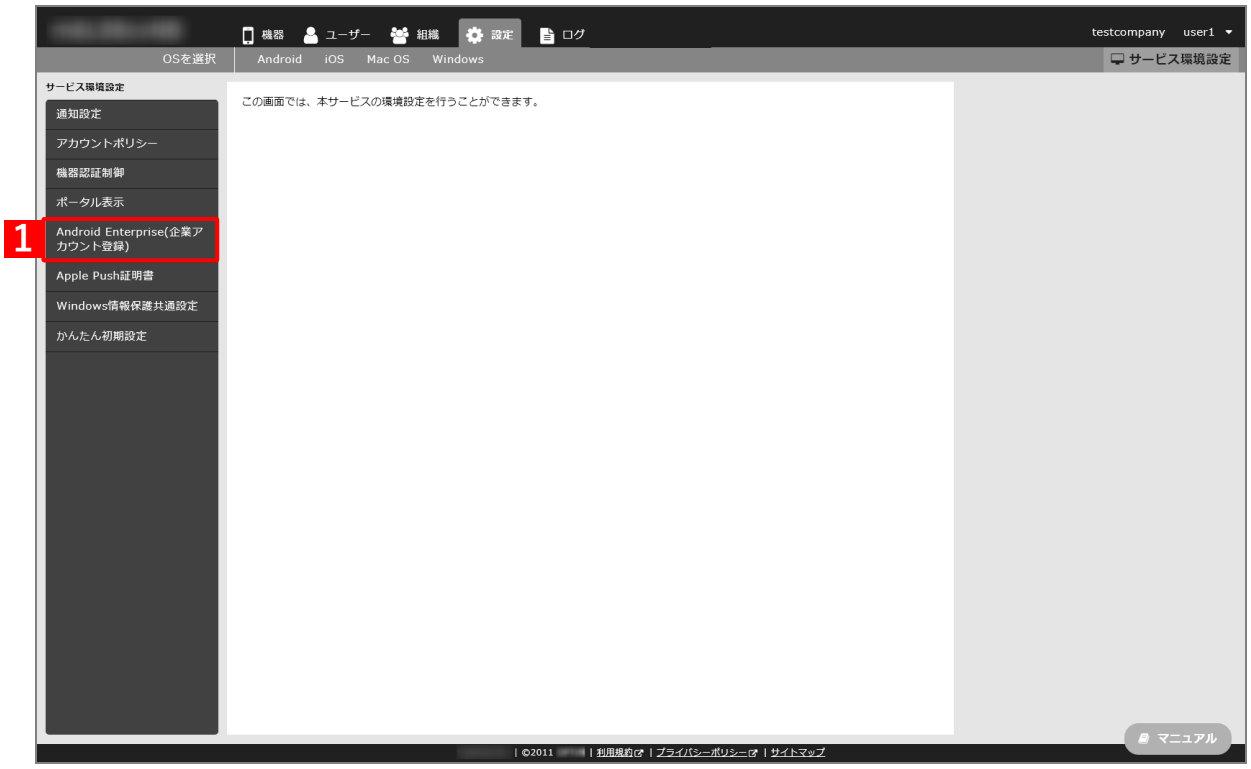
Microsoft ID アカウントのメールアドレスを Android Enterprise 連携するための Google アカウントとして、管理サイトに登録します。

Microsoft ID アカウントのメールアドレスは、Microsoft Entra ID でシングルサインオンが構成済みのものを使用してください。認証を行うため自動的に Microsoft の画面が表示されます。

Microsoft ID アカウントについての詳細は、以下を参照してください。

https://learn.microsoft.com/ja-jp/entra/identity-platform/v2-protocols-oidc

【1】［設定］→［サービス環境設定］→［Android Enterprise（企業アカウント登録）］をクリックします。



【2】［アカウント登録］をクリックします。

アカウント登録が完了すると、デフォルトで端末の「提供元不明アプリのインストール」、「開発者向けオプション」が「禁止」、「アプリ確認の強制」が「強制する」に設定されます。「セキュリティ設定（DOM）」で「提供元不明アプリのインストール」を許可する設定セットを作成し、機器に割り当てて同期を行ってください。

『管理サイト リファレンスマニュアル』の「設定－Android」－「Device Owner Mode」－「セキュリティ設定（DOM）」

（A）「状態」は「未登録」と表示されています。

（B）「アカウント種別」の初期値は「Google アカウント」が選択されています。

【3】Microsoft ID アカウントのメールアドレスを入力します。

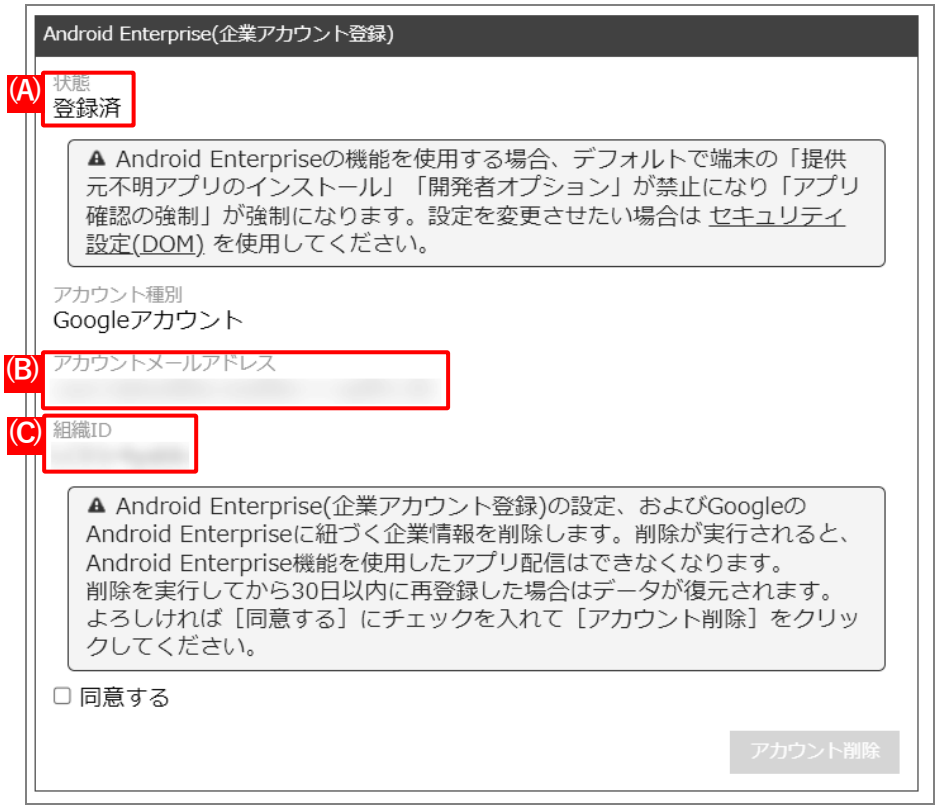
【4】［次へ］をクリックします。

【5】［Microsoft でログイン］をクリックします。

⇒Microsoft の登録画面が表示されます。画面の指示にしたがい登録を行ってください。

⇒アカウント登録済みの管理サイトの画面が表示されます。

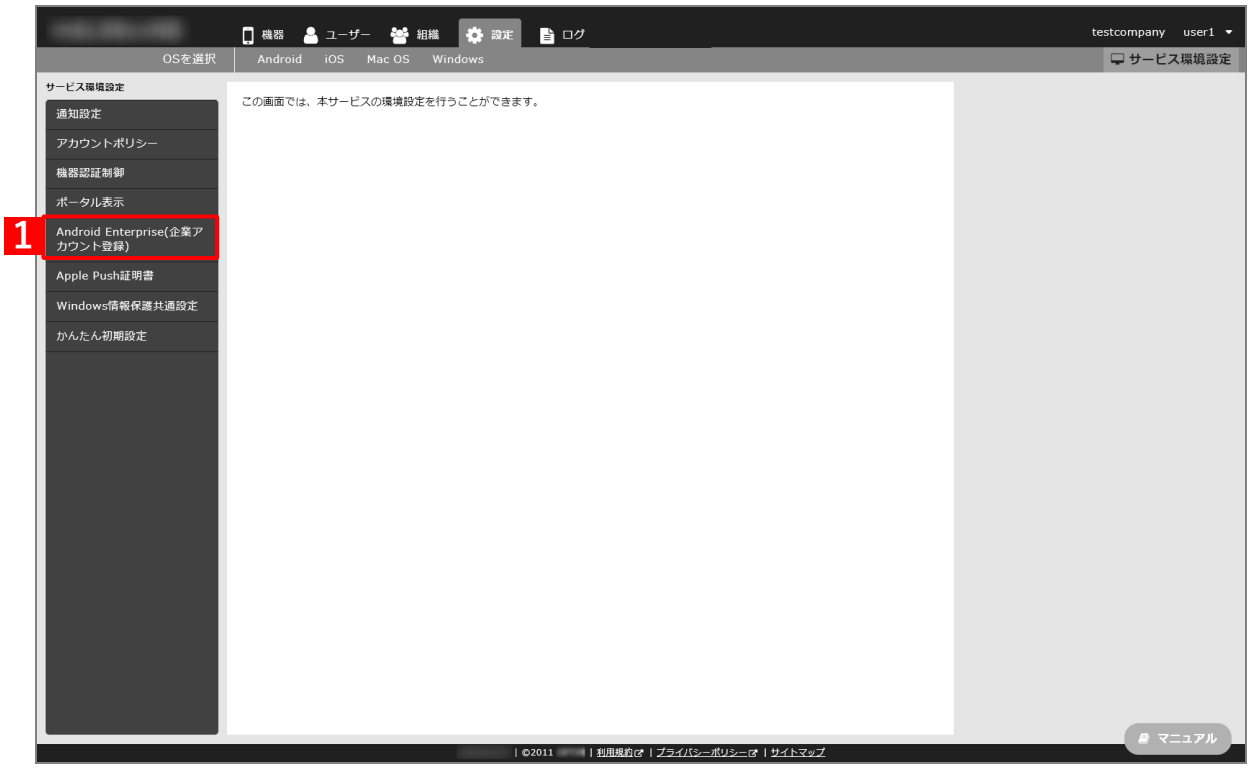
- (A)「状態」は「登録済」と表示されています。
- (B)「アカウントメールアドレス」にアカウント登録で使用したメールアドレスが表示されています。
- (C)「組織 ID」に managed Google Play ストアでの組織の一意の識別子が表示されています。



8.1.3 Gmail のメールアドレスを登録する場合

Gmail のメールアドレスを Android Enterprise 連携するための Google アカウントとして、管理サイトに登録します。

【1】［設定］→［サービス環境設定］→［Android Enterprise（企業アカウント登録）］をクリックします。



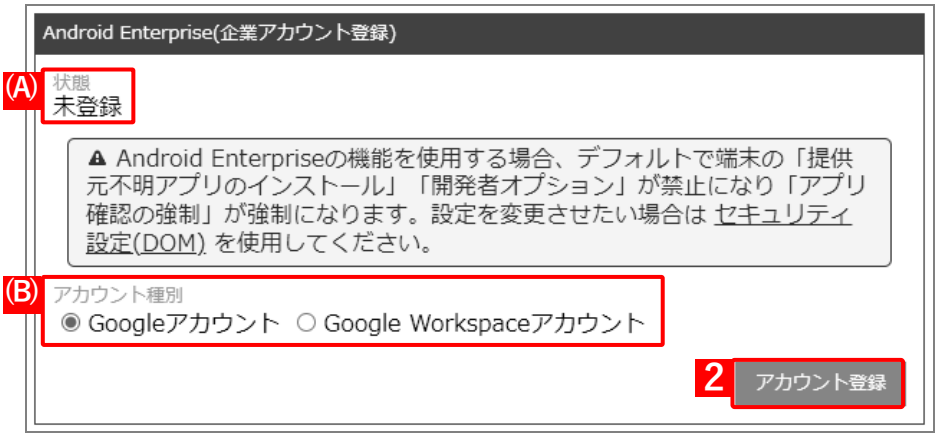
【2】［アカウント登録］をクリックします。

アカウント登録が完了すると、デフォルトで端末の「提供元不明アプリのインストール」、「開発者向けオプション」が「禁止」、「アプリ確認の強制」が「強制する」に設定されます。「セキュリティ設定（DOM）」で「提供元不明アプリのインストール」を許可する設定セットを作成し、機器に割り当てて同期を行ってください。

『管理サイト リファレンスマニュアル』の「設定－Android」－「Device Owner Mode」－「セキュリティ設定（DOM）」

（A）「状態」は「未登録」と表示されています。

（B）「アカウント種別」の初期値は「Google アカウント」が選択されています。



【3】Gmail のメールアドレスを入力します。

【4】［次へ］をクリックします。

【5】「Android のみ登録」の［登録］をクリックします。

⇒Google Play ストアが表示されます。

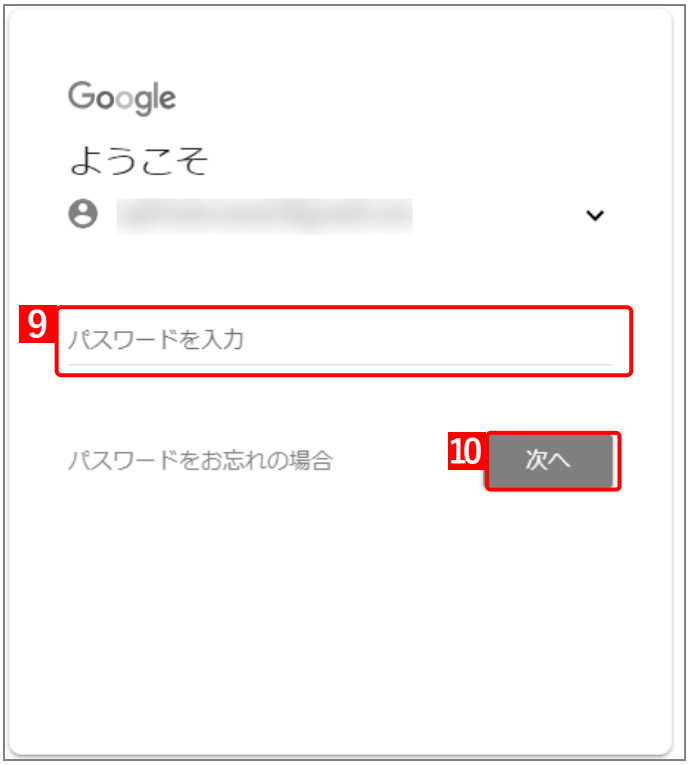
【6】［ログイン］をクリックします。

利用しているブラウザーにより、Google Play ストアが正常に動作しないことがあります。

【7】手順【3】で入力した Gmail のメールアドレスを入力します。

【8】［次へ］をクリックします。

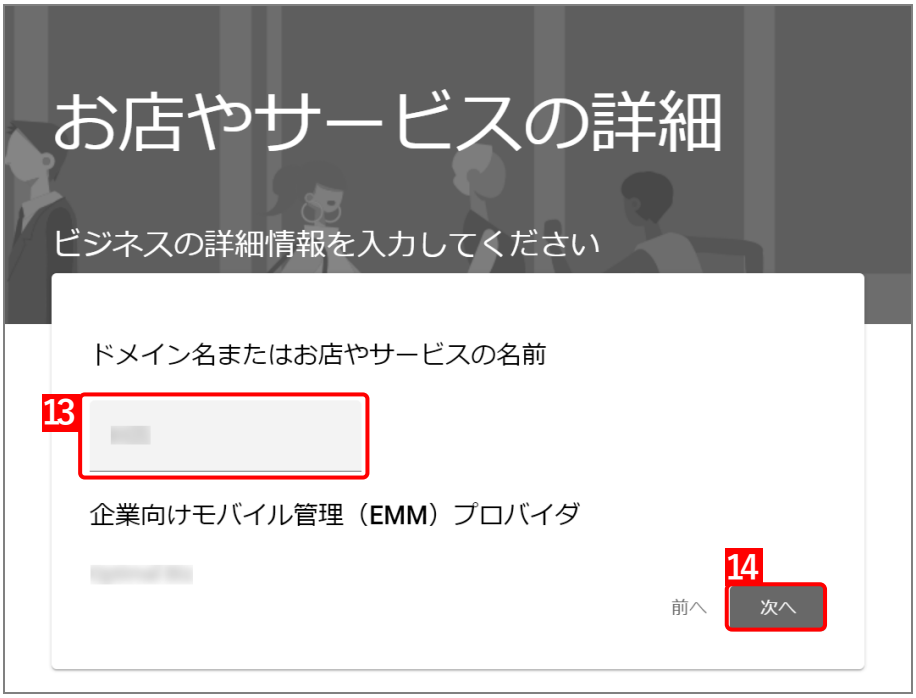
【9】パスワードを入力します。
【10】［次へ］をクリックします。



【11】［完了］をクリックします。

【12】［スタートガイド］をクリックします。

【13】「組織名」を入力します。
【14】［次へ］をクリックします。

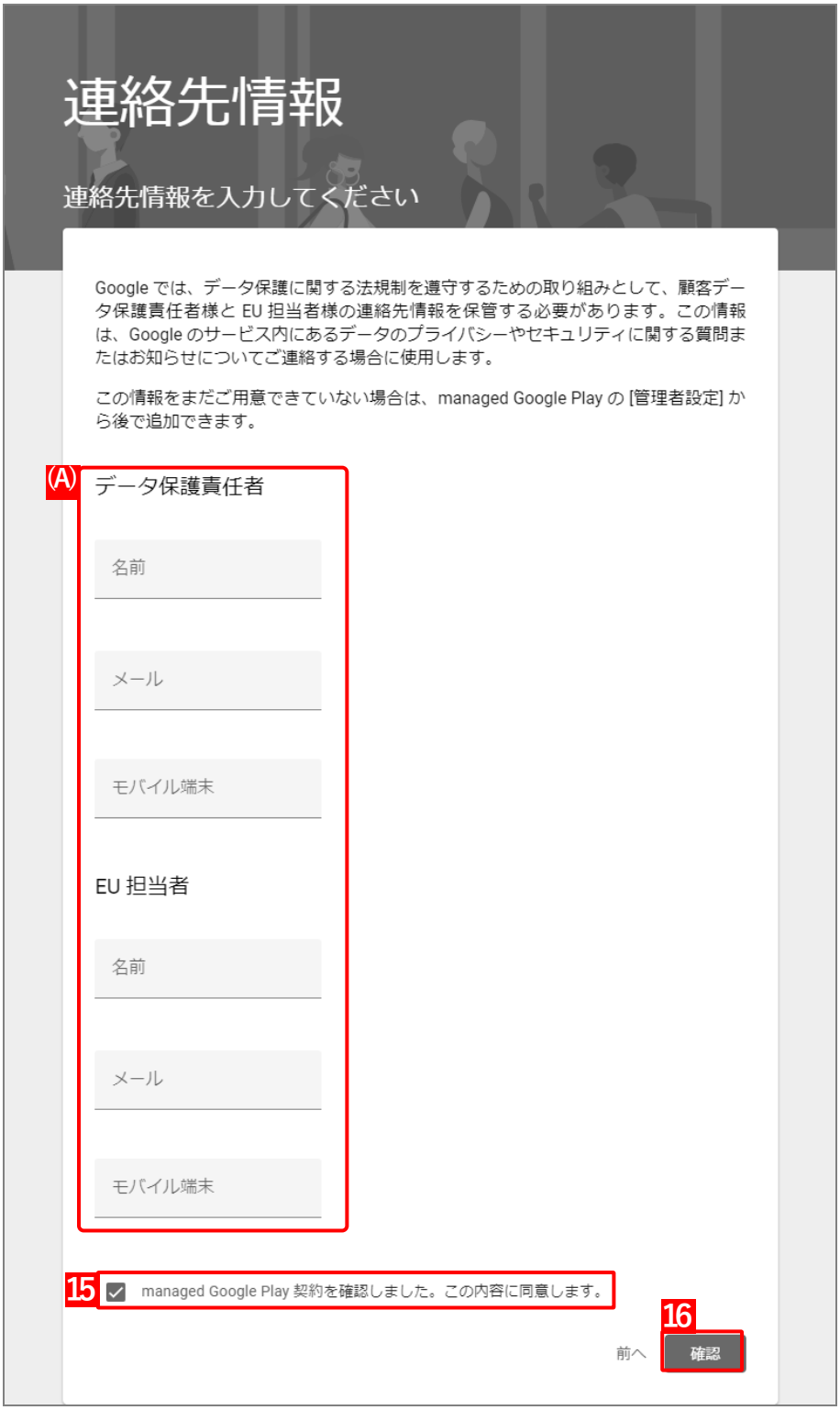


【15】規約を確認し、同意にチェックを入れます。

【16】［確認］をクリックします。

（A）データの保護責任者および EU 担当者は、任意入力です。必要に応じて入力します。
データの保護責任者、EU 担当者についての詳細は、以下を参照してください。

https://support.google.com/googleplay/work/answer/7681629



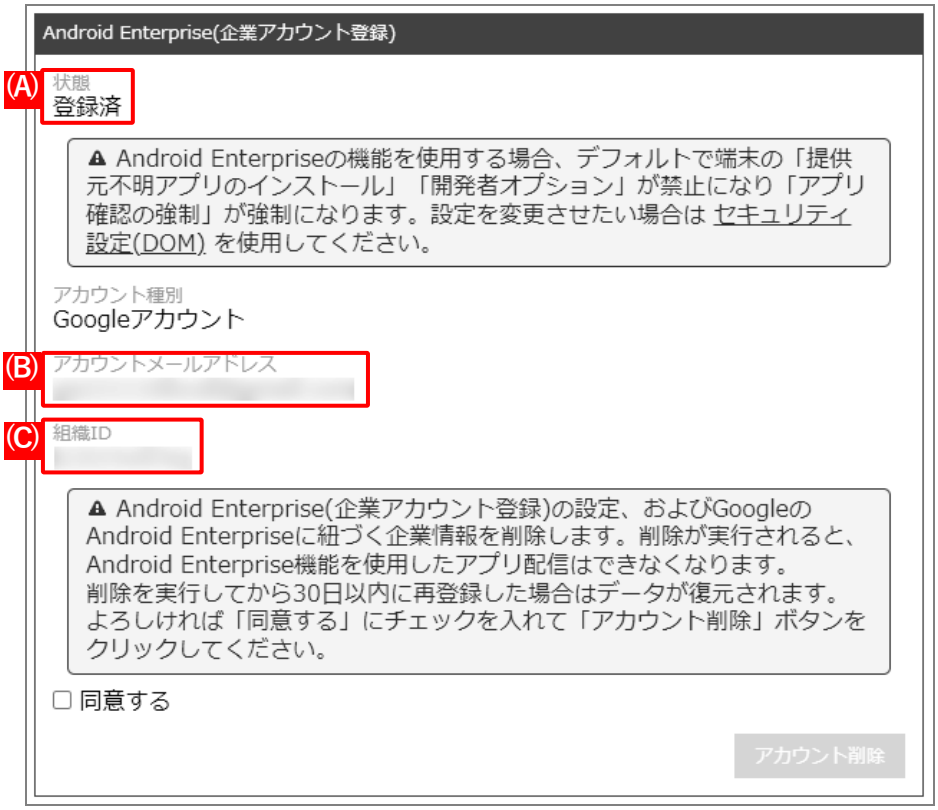
【17】 ［登録を完了］をクリックします。

⇒アカウント登録済みの管理サイトの画面が表示されます。

（A）「状態」は「登録済」と表示されています。

（B）「アカウントメールアドレス」に Google Play ストアで登録したメールアドレスが表示されています。

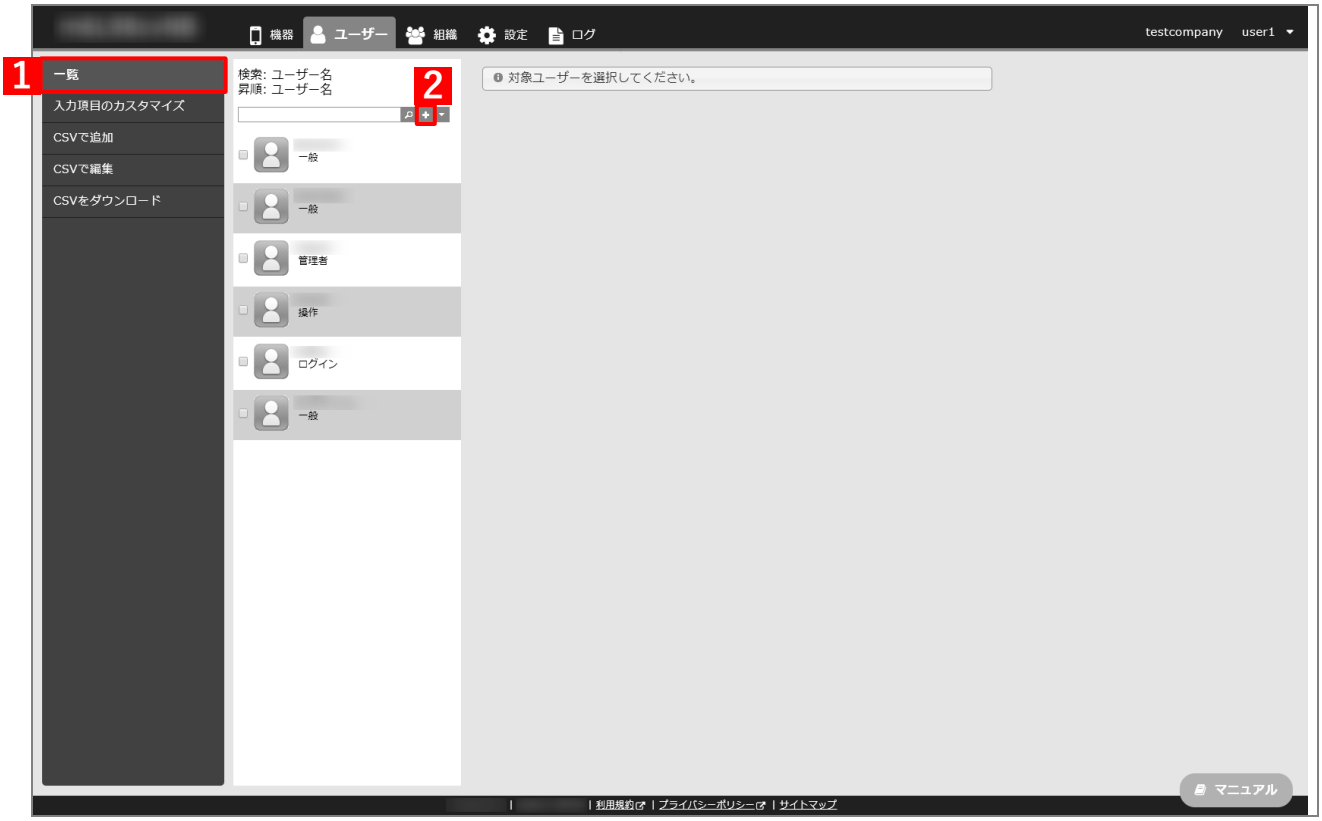
（C）「組織 ID」に managed Google Play ストアでの組織の一意の識別子が表示されています。



8.2 ユーザーを作成する

以下の手順で、ユーザーを作成します。

【1】［ユーザー］→［一覧］をクリックします。
【2】 をクリックします。



【3】「名前」に任意の名前を入力します。

その他の入力および設定項目の詳細については、以下を参照してください。

『管理サイト リファレンスマニュアル』の「ユーザー」－「一覧」－「ユーザーの作成」

【4】［保存］をクリックします。

⇒ユーザーが作成されます。

8.3 KME を利用するための準備を行う

管理サイトと連携するために、Galaxy アカウントを会社用メールアドレスに関連付けます。

管理用のメールアドレスを 1 つ用意してください。管理者個人のメールアドレスではなく、管理担当部署のメーリングリストなどを推奨します。

すでに Knox API ポータルを利用している、または管理サイトに JSON ファイルがアップロードされている場合は、本操作は不要です。

8.3.1 Galaxy アカウントを取得する

以下を参照して、Galaxy アカウントを取得します。

『Knox Mobile Enrollment（KME）の運用フロー』の「端末購入前の事前準備」－「Galaxy Account の取得」

8.3.2 KME の申請をする

以下を参照して、KME の申請を行います。

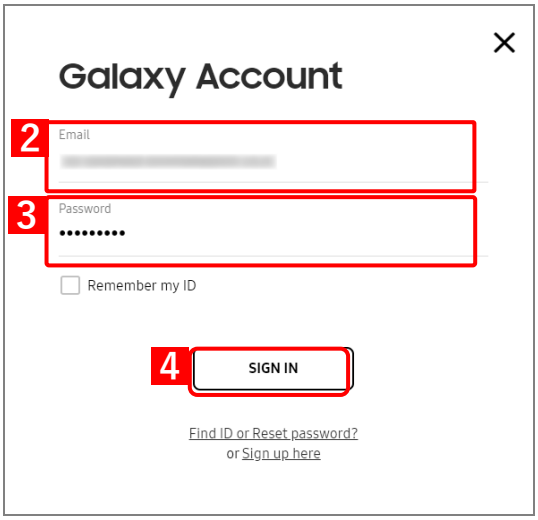
『Knox Mobile Enrollment（KME）の運用フロー』の「端末購入前の事前準備」－「Knox Mobile Enrollment の申請」

8.3.3 Knox API ポータルにログインできるようにする

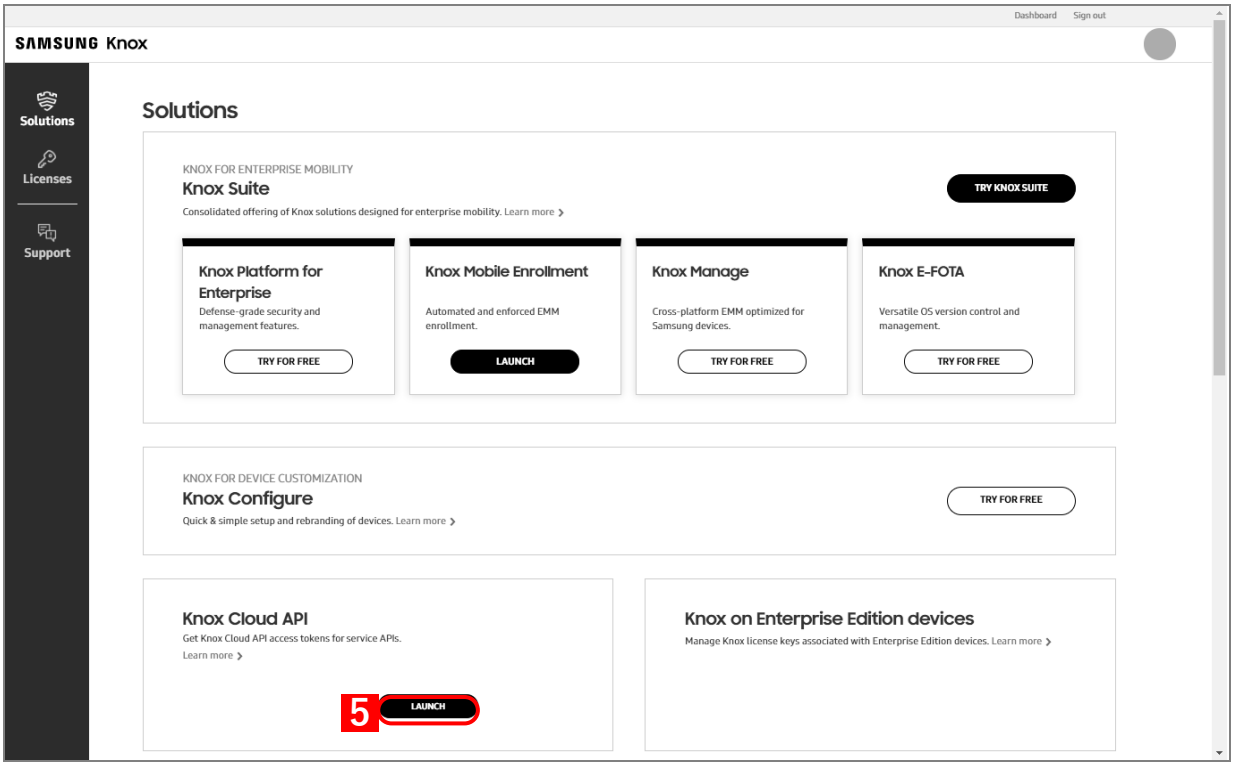
Knox API ポータルのログインができるように、サムスン電子社へ依頼します。

詳細については、サムスン電子社にお問い合わせください。

【1】https://www2.samsungknox.com/user にアクセスして、Knox ダッシュボードを表示します。
【2】「Email」に Galaxy アカウントを入力します。
【3】「Password」にパスワードを入力します。
【4】［SIGN IN］をクリックします。



【5】「Knox Cloud APIs」の［Launch］をクリックします。



【6】以降の操作は、画面の指示に従い、申請を行ってください。

詳細については、サムスン電子社にお問い合わせください。

8.3.4 JSON ファイルのダウンロードおよびクライアント識別子を取得する

Knox API ポータルで、JSON ファイルのダウンロードおよびクライアント識別子を取得します。

JSON ファイルのダウンロードは、1 つの Galaxy アカウントにつき初回ログイン時の 1 回のみです。紛失しても再発行はされません。ダウンロードした JSON ファイルが、任意の場所に保存されていることを必ず確認してください。

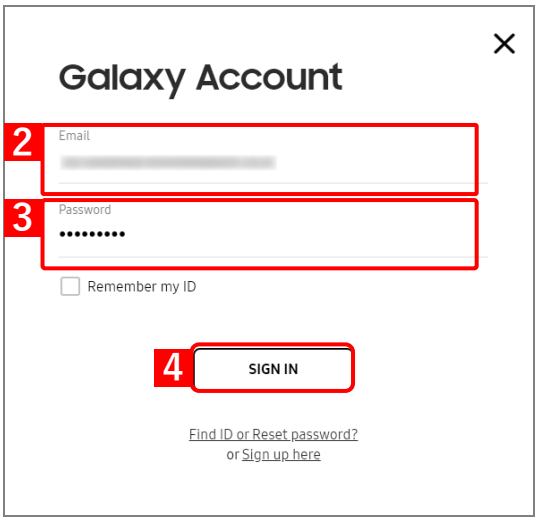
【1】https://eu-kcs-api.samsungknox.com/kapi/にアクセスして、Knox API ポータルを表示します。

【2】「Email」に Galaxy アカウントを入力します。

Knox API ポータルに初めてログインする Galaxy アカウントを入力してください。

【3】「Password」にパスワードを入力します。

【4】［SIGN IN］をクリックします。



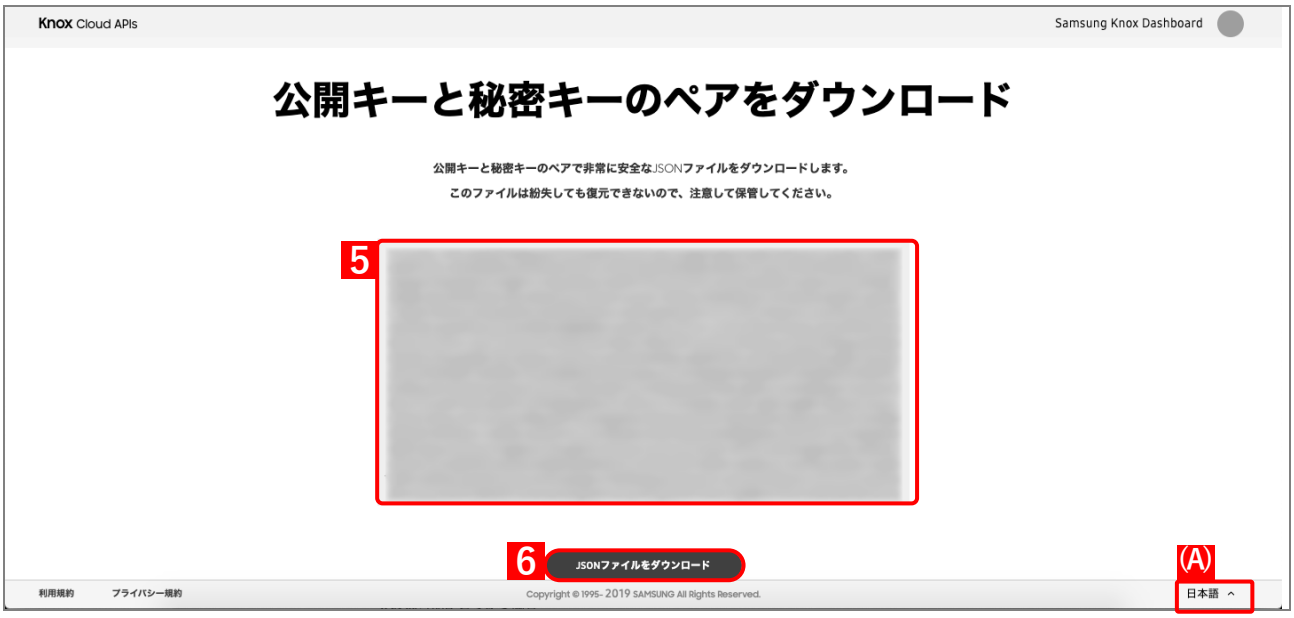
【5】JSON ファイルが表示されます。

JSON ファイルは、Knox API ポータルに初めてログインする Galaxy アカウントのみ表示されます。

言語は英語で表示されます。（A）をクリックして言語一覧から日本語を選択してください。

【6】［JSON ファイルをダウンロード］をクリックします。

⇒JSON ファイルのダウンロードが開始されます。



【7】JSON ファイルのダウンロードが完了しました。

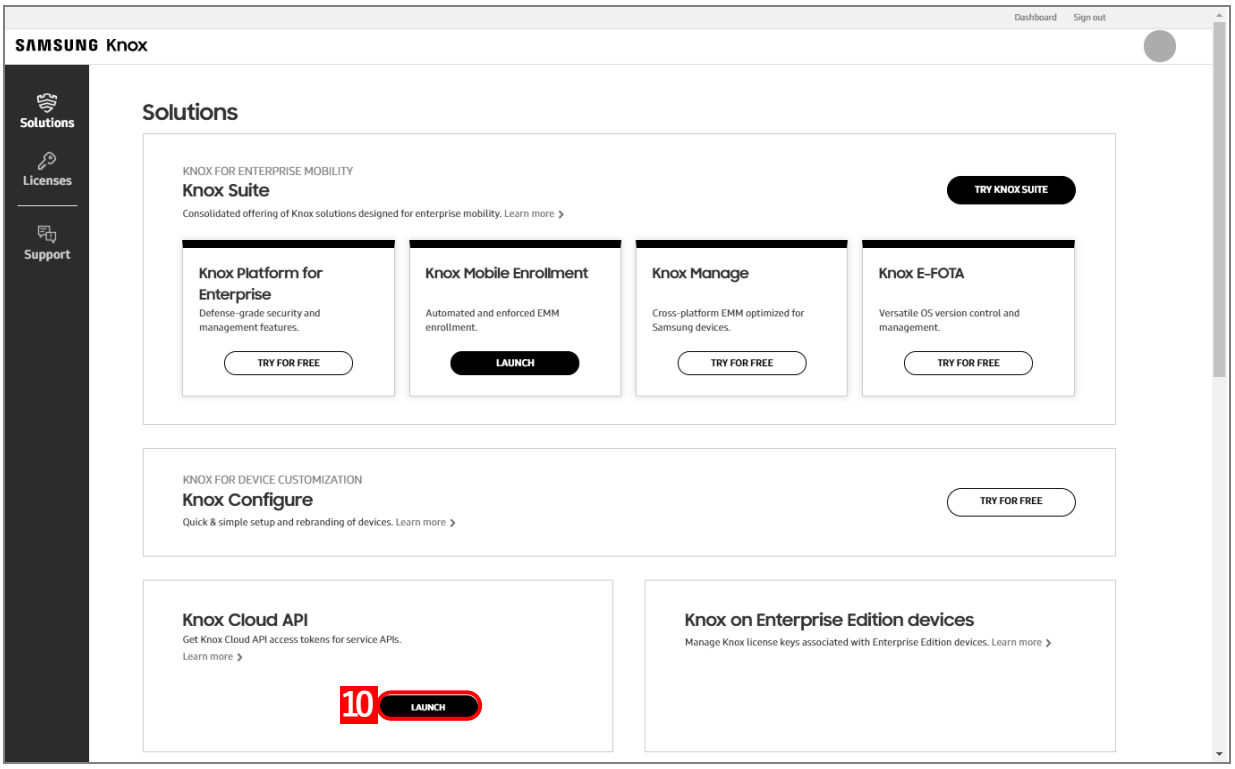
JSON ファイルの再発行はされません。必ず保存されていることを確認してください。

任意の場所にファイルを保存します。

【8】メッセージを確認して、［確認済み］をクリックします。

【9】［Samsung Knox Dashboard］をクリックします。

【10】「Knox Cloud API」の［Launch］をクリックします。



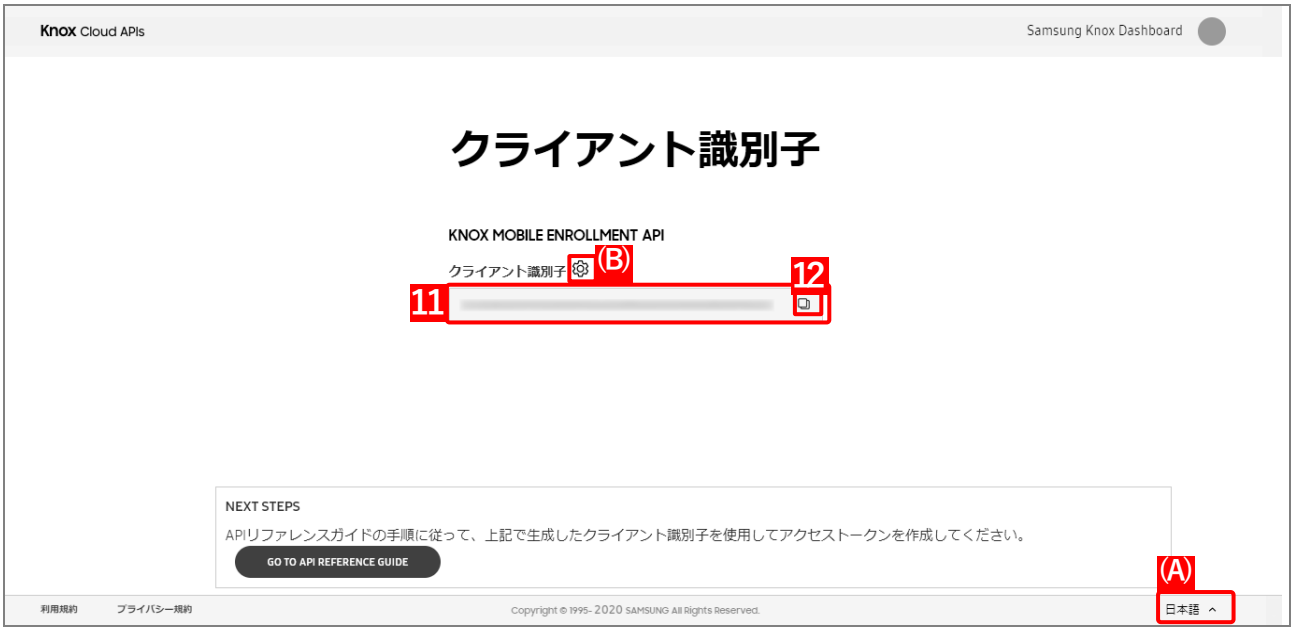
【11】クライアント識別子が表示されます。

言語は英語で表示されます。（A）をクリックして言語一覧から日本語を選択してください。

【12】 をクリックすると、クライアント識別子がクリップボードにコピーされます。

メモ帳などにペーストして保存してください。

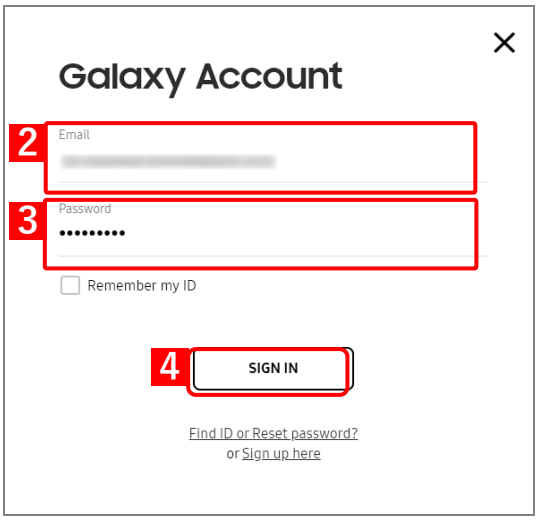
クライアント識別子を再生成する場合は、（B） をクリックします。



8.3.5 Knox カスタマーID を取得する

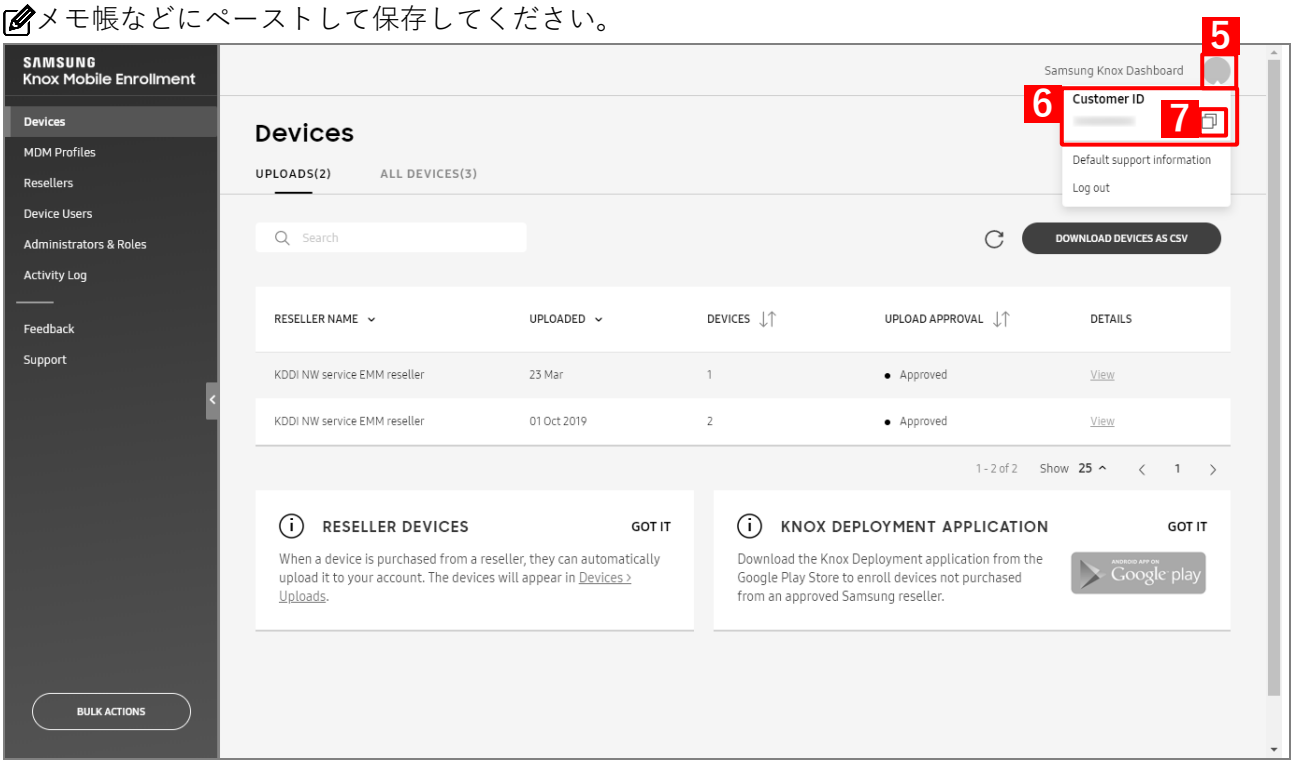
KME コンソールで、Knox カスタマーID を取得します。

【1】https://eu-kme.samsungknox.com/itadmin にアクセスして、Knox API ポータルを表示します。
【2】「Email」に Galaxy アカウントを入力します。
【3】「Password」にパスワードを入力します。
【4】［SIGN IN］をクリックします。



【5】ユーザーアイコンをクリックします。
【6】Knox カスタマーID が表示されます。
【7】をクリックすると、Knox カスタマーID がクリップボードにコピーされます。

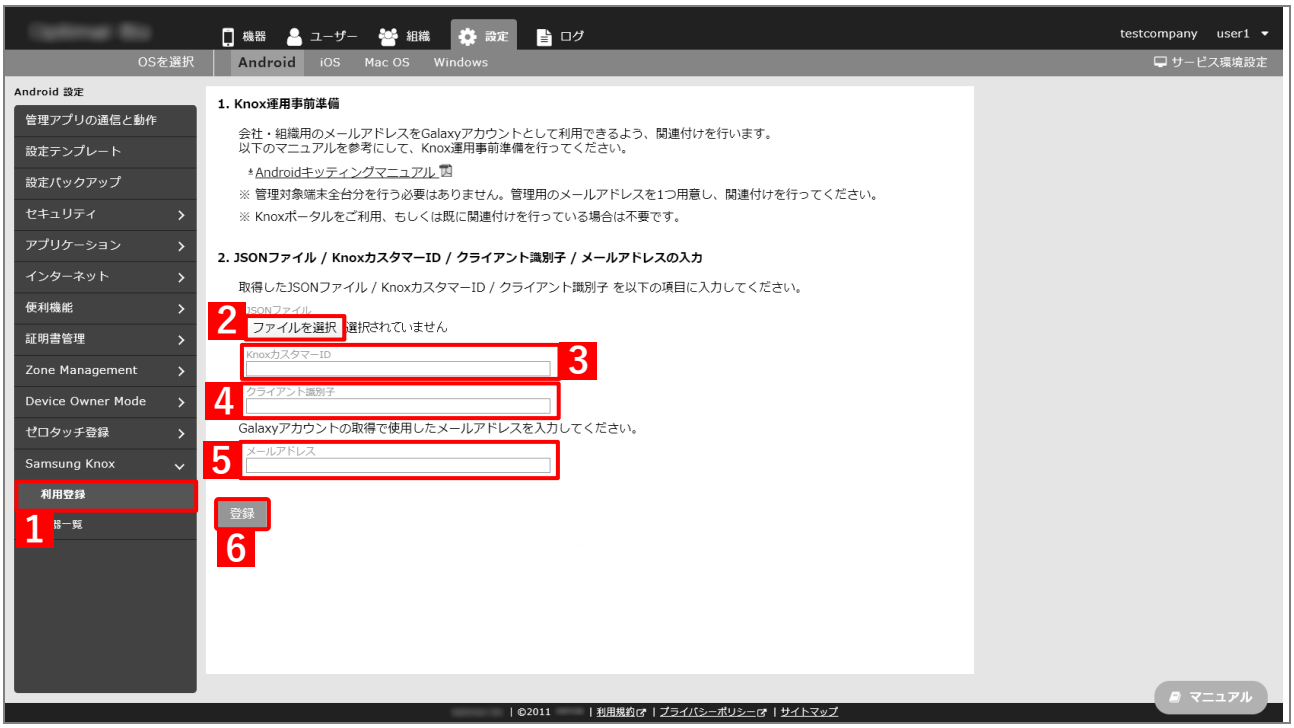
メモ帳などにペーストして保存してください。



8.4 Knox 認証情報および Knox プロファイル情報を設定する

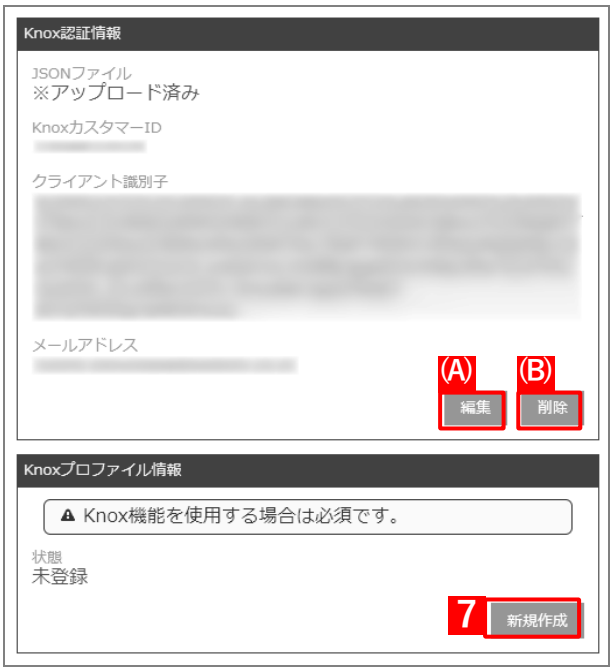
Knox API ポータルでダウンロードした JSON ファイルを管理サイトにアップロードし、機器情報を登録します。

【1】［設定］→［Android］→［Samsung Knox］→［利用登録］をクリックします。
【2】［ファイル選択］をクリックし、ダウンロードした JSON ファイルを選択します。
【3】KME コンソールで取得した「Knox カスタマーID」を入力します。
【4】Knox API ポータルで取得した「クライアント識別子」を入力します。
【5】「メールアドレス」に Galaxy アカウントを入力します。
【6】［登録］をクリックします。

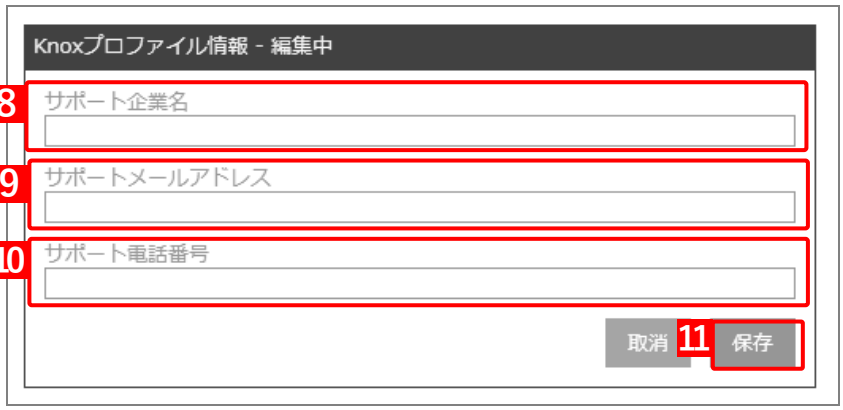


【7】「Knox プロファイル情報」の［新規作成］をクリックします。

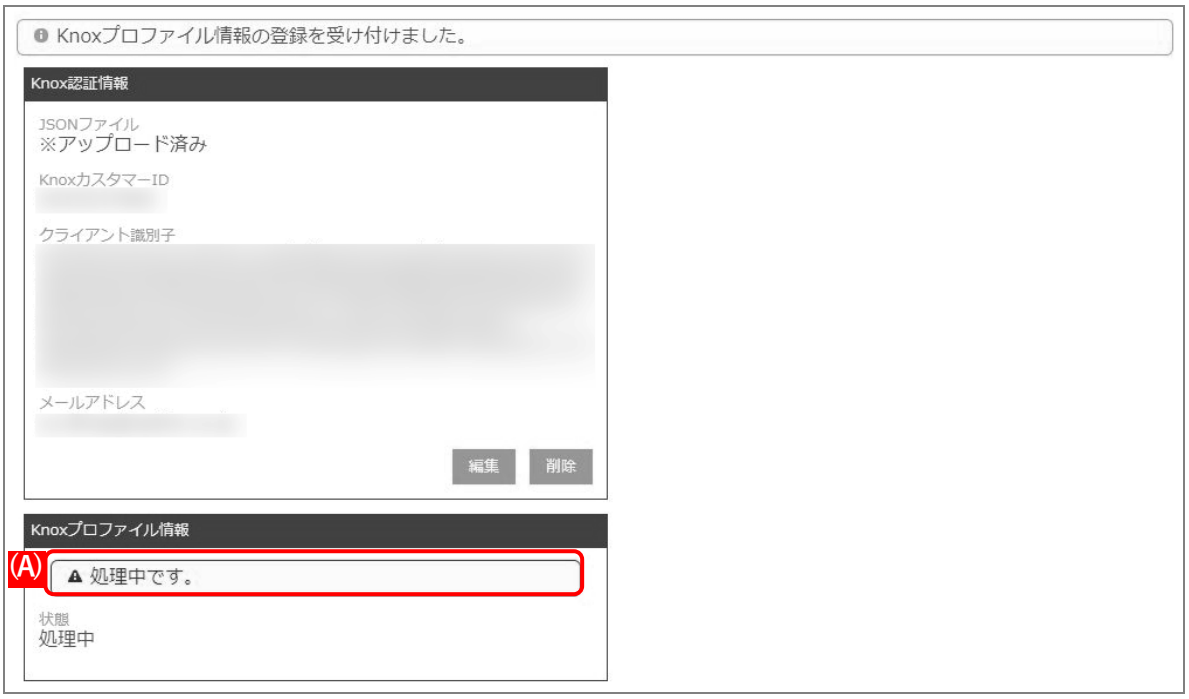
変更する場合は、(A)［編集］をクリックします。
削除する場合は、(B)［削除］をクリックします。



【8】「サポート企業名」に「SMSM」と入力します。
【9】「サポートメールアドレス」を入力します。
【10】「サポート電話番号」を入力します。
【11】［保存］をクリックします。



【12】（A）「処理中です。」と表示されたあと約 1 分が経過したら、手動でブラウザーを再読み込みします。



⇒Knox プロファイル情報の登録が完了し、利用登録画面が以下のように表示されます。
変更する場合は、（B）［編集］をクリックします。
削除する場合は、（C）［削除］をクリックします。

8.5 KME サーバーに同期する

以下の手順で KME サーバーとの同期を行い、管理サイトに端末の情報を表示させます。

事前に各機能の設定を登録しておくと、キッティングと同時に端末に機能が割り当てられます。機能の設定方法は、以下を参照してください。

『管理サイト リファレンスマニュアル』の「設定－Android」

【1】［設定］→［Android］→［Samsung Knox］→［機器一覧］をクリックします。

【2】［Knox サーバ同期］をクリックします。

Samsung Knox 機器一覧で表示された KME 端末は、機器画面の機器一覧で、認証待ち機器として表示されます。

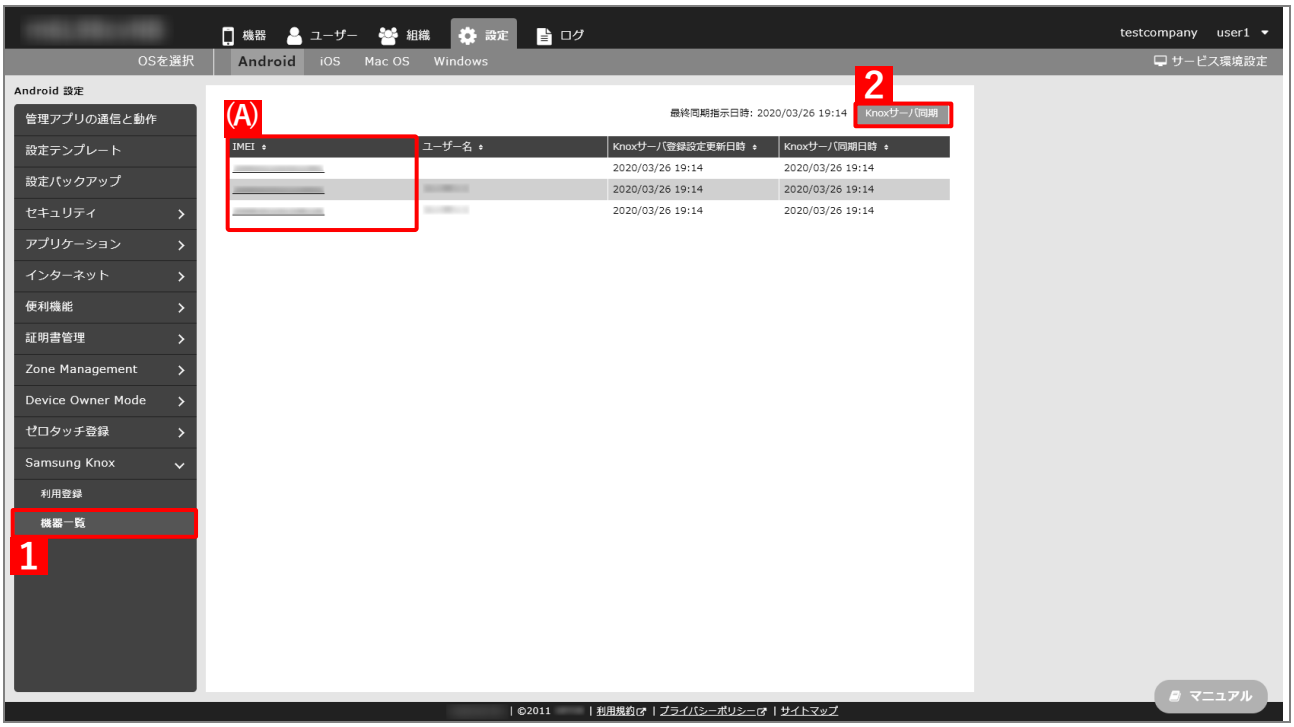
『管理サイト リファレンスマニュアル』の「機器」－「一覧」－「機器一覧」

Samsung Knox 機器一覧では、機器の削除はできないので、機器画面の機器一覧から削除してください。機器画面の機器一覧で削除したら、Samsung Knox 機器一覧からも削除されます。

『管理サイト リファレンスマニュアル』「機器」－「一覧」－「機器の個別削除」

機器画面から KME 端末の新規作成は行わないでください。

（A）［IMEI］をクリックすると、機器画面の機器一覧が表示されます。



8.6 KME（Google アカウント利用）でキッティングする

以下の手順で KME 端末のキッティングを行います。

管理サイトの「アプリケーション禁止」で「禁止するアプリケーション」、および「アプリケーション非表示」に「Google Play 開発者サービス（com.google.android.gms）」を設定していると、正常にキッティングが完了できない場合があります。以下を参照して、事前に設定を解除してから、キッティングを行ってください。

『管理サイト リファレンスマニュアル』の「設定－Android」－「アプリケーション」－「アプリケーション禁止」

『管理サイト リファレンスマニュアル』の「設定－Android」－「Device Owner Mode」－「アプリケーション非表示」

本キッティング方法は、KME に対応した一部の Samsung 製端末でのみ利用できます。

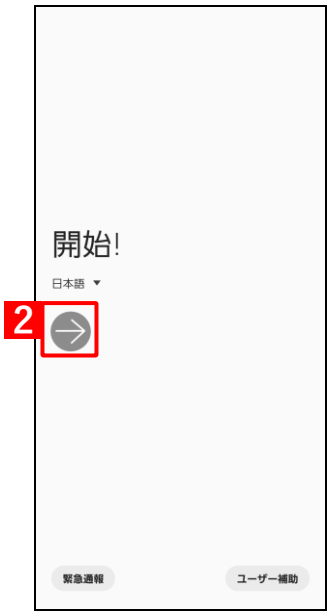
端末によっては手順が異なる場合があります。その場合は、実際の画面の案内に従って操作してください。

手順【12】の画面は、機種や OS によって表示されるタイミングが異なる場合があります。

【1】端末を起動します。

⇒「開始！」画面が表示されます。

【2】 をタップします。



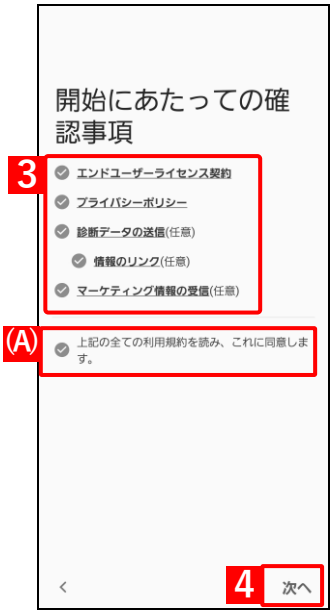
【3】各項目をタップして内容を確認し、チェックを入れます。

（A）［上記全ての利用規約を読み、これに同意します。］をタップすると、すべての項目にチェックが入ります。

【4】［次へ］をタップします。

以降の手順【5】～【9】は、端末に SIM カードが挿入されている場合の操作です。SIM カードが挿入されていない場合の操作については、以下を参照してください。

「端末に SIM カードが挿入されていない場合」282 ページ



【5】使用するネットワーク接続方法に応じて、以下のいずれかの操作を行います。

必ずネットワークに接続して、以降の手順を進めてください。

≪モバイルネットワークを使用する場合≫

（A）［続行］をタップし、手順【10】に進みます。

⇒「端末を設定してください」画面が表示されるまでお待ちください。

≪Wi-Fi ネットワークを使用する場合≫

（B）［設定］をタップし、次の手順に進みます。

【6】接続する Wi-Fi ネットワークを選択します。

（A）が「OFF」に設定されている場合は、「接続可能なネットワーク」にネットワークが表示されません。必ず「ON」に設定してください。

【7】「パスワード」を入力します。

【8】［接続］をタップします。

【9】 ＜ をタップします。

⇒「端末を設定してください」画面が表示されるまでお待ちください。

（A）「現在のネットワーク」に、接続中の Wi-Fi ネットワークが表示されています。

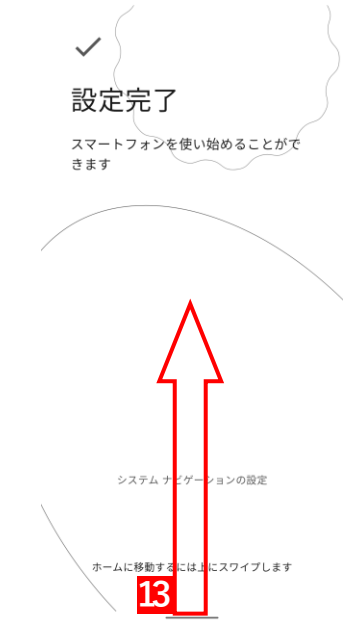
【10】［同意して続行］をタップします。

【11】［次へ］をタップします。

【12】［OK］をタップします。

【13】画面下部からスワイプします。

⇒ホーム画面に移動します。



【14】［KDDI Safety Manager］をタップします。

ホーム画面にアイコンが表示されない場合は、アプリ一覧を確認してください。

【15】［ライセンス認証］をタップします。

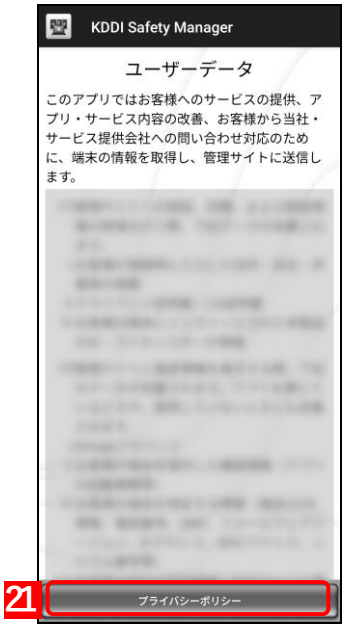
【16】［OK］をタップします。

【17】利用規約の［確認・同意］をタップします。

【18】「利用規約に同意する」にチェックを入れます。
【19】［OK］をタップします。

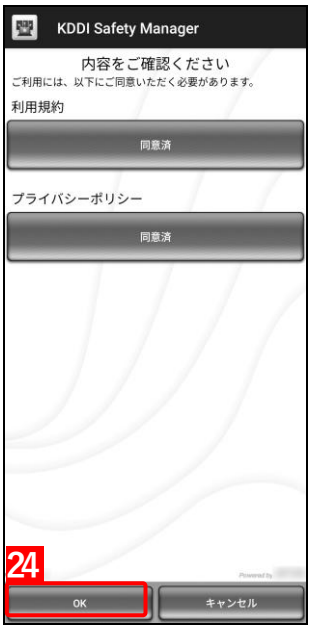
【20】プライバシーポリシーの［確認・同意］をタップします。

【21】ユーザーデータについて確認して、［プライバシーポリシー］をタップします。



【22】「プライバシーポリシーに同意する」にチェックを入れます。
【23】［OK］をタップします。

【24】［OK］をタップします。

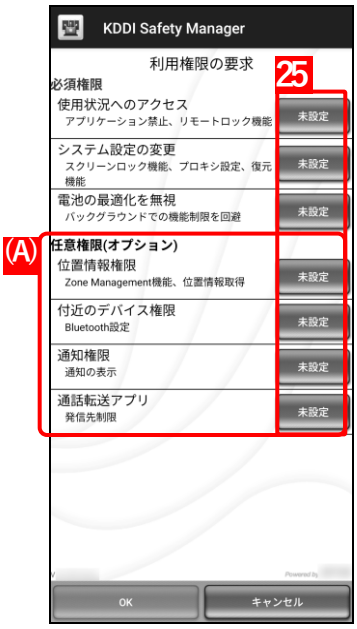


【25】画面の案内に従って設定を行ってください。

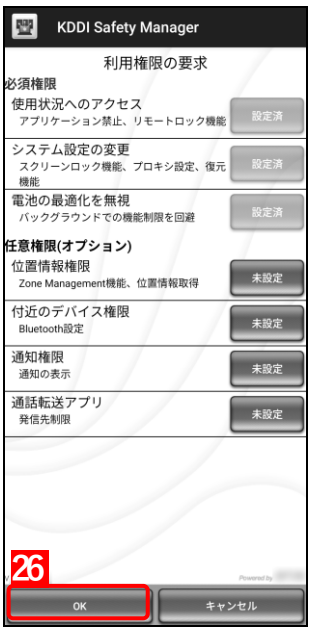
Android 12 以上でエージェントバージョン 9.14.0 以上の場合、（A）任意権限に「付近のデバイス権限」が表示されます。

Android 13 以上でエージェントバージョン 9.16.0 以上の場合、（A）任意権限に「通知権限」が表示されます。「ストレージ権限」は表示されません。

Android 10 以上でエージェントバージョン 9.22.0 以上の場合、（A）任意権限に「通話転送アプリ」が表示されます。



【26】［OK］をタップします。



【27】「ユーザーID またはメールアドレス」「パスワード」を入力します。

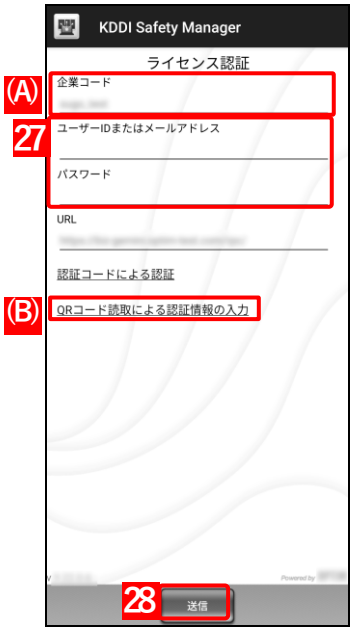
ユーザーID またはメールアドレス、パスワードは管理者にお問い合わせください。

（A）「企業コード」は、自動で入力されています。

（B）［QR コード読取による認証情報の入力］をタップして、エージェント認証用 QR コードを読み取ると、「企業コード」、「認証コード」、「URL」が自動で入力されます。QR コードは、管理者にお問い合わせください。

【28】［送信］をタップします。

⇒ライセンス認証完了の画面が表示されます。



【29】［OK］をタップします。

⇒初期登録画面が表示されます。

手順【30】～【34】の初期登録画面は、管理サイトでポータル表示を「表示」に設定している場合のみ表示されます。

『管理サイト リファレンスマニュアル』の「サービス環境設定」－「ポータル表示」

【30】社員番号、姓、名を入力します。

【31】［次へ］をタップします。

⇒機器にユーザーが紐づきます。

登録したユーザーを変更することはできません。

すでにユーザーが端末に紐づけられている場合は、ユーザーが紐づけられているメッセージが表示されます。

ユーザー情報の登録が不要の場合は、(A)［閉じる］をタップするか、端末の戻るボタンで画面を閉じてください。

【32】必要事項を選択、入力します。

【33】［次へ］をタップします。

あらかじめ、管理サイトの［入力項目のカスタマイズ］で入力項目を追加してください。追加するとき、「機器から入力可」にチェックを入れてください。チェックが入っていない場合は、項目が表示されません。

『管理サイト リファレンスマニュアル』の「機器」―「入力項目のカスタマイズ」

管理サイトの［入力項目のカスタマイズ］で設定した内容により、画面に表示される「分類」と「自由入力項目」の内容が異なります。

機器情報の登録が不要の場合は、(A)［閉じる］をタップするか、端末の戻るボタンで画面を閉じてください。

【34】［OK］をタップします。

⇒キッティングおよびライセンス認証が完了しました。

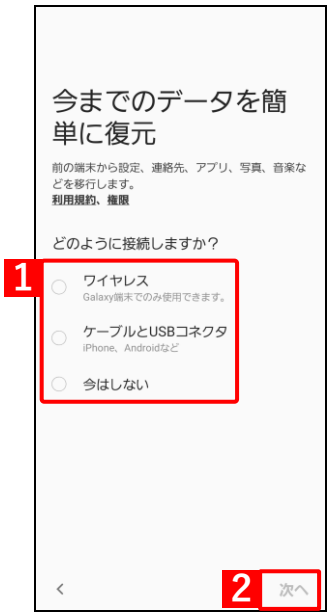
端末に SIM カードが挿入されていない場合

「KME（Google アカウント利用）でキッティングする」の手順【4】のあと、以下の操作を行います。

【1】これまで使用していた端末との接続方法を選択します。

これまで使用していた端末から、設定や連絡先、アプリ、写真、音楽などのデータを移行できます。

【2】［次へ］をタップします。



【3】画面の案内に従って設定を行います。

選択した接続方法によって操作が異なります。

【4】接続する Wi-Fi ネットワークを選択します。

必ずネットワークに接続して、以降の手順を進めてください。

【5】「パスワード」を入力します。
【6】［接続］タップします。

【7】［次へ］をタップします。

⇒「KME（Google アカウント利用）でキッティングする」の手順【10】に進んでください。
「端末を設定してください」画面が表示されるまでお待ちください。

9 Google Workspace アカウントで KME を利用して Android Enterprise 連携を行う

Knox Mobile Enrollment（KME）とは、Samsung の提供するエージェントのキッティング方法の 1 つです。この方法ではキッティング手順が省略化され、大規模な端末の導入を簡単かつ迅速に行うことができます。KME に対応した端末には、エージェントが自動的に Device Owner Mode としてインストールされるため、よりセキュアな端末管理が可能です。

KME キッティングの方法については、以下を参照してください。

☞「KME（Google Workspace アカウント利用）でキッティングする」309 ページ

KME サーバーとの連携を行うと、端末が本製品の機器一覧に事前機器として表示されます。

注意

- 本キッティング方法を利用するには、あらかじめ Samsung 製の KME 対応端末を購入する必要があります。
- KME 対応端末を購入する場合は、あらかじめ販売元に KME の利用方法についてご確認ください。
- その他 KME の詳細については、KME 対応端末の販売元にお問い合わせください。
- 以下の項目は、初回のキッティング時のみ必要な操作です。

☞「トークンを発行する」285 ページ
☞「Google Workspace アカウントを登録する」291 ページ
☞「KME を利用するための準備を行う」299 ページ
☞「Knox 認証情報および Knox プロファイル情報を設定する」305 ページ

参考

- 本製品と連携しない場合は、管理サイトに Knox 認証情報および Knox プロファイル情報を設定する必要はありません。以下を参照して、端末購入前の事前準備をすべて行ってから、KME 対応端末のキッティングをしてください。

『Knox Mobile Enrollment（KME）の運用フロー』

- あらかじめ管理サイトで Android Enterprise の「アプリケーション配信」機能を設定しておくと、キッティングの完了後、ライセンス認証と同時に特定のアプリを端末に配信できます。アプリケーション配信の詳細については、以下を参照してください。

『Android Enterprise アプリケーション配信 手順書』の「アプリをインストールする」

9.1 トークンを発行する

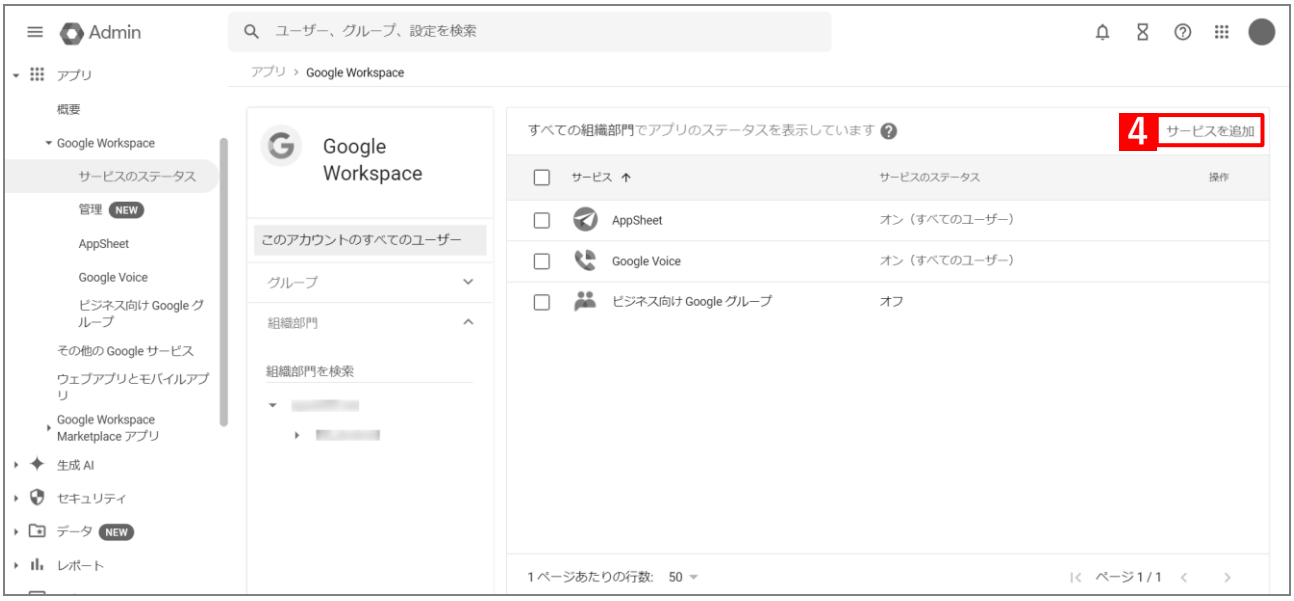
以下の手順で、Google Workspace アカウントを利用して本製品と Google 間の連携設定を行います。

【1】Google 管理コンソール（https://admin.google.com）を表示します。

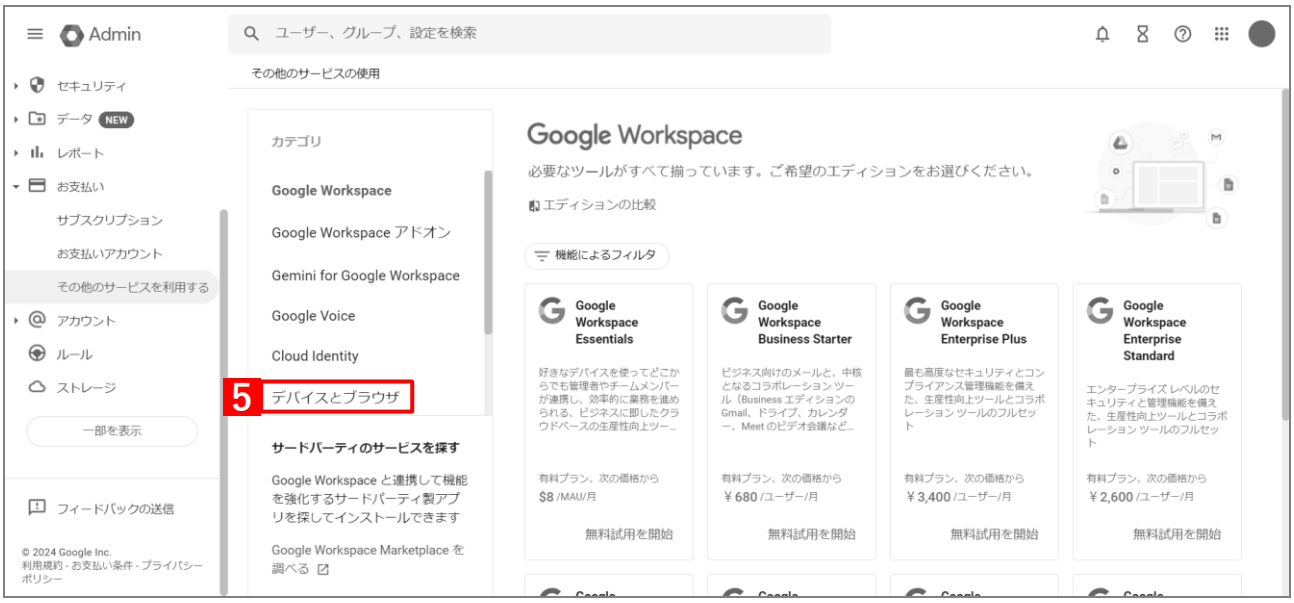
【2】［アプリ］をクリックします。

【3】［Google Workspace］をクリックします。

【4】［サービスを追加］をクリックします。



【5】［デバイスとブラウザ］をクリックします。



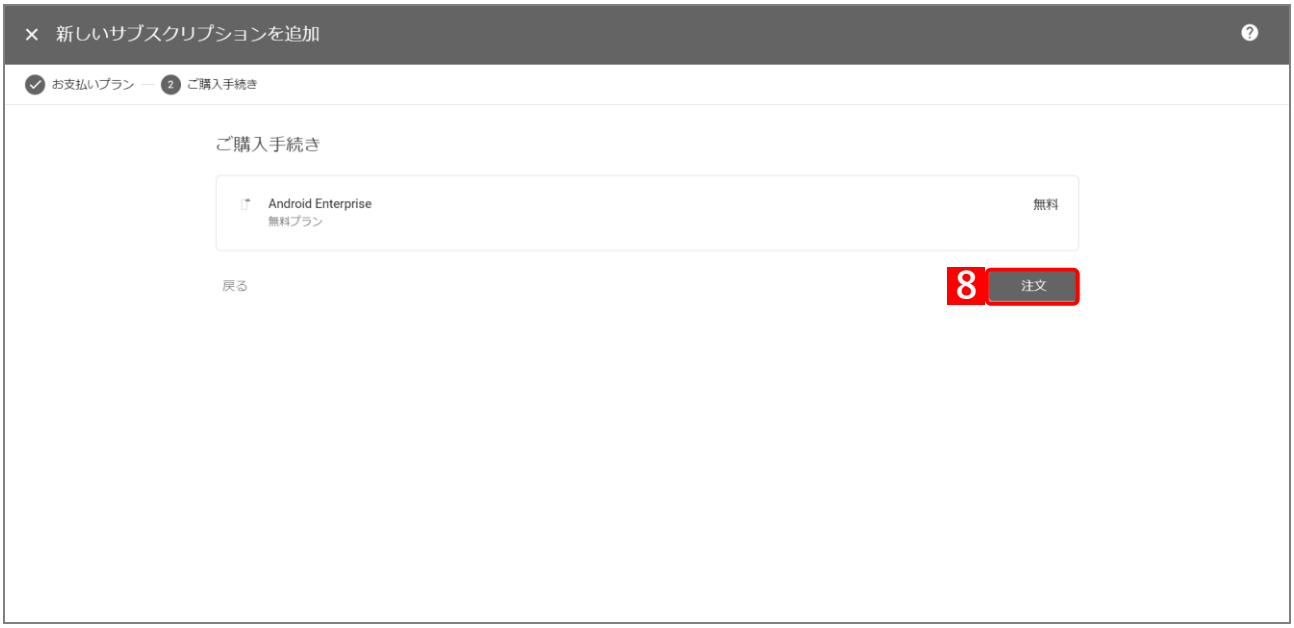
【6】「Android Enterprise」の［開始］をクリックします。

本操作により、料金が発生することはありません。

【7】［ご購入手続き］をクリックします。

【8】［注文］をクリックします。

⇒管理コンソールが表示されます。

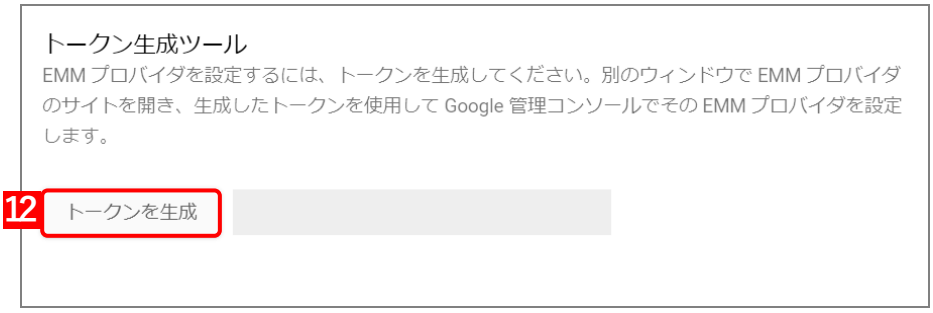


【9】［×］をクリックします。

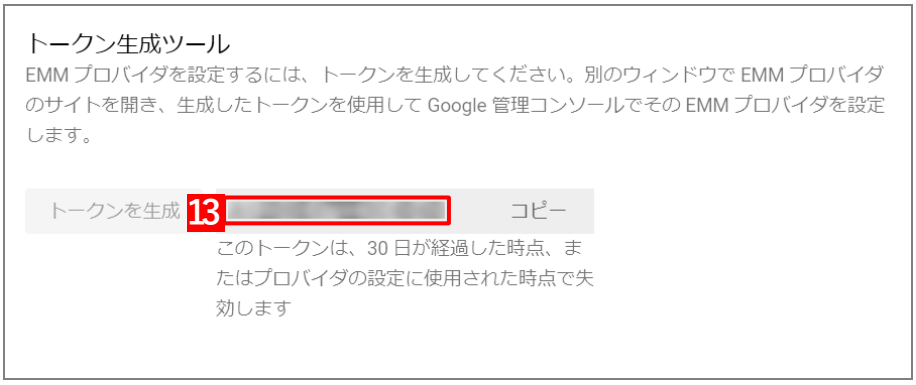
【10】［デバイス］→［モバイルとエンドポイント］→［設定］→［サードパーティとの連携］をクリックします。

【11】［Android EMM］の［EMM プロバイダを追加］をクリックします。

【12】［トークンを生成］をクリックします。



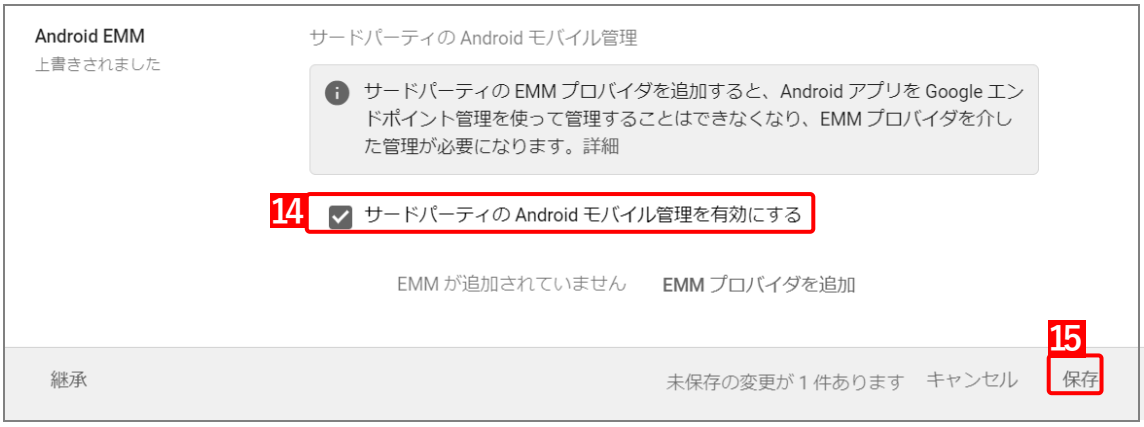
【13】トークンが表示されます。アカウント登録に必要となりますのでメモしてください。



【14】「Android EMM」の「サードパーティの Android モバイル管理を有効にする」にチェックを入れます。

【15】［保存］をクリックします。

［保存］をクリックすると、メッセージ画面が表示される場合があります。［×］でメッセージ画面を閉じてください。



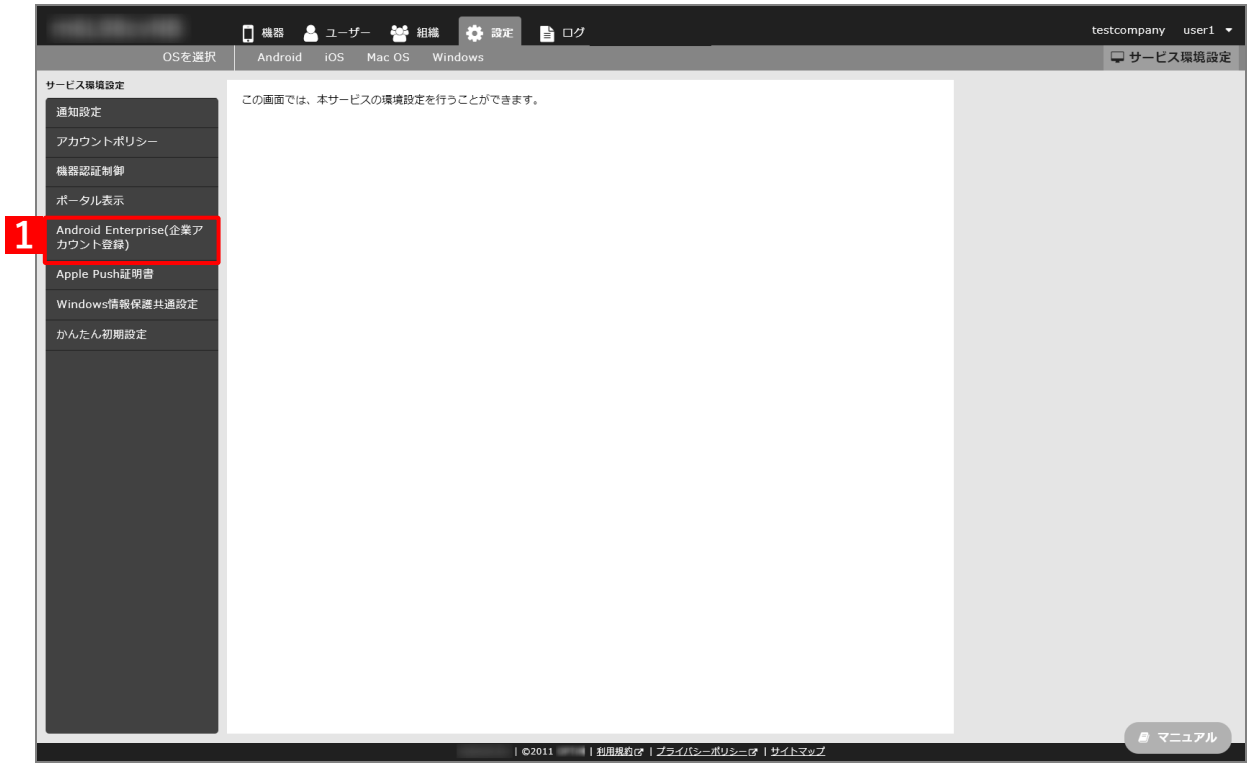
9.2 Google Workspace アカウントを登録する

以下の手順で、管理サイトに Google Workspace アカウントを登録します。

Google Workspace アカウントを登録後は、Google 側の設定変更は行わないでください。

Google Workspace 標準の「モバイル管理機能」を使っていた場合はモバイル管理機能の「端末」情報を削除してください。

【1】［設定］→［サービス環境設定］→［Android Enterprise（企業アカウント登録）］をクリックします。



【2】「Google Workspace アカウント」を選択します。

「アカウント種別」の初期値は「Google Workspace アカウント」が選択されています。

（A）「状態」は「未登録」と表示されています。

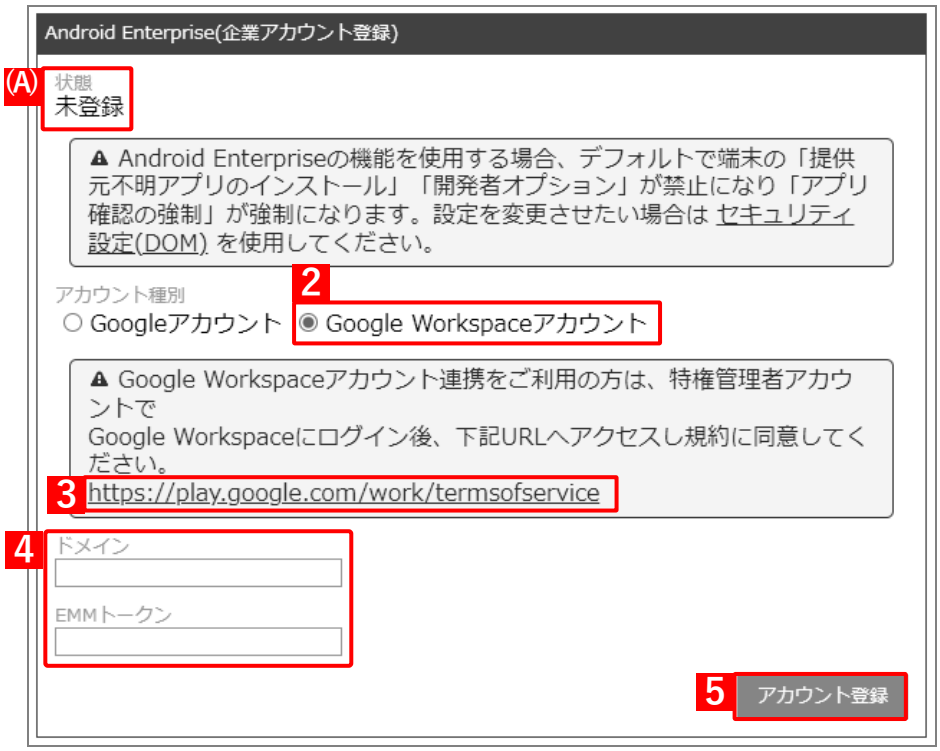
【3】https://play.google.com/work/termsofservice にアクセスして、利用規約に同意します。

【4】「ドメイン」、「EMM トークン」を入力します。

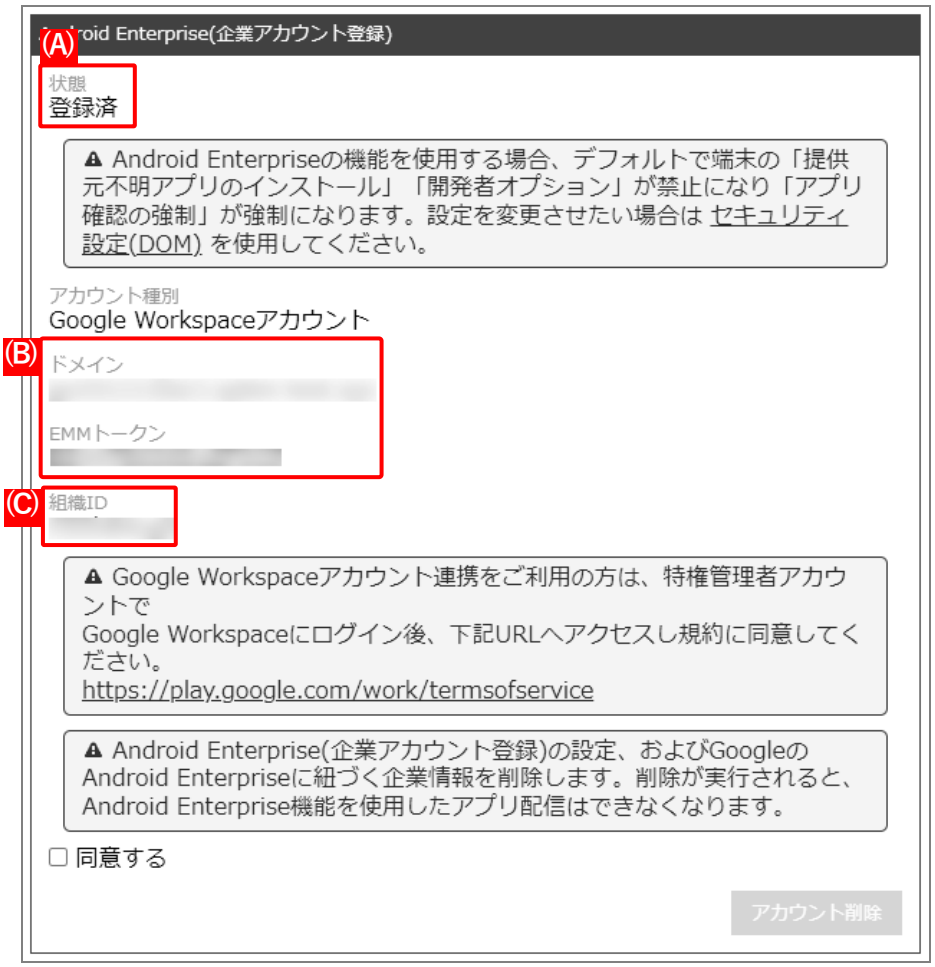
「ドメイン」には、契約している Google Workspace アカウントのドメインを入力してください。Google Workspace アカウントが「XXXXX@xxxxx.co.jp」の場合は、ドメインは「xxxxx.co.jp」になります。

【5】［アカウント登録］をクリックします。

⇒アカウント登録済みの画面が表示されます。



（A）「状態」は「登録済」と表示されています。
（B）手順【4】で入力した「ドメイン」、「EMM トークン」が表示されています。
（C）「組織 ID」に managed Google Play ストアでの組織の一意の識別子が表示されています。



【6】Google 管理コンソール（https://admin.google.com）を表示します。

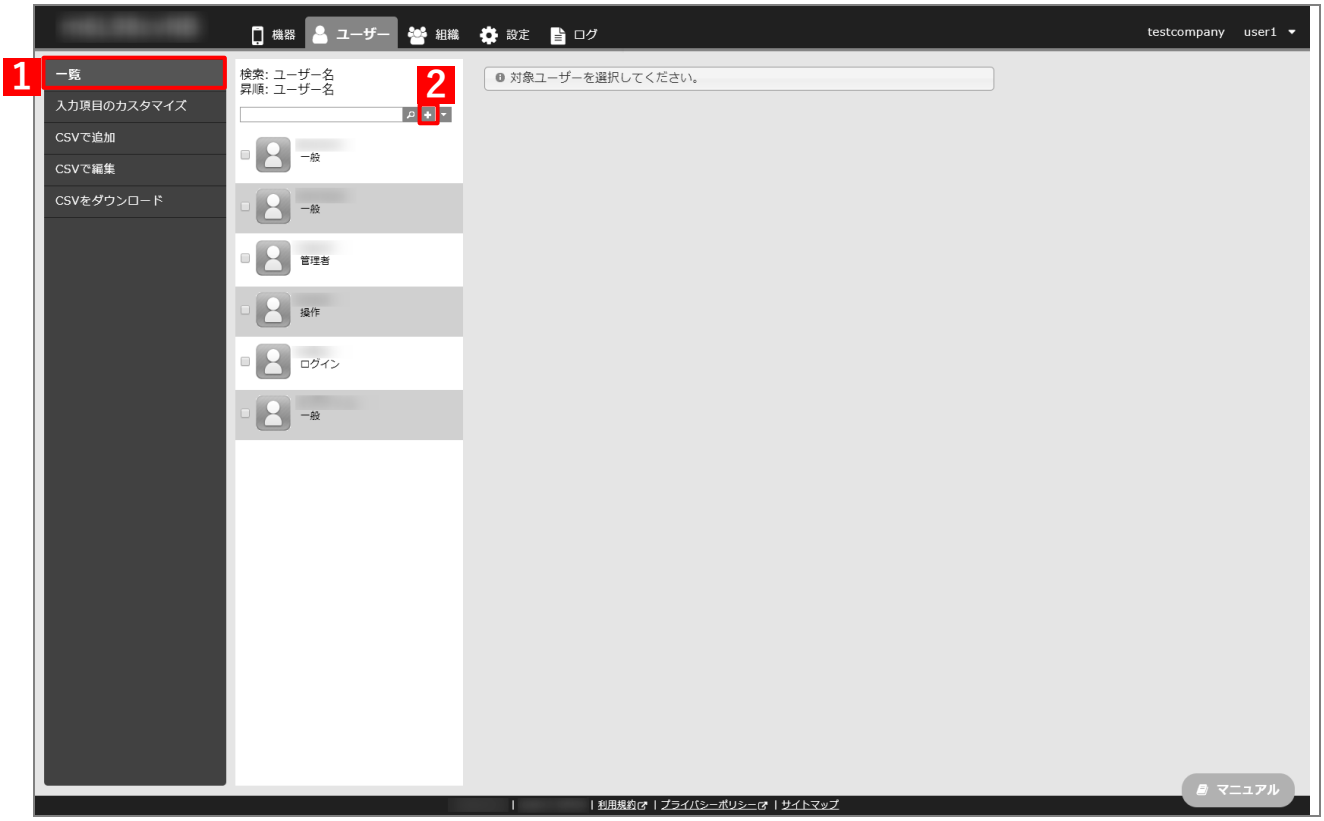
【7】［デバイス］→［モバイルとエンドポイント］→［設定］→［サードパーティとの連携］をクリックします。

【8】「Android EMM」の「EMM プロバイダ」を選択します。
【9】［保存］をクリックします。

9.3 ユーザーを作成する

以下の手順で、ユーザーを作成します。

【1】［ユーザー］→［一覧］をクリックします。
【2】 ＋ をクリックします。



【3】「名前」に任意の名前を入力します。

その他の入力および設定項目の詳細については、以下を参照してください。

『管理サイト リファレンスマニュアル』の「ユーザー」－「一覧」－「ユーザーの作成」

【4】［保存］をクリックします。

⇒ユーザーが作成されます。

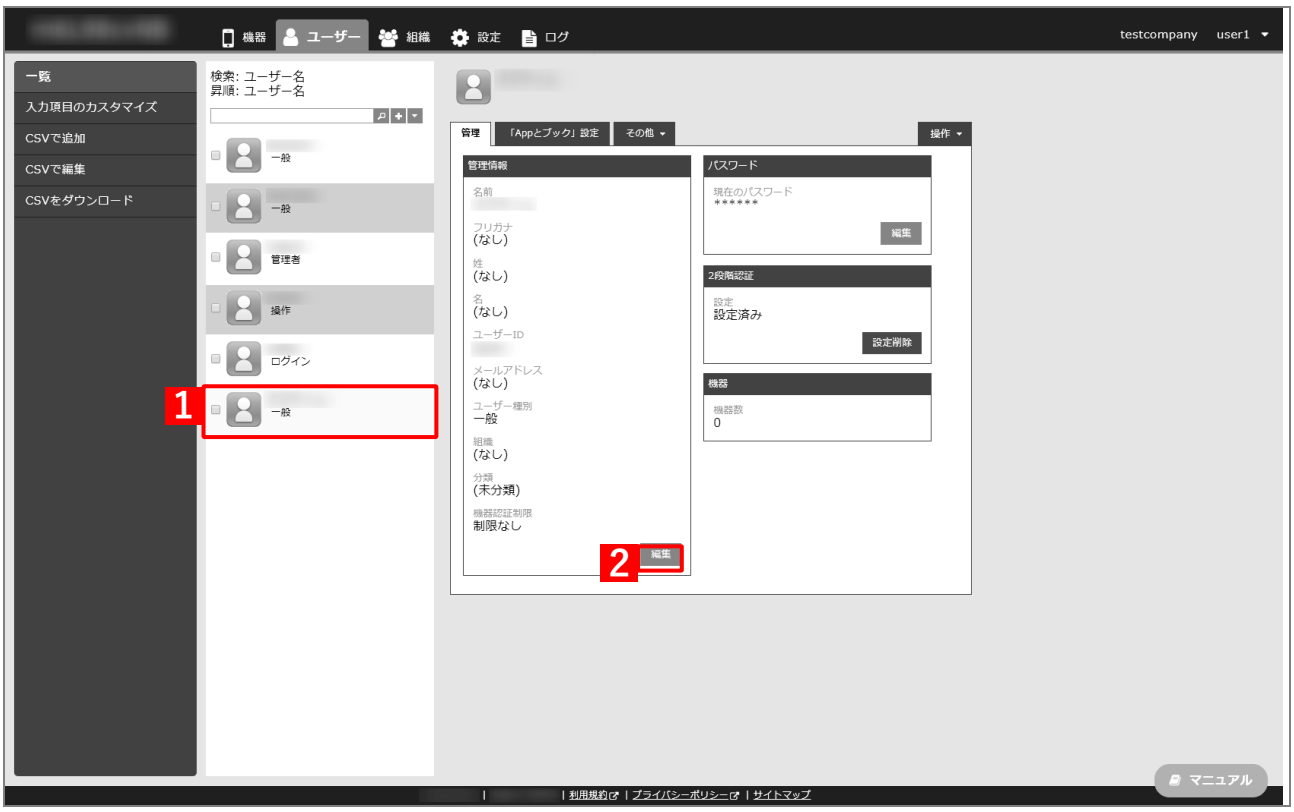
9.3.1 既存のユーザーに Google Workspace アカウントを登録する

既存のユーザーに対して Google Workspace アカウントを登録するには、以下の操作を行います。

Google Workspace アカウントが登録されていない場合は、キッティング時のライセンス認証に失敗します。

【1】［ユーザー］→［一覧］→一覧から対象ユーザーを選択します。

【2】［編集］をクリックします。



【3】「メールアドレス」に Google Workspace アカウントを入力します。

【4】［保存］をクリックします。

⇒ユーザーにメールアドレスが登録されます。

9.4 KME を利用するための準備を行う

管理サイトと連携するために、Galaxy アカウントを会社用メールアドレスに関連付けます。

管理用のメールアドレスを 1 つ用意してください。管理者個人のメールアドレスではなく、管理担当部署のメーリングリストなどを推奨します。

すでに Knox API ポータルを利用している、または管理サイトに JSON ファイルがアップロードされている場合は、本操作は不要です。

9.4.1 Galaxy アカウントを取得する

以下を参照して、Galaxy アカウントを取得します。

『Knox Mobile Enrollment（KME）の運用フロー』の「端末購入前の事前準備」－「Galaxy Account の取得」

9.4.2 KME の申請をする

以下を参照して、KME の申請を行います。

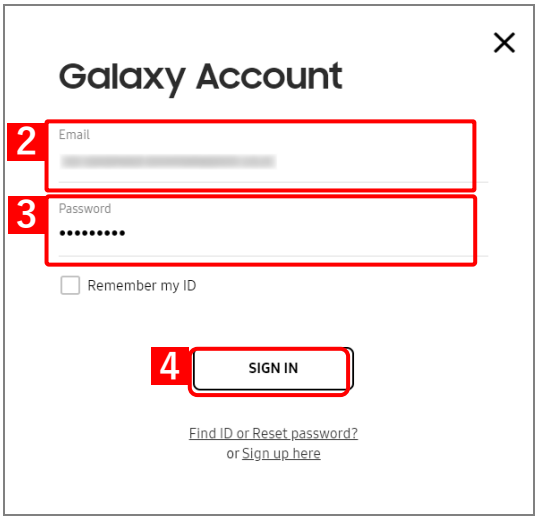
『Knox Mobile Enrollment（KME）の運用フロー』の「端末購入前の事前準備」－「Knox Mobile Enrollment の申請」

9.4.3 Knox API ポータルにログインできるようにする

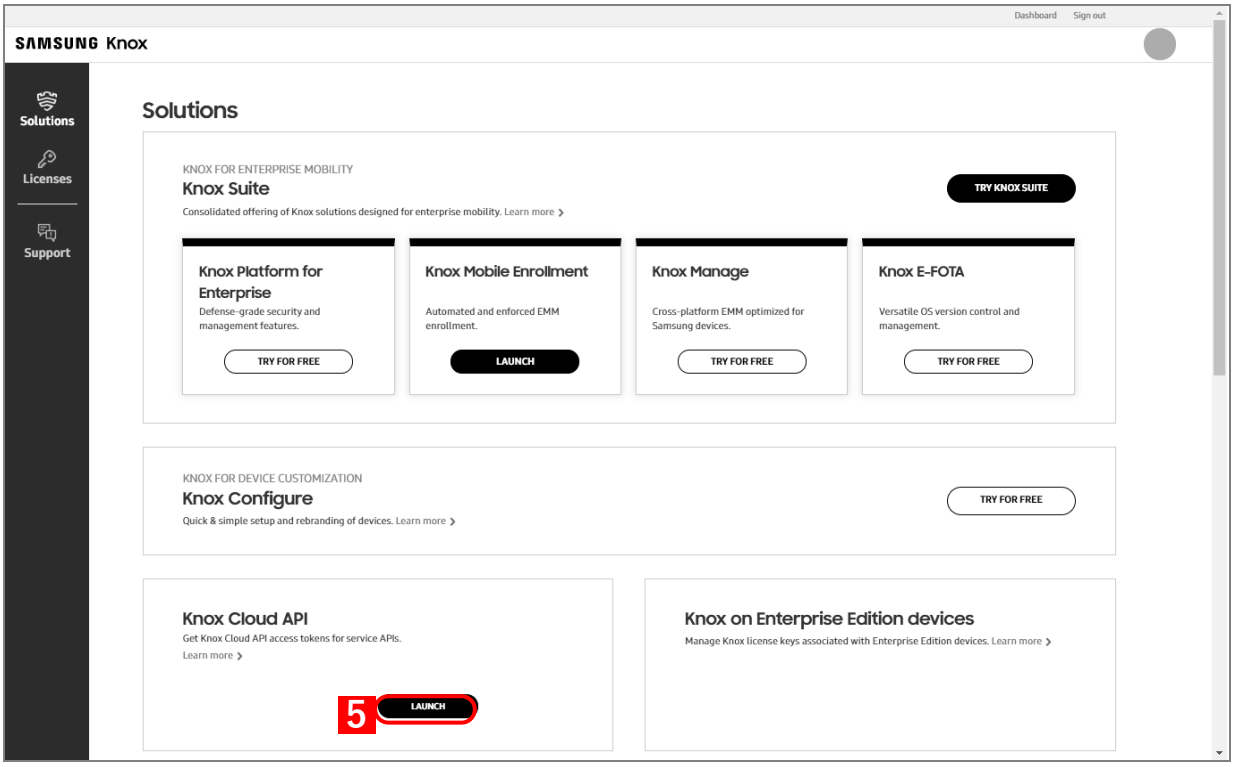
Knox API ポータルのログインができるように、サムスン電子社へ依頼します。

詳細については、サムスン電子社にお問い合わせください。

【1】https://www2.samsungknox.com/user にアクセスして、Knox ダッシュボードを表示します。
【2】「Email」に Galaxy アカウントを入力します。
【3】「Password」にパスワードを入力します。
【4】［SIGN IN］をクリックします。



【5】「Knox Cloud APIs」の［Launch］をクリックします。



【6】以降の操作は、画面の指示に従い、申請を行ってください。

詳細については、サムスン電子社にお問い合わせください。

9.4.4 JSON ファイルのダウンロードおよびクライアント識別子を取得する

Knox API ポータルで、JSON ファイルのダウンロードおよびクライアント識別子を取得します。

JSON ファイルのダウンロードは、1 つの Galaxy アカウントにつき初回ログイン時の 1 回のみです。紛失しても再発行はされません。ダウンロードした JSON ファイルが、任意の場所に保存されていることを必ず確認してください。

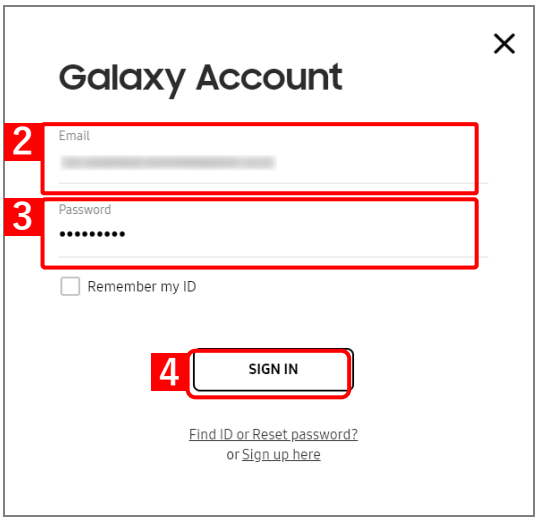
【1】https://eu-kcs-api.samsungknox.com/kapi/にアクセスして、Knox API ポータルを表示します。

【2】「Email」に Galaxy アカウントを入力します。

Knox API ポータルに初めてログインする Galaxy アカウントを入力してください。

【3】「Password」にパスワードを入力します。

【4】［SIGN IN］をクリックします。



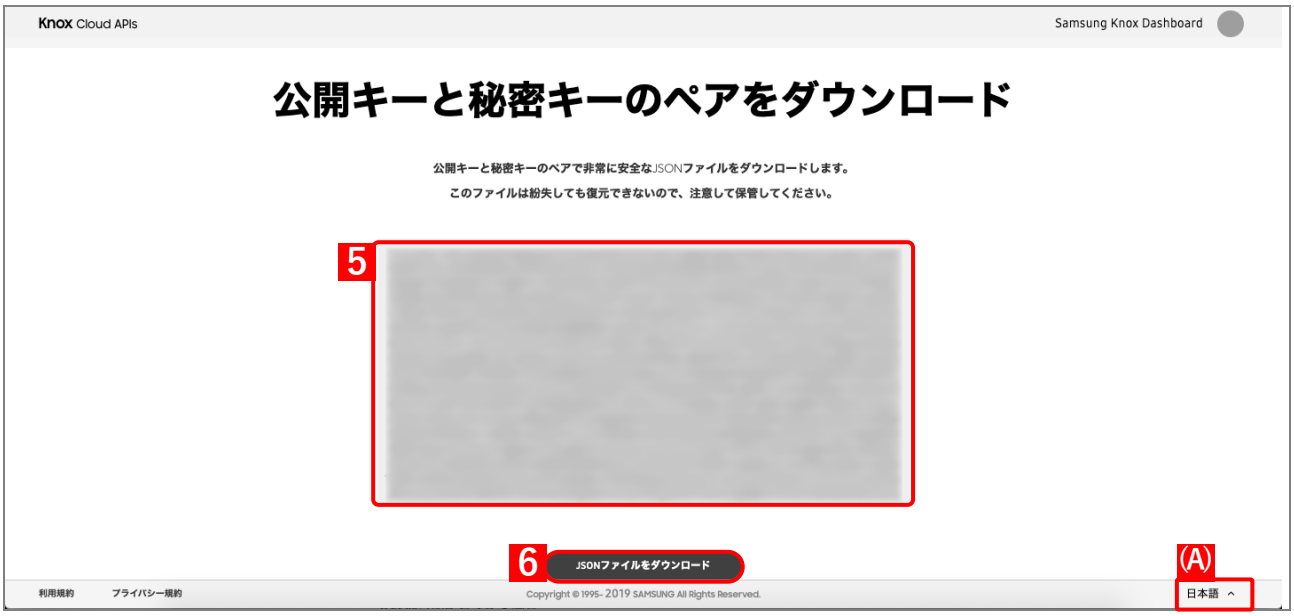
【5】JSON ファイルが表示されます。

JSON ファイルは、Knox API ポータルに初めてログインする Galaxy アカウントのみ表示されます。

言語は英語で表示されます。（A）をクリックして言語一覧から日本語を選択してください。

【6】［JSON ファイルをダウンロード］をクリックします。

⇒JSON ファイルのダウンロードが開始されます。



【7】JSON ファイルのダウンロードが完了しました。

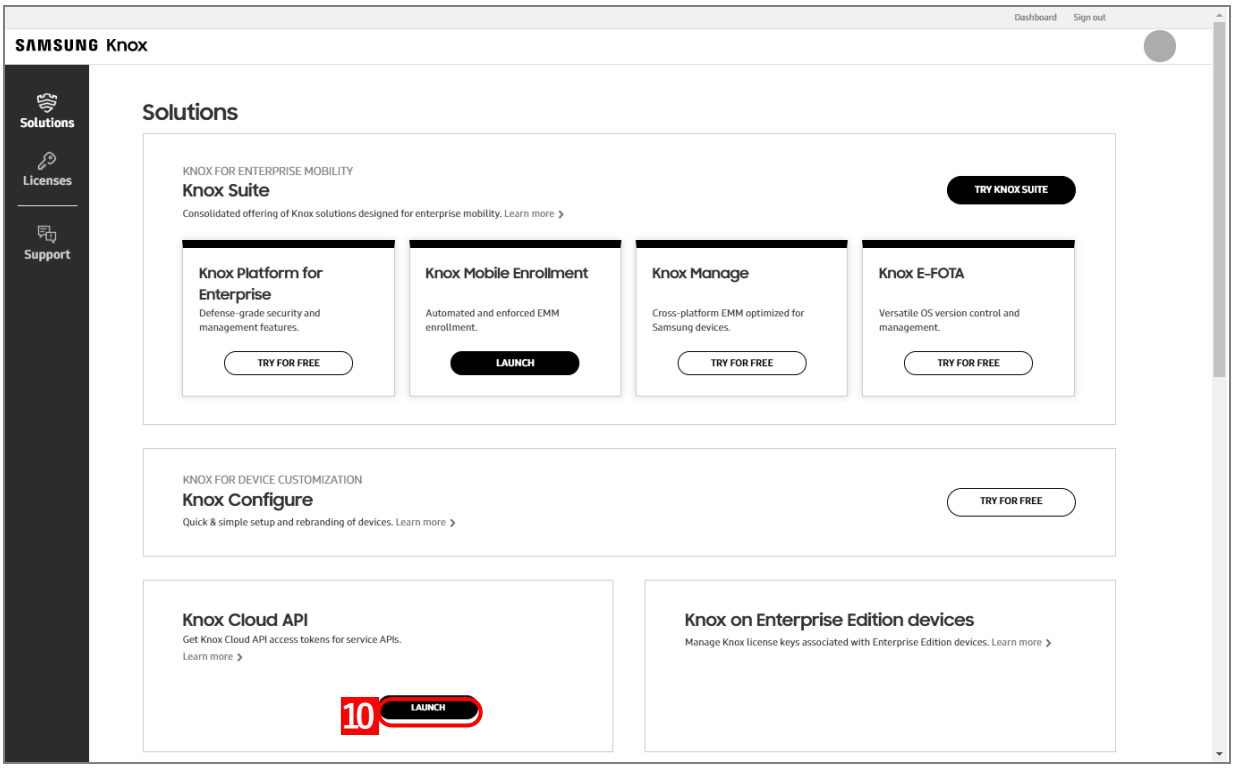
JSON ファイルの再発行はされません。必ず保存されていることを確認してください。

任意の場所にファイルを保存します。

【8】メッセージを確認して、［確認済み］をクリックします。

【9】［Samsung Knox Dashboard］をクリックします。

【10】「Knox Cloud API」の［Launch］をクリックします。



【11】クライアント識別子が表示されます。

言語は英語で表示されます。（A）をクリックして言語一覧から日本語を選択してください。

【12】をクリックすると、クライアント識別子がクリップボードにコピーされます。

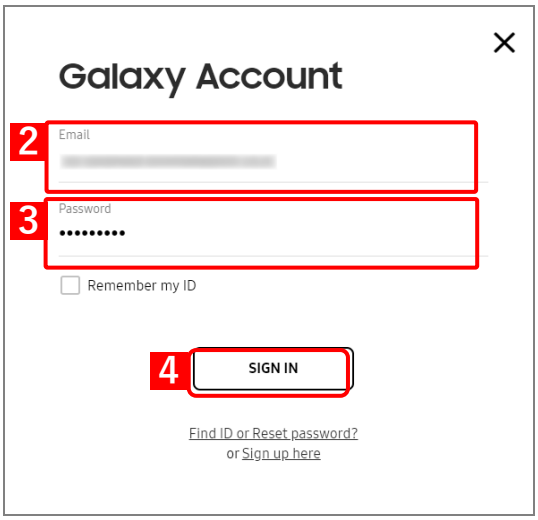
メモ帳などにペーストして保存してください。

クライアント識別子を再生成する場合は、（B）をクリックします。

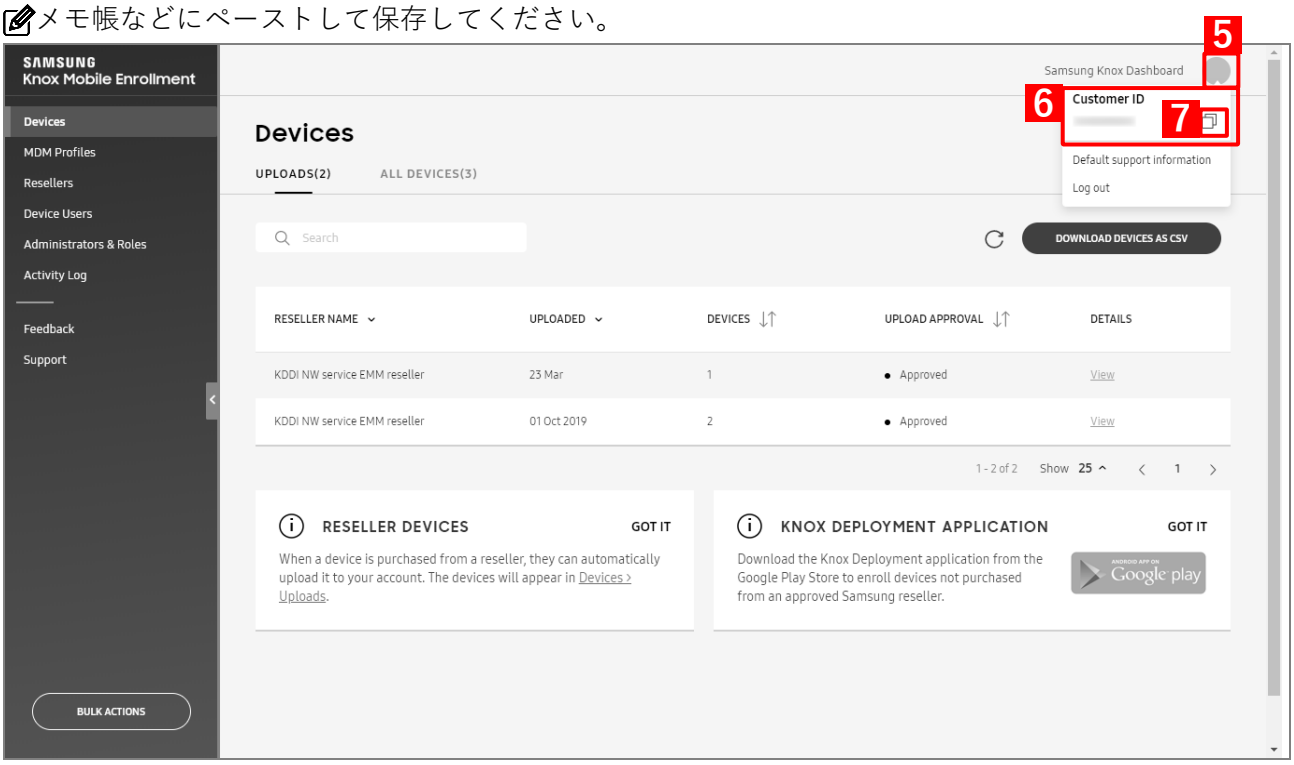
9.4.5 Knox カスタマーID を取得する

KME コンソールで、Knox カスタマーID を取得します。

【1】https://eu-kme.samsungknox.com/itadmin にアクセスして、Knox API ポータルを表示します。
【2】「Email」に Galaxy アカウントを入力します。
【3】「Password」にパスワードを入力します。
【4】［SIGN IN］をクリックします。



【5】ユーザーアイコンをクリックします。
【6】Knox カスタマーID が表示されます。
【7】 をクリックすると、Knox カスタマーID がクリップボードにコピーされます。
メモ帳などにペーストして保存してください。



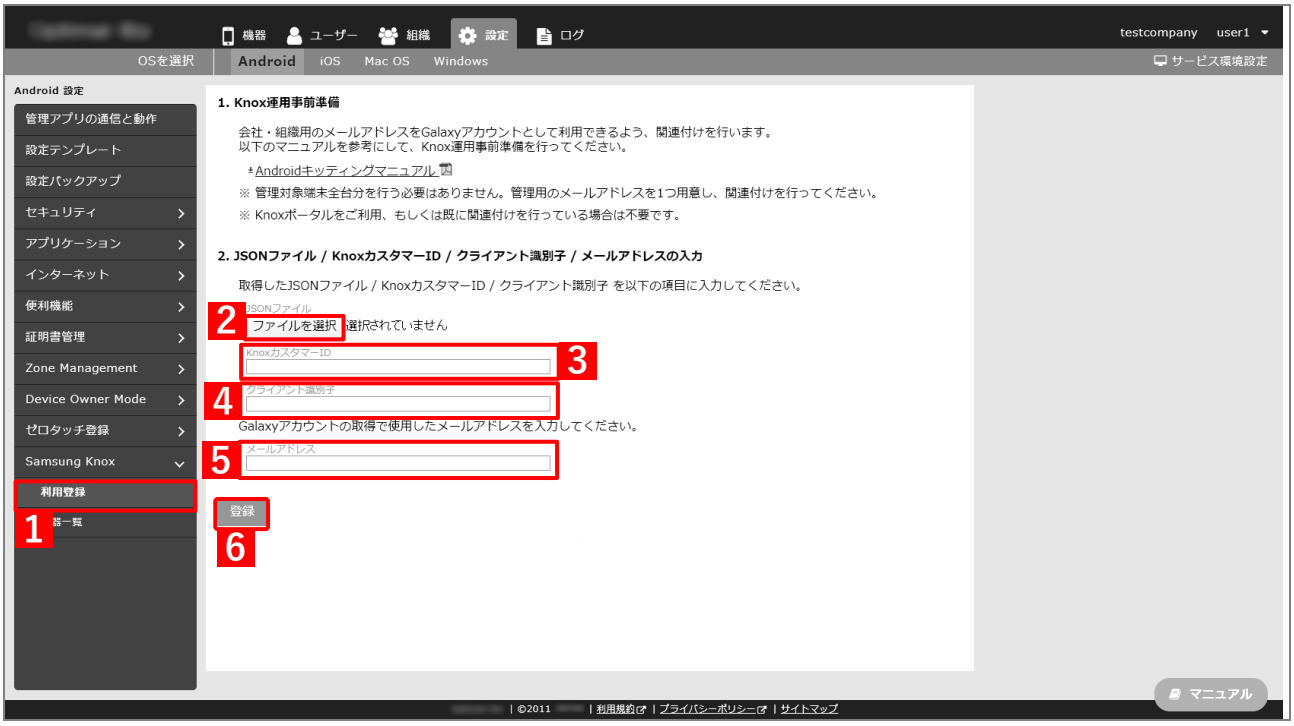
9.5 Knox 認証情報および Knox プロファイル情報を設定する

Knox API ポータルでダウンロードした JSON ファイルを管理サイトにアップロードし、機器情報を登録します。

ゼロタッチ端末を Google Workspace アカウントで利用する場合は、本製品と Google Workspace アカウントの連携設定が必要です。Knox 認証情報および Knox プロファイル情報の設定後に、Google Workspace アカウントの連携設定はできません。そのため、必ずあらかじめ以下の操作を行ってください。

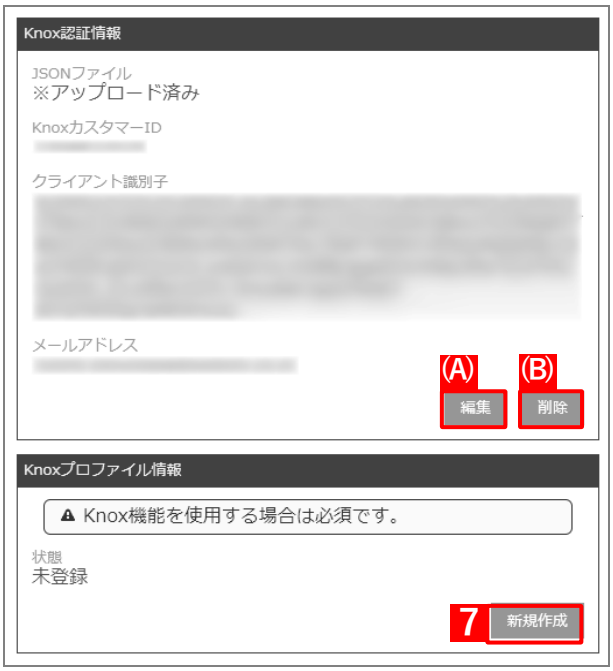
「トークンを発行する」285 ページ
「Google Workspace アカウントを登録する」291 ページ

【1】［設定］→［Android］→［Samsung Knox］→［利用登録］をクリックします。
【2】［ファイル選択］をクリックし、ダウンロードした JSON ファイルを選択します。
【3】KME コンソールで取得した「Knox カスタマーID」を入力します。
【4】Knox API ポータルで取得した「クライアント識別子」を入力します。
【5】「メールアドレス」に Galaxy アカウントを入力します。
【6】［登録］をクリックします。



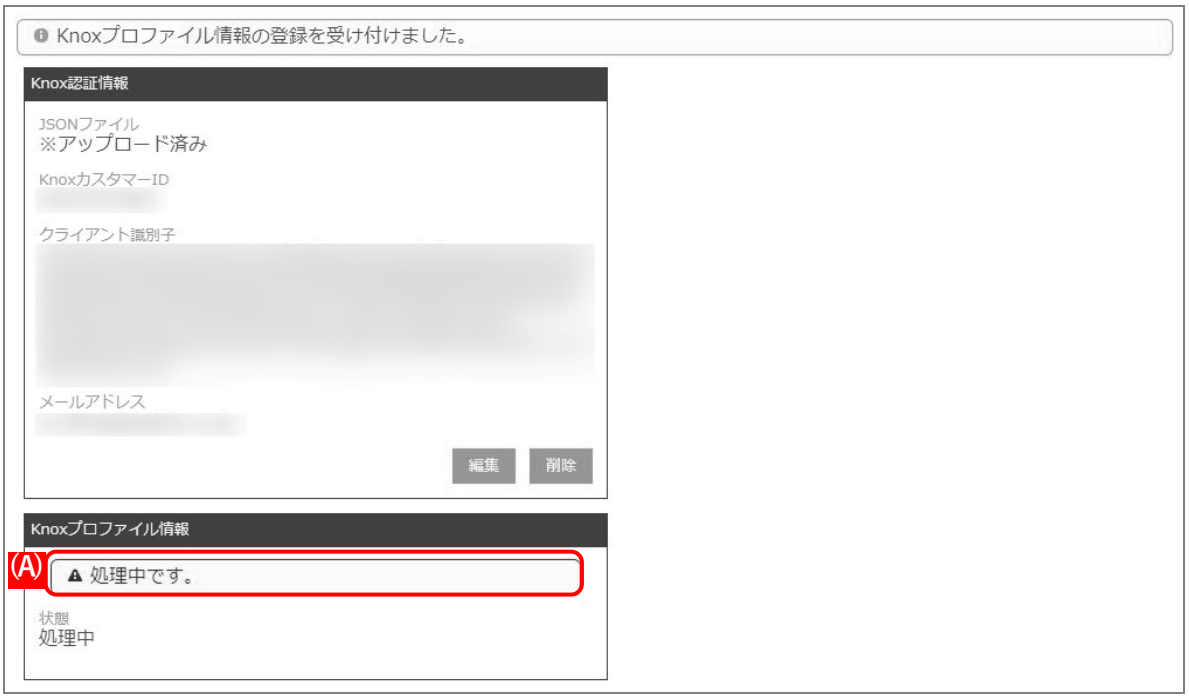
【7】「Knox プロファイル情報」の［新規作成］をクリックします。

変更する場合は、(A)［編集］をクリックします。
削除する場合は、(B)［削除］をクリックします。

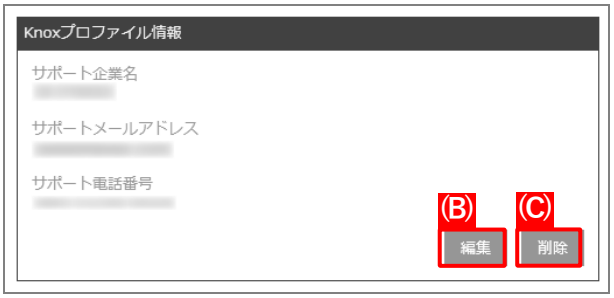


【8】「サポート企業名」に「SMSM」と入力します。
【9】「サポートメールアドレス」を入力します。
【10】「サポート電話番号」を入力します。
【11】［保存］をクリックします。

【12】（A）「処理中です。」と表示されたあと約 1 分が経過したら、手動でブラウザーを再読み込みします。



⇒Knox プロファイル情報の登録が完了し、利用登録画面が以下のように表示されます。
変更する場合は、（B）［編集］をクリックします。
削除する場合は、（C）［削除］をクリックします。



9.6 KME サーバーに同期する

以下の手順で KME サーバーとの同期を行い、管理サイトに端末の情報を表示させます。

事前に各機能の設定を登録しておくと、キッティングと同時に端末に機能が割り当てられます。機能の設定方法は、以下を参照してください。

『管理サイト リファレンスマニュアル』の「設定－Android」

【1】［設定］→［Android］→［Samsung Knox］→［機器一覧］をクリックします。

【2】［Knox サーバ同期］をクリックします。

Samsung Knox 機器一覧で表示された KME 端末は、機器画面の機器一覧で、認証待ち機器として表示されます。

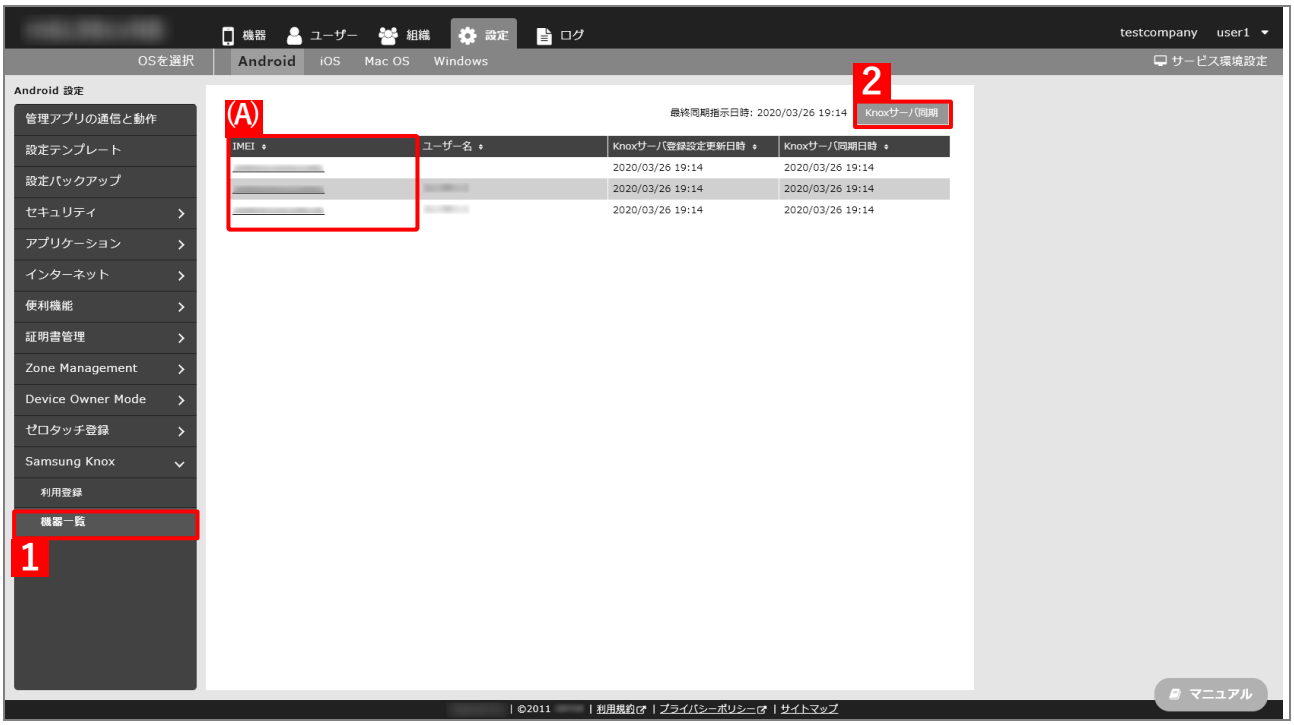
『管理サイト リファレンスマニュアル』「機器」－「一覧」－「機器一覧」

Samsung Knox 機器一覧では、機器の削除はできないので、機器画面の機器一覧から削除してください。機器画面の機器一覧で削除したら、Samsung Knox 機器一覧からも削除されます。

『管理サイト リファレンスマニュアル』の「機器」－「一覧」－「機器の個別削除」

機器画面から KME 端末の新規作成は行わないでください。

（A）［IMEI］をクリックすると、機器画面の機器一覧が表示されます。



9.7 KME（Google Workspace アカウント利用）でキッティングする

以下の手順で KME 端末のキッティングを行います。

管理サイトの「アプリケーション禁止」で「禁止するアプリケーション」、および「アプリケーション非表示」に「Google Play 開発者サービス（com.google.android.gms）」を設定していると、正常にキッティングが完了できない場合があります。以下を参照して、事前に設定を解除してから、キッティングを行ってください。

『管理サイト リファレンスマニュアル』の「設定－Android」－「アプリケーション」－「アプリケーション禁止」

『管理サイト リファレンスマニュアル』の「設定－Android」－「Device Owner Mode」－「アプリケーション非表示」

本キッティング方法は、KME に対応した一部の Samsung 製端末でのみ利用できます。

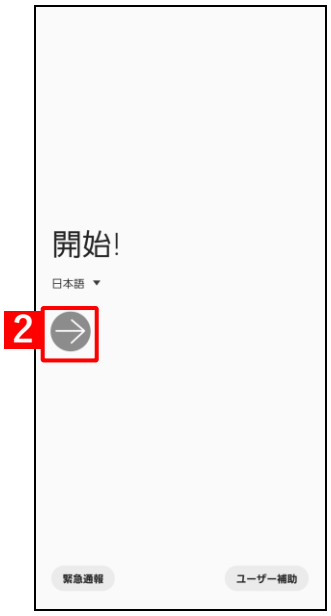
端末によっては手順が異なる場合があります。その場合は、実際の画面の案内に従って操作してください。

手順【12】の画面は、機種や OS によって表示されるタイミングが異なる場合があります。

【1】端末を起動します。

⇒「開始！」画面が表示されます。

【2】 をタップします。



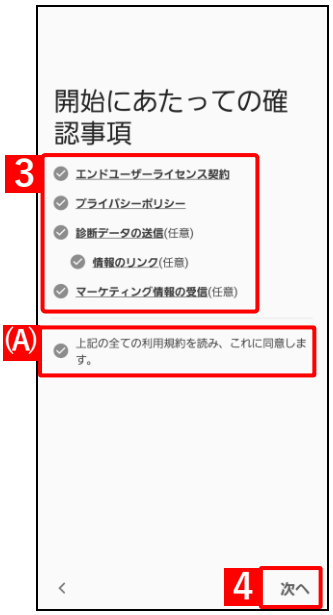
【3】各項目をタップして内容を確認し、チェックを入れます。

（A）［上記全ての利用規約を読み、これに同意します。］をタップすると、すべての項目にチェックが入ります。

【4】［次へ］をタップします。

以降の手順【5】～【9】は、端末に SIM カードが挿入されている場合の操作です。SIM カードが挿入されていない場合の操作については、以下を参照してください。

「端末に SIM カードが挿入されていない場合」320 ページ



【5】使用するネットワーク接続方法に応じて、以下のいずれかの操作を行います。

必ずネットワークに接続して、以降の手順を進めてください。

≪モバイルネットワークを使用する場合≫

（A）［続行］をタップし、手順【10】に進みます。

⇒「端末を設定してください」画面が表示されるまでお待ちください。

≪Wi-Fi ネットワークを使用する場合≫

（B）［設定］をタップし、次の手順に進みます。

【6】接続する Wi-Fi ネットワークを選択します。

（A）が「OFF」に設定されている場合は、「接続可能なネットワーク」にネットワークが表示されません。必ず「ON」に設定してください。

【7】「パスワード」を入力します。

【8】［接続］をタップします。

【9】 ＜ をタップします。

⇒「端末を設定してください」画面が表示されるまでお待ちください。

（A）「現在のネットワーク」に、接続中の Wi-Fi ネットワークが表示されています。

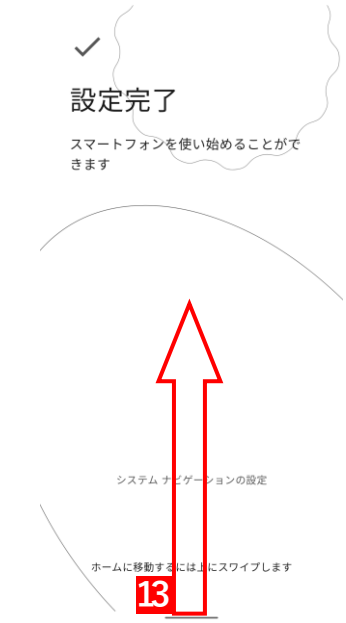
【10】［同意して続行］をタップします。

【11】［次へ］をタップします。

【12】［OK］をタップします。

【13】画面下部からスワイプします。

⇒ホーム画面に移動します。

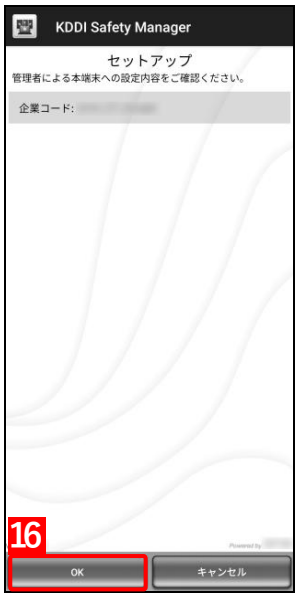


【14】［KDDI Safety Manager］をタップします。

ホーム画面にアイコンが表示されない場合は、アプリ一覧を確認してください。

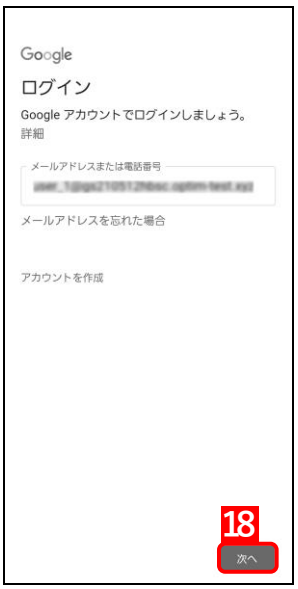
【15】［ライセンス認証］をタップします。

【16】［OK］をタップします。

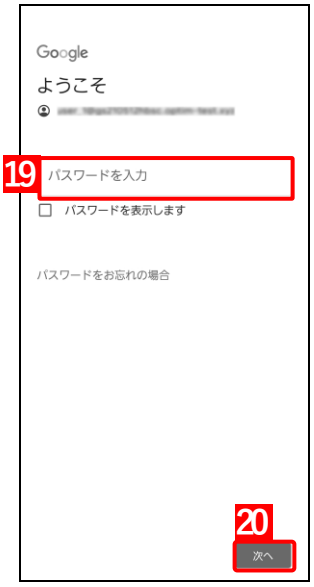


【17】［OK］をタップします。

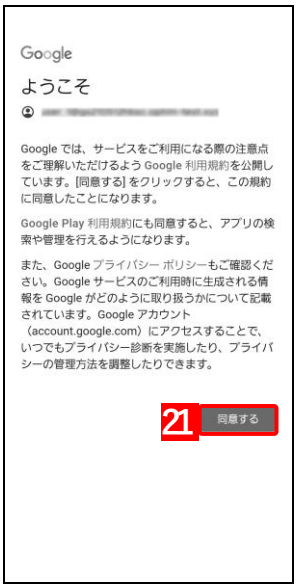
【18】［次へ］をタップします。



【19】パスワードを入力します。
【20】［次へ］をタップします。



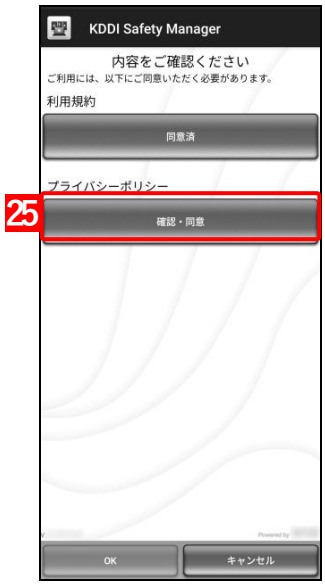
【21】［同意する］をタップします。



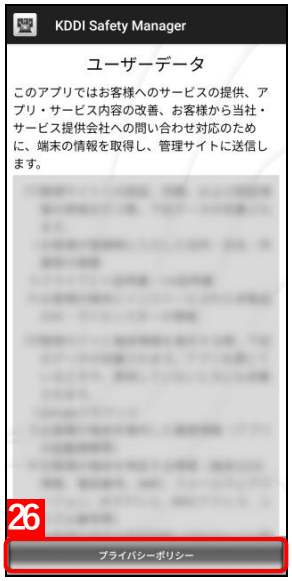
【22】利用規約の［確認・同意］をタップします。

【23】「利用規約に同意する」にチェックを入れます。
【24】［OK］をタップします。

【25】プライバシーポリシーの［確認・同意］をタップします。

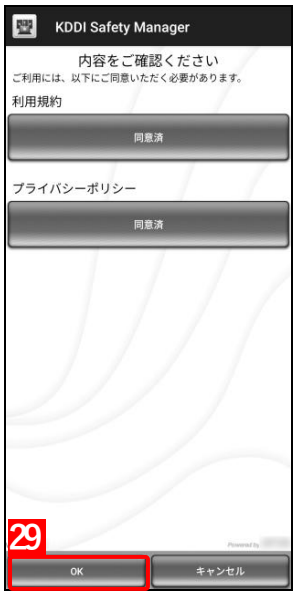


【26】ユーザーデータについて確認して、［プライバシーポリシー］をタップします。



【27】「プライバシーポリシーに同意する」にチェックを入れます。
【28】［OK］をタップします。

【29】［OK］をタップします。

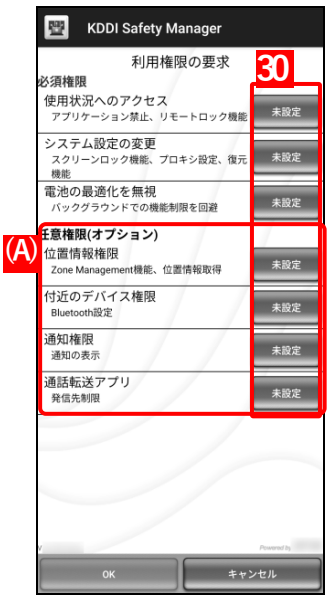


【30】画面の案内に従って設定を行ってください。

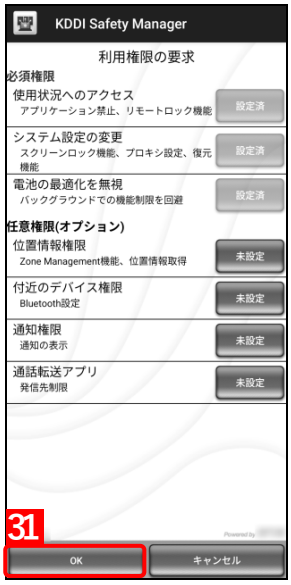
Android 12 以上でエージェントバージョン 9.14.0 以上の場合、（A）任意権限に「付近のデバイス権限」が表示されます。

Android 13 以上でエージェントバージョン 9.16.0 以上の場合、（A）任意権限に「通知権限」が表示されます。「ストレージ権限」は表示されません。

Android 10 以上でエージェントバージョン 9.22.0 以上の場合、（A）任意権限に「通話転送アプリ」が表示されます。



【31】［OK］をタップします。



【32】「ユーザーID またはメールアドレス」「パスワード」を入力します。

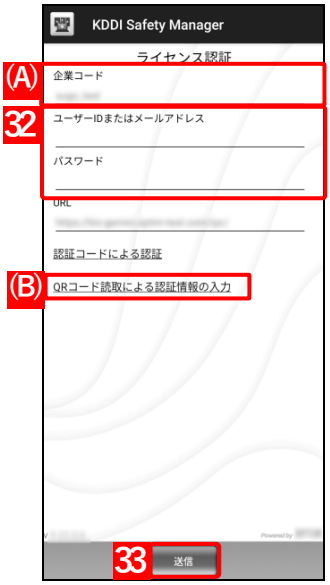
ユーザーID またはメールアドレス、パスワードは管理者にお問い合わせください。

（A）「企業コード」は、自動で入力されています。

（B）［QR コード読取による認証情報の入力］をタップして、エージェント認証用 QR コードを読み取ると、「企業コード」、「認証コード」、「URL」が自動で入力されます。QR コードは、管理者にお問い合わせください。

【33】［送信］をタップします。

⇒ライセンス認証完了の画面が表示されます。

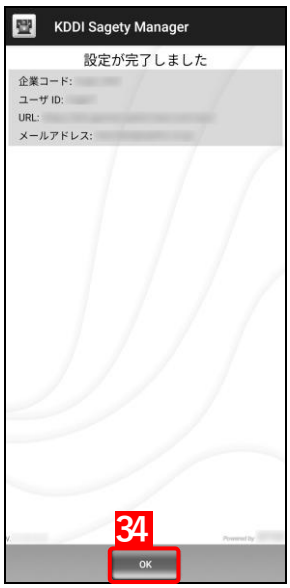


【34】［OK］をタップします。

⇒初期登録画面が表示されます。

手順【35】～【39】の初期登録画面は、管理サイトでポータル表示を「表示」に設定している場合のみ表示されます。

『管理サイト リファレンスマニュアル』の「サービス環境設定」－「ポータル表示」



【35】社員番号、姓、名を入力します。

【36】［次へ］をタップします。

⇒機器にユーザーが紐づきます。

登録したユーザーを変更することはできません。

すでにユーザーが端末に紐づけられている場合は、ユーザーが紐づけられているメッセージが表示されます。

ユーザー情報の登録が不要の場合は、(A)［閉じる］をタップするか、端末の戻るボタンで画面を閉じてください。

【37】必要事項を選択、入力します。

【38】［次へ］をタップします。

あらかじめ、管理サイトの［入力項目のカスタマイズ］で入力項目を追加してください。追加するとき、「機器から入力可」にチェックを入れてください。チェックが入っていない場合は、項目が表示されません。

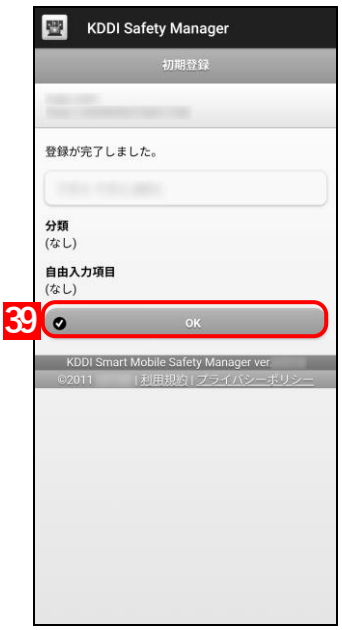
『管理サイト リファレンスマニュアル』の「機器」―「入力項目のカスタマイズ」

管理サイトの［入力項目のカスタマイズ］で設定した内容により、画面に表示される「分類」と「自由入力項目」の内容が異なります。

機器情報の登録が不要の場合は、(A)［閉じる］をタップするか、端末の戻るボタンで画面を閉じてください。

【39】［OK］をタップします。

⇒キッティングおよびライセンス認証が完了しました。



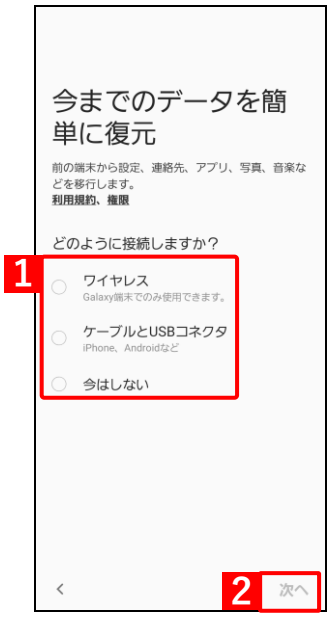
端末に SIM カードが挿入されていない場合

「KME（Google Workspace アカウント利用）でキッティングする」の手順【4】あと、以下の操作を行います。

【1】これまで使用していた端末との接続方法を選択します。

これまで使用していた端末から、設定や連絡先、アプリ、写真、音楽などのデータを移行できます。

【2】［次へ］をタップします。



【3】画面の案内に従って設定を行います。

選択した接続方法によって操作が異なります。

【4】接続する Wi-Fi ネットワークを選択します。

必ずネットワークに接続して、以降の手順を進めてください。

【5】「パスワード」を入力します。
【6】［接続］タップします。

【7】［次へ］をタップします。

⇒「KME（Google Workspace アカウント利用）でキッティングする」の手順【10】に進みます。
「端末を設定してください」画面が表示されるまでお待ちください。

10 その他のキッティング方法

QR コードで端末のキッティングを行います。

注意

- キッティングを行うには、端末を工場出荷状態（初期設定画面）にする必要があります。
- Android Enterprise を利用している場合は、あらかじめ管理サイトに Google アカウントの登録が必要です。詳細については、以下を参照してください。

「Google アカウントで Android Enterprise 連携を行う」21 ページ

- Android 6.0 以上の端末で利用できます。ただし、端末によっては対応していない場合があります。詳細については、以下を参照してください。

『Android 対応端末表』

動作保証の対象は、Android 12 以上です。

- 従来版エージェントから切り替える場合は、端末を初期化してからキッティングを行ってください。

参考

- あらかじめ管理サイトで Android Enterprise の「アプリケーション配信」機能を設定しておくと、キッティングの完了後、ライセンス認証と同時に特定のアプリを端末に配信できます。アプリケーション配信の詳細については、以下を参照してください。

『Android Enterprise アプリケーション配信 手順書』の「アプリをインストールする」

10.1 QR コードでキッティングする

QR コードを読み込んで、キッティングができます。

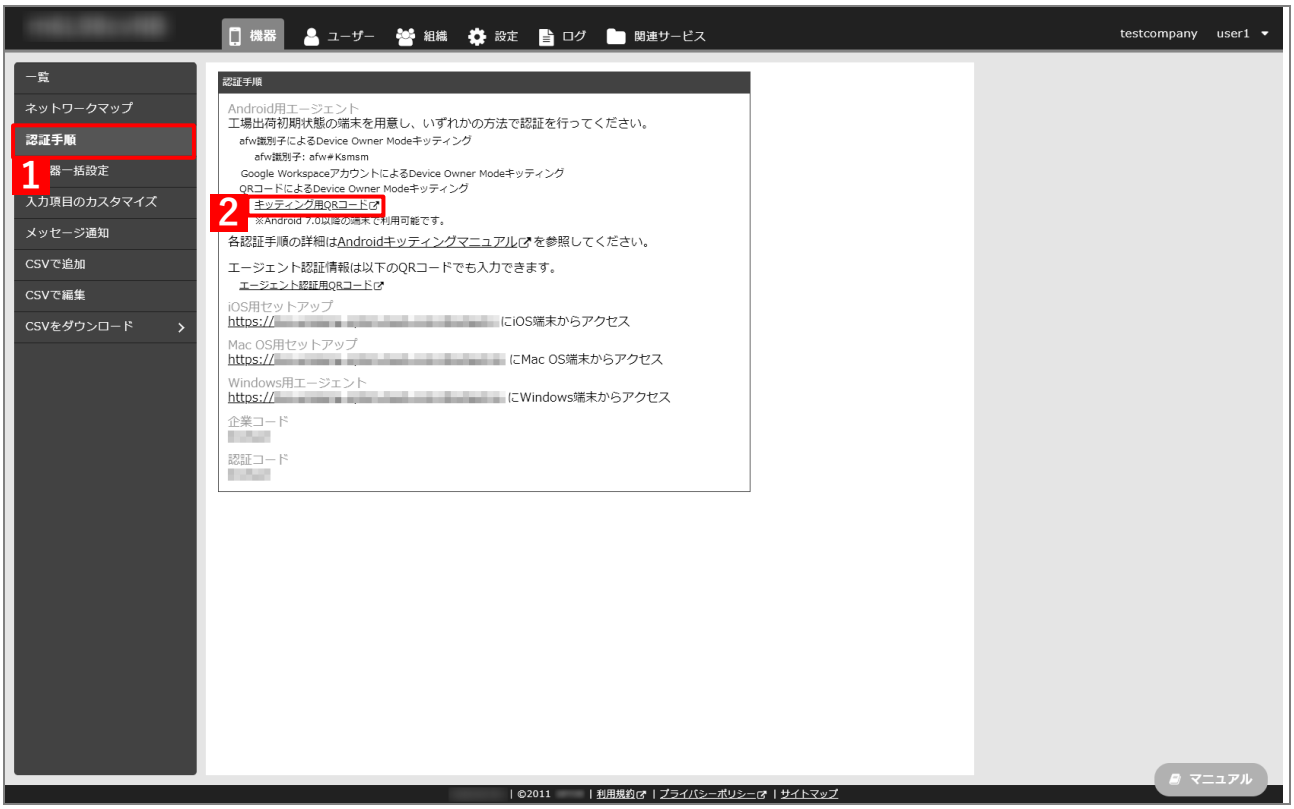
10.1.1 QR コードを表示する

【1】［機器］→［認証手順］をクリックします。

【2】［キッティング用 QR コード］をクリックします。

⇒Device Owner Mode キッティング用 QR コードが表示されます。
表示された QR コードは「QR コードを端末に読み込む」手順【2】で端末に読み込みます。

エージェントのバージョンが上がると、QR コードも変更になります。最新の QR コードは管理サイトを確認してください。



10.1.2 QR コードを端末に読み込む

工場出荷状態（初期設定画面）から設定を行います。

管理サイトの「アプリケーション禁止」で「禁止するアプリケーション」、および「アプリケーション非表示」に「Google Play 開発者サービス（com.google.android.gms）」を設定していると、正常にキッティングが完了できない場合があります。以下を参照して、事前に設定を解除してから、キッティングを行ってください。

『管理サイト リファレンスマニュアル』の「設定―Android」―「アプリケーション」―「アプリケーション禁止」

『管理サイト リファレンスマニュアル』の「設定―Android」―「Device Owner Mode」―「アプリケーション非表示」

手順【8】の画面は、機種や OS によって表示されるタイミングが異なる場合があります。

【1】初期設定画面を 6 回タップします。

⇒カメラが起動します。

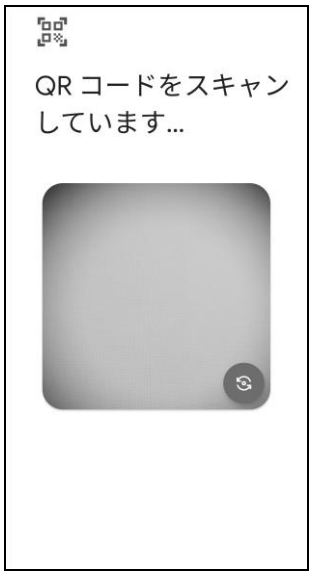
［始める］や［緊急連絡先］などを避けて、タップしてください。

SIM を挿入している場合、モバイルネットワーク接続が開始されます。

【2】以下を参照して、管理サイトに表示されている Device Owner Mode キッティング用 QR コードを読み込みます。

詳細は、以下を参照してください。

「QR コードを表示」323 ページ



【3】［スキップ］をタップします。

モバイルネットワークを利用する場合は、SIM を挿入してください。

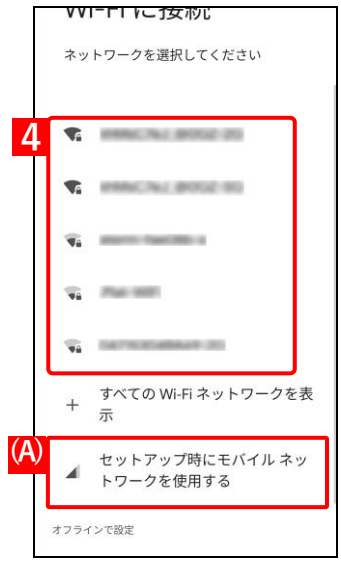
【4】接続したい Wi-Fi の SSID をタップして、Wi-Fi に接続してください。

⇒ネットワーク接続が開始されます。

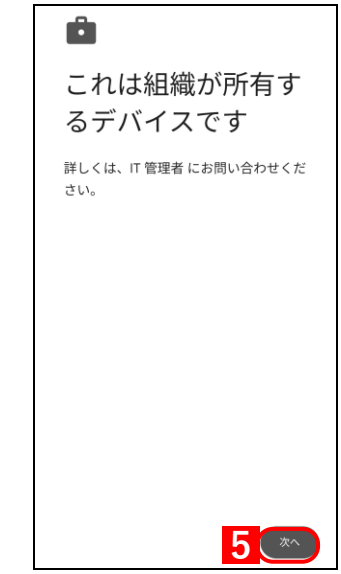
必ずネットワークに接続して、以降の手順を進めてください。

Android 13 以上、かつ有線 LAN を接続している場合でも Wi-Fi 接続が必要です。有線 LAN 接続を解除して Wi-Fi 接続を行ったあと、有線 LAN に接続し直してください。

モバイルネットワークを利用する場合は、(A)［セットアップ時にモバイルネットワークを使用する］をタップします。表示されるポップアップのメッセージを確認してください。

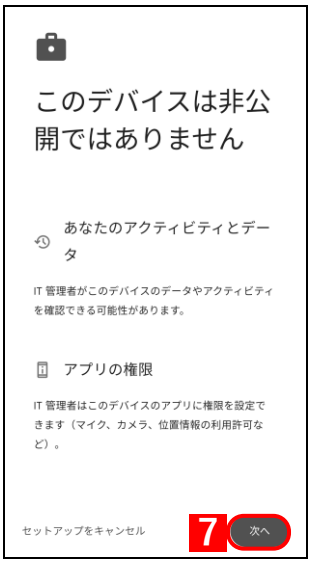


【5】［次へ］をタップします。



【6】［同意して続行］をタップします。

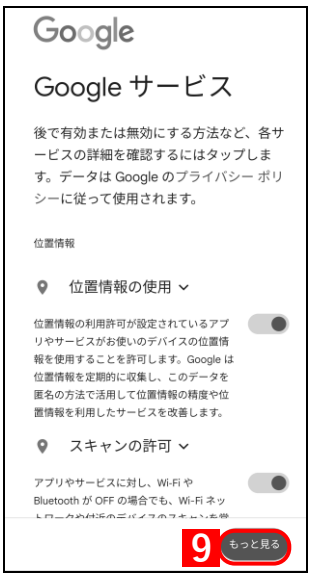
【7】［次へ］をタップします。



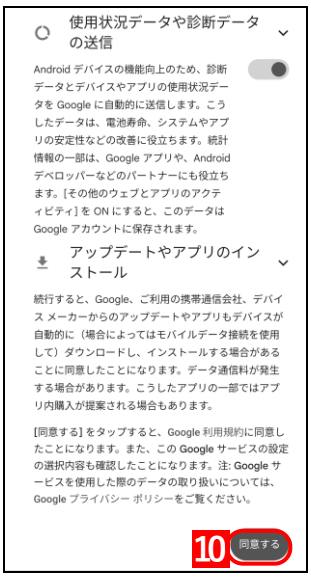
【8】［OK］をタップします。

【9】［もっと見る］をタップします。

端末によっては［もっと見る］が数回表示されます。［同意する］が表示されるまで、［もっと見る］をタップします。



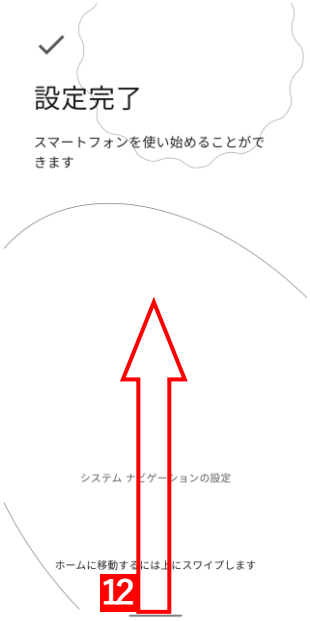
【10】［同意する］をタップします。



【11】［スキップ］をタップします。

【12】画面下部からスワイプします。

⇒ホーム画面に移動します。



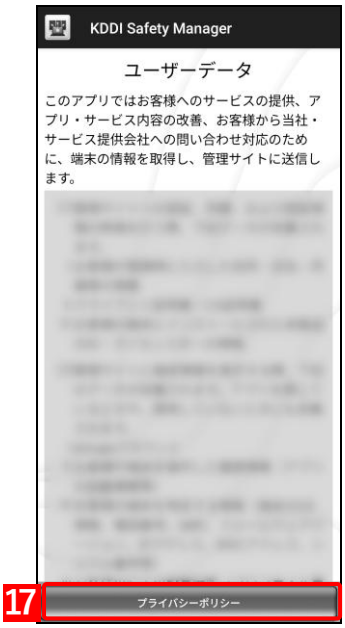
【13】［KDDI Safety Manager］をタップします。

ホーム画面にアイコンが表示されない場合は、アプリ一覧を確認してください。

【14】［ライセンス認証］をタップします。

【15】「利用規約に同意する」にチェックを入れます。
【16】［OK］をタップします。

【17】ユーザーデータについて確認して、［プライバシーポリシー］をタップします。



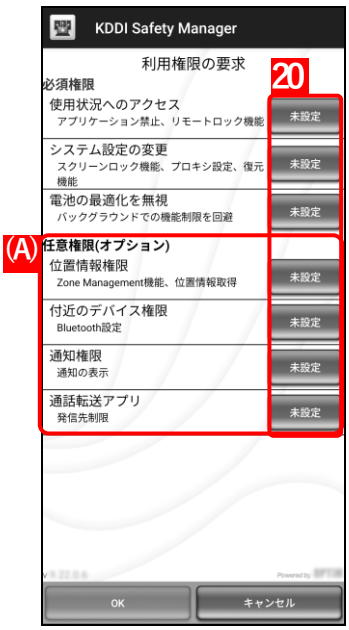
【18】「プライバシーポリシーに同意する」にチェックを入れます。
【19】［OK］をタップします。
⇒権限要求画面が表示されます。

【20】画面の案内に従って設定を行ってください。

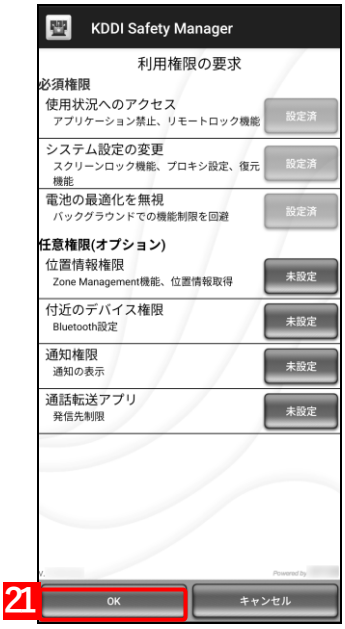
Android 12 以上でエージェントバージョン 9.14.0 以上の場合、（A）任意権限に「付近のデバイス権限」が表示されます。

Android 13 以上でエージェントバージョン 9.16.0 以上の場合、（A）任意権限に「通知権限」が表示されます。「ストレージ権限」は表示されません。

Android 10 以上でエージェントバージョン 9.22.0 以上の場合、（A）任意権限に「通話転送アプリ」が表示されます。



【21】［OK］をタップします。



【22】「認証コード」を入力します。

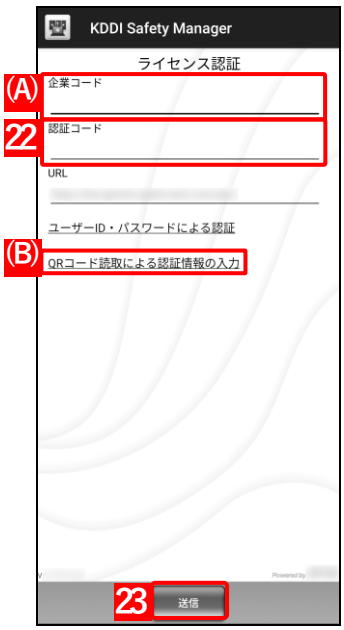
認証コードは管理者にお問い合わせください。

（A）「企業コード」は、自動で入力されています。

（B）［QR コード読取による認証情報の入力］をタップして、エージェント認証用 QR コードを読み取ると、「企業コード」、「認証コード」、「URL」が自動で入力されます。QR コードは、管理者にお問い合わせください。

【23】［送信］をタップします。

⇒ライセンス認証完了の画面が表示されます。

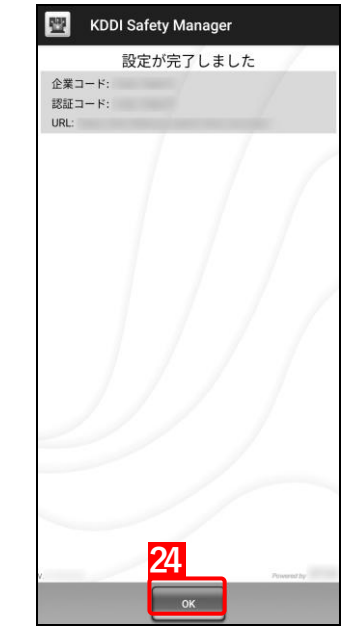


【24】［OK］をタップします。

⇒初期登録画面が表示されます。

手順【25】～【29】の初期登録画面は、管理サイトでポータル表示を「表示」に設定している場合のみ表示されます。

『管理サイト リファレンスマニュアル』の「サービス環境設定」－「ポータル表示」



【25】社員番号、姓、名を入力します。

【26】［次へ］をタップします。

⇒機器にユーザーが紐づきます。

登録したユーザーを変更することはできません。

すでにユーザーが端末に紐づけられている場合は、ユーザーが紐づけられているメッセージが表示されます。

ユーザー情報の登録が不要の場合は、（A）［閉じる］をタップするか、端末の戻るボタンで画面を閉じてください。

【27】必要事項を選択、入力します。

【28】［次へ］をタップします。

あらかじめ、管理サイトの［入力項目のカスタマイズ］で入力項目を追加してください。追加するとき、「機器から入力可」にチェックを入れてください。チェックが入っていない場合は、項目が表示されません。

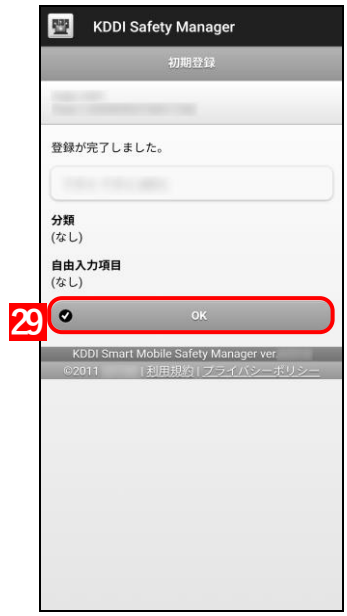
『管理サイト リファレンスマニュアル』の「機器」―「入力項目のカスタマイズ」

管理サイトの［入力項目のカスタマイズ］で設定した内容により、画面に表示される「分類」と「自由入力項目」の内容が異なります。

機器情報の登録が不要の場合は、(A)［閉じる］をタップするか、端末の戻るボタンで画面を閉じてください。

【29】［OK］をタップします。

⇒キッティングおよびライセンス認証が完了しました。



11 KDDI Smart Mobile Safety Manager－Google 間の連携設定を変更する

「Google アカウントで Android Enterprise 連携を行う」で登録した Google アカウントまたは、Google Workspace アカウントの削除や再登録ができます。

11.1 Google アカウントを削除する

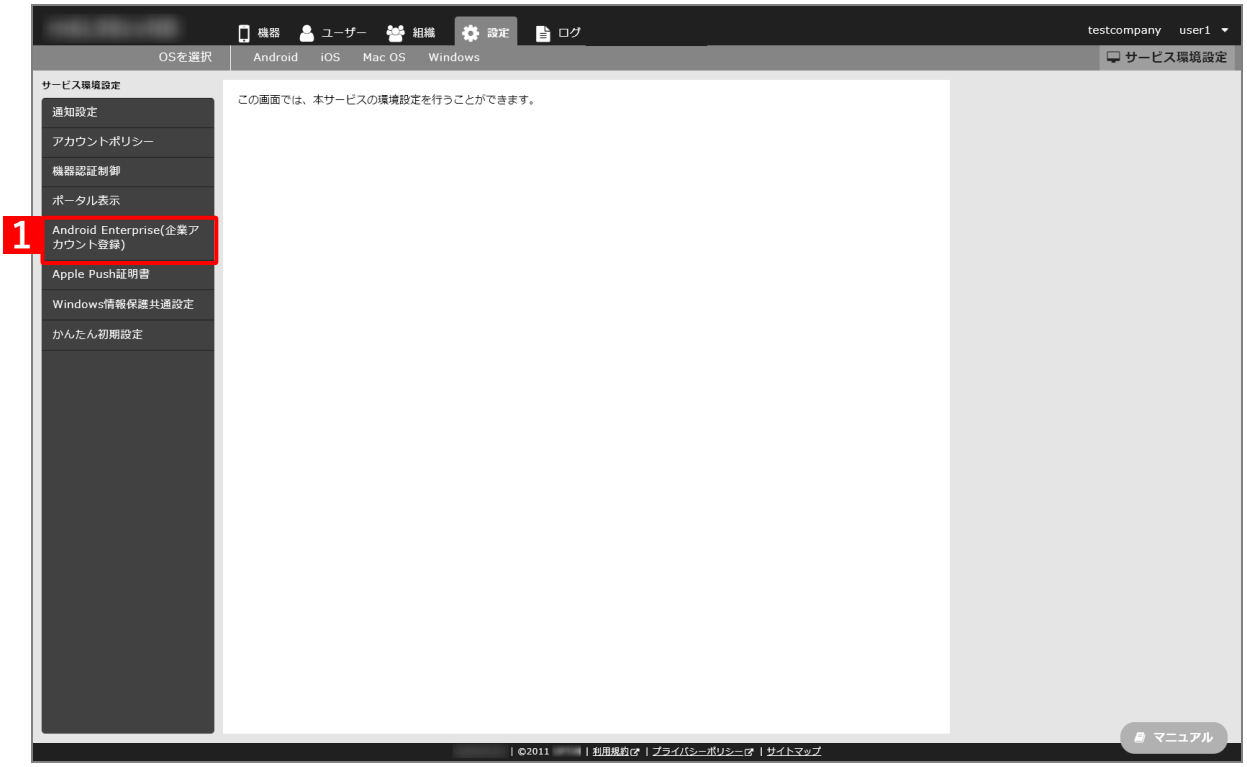
登録している Google アカウントが利用できなくなった場合などは、以下の手順で削除してください。

Google アカウントを削除したあと、別の Google アカウントを再登録した場合は、端末を再度キッティングする必要があります。

Google アカウントを削除すると、Android Enterprise の設定もすべて削除されます。

『管理サイト リファレンスマニュアル』の「設定－Android」－「アプリケーション」－「Android Enterprise」

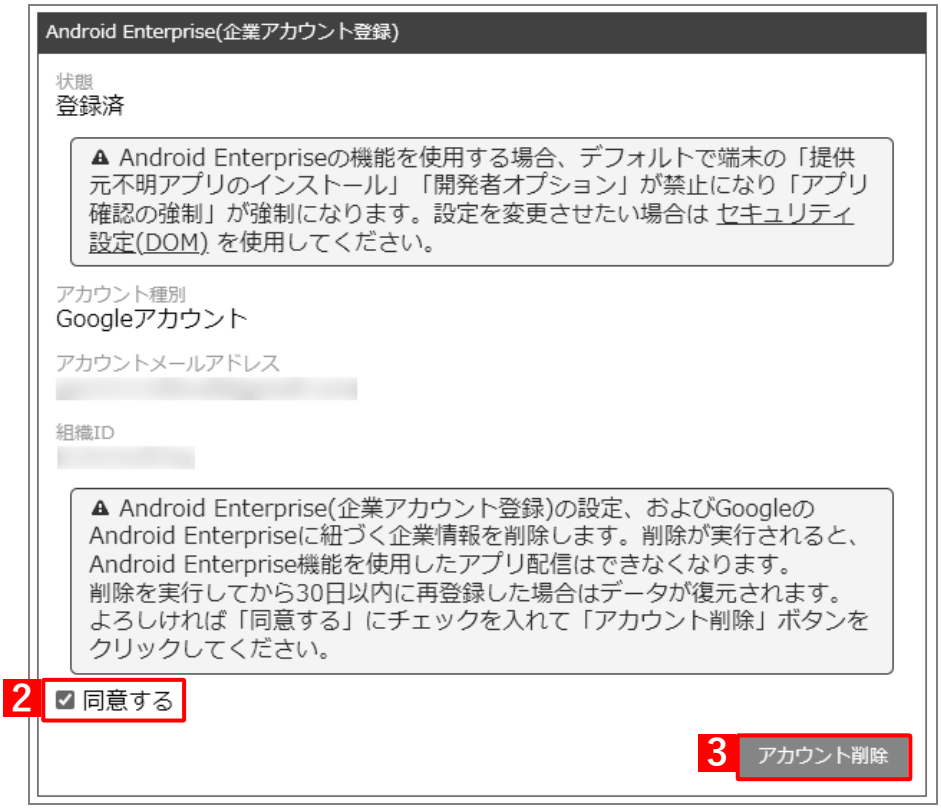
【1】［設定］→［サービス環境設定］→［Android Enterprise（企業アカウント登録）］をクリックします。



【2】「同意する」にチェックを入れます。

【3】［アカウント削除］をクリックします。

⇒アカウント未登録の画面が表示されます。



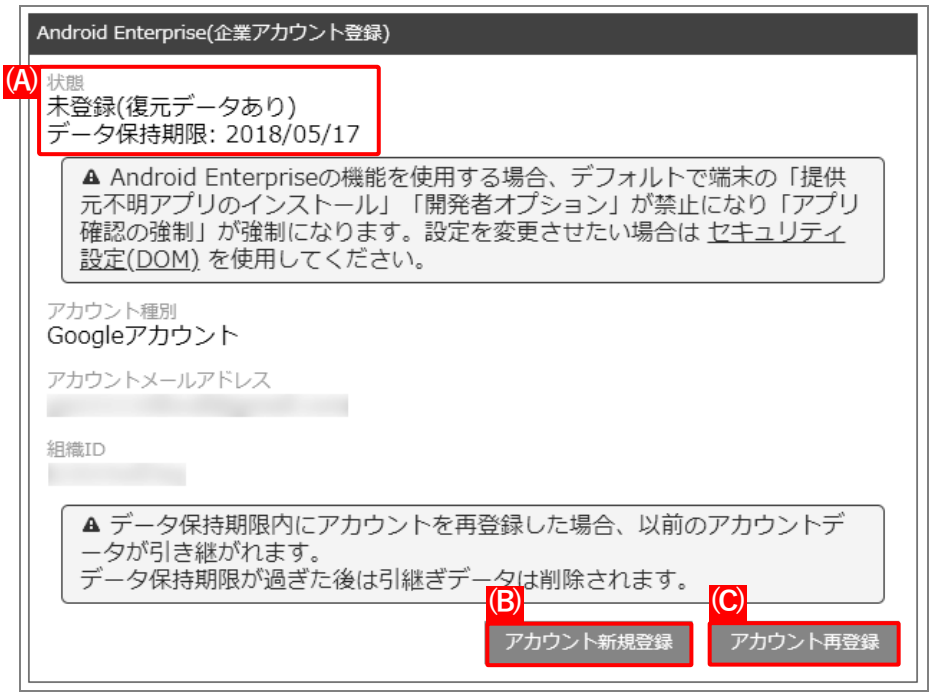
（A）「状態」に「未登録(復元データあり)」とデータ保持期限が表示されます。

同じアカウントを再登録する場合は、（C）［アカウント再登録］をクリックします。詳細については、以下を参照してください。

「Google アカウントを再登録する」337 ページ

別のアカウントを登録する場合は、（B）［アカウント新規登録］をクリックします。詳細については、以下を参照してください。

「Google アカウントを登録する」22 ページ



11.2 Google アカウントを再登録する

削除した Google アカウントを、再登録します。

Google アカウントに応じて、いずれかの方法で再登録してください。

●企業ドメインのメールアドレスで再登録する場合

●Gmail のメールアドレスで再登録する場合

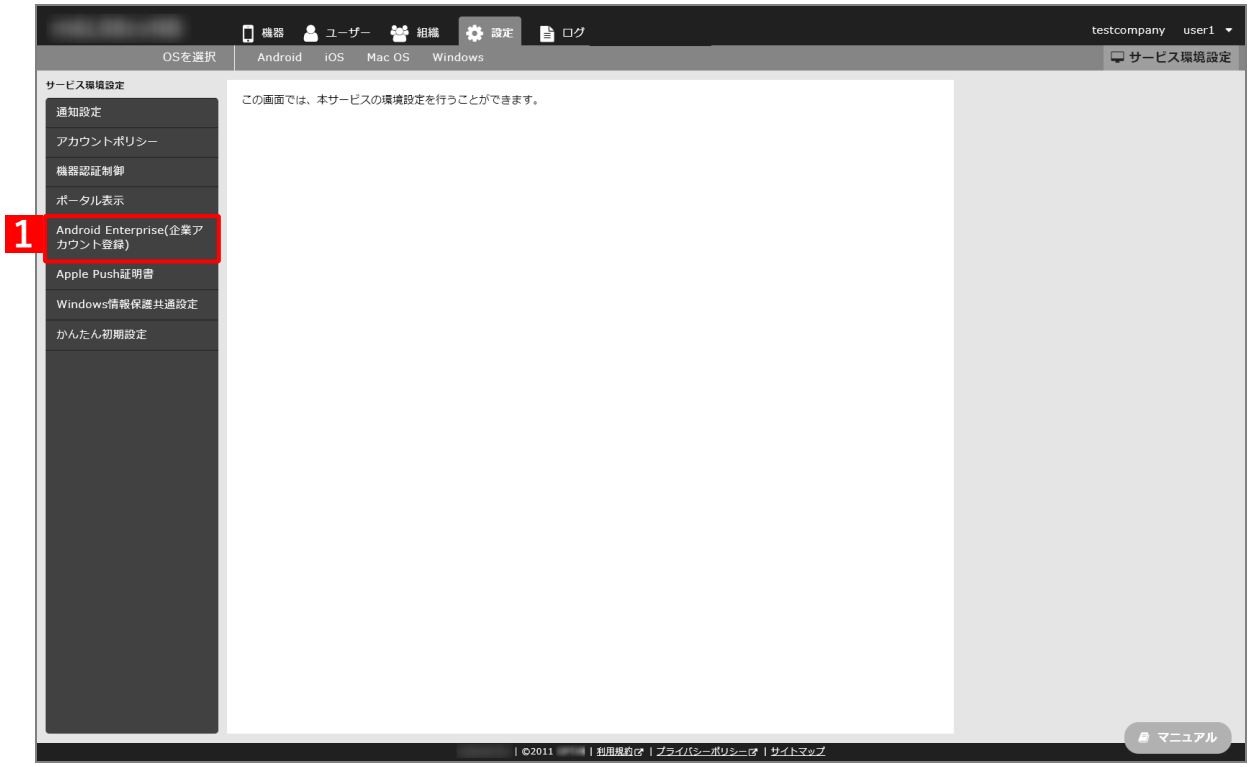
再登録できるのは、直近に削除した Google アカウントのみです。

Google アカウントを再登録しても、Android Enterprise の設定はすべて再登録されません。

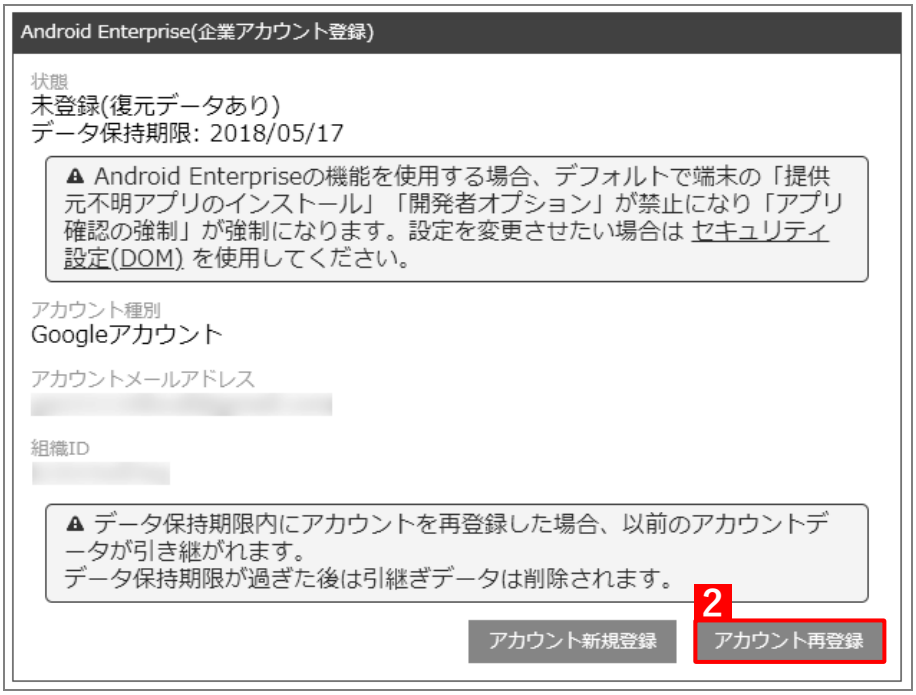
『管理サイト リファレンスマニュアル』の「設定－Android」－「アプリケーション」－「Android Enterprise」

11.2.1 企業ドメインのメールアドレスで再登録する場合

【1】［設定］→［サービス環境設定］→［Android Enterprise(企業アカウント登録)］をクリックします。



【2】［アカウント再登録］をクリックします。



【3】企業ドメインのメールアドレスを入力します。

【4】［次へ］をクリックします。

【5】再登録したい削除済みアカウントの組織 ID を選択します。

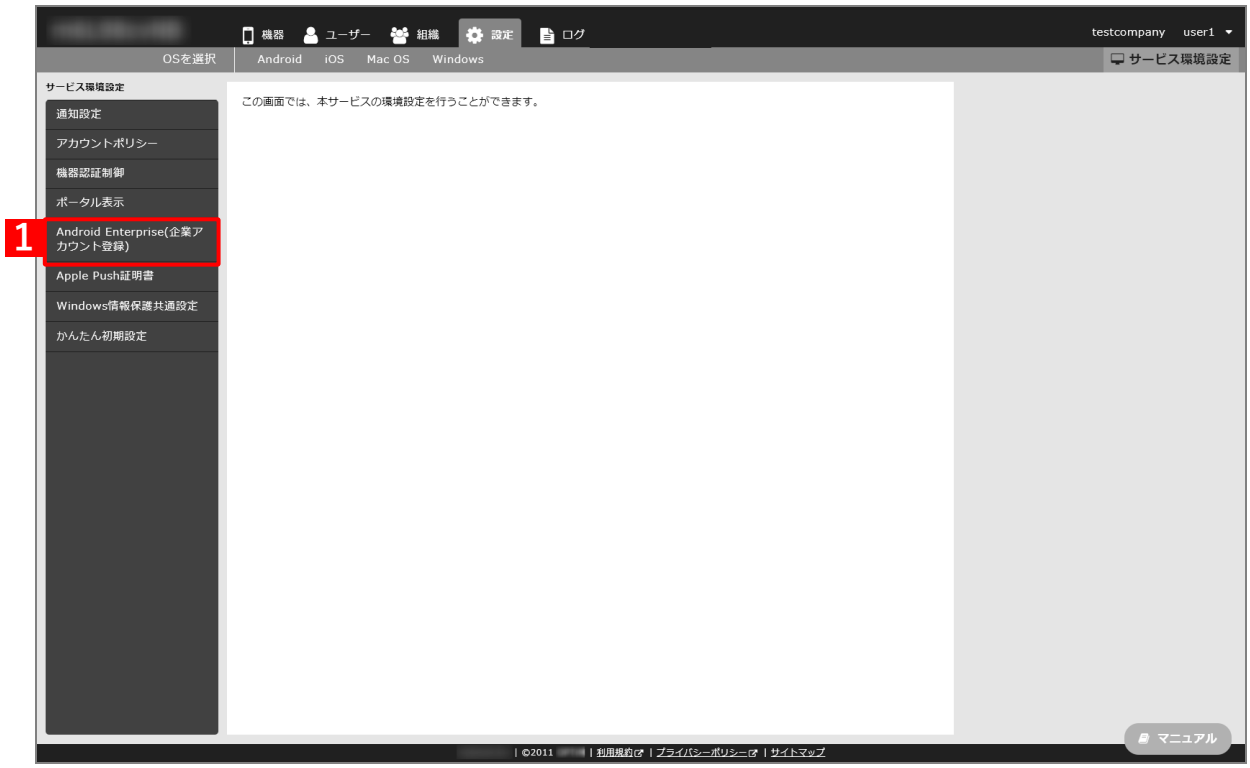
【6】［確認］をクリックします。

⇒アカウント登録済みの管理サイトの画面が表示されます。

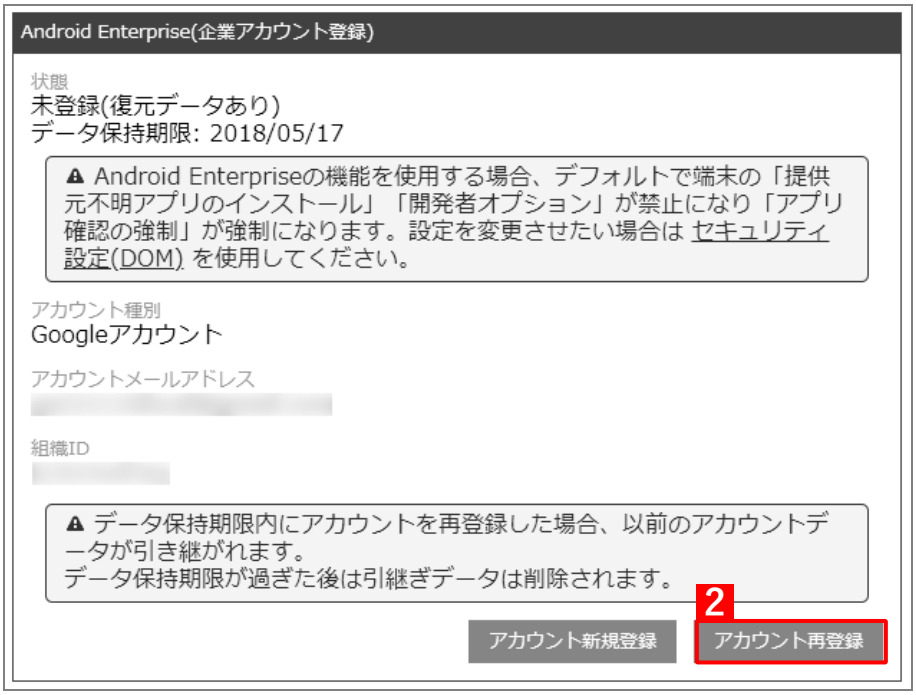
（A）「状態」は「登録済」と表示されています。

11.2.2 Gmail のメールアドレスで再登録する場合

【1】［設定］→［サービス環境設定］→［Android Enterprise(企業アカウント登録)］をクリックします。



【2】［アカウント再登録］をクリックします。



【3】Gmail のメールアドレスを入力します。

【4】［次へ］をクリックします。

【5】「Android のみ登録」の［登録］をクリックします。

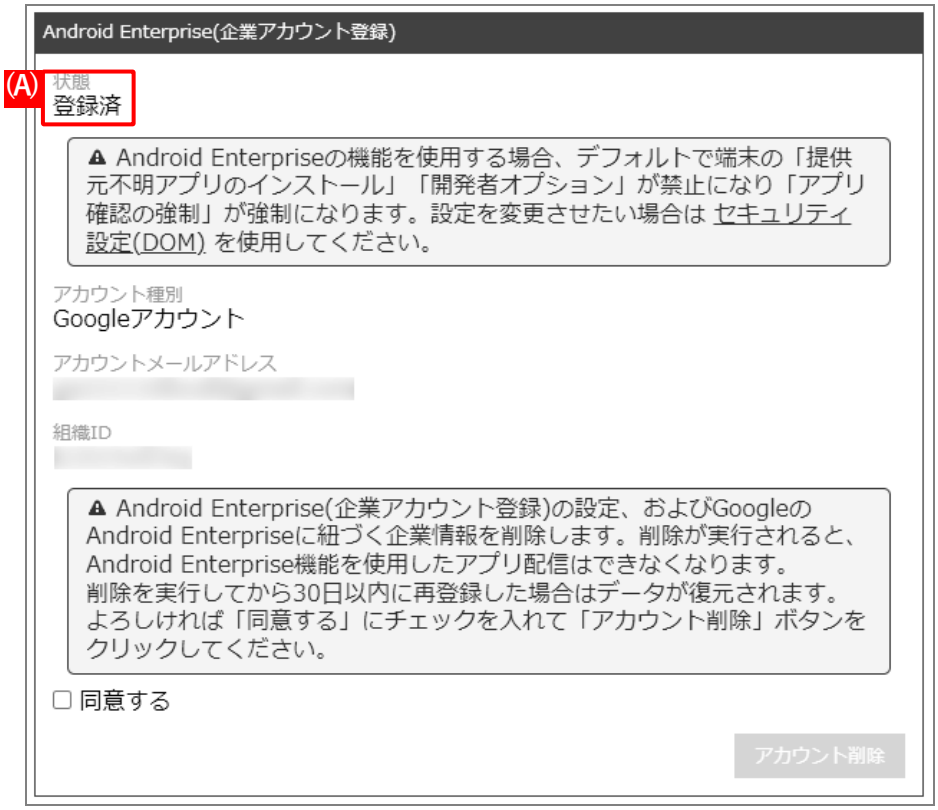
⇒Google Play ストアが表示されます。

利用しているブラウザーにより、Google Play ストアが正常に動作しないことがあります。

【6】［再登録］をクリックします。

⇒アカウント登録済みの管理サイトの画面が表示されます。

（A）「状態」は「登録済」と表示されています。



11.3 Google Workspace アカウントを削除する

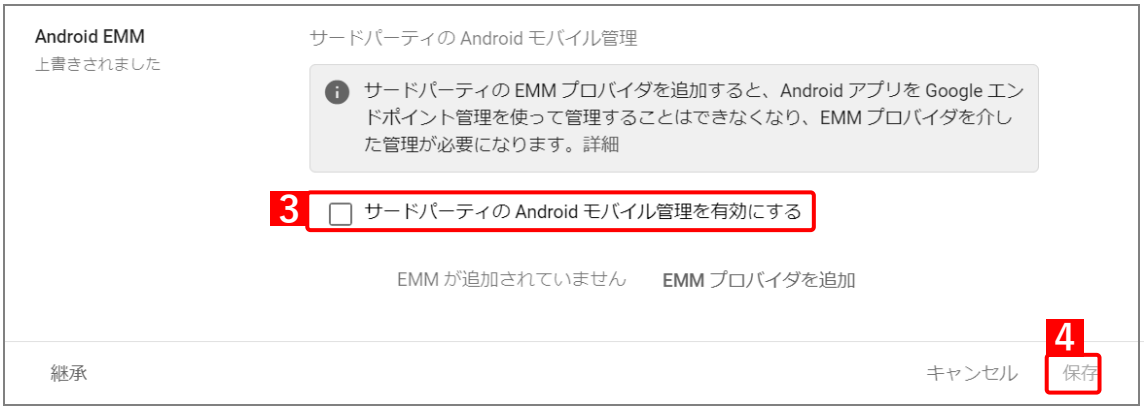
登録している Google Workspace アカウントが利用できなくなった場合などは、以下の手順で削除してください。

【1】Google 管理コンソール（https://admin.google.com）を表示し、［デバイス］をクリックします。

【2】［デバイス］→［モバイルとエンドポイント］→［設定］→［サードパーティとの連携］をクリックします。

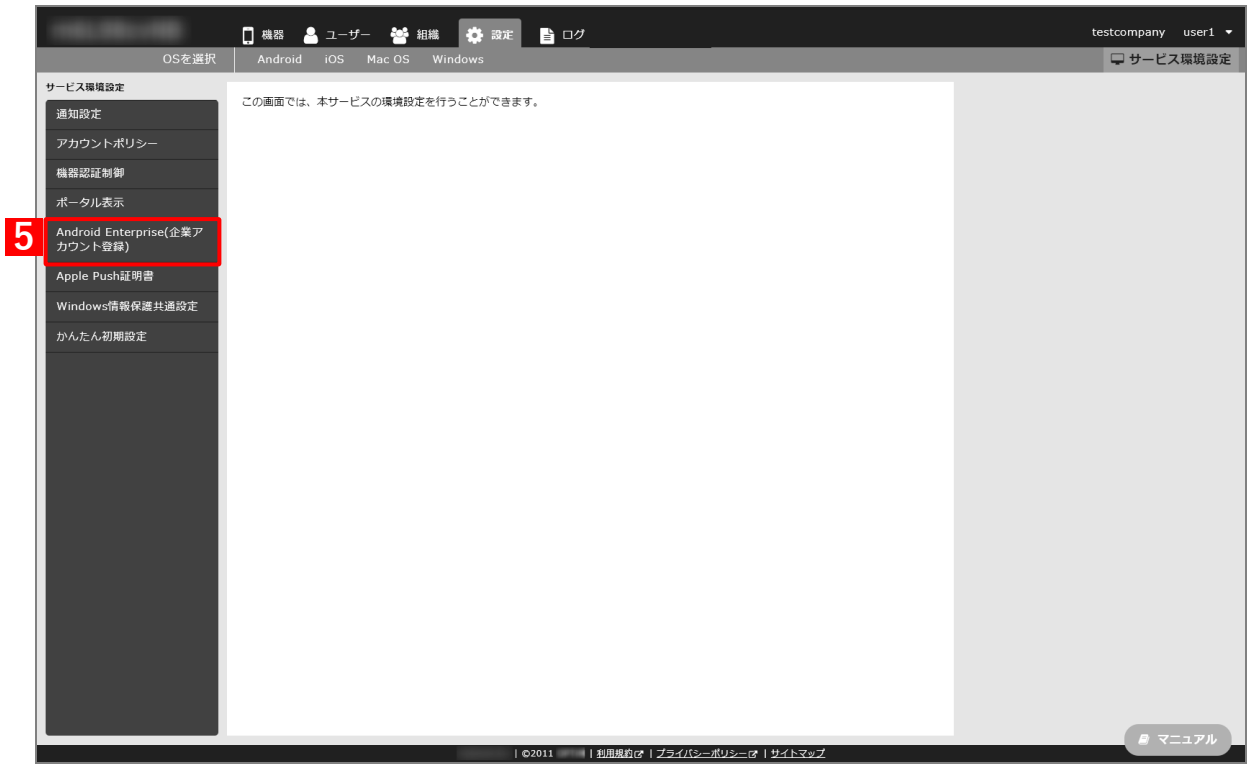
【3】「Android EMM」の「サードパーティの Android モバイル管理を有効にする」のチェックを外します。

【4】［保存］をクリックします。



以下の操作は、管理サイトで行います。

【5】［設定］→［サービス環境設定］→［Android Enterprise（企業アカウント登録）］をクリックします。



【6】「同意する」にチェックを入れます。

【7】［アカウント削除］をクリックします。

⇒アカウント未登録の画面が表示されます。

再びアカウントを登録する場合は、以下を参照してください。

「Google Workspace アカウントを登録する」106 ページ